

こどもの城 事業年報

平成15年度

こどもの城 事業年報

平成15年度

CONTENTS

こどもの城 事業年報 平成15年度 目次

1 事業の概要

平成15年度の活動	9
1. はじめに	9
2. 一般事業活動	10
3. その他の活動	12
4. 国庫補助による事業活動	12
5. 開館時間・入館料(こども活動エリア)	13
平成15年度活動一覧表	17
1. 来館児・者数	17
2. グループ活動実施状況	18
3. 講座・クラブなど	19
4. 視察・見学実績	22
1年の歩み	23

2 各部の事業

体育事業部

平成15年度の活動	27
1. はじめに	27
2. スポーツ遊びプログラム	27
3. まとめ	28
平成15年度活動一覧表	29
1. 一般利用	29
2. 講座・クラブなど	31
3. その他	35

プレイ事業部

平成15年度の活動	37
1. はじめに	37
2. 家族向けプログラムの提供	40
3. まとめ	40
平成15年度活動一覧表	41
1. 一般利用	41
2. 講座・クラブなど	46
3. その他	48

造形事業部

平成15年度の活動	51
1. はじめに	51
2. 造形活動のテーマについて	52
3. まとめ	53
平成15年度活動一覧表	54
1. 一般利用	54
2. 講座・クラブなど	56
3. その他	59
平成15年度プログラム一覧表	60
1. 親子プログラム	60
2. 子どもだけのプログラム	61

音楽事業部

平成15年度の活動	63
1. はじめに	63
2. 新しい取り組み	63
3. まとめ	64
平成15年度活動一覧表	65
1. 一般利用	65
2. 講座・クラブなど	68
3. その他	71

AV(オーディオ・ビジュアル)事業部

平成15年度の活動	73
1. はじめに	73
2. 不思議な映像実験室	73
3. 講座・講習会	75
4. サタデー・ラボラトリー	76
5. まとめ	76
平成15年度活動一覧表	77
1. 一般利用	77
2. 講座・クラブなど	78
3. その他	79

保育研究開発部

平成15年度の活動	81
1. はじめに	81
2. 幼児とふれあい、交流する小・中学生保育体験ボランティア	82
3. まとめ	84
平成15年度活動一覧表	85
1. 一般利用	85
2. 講座・クラブなど	86
3. その他	87

小児保健部

平成15年度の活動	89
1. はじめに	89
2. “子育て支援”事業	89
3. 診療・相談活動	90
4. まとめ	92
平成15年度活動一覧表	93
1. 一般利用	93
2. 講座・クラブなど	93
3. その他	95

企画研修部

平成15年度の活動	97
1. はじめに	97
2. ボランティア活動と養成	99
3. 講座・クラブなど	102
4. まとめ	102
平成15年度活動一覧表	103
1. 一般利用	103
2. ボランティアの活動	105
3. 講座・クラブなど	111
平成15年度「グループ活動」プログラム一覧表	113

劇場事業本部

平成15年度の活動	115
1. はじめに	115
2. 主な自主・提携公演	116
平成15年度公演演目一覧表	123
1. 青山劇場	123
2. 青山円形劇場	124
3. その他	127

広報部

平成15年度の活動	129
1. はじめに	129
2. 情報の収集と提供	129
3. まとめ	130
平成15年度活動一覧表	131

3 こどもの城から 全国へ

こどもの城から全国へ

平成15年度の活動	135
1. はじめに	135
2. 〈動くこどもの城〉	136
3. 助成金による事業	136
4. まとめ	136
平成15年度活動一覧表	137
1. 講座・クラブなど	137
2. 〈動くこどもの城〉	138
3. 助成金による事業	141

利用案内

●開館時間

平 日 午後0時30分～午後5時30分
土・日曜日・祝日 午前10時00分～午後5時30分
学校の季節休み中

●休館日

毎週月曜日

(月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は翌日が休館日となります。
また、学校の季節休み等には休館日を変更することがあります)

●入館料

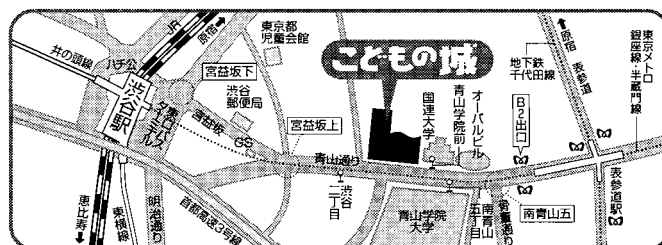
こども 400円(3歳以上18歳未満) おとな 500円
(20人以上の団体は、こども320円、おとな400円です。
事前にご連絡ください)

●交通案内

・渋谷駅 徒歩10分(東口/宮益坂側)
JR山手線・埼京線/東急東横線・新玉川線/
京王井の頭線/東京メトロ銀座線・半蔵門線
○渋谷駅(東口バスターミナル)から都営バスが
ご利用いただけます。
新橋駅北口行(渋88)「青山学院前」下車すぐ
・表参道駅 徒歩8分(B2出口)
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線

●駐車場(地下)

有料・約80台収容・車高制限2m
日曜日・祝日は混み合いますので、なるべく電車・バスで
ご来館ください。



財団法人 児童育成協会

こどもの城

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomo-no-shiro.or.jp/>

1

事業の概要

事業の概要



平成15年度の活動

1. はじめに

〔こどもの城〕は、本年度で開館18年目を迎えることとなった。

この間、関係各位からいただいたご理解、ご協力、ご支援なくして、この日を迎えることができなかったことは当然のことであるが、〔こどもの城〕が試行錯誤を繰り返しつつ実践し蓄積してきた各種の知識・経験、それに基づき館内各所あるいは〈動くこどもの城〉として全国各地において展開されている各種の活動プログラムは、その量的な面においても質的な面においても、まもなく成人式を迎える〔こどもの城〕として、全国唯一の国立の総合児童センターとして、相応の評価をいただいているものと認識している。

本年度は、学校週5日制（週休2日）が導入されて2年目を迎えることから、その対応に留意しつつ、基本的には前年度に準じた事業活動を行った。振り返ってみると、6月の梅雨入り直後から夏休み特別期間に入った7月下旬まで、“でんき”と“てんき”に悩まされたことが例年になく特徴的な年であったといえよう。

年間を通じて最も来館児・者の多い夏休み特別期間を前に、首都圏の夏場の電力不足が懸念され、節電が強力に要請される一方、聞きなれない“でんき予報”なるものが連日テレビで放映され、〔こどもの城〕としても真夏の暑さなかに停電となった場合、館内のこども活動エリアはもとより青山劇場・青山円形劇場、宿泊施設、研修室など、来館・利用されている人たちへの対応策をどうするか関係者が連日頭を痛めた。

ところが、結果はまったく逆で、まれにみる冷夏となり

夏休み特別期間になっても梅雨が明けず、曇り・小雨という日が続き、気温も上がらず、30度以下の日が続き、なんと8月に入ってやっと梅雨が明けるという状況だった。

このため、幸いにして心配していた電力不足による不測の事態は避けられたものの、夏休み特別期間の風物詩ともなっている屋上の「ちびっこプール」の利用者が激減するなど、夏らしさを取り戻すまでの間、例年に比べて来館児・者が相当数減少することとなった。

また、2年目を迎えた学校週5日制（週休2日）についても、初年度に比べ新たに休日となった第1・3・5土曜日の来館児・者数が減少し、第2・4土曜日を含めた土曜日全体でも若干減少している。土曜日の来館児・者の動向については、前年度から取り組みを開始した高学年を対象としたプログラムの実施状況を含め、今後十分に留意していく必要がある。

年間の来館児・者数は、このような影響もあり前年度に比べ減少したが、事業活動プログラムについては、例年に見られないものも多数行われた。例えば以下のような事項である。

- 「レゴロボットで遊ぶ」という高学年を念頭に置いた、いわゆる“科学（的）遊び”を夏休み特別期間にギャラリーで行ったこと。
- アニメーション作家として世界的に著名な、山村浩二さんなどのご好意を得て、「ヤママラ・アニメーションこどもずかん+アートギャラリー」を冬休み特別期間をはさんで1か月間にわたり、ギャラリー、フリーホールで開催したこと。
- 社会福祉・医療事業団の助成を得て、「妊娠中の女性と乳幼児を持つ母親のための子育て支援事業」および「子育て

てサークルネット支援事業」を行ったこと。

○劇場事業については、良質のアートを提供するという視点から自主・提携公演が増加したこと。

○前年度に全面改訂したこともあり、ホームページへのアクセス件数が、〔こどもの城〕および「青山劇場・青山円形劇場」併せて6,400千件を超え、前年度比35%増となったこと。

〔こどもの城〕における事業活動は、各部門・スタッフが日々実践・検証を繰り返し、その結果を踏まえてさらなる実践へと、人目につかない地道な努力を積み重ねている。そして、これらが日常の活動に生かされてきたからこそ、今日の〔こどもの城〕があり、国立の総合児童センターとしての評価をいただいているということを愚直に自負しつつ、限られた財政状況のなかで、関係各位のご協力を得ながら、今後とも事業活動を実施していきたい。

青山劇場・青山円形劇場を含め〔こどもの城〕を利用する多くの人々に、安心して施設を利用していただくことは、国立の施設として当然の使命であると認識している。開館以来18年を経て、施設・設備のメンテナンスには十分配慮していく必要がある。厚生労働省にも、実情を理解していただいているので、毎年度協議の上で緊急性などの優先度をふまえ、計画的に整備等を行っている。

本年度も、館内空調整備の改修工事、ビデオライブラリーシステムの改修工事、劇場音響設備の改修工事などを行った。

なお、本年度末の理事会において、当協会に「評議員」および「評議員会」が設置されることになり、事業展開のより充実・強化が図られることとなった。

2. 一般事業活動

(ア) 来館児・者数

本年度の〔こどもの城〕来館児・者数は、一般有料来館児・者が246,592人、劇場入場者が353,491人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総数は914,888人で、前年度比10,155人の減となった。

有料来館児・者数については、ゴールデンウィーク、夏休み等特別期間の来館児・者数が低調だったことも影響し、前年度に比べ8,562人の減となった。

(イ) 一般来館児・者のための活動

【平常期間】

幼児と母親の来館が多い平日は、ゆったりと過ごせる環境作りや、気軽に参加できるプログラム作りに留意した。また、「平日ゆうゆうパス」の発売・利用促進、渋谷・港区内の小学校の創立記念日に児童を無料招待するなど、リピーターや新たな来館児・者の獲得への努力を行った。

特に、平成14年度から小中学校が週5日制になったことに対応して、土曜日には高学年を対象としたプログラムの充実を図るとともに、「小・中学生土曜日パス」を新設するなどの対策を講じ、父親も含めた親子連れが多い日曜日、祝日には親子が一緒に参加できるプログラムの充実にも努めた。

日替わりプログラムや「端午の節句」「七夕」「お正月」「節分」「ひなまつり」といった季節行事、造形スタジオにおける「建築」のような年間をとおしたテーマの設定によって活動に変化をもたせ、来館児・者に新鮮な魅力を感じてもらえるよう努めた。

【特別期間】

学校の季節休み（春休み、夏休み、冬休み）の期間、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）および11月1日の〔こどもの城〕開館記念日を中心とした数日を特別期間とし、多数の来館児・者が同時に楽しめるようなプログラム作りと、施設利用の工夫を行った。

屋上などを含め全館を使った大がかりな企画を各部門協力のものに行い、親子がそろって参加したいと思うような、魅力あるプログラムを展開するとともに、屋上でのゲーム大会や地下1階フリーホールでの鉄道イベントのように、プログラムが1回限りでなく、シリーズ化され定着するように努め、リピーターの確保に努力した。

夏休み特別期間には、子どもたちが組んだプログラムで動く作業ロボットで競技を行う「ブロックで遊ぼう！ ロボットコンテストに挑戦」の催しをギャラリーで行ったほか、

【来館児・者数（対前年度比較）】

(人)

	平成14年度実績 (A)	平成15年度実績 (B)	差し引き増減 (B-A)
有 料 来 館 児 ・ 者 数	255,154	246,592	▲8,562
3 歳 未 満 児 (推 計)	60,119	58,660	▲1,456
招 待 者	43,592	47,105	3,513
劇 場 入 場 者	350,910	353,491	2,581
講 座 ・ ク ラ ブ 利 用 者	66,077	68,433	2,356
営業部門 (研修・会議室および宿泊施設関係利用者)	149,191	140,607	▲8,584
計	925,043	914,888	▲10,155

「人形劇カーニバル」、じっくり取り組める一日完結型の短期講座などを行った。

また、リピーターの便宜を考え、「夏休み期間限定パス」の制度をPR、推奨するとともに、渋谷駅周辺の展示・体験施設6館（東京都児童会館、NHKスタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、UNギャラリー、こどもの城）で「渋谷スタンプラリー」を共催して、共同でPRすると同時に連携を図った。

【外部団体・企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体・企業の協力を得て、積極的に事業展開を行った。

夏休み特別期間の恒例となった「キンダー・フィルム・フェスティバル」(ベルリン国際映画祭の子ども映画部門の協力を得て行われている、子どものための映画祭)は11回目を迎え、本年度も4,517人と多数の観客が集まった。

3月には、これも恒例となった「ニッサンゆかいな絵本と童話展」を日産自動車(株)との共催で実施した。

（ウ）講座・クラブ

継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうため、講座・クラブを実施した。

講座35種55コースを開催し、1期の受講者数は1,414人、2期は1,397人、3期は1,279人であった。クラブは6種6コースで受講者数863人、講習会（1か月以上のもの）は7種20コースで受講者数501人であった。

このほか、夏休み、春休み特別期間に体育、造形、音楽などの各部門で短期集中講習会（16種128コース、1,841人受講）を行うと同時に、専門指導者向け講習会（16種28コース、1,057人受講）を実施した。

（エ）グループ活動

平日の〔こどもの城〕開館前の午前中を利用して、保育所・幼稚園および小学生のグループを対象に、各事業部においてグループ向けの特別プログラムを提供し、本年度は、160グループ、3,260人（前年度は134グループ、3,144人）を受け入れた。ハンディキャンプを持った子どものグループや日本語を解さないインターナショナルスクールの子どもについても積極的に受け入れていることもあり、利用件数はこの5年間毎年増加を続けている。

（オ）保育研究開発・小児保健（クリニック）

保育研究開発部では、保育事業の3つの柱である「幼児グループ」「保育クラブ」および「親子教室」を継続して実施したほか、「育児相談のケースカンファレンス」「ニューズレターの発行」「保育セミナー」の開催など、保育関係者のための研修プログラムを積極的に実施した。

また、一般来館児・者を対象に特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

小児保健部では、小児保健クリニックでの診療・相談を実施したほか、各部門と連携して、「健康スポーツ教室〈太り過ぎクラス〉」「マタニティ・スイミング」などを継続して実施した。本年度から「おながく大好きミュージック・パーク〈ダウン症児のための楽しいリトミック〉」（旧・親と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉）は音楽事業部の単独講座となり、代わって短期の子育て支援講座「親子のほっとタイム」を実施した。

診療・相談件数については、医師の診療（保険対応）を中心に前年度に比較して延べ230件増加し、2,993件となった。継続して受診する人が増えたためである。

また、小児保健関係者のための研修会「小児肥満のための指導者講習会」「小児保健セミナー」や「赤ちゃんサロン」を実施した。特に4階音楽ロビーを使い、月2回実施している「赤ちゃんサロン」は、若い母親たちの子育て相談、交流の場として、年間親子合わせて2,614人（1回平均130人）にもおよぶ参加者を集め、好評を得た。

（カ）劇場事業

自主公演として青山劇場で2公演、青山円形劇場で10公演、提携公演は青山劇場で3公演、青山円形劇場で13公演を実施した。

このうち、『こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ〜とびこむ絵本』は平成15年度児童福祉文化賞の舞台芸術部門において特別推薦作品に選ばれた。『日韓ダンスフェスティバル』『コウスギ』『邦楽維新』は日本芸術文化振興基金の、『ケベック文化週間』は日本財団の、『フランスダンス'03』は文化庁二国間交流事業のそれぞれ助成対象作品に選ばれた。

劇場の貸与については、青山劇場28件、青山円形劇場42件で、国費による工事期間などを除いた稼働状況は、つぎのとおりであった。

	使用可能日数(日)	使用日数(日)	稼働率(%)
青山劇場	341	281	82.4
青山円形劇場	364	328	90.1
計	705	609	86.3

（キ）利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人への便宜を図るため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の営業を行った。

また、各種の研修・会議などに研修室を貸与し、広範な利用者の確保に努力した。

宿泊施設の利用者にはインターネットを経由した照会が

多いことから、従来の電話予約に加え、インターネットからの予約システムを併用し、1,228件の予約を受けた。これは全体の売上高の14.8%に相当する(前年度1,044件、9.8%相当)。

3. その他の活動

(ア) 広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解・認識してもらうとともに、利用者の増加を図ることを目的に、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱は――、

- (1) 『こどもの城ニュース』の発行(年11回)
- (2) 各種広報資料(パンフレット、ちらしなど)の作成・配付
- (3) 月刊誌『こども未来』(こども未来財団発行)をととして〔こどもの城〕の活動内容の紹介
- (4) 新聞・テレビ・雑誌などとおとしての広報
- (5) 広報企画の推進

――などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間145件にのぼった。

また、インターネットを介しての問い合わせも多く、総閲覧数は「こどもの城ホームページ」が、2,511,367件(前年度比1.13倍)、「青山劇場ホームページ」は3,929,463件(前年度比1.55倍)であった。

(イ) こどもの城友の会

常に加入の呼びかけを行い、平成16年3月31日現在の会員数は、1,238家族となっている。

(ウ) 国際交流

京浜地区の外国人学校の合同造形展「アーツスケープ展」にギャラリーを提供したほか、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介するなど、気軽に自然な国際交流をめざした。

(エ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などの要請に応じて、〔こどもの城〕の各部門をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れている。本年度は、実習生27人、研修生3人を受け入れた。さらに、小児保健部では、臨床心理の研究生14人を受け入れた。

(オ) 講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会・セミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした

全国の児童健全育成の現場からの要請により、講師派遣という形で職員が各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。本年度の派遣実績は、115件であった。

(カ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構「子育て支援基金」からの助成を受け、「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」、乳幼児を持つ母親を中心とした子育てサークルのネットワーク化を推進する「子育てサークルネット支援事業」を行った。

4. 国庫補助による事業活動

以上の諸活動に加え、〔こどもの城〕が全国の児童館等のセンター的役割を果たすため、国から助成を受けて次のような事業を行った。

(ア) 啓発活動

児童の健全育成にかんする月刊誌『こども未来』(こども未来財団発行)を購入し、中央官庁、地方公共団体、社会保険事務所、各県経営者協会および商工会議所、社会保障審議会委員などの関係者に配付した。

(イ) 児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発・蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、あわせて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

巡回支援活動事業は、岐阜県ほか20都道府県で30か所(前年度37か所)、巡回実技指導事業は京都府ほか17都道府県で22か所(前年度25か所)実施した。

プログラム	巡回支援活動	巡回実技指導
音楽関係	1か所	2か所
映像・パソコン関係	—	1 //
体育関係	4 //	4 //
乳幼児と親子への支援	7 //	9 //
絵本関係	2 //	3 //
折り紙作品の展示	11 //	—
昔遊び・グループ遊び	3 //	2 //
造形活動	2 //	1 //
計	30か所	22か所

(ウ) 中央児童厚生施設活動推進事業

〔こどもの城〕の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティア

の拡充などを図るための事業を行った。

本年度末までのボランティア講習修了者は2,305人となり、うち〔こどもの城〕のボランティアとして登録されているのは315人。本年度中に〔こどもの城〕の事業活動に参加した人は、延べ6,500人にのぼっている。

5. 開館時間・入館料（こども活動エリア）

（ア）平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平 日	午後 0 時 30 分～午後 5 時 30 分
土・日曜日・祝日	午前 10 時 00 分～午後 5 時 30 分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館）

（イ）特別期間

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）は特別期間とし、多数の来館児・者が同時に楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

■児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間■

4月27日～5月6日（4月30日は休館）

■夏休み特別期間■

7月20日～9月1日（毎日開館）

■こどもの城ファミリーウィーク（開館記念）特別期間■

10月26日～11月4日（10月28日は休館）

■冬休み特別期間■

12月21日～平成16年1月7日

（12月28日～1月2日は休館）

■春休み特別期間■

3月26日～4月6日（毎日開館）

（ウ）入館料・優待パス

【一般入館料】

一 般	18歳未満	400円
	（保護者が同伴した3歳未満児は無料）	
	18歳以上	500円
回 数 券	18歳未満（6枚つづり）	2,000円
	18歳以上（6枚つづり）	3,000円
団 体（20人以上）	18歳未満	320円
	18歳以上	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1年間有効）	18歳以上	3,000円
わくわくパス（夏休み期間限定）	18歳以上	1,800円
ドキドキパス（夏休み期間限定）	18歳未満	1,500円
小・中学生土曜日パス（1年間有効）	小・中学生	2,500円

【こどもの城】の概要

		オフィス	13F 12F 11F	
		パソコンルーム	10F	
		研修室	9F 8F	
		ホテル	7F 6F	
5F	屋上遊園 プレイボート	小児保健クリニック 保育室	5F	ふしぎが丘
4F	ビデオライブラリー	音楽ロビー A・Bスタジオ	4F	
3F	造形スタジオ 青山円形劇場	プレイホール コンピュータブレイルーム	3F	
2F	ギャラリー	ファミリーラウンジ エントランスホール レストラン	2F	青山劇場
1F	アトリウム		1F	
B1	プール観覧室	フリーホール	B1	
B2	体育室／プール／健康開発室		B2	
		駐車場	B3 B4	

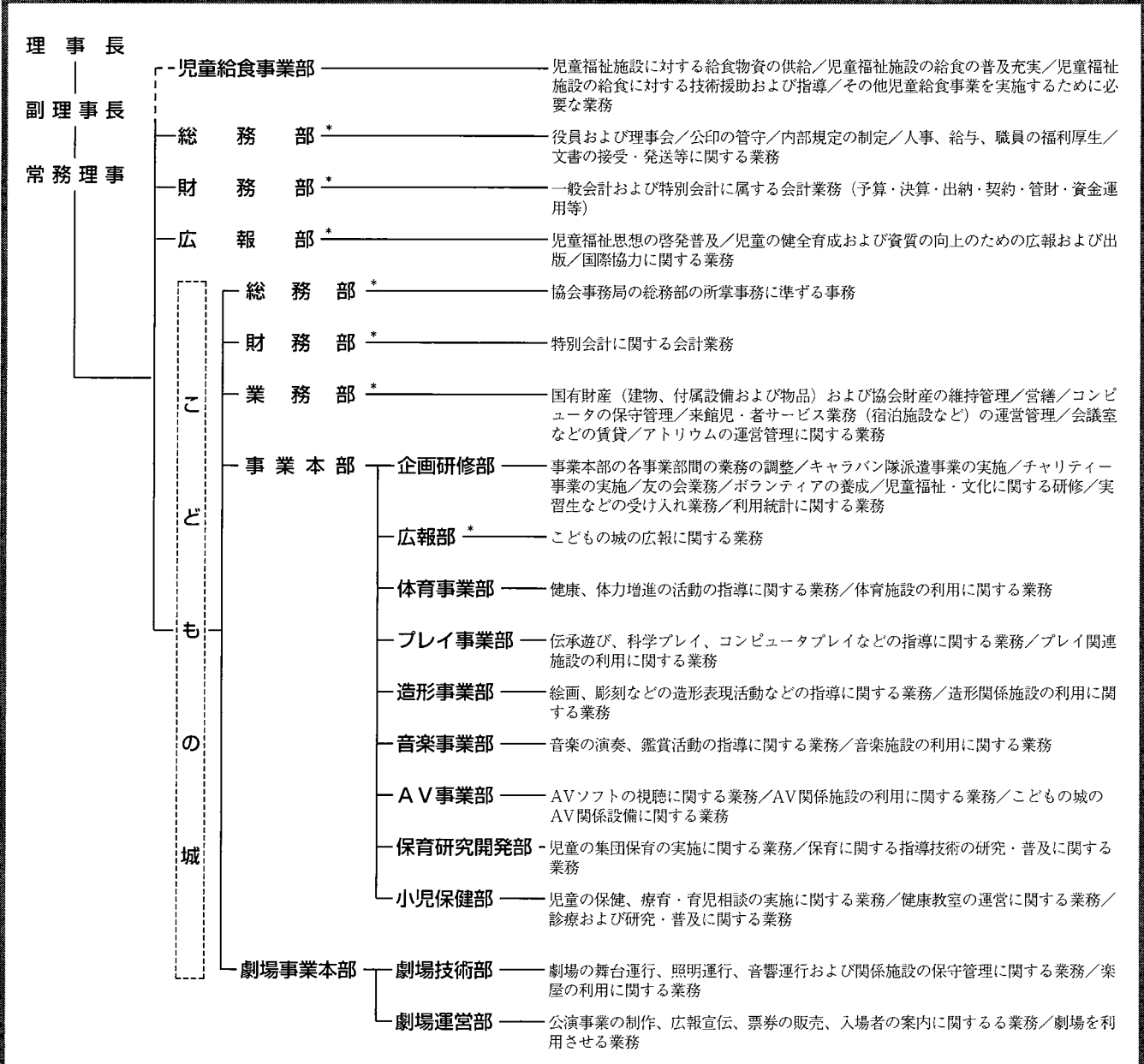
建 築 概 要

所在地	東京都渋谷区神宮前5-53-1	最高高さ	GL+57.6メートル
建築主	厚生省（当時）	基礎下端	GL-28.5メートル
敷地面積	9,923平方メートル	主要構造	高層部 鉄骨造り
建築面積	6,001平方メートル	低層部	鉄骨鉄筋コンクリート造り
延床面積	41,699平方メートル	地 下	鉄筋コンクリート造り
建ぺい率	60.48%	着工	昭和56年11月
容積率	345.38%	完成	昭和60年9月（11月1日開館）
階数	地下4階・地上13階・塔屋1階		

※【こどもの城】は昭和54年（1979）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。

〔こどもの城〕組織機構図（平成16年3月31日現在）

〔注〕＊印は（財）児童育成協会本部と（こどもの城）の複職を兼ねる



部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計
総務	3	0	0	3	事業本部	0	0	0	0	音楽事業	4	0	0	4	劇場技術	6	0	0	6
財務	5	0	0	5	企画研修	8	0	0	8	ＡＶ事業	6	0	0	6	劇場運営	7	0	0	7
広報	3	0	0	3	体育事業	7	1	0	8	保育研究開発	8	1	0	9	劇場事業本部	2	0	0	2
業務	18	0	0	18	プレイ事業	8	0	0	8	小児保健	5	0	0	5	合 計	94	2	0	96
					造形事業	4	0	0	4										

〔財〕児童育成協会役員（平成16年3月31日現在）

役職	氏名	役職	氏名
理事長	高峯 一世	理事	品川 正治 日本興亜損害保険(株) 相談役
副理事長	小山 敬次郎 目白大学教授	理事	篠原 徹 日本商工会議所常務理事
常務理事	本橋 紘	理事	成瀬 健生 東京経営者協会参与
理事	今泉 昭雄 (社福)全国心身障害児福祉財団理事長	理事	山口 規容子 総合母子保健センター愛育病院名誉院長
理事	大野 出穂	監事	秋山 昭八 弁護士
理事	小澤 荘六	監事	藤間 秋男 公認会計士

【こどもの城】の付帯事業 (平成16年3月31日現在)						
業 種	店 名 等	場 所	利 用 客 席 数	営 業 日 ・ 営 業 時 間	備 考	
宿泊施設	こどもの城 ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休 (12月28日～1月2日を除く)	洋室24室 (シングル3、Aツイン10、Bツイン11) 和室3室 (4人用1、5人用1、10人用1) ※1泊6,720円～	
貸し室	研 修 室	8・9階	研修室 10 ※一部通して使用できる。利用人員350人ぐらいまで	無休 (12月29日～1月2日を除く) 営業時間=9:00～21:00	研修および会議など ※1単位時間12,075円～	
	ギャラリー	1階アトリウム		無休 (12月29日～1月2日を除く) 営業時間=10:00～17:30	各種展示会など ※1日31,500円	
物品販売	売 店	1階アトリウム	1か所	営業日時=「こども活動エリア」の開館日時と同じ 毎週月曜日休業 (月曜日が祝・休日のときは火曜日) 土・日曜日、祝・休日、春・夏・冬休みの特別期間=10:00～17:30 その他の平日=12:30～17:30	がん具、文具、音楽用品、スポーツ用品、講座指定水着、催事関係用品、印刷出版物、衣料、雑貨、フィルムなど	
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販売 15か所 たばこ 6か所 フィルム 1か所 テレホンカード 2か所	無休	ドリンク類、牛乳類、スナック類、カップ麺類	
公衆電話		館内各所	15か所 19台	無休		
駐 車 場		屋内 (地下2階～地下4階)、屋外 (1階)	約126台 (業務車両分含む)	無休 (12月29日～1月2日を除く) 営業時間=8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外 (1階) に駐車 ※普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間1,260円	
飲食関係	レストラン「アンファン」	1階	客席数 140	無休 (12月29日～1月2日を除く) 営業時間=7:30～19:00	ファミリーレストラン、すし、弁当仕出し、パーティー、宿泊施設利用者の食事など	
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下および2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間=開演前・幕間	喫茶、軽食	

15年度活動一覧表

1. 来館児・者数

	一般来館児・者		劇 場				そ の 他	
	有	料	総 数	青山劇場	青山円形劇場	小 計		計
4月	大人	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
	子ども	9,689	31,565	31,467	6,925	38,392	13,194	83,151
	団体	9,964						
	招待など	424	推計					推計
		11,488	(36,416)					(88,002)
5月	大人	8,582	26,266	31,292	6,394	37,686	11,786	75,738
	子ども	6,296						
	団体	1,242	推計					推計
	招待など	10,146	(30,563)					(80,035)
6月	大人	7,687	25,048	26,214	4,528	30,742	13,003	68,793
	子ども	6,182						
	団体	2,300	推計					推計
	招待など	8,879	(28,898)					(72,643)
7月	大人	12,455	35,501	24,995	6,933	31,928	12,889	80,318
	子ども	11,799						
	団体	2,687	推計					推計
	招待など	8,560	(41,735)					(86,552)
8月	大人	23,938	66,882	28,739	3,441	32,180	10,120	109,182
	子ども	25,574						
	団体	3,525	推計					推計
	招待など	13,845	(78,861)					(121,161)
9月	大人	7,641	22,441	9,994	7,092	17,086	11,499	51,026
	子ども	6,089						
	団体	420	推計					推計
	招待など	8,291	(26,265)					(54,850)
10月	大人	7,517	24,121	24,061	6,048	30,109	11,922	66,152
	子ども	6,118						
	団体	1,160	推計					推計
	招待など	9,326	(27,887)					(69,918)
11月	大人	10,228	28,923	28,420	10,946	39,366	12,277	80,566
	子ども	7,776						
	団体	1,222	推計					推計
	招待など	9,697	(34,045)					(85,688)
12月	大人	5,182	16,109	17,839	9,151	26,990	9,171	52,270
	子ども	4,548						
	団体	842	推計					推計
	招待など	5,537	(18,705)					(54,866)
平成16年 1月	大人	8,463	28,102	12,030	7,404	19,434	9,640	57,176
	子ども	7,139						
	団体	4,657	推計					推計
	招待など	7,843	(32,341)					(61,415)
2月	大人	6,990	24,148	16,301	4,397	20,698	12,698	57,544
	子ども	5,888						
	団体	2,189	推計					推計
	招待など	9,081	(27,650)					(61,046)
3月	大人	8,784	33,024	22,894	5,986	28,880	12,408	74,312
	子ども	8,901						
	団体	2,494	推計					推計
	招待など	12,845	(37,424)					(78,712)
計	大人	117,156	362,130	274,246	79,245	353,491	140,607	856,228
	子ども	106,274						
	団体	23,162	推計					推計
	招待など	115,538	(420,790)					(914,888)

注) 「一般来館児・者」の「推計」は、3歳未満児の推定来館児数を含めたものである。

「招待など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したものである。

「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者である。

2. グループ活動実施状況

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	中 ・ 高 校	養 護 学 校	盲 学 校	小 学 校 特 殊 学 級	中 学 校 特 殊 学 級	障 害 児 グ ル ー プ (幼 児)	自 主 保 育 グ ル ー プ	計
件数		36	53	19	3	22	2	22	1	0	2	160
月 別 内 訳	4月		1									1
	5月	1	5	2		3	1					12
	6月	3	5	4		4		8	1			25
	7月	2										2
	8月											
	9月	4	1			2						7
	10月		1		1	7		3			1	13
	11月	6	7	3		2		3				21
	12月	4	3	4	2	1					1	15
	平成16年1月	6	9	3			1	4				23
	2月	6	10	3		2		2				23
	3月	4	11			1		2				18
地域 内別 訳	東京都	36	51	19	2	11	2	17			2	140
	市					4		1				5
	他府県		2		1	7		4	1			15
参 加 児 童 数 別 内 訳	10人未満		3	1	1	10	2	17	1			35
	10～19	16	22	7	1	7		4			2	59
	20～29	17	13	10	1	3		1				45
	30～39	2	5			2						9
	40～49		2	1								3
	50～59		3									3
	60～79	1	3									4
	80～99		1									1
	100～149		1									1
	150人以上											
参 加 児 童 数	延べ人数	819	1,530	361	43	281	7	179	5		35	3,260
	1件当たり人数	28.8	28.9	19.0	14.3	12.8	3.5	8.1	5.0		17.5	20.4
引	率者数	136	226	40	3	219	8	105	2		1	740
付	添者数	26	48	4		23	7	24	3		18	153
活 動 部 門	体 育	7	13	6		1		5			1	33
	ブ レ イ	19	18	4		7		2				50
	造 形	5	14	7	1	1		1				29
	音 楽	3	19			13	2	9				46
	A V	5	11	4	2	1		5	1		1	30
	ブ レ イ 自 由	31	43	16	1	8	2	18	1		2	122
	A V 自 由	1	2			2						5

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	// 5 //	270 (人)
	幼児体育	//	// 3 //	120
	小学生水泳	小学生	// 7 //	380
	小学生体育	小学生	// 2 //	60
	シニア・スイミング	小・中学生	// 2 //	30
	シニア・スイミング・フレッシュ	//	// 1 //	60
	ジュニア新体操	小学生の女子	// 1 //	35
	シニア新体操	小・中学生の女子	// 1 //	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	// 1 //	15
プ レ イ	キッズクラブ	小学生	// 1 //	30
	ユースクラブ	小・中学生	// 1 //	40
造 形	こどもクリエイティブクラブ (クレイワーク)	//	// 1 //	20
	// (ゆかいな造形)	//	// 1 //	20
	// (親子でアート)	幼児・親	// 1 //	10 (組)
	// (絵本の世界へ)	小・中学生	// 1 //	20 (人)
	// (ハンズワーク)	小・中・高校生	// 1 //	20
	映・造ワークショップ	//	// 1 //	10
	大人のための造形表現教室	一般	// 1 //	30
	おかあさんもいっしょリトミック	幼児・母親	// 3 //	60 (組)
音 楽	リズム・ムービングA (ベアーズ)	幼児・親 (祖父母)	// 1 //	12
	リズム・ムービングB	幼児	// 1 //	20 (人)
	リズム・ムービング&パーカッション	小学生	// 1 //	15
	おとなのためのリズム・ムービング	18歳以上	// 1 //	15
	おんがく大好きミュージック・パーク	ダウン症幼児・親	// 1 //	12 (組)
	合唱講座	小学生	// 1 //	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了者	// 2 //	90
	ガムラン講座	小・中・高校生	// 1 //	15
	三味線	//	// 2 //	24
	混声合唱	高校生以上	// 1 //	15
	和太鼓グループ	小・中・高校生	// 1 //	12
	エレクトリック・アンサンブル	中・高校生	// 1 //	8
	パーカッション・アンサンブル	小・中・高校生	// 1 //	15
	レッツ・プレイ・サンバ初級	小学生	// 1 //	10
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	// 1 //	10
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	小学生	// 1 //	20
合 計	36種		56コース	1,658

〈クラブ〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1コース	—
	レディース・コース	一般女性	// 1 //	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	// 1 //	420
保 育	幼児グループ	幼児	1 年 1 //	22
	保育クラブ	//	// 1 //	400
企画研修	L. I. T. (高校生ボランティア)	高校生	// 1 //	30
合 計	6種		6コース	—

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III（1・2歳）	幼児・母親	3か月 3コース	60（組）
	幼児・母親体育 I・II・III（2・3歳）	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくランド I・II・III	〃	〃 3 〃	60
	ばちばちファミリースイム I・II・III	幼児・保護者	〃 3 〃	90
音 楽	おんがく星みつけた I・II・III	幼児・母親	3か月 3 〃	90
保 育	親子教室	幼児・親	〃 3 〃	48
企画研修	手話講座（前・後）	高校生以上	5か月 2 〃	60（人）
合 計	7種		20コース	498

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	夏休み子ども集中水泳講習会（A・C）	小・中学生	5日間 2コース	100（人）
	〃（B・D）	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	〃 1 〃	30
	春休み子ども集中水泳講習 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 〃	240
ブ レ イ	パソコンマルチメディア探検隊	小学生	5日間 1 〃	20
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 35 〃	525
音 楽	手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生の親子	〃 17 〃	510
	子どものための“お箏”短期体験講座	小・中・高校生	〃 4 〃	60
	親子のための一日ガムラン講座	小・中・高校生の親子	〃 1 〃	15
	感じる心を育てる講座	一般	〃 1 〃	80
A V	映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	1日 44 〃	456
	映像技術セミナーシリーズ	一般	2日間 3 〃	40
小児保健	夏休み子ども1日ドック	小・中学生	1日 1 〃	10
	季節の離乳食講習会	乳児・親	〃 6 〃	60
	親子のほっとタイム	〃	3日間 3 〃	30
劇 場	青山パフォーミング・アーツ・セミナー2003 フォーラム	一般	1日 4 〃	200
	〃 ワークショップ	一般／12～22歳	1日 16 〃	1,115
合 計	19種		177コース	3,661

〈専門指導者向け講習会等〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
A V	プロフェッショナルビデオ講習会	指導者・一般	3コース	120 (人)
	現代アニメーション講座	〃	1 〃	30
音 楽	大人のための手作り楽器「アंकルン」と「スリン」	〃	1 〃	20
保 育	保育セミナー	保育関係者	1 〃	130
	育児関係者が行う子育て研修会（基礎編）	育児相談担当者	2 〃	260
	育児関係者が行う子育て研修会（応用編）	保育関係者	3 〃	150
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	養護教諭など	1 〃	50
	小児保健セミナー	保育士・保健師など	1 〃	100
	最新の小児保健の基礎と実際	〃	1 〃	40
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2 〃	100
	つくって演じる人形劇	〃	2 〃	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	〃	3 〃	150
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会（パソコン編）	〃	2 〃	40
	ボランティア講習会	18歳以上	2 〃	60
	女性ボランティア講習会	一般女性	1 〃	20
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2 〃	60
合 計	16種		28コース	1,390

4. 視察・見学実績

年 度		都道府県・市区町村の 本庁その他の行政部 局、公共団体		児童館、保育所、幼稚 園、学校、施設、サー クル、これらの団体		海外からの視察・見学		そ の 他		計	
昭和60年度		(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度		(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度		(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成元年度		(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度		(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度		(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4年度		(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5年度		(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6年度		(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
7年度		(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
8年度		(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
9年度		(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330
10年度		(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293
11年度		(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083
12年度		(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377
13年度		(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460
14年度		(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501
平成15年度	4月	(1)	1	(8)	32	(2)	13	(1)	1	(12)	47
	5月	(0)	0	(7)	21	(1)	5	(1)	1	(9)	27
	6月	(1)	5	(8)	32	(2)	4	(1)	1	(12)	42
	7月	(1)	2	(17)	108	(4)	18	(0)	0	(22)	128
	8月	(1)	2	(10)	85	(0)	0	(1)	2	(12)	89
	9月	(0)	0	(7)	26	(1)	5	(1)	1	(9)	32
	10月	(0)	0	(13)	167	(1)	4	(0)	0	(14)	171
	11月	(1)	1	(19)	138	(2)	40	(0)	0	(22)	177
	12月	(1)	1	(11)	35	(1)	7	(1)	6	(14)	49
	1月	(0)	0	(17)	56	(1)	20	(1)	1	(19)	77
	2月	(2)	2	(21)	182	(1)	15	(1)	1	(25)	198
	3月	(0)	0	(14)	87	(3)	18	(0)	0	(17)	105
	合 計	(8)	14	(152)	1,212	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142
累 計		(1,431)	10,829	(2,297)	24,119	(365)	3,260	(335)	3,110	(4,425)	42,460

注) () 内は、団体数。

「海外からの視察・見学」は、韓国、中国、台湾、アメリカなど。

「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

月	日	事	項
4.11~13		オブジェクトシアター Vol.7 「KOUSKY〜人形と音の不思議空間〜沢則行 Meets 中西俊博」(青山円形劇場)	
4.26~5.5		児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間「芽がでて ふくらんで パーンとはじけてくあ・そ・び」=ピーんと億万長者/新★みんなのからだは芸術品〜動いて発見!からだのひみつ/こどもの城映画劇場 ふしぎワールドへようこそ〜山村浩二作品特集/こども歳時記「端午の節句」/パソコン探検マップ——ほか	
5.3~5		こどもフェスティバル(青山円形劇場)=ニコリのたね(3日)/愉快的コンサート(4日)/おながぐがスキ!(5日)	
5.21、28		平成15年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「飛ぶおもちゃ〜帆・飛行機・etc.」(研修室ほか)	
5.31		子育て相談研修会「基礎編」第1回(第2回は9月6日に開催。研修室)	
6.11・12		こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編第1回(第2回は11月19・20日に開催。パソコンルーム)	
6.12		「赤ちゃんサロン」の経験から生まれた新プログラム「親子のほっとタイム」スタート(小児保健クリニック)	
6.14		子育て相談研修会「応用編」第1回(第2回は10月25日、第3回は平成16年1月10日に開催。研修室)	
6.21		青山パフォーミング・アーツセミナー2003 フォーラム「カナダ・ケベックのパフォーミング・アーツ」(研修室。「韓国のダンス」=8月23日=など計4回開催)	
6.25~29		青山パフォーミング・アーツセミナー2003 一般向けワークショップ「アレッシオの振付ワークショップ-Finding again-」/青少年向けワークショップ「子ども向けワークショップ〜初めてのダンス」(青山Bリハーサル室。ケベック文化週間、フランスダンス2003など青山劇場・青山円形劇場公演をリンクして計38回開催)	
7.6		こどもの城マタニティコンサート(青山円形劇場)	
7.19~8.31		夏休み特別期間「みごろ たべごろ あそびごろ 元気ドーンと 夏休み」=新★みんなのからだは芸術品〜からだ探検ツアー/造形発見展「建築と造形(2)」/世界の楽器にチャレンジしよう!〜面白楽器商店街/不思議な映像実験室「絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークショップ」/つくって遊ぼう親子工房〜いきいきヨットレース〜/ブロックであそぼう! ロボットコンテストに挑戦/ケロッパークで水まつり/キャラ文字遊び ポップンプレート——など	
7.25~27		月猫えほん音楽会2003(青山円形劇場)	
8.2~10		ケベック ア トウキョー(青山劇場・青山円形劇場)	
8.2~11		第11回キンダー・フィルム・フェスティバル(Bスタジオ、青山円形劇場)	
8.9・10		こどもの城保育セミナー「子どもと生活・家庭と文化 PART IV〜子育て家庭のよきパートナーになるために」(研修室)	
8.16・17		「ホップ・ステップ・カッパのガイちゃん〜愉快的仲間と不思議な旅をするの巻」(青山円形劇場)	
8.24		キッズクラブ & L. I. T. プレゼンツ「れっつ! ゲッツ! 夏っこ祭」(フリーホール)	
9.28		こどもの城混声合唱団初コンサート「Sing Sing Sing〜はじめの一歩」(青山円形劇場)	
10.11~13		サッカーフェスティバル2003(体育室)	
10.22~24		平成15年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「アレンジ」(研修室ほか)	
10.25~11.3		開館記念特別期間期間ファミリーウィーク2003=親子DEサッカー/第10回親子体験ワークショップ/人形あそびのワークショップ〜わくわくパペットランド/ジョラ街〜君のビルで街をつくろう/不思議な映像実験室/つくって遊ぼう親子工房「よじのぼるくん」——ほか	
10.25~11.16		全国児童館おりがみ作品展・第10回おりがみカーニバル(ギャラリー)	
10.29		赤ちゃん大集合(研修室ほか)	
11.22~24		あそびのおもちゃ箱。福井県児童科学館エンゼルランドふくい、ぐんまこどもの国児童会館、神戸市総合児童センター・こべっこランドのボランティアが公演に参加。栃木県子ども総合科学館のボランティアも公演の手伝いにつけける。(フリーホール)	
12.2		音楽ロビーの新コーナー「ばぶりんパラダイス」スタート	
12.4~26		ア・ラ・カルト〜役者と音楽家のいるレストラン(青山円形劇場)	
12.13		サタデー・ラボラトリースペシャル「体験!! パントマイム」(フリーホール)	
12.13~平成16年1.12		ヤママラアニメーション〜こどもずかん+アートライブラリー〜(ギャラリー、フリーホール)	
12.21~平成16年1.7		冬休み特別期間「ウキウキ@こどもの城〜冬休みはこどもの城へ大集合!」=いろはにほへとでお正月〜かるたをみつけてあそびましょ〜/新★みんなのからだは芸術品〜ちからは遊びのパートナー/パソコン紙相撲〜あふれるイメージ制作中!〜/歓々喜々音楽会!(ファンファンシーシーインユエホイ!)——ほか	
1.2~7		第16回こどもの城・麒麟・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本Ⅲ〜クルクルミチルの青い鳥」(青山円形劇場)	

月	日	事 項
平成16年1	10～12	L. I. T. のメンバー10人が全国の児童館に集う子どもたちが交流する「じどうかんジャンボリー@北海道」に参加。
1	21～23	平成15年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「児童館とキャンプ活動～リーダー研修のチェックポイント～」(神奈川県立足柄ふれあいの村)
2	27～3.7	アートスケープ展 (ギャラリー)
2	13・14	第3回子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康0. 1. 2歳児」(研修室)
3	10～12	女性ボランティアによる「あそびのポケット～いっしょにあそぼ!! にこにこパーク」(フリーホール)
3	19～21	ほくらのサウンド2004 (青山円形劇場)
3	20・21	サタデー・ラボラトリーまつり! (音楽ロビー)
3	20・21	ボランティアが企画した「S-1オリンピック～めざせ!! あそびの金メダル～」(ふしぎが丘)
3	21	Basic 2004 新体操発表会 (体育室)
3	21	ユースクラブのメンバーが企画・運営する遊びのプログラム「ユース探偵事務所」(プレイホール)
3	26～4.5	春休み特別期間「はじまる はじける 春がくる」=花ひらけ! 開運運だめし広場/伝承遊びとスポーツ2004～ザ★伝承あそび/こどもの城映画劇場～カナダのアニメーション特集～/やってみよう! つくってみよう!/パソコン フレンドシップカード——ほか
3	26～4.5	第12回ニッサンゆかいな絵本と童話展～SUN SUN さんぽ!～ (ギャラリー)

2

各部の事業

体育事業部



平成15年度の活動

1. はじめに

活動は、講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブが中心であるが、土・日曜日、祝日は一般来館児・者向けに体育室でスポーツ遊びのプログラムを実施したり、プールの開放を行ってきた。

活動の主旨は、[こどもの城]に遊びに来る子どもたちに体を動かす遊びやスポーツを提供して、動いて遊ぶ楽しさを発見、体験してもらうこと。その結果、運動が好きになり、体力が向上してくれればと願っている。

25m×5コースの温水プール、バスケットボールコート約1面分の広さの体育室を中心に活動を行っている。

(ア) 一般利用

新聞、マスコミなどで「子どもの生活習慣病」「子どもの体力低下」などの見出しをよく目にする。たしかに子どもたちの体力低下は、無視できない状況になってきている。子どもを取り巻く環境は悪化し、事故や犯罪なども多発するようになってきた。外で遊んでいる風景も見られなくなり、遊びをとおして体力をつける場も少なくなった。

[こどもの城]に遊びに来る子どもたちに、安全な場所でおもいっきり体を動かして汗をかき、動く楽しさや楽しみを体験してもらうために、土・日曜日、祝日に体育室でスポーツ遊びを楽しむプログラムを行ってきた。学校体育では体験できないユニークな練習、幼児も楽しめるゲームなどである。なかには、一般来館児・者向けの活動によく参加していた子どもが、小学生体育の講座を受講するようになったというケースもあった。

(イ) 講座・クラブなど

親子、幼児、小・中学生の幅広い年齢層を対象に水泳と体育の講座を開講している。ほとんどの講座は週1回だが、「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回、「シニアスイミング」「同フレッシュ」は週3回ある講座枠のうちから自由に選択できるようにしている。

大人向けの講座として「レディース・スイミング/レディース・リズム&ストレッチ」があり、平日の午前中に開講している。水泳初心者でも、まずは25m泳ぐことができるように指導を行っている。

年度後半には、1年間の活動の成果を発表する「新体操発表会」を開催。年度テーマに基づく演技を発表している。また、「幼児体育」「小学生体育」の参観日を設け、活動の成果を保護者に見てもらっている。また、水泳講座受講生のために「水泳記録会」を設け、自己記録更新に向けての“はげみ”の場になっている。

2. スポーツ遊びプログラム

(ア) 新・みんなのからだは芸術品！

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、年間でテーマを決めてプログラム作りをしている。本年度は「新・みんなのからだは芸術品」がテーマ。以前に行った「みんなのからだは芸術品」の続編。

私たちはいつも、手や足など体の各部位の働きを意識せずに生活している。しかし、それぞれの部位の働きをよくよくみると、動きや力を生み出すメカニズムなどが驚くほ



「新・みんなのからだは芸術品～動いて発見！からだのひみつ」

ど合理的に作られているのにびっくりさせられる。本年度は、運動遊びをとおして自分の体の各部位を意識し、人間の体のすばらしさを新たに発見するプログラムを行った。

児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間は「動いて発見！からだのひみつ」。運動遊びやスポーツを行いながら、体のすぐれている部分を再確認した。夏休み特別期間は「からだ探検ツアー」というタイトルにし、さらに内容を深め、「目・耳探検ツアー」「手探検ツアー」というように部位を限定して行った。体のそれぞれの部位のすばらしさを発見するプログラムから、それぞれの部位の機能をみがくプログラムとした。

冬休み特別期間は「ちからは遊びのパートナー」。脚力、腕力などの力が必要な運動遊びをセレクトして行った。

春休み特別期間は、次年度のテーマ「伝承あそびとスポーツ2004」とし、「ザ・伝承あそび」というタイトルで伝承遊びをもう1度見直し、体育室で活発に動けるような遊びを選んで行った。

（イ）ビッグサタデー

学校週5日制にともなって始めた、小学校4年生以上を対象とした「ビッグサタデー」も2年目を迎え、参加する子どもたちも定着してきた。サッカーやバスケットボールなどの球技を中心に上げ、2か月交代で種目を変えている。



「サッカーフェスティバル2003～FC東京サッカークリニック」

それぞれのスポーツ固有の体の使い方を指導したり、ルールを掘り下げて戦法や戦術などをふまえた練習や試合を行った。高学年だからこそできる練習などを紹介し、クラブ活動的な雰囲気作りにつとめた。

前年度と同様に、参加者には住所を書いてもらい、種目が替わるごとにダイレクトメールを送り、子どもたちの定着をめざした。

次年度は、球技だけでなく、体操系の種目も導入していきたいと考えている。

3. まとめ

平成17年度には、[こどもの城]が開館して20周年を迎える。開館当初の親子講座を受講していた子どもたちが、成人を迎える歳になっている。開館時と今日とでは、子どもを取りまく環境も大きく変化してきている。基本的な理念を大切にしながら、環境の変化に対応した活動を心がけていきたい。

体育事業部がこれからも子どもたちの体力向上の助けになり、体を動かすこと・動くことの楽しさを伝えていく場でありつづけていきたいと願っている。胎児のとき、母親のおなかのなかで手や足を動かし、生まれてしばらくして歩けるようになり、さらに走るようになったとき、子どもたちは手でバランスをとりながらうれしそうに走る。移動する喜び、動く喜び、それが人間の基本だからである。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1でついて利用。（プール）
体育室一般利用 レクリエーションゲーム ドッジボール 卓球 ウォールサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を替えて行っている。卓球の週は終日卓球の自由利用（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。他の種目は、日曜日は14:00と16:00の2回、土曜日は14:00に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13:30～16:00、日曜日が10:00～17:00。児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、開館記念特別期間を除く、土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこ（体育室）
体力測定	土・日曜日、祝日	7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1人100円。土曜日＝14:00、15:00、日曜日＝11:00、13:00、14:00、15:00、16:00。（健康開発室）
グループ活動	火・木曜日 10:00～12:00	保育所などの団体向けのプログラム。6種類のプログラムがあり、体を動かす楽しさや、あまり経験できない種目を紹介・体験できるようにしている。利用団体のニーズに合わせて、いくつかのプログラムの中からピックアップしてプログラムを構成。本年度はレクリエーションの希望が多かった。最近は幼児の団体の利用も多く、お別れ遠足の一つとして利用されているようだ。（体育室）
ビッグサタデー	土曜日 10:30～11:45	学校週5日制に対応して、前年度から始めた小学校4年生以上を対象としたプログラム。サッカー、バレーボール、バスケットボール、フライングディスクなどの種目を2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム（試合）の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。（体育室）
ファミリーアドベンチャー	5.18 11.9 H16.3.14	身の回りにあるいろいろな“冒険”を楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、不思議の発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費＝1,000～2,500円（1人）。 □5月18日＝パークアドベンチャー～クイズウオークラリーに挑戦（葛西臨海公園＝東京都） □11月9日＝アドベンチャーアイランド～無人島猿島を探れ（猿島＝神奈川県） ※9月21日に予定していたが、台風のため延期した。 □平成16年3月14日＝マイクロアドベンチャー～春をさがしに（木場公園＝東京都）
サッカーフェスティバル2003	10.11～13	11・12日は、JリーグのFC東京のスタッフがサッカークリニックを開催。プロのコーチがさまざまなテクニックを指導した。13日は、〔こどもの城〕独自ルールのウォールサッカー大会を開催した。（体育室）
第16回水泳記録会	12.7 13:00～16:00	水泳講座受講者がエントリー（1人2種目1,000円）を行い参加。年齢別・男女別で記録に挑戦。幼児2種目、小・中学生11種目。クラス別対抗のリレーも行った。（プール）
第16回新体操発表会	H16.3.21 10:30～12:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」受講者による発表会。1年間の成果を発揮し、親や祖父母の前で演技を発表した。今年のテーマ「Basic」。43人参加。（体育室）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 新・みんなのからだは 芸術品 第1弾 動いて発見！ からだ のひみつ	4.26～29、5.3～5	過去に「みんなのからだは芸術品」を行ったが、今回はその続編。いつもは手、足、目など体のそれぞれの部位を意識せずに生活している。体の各部位を意識して見ると、その働きのに驚かされる。それは、まさに芸術品。体を動かして楽しむスポーツ遊びをとおして高性能な体を再発見するプログラム。（体育室）

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 新・みんなのからだは 芸術品 第2弾 からだ探検ツアー	7.19～8.31	体の部位を一つひとつ見るとすばらしい機能をもっている。しかしながら、ふだんの生活ではあまり気がついていないのが現状である。スポーツなど体を動かすことで、体の持っている機能に気づくことが多い。裏返してみると、機能がよい、または機能をよくすることで、よりスポーツを楽しむことができる。体のさまざまな機能に着目し、鬼ごっこやスポーツ遊びをとおして体の各部位のすばらしさを発見し、みがくプログラム。週ごとに部位を替えて行った。 あたま探検ツアー（7月19～25日）／目、耳探検ツアー（26日～31日）／心臓、肺探検ツアー（8月1～8日）／手探検ツアー（11～17日）／足探検ツアー（18～24日）／からだ全部探検ツアー（25日～31日） ※恒例となっている、中央区トランポリン協会（東京都）の指導による、トランポリンを8月9・10日の2日間、特別プログラムとして実施した。（体育室）
〈 〃 〉 ちびっこプール	7.19～8.31	屋上に仮設プールを設置、一般利用。利用料200円、レンタル（タオル・水着）各200円。（プール）
〈開館記念〉 親子 DE サッカー	10.25・26、11.1～3	3～6歳の親子を対象としたプログラム。サッカーは今や男子だけのスポーツではない。昔サッカーをやっていたお父さん・お母さん、子どもにせがまれてサッカーをしたいけどどうやって良いかわからないお父さん・お母さんに、指導方法を教えたり、親子で試合。（体育室）
〈冬休み〉 新・みんなのからだは 芸術品 第3弾 ちからは遊びのパート ナー	12.23～H16.1.7	脚力、腕力、筋力——体の各部位はさまざまな力を持っている。その力を使うことで遊びの幅も広がり、楽しくなる。いろいろな力を使うスポーツ遊びのプログラム。（体育室）
〈春休み〉 伝承あそびとスポーツ 2004 第1弾 ザ・伝承あそび	3.26～4.5	昔から伝わる伝承遊びの中でも、元気に動いて汗をかくような遊びを紹介した。少人数から大人数までできるプログラム。（体育室）
体力測定	特別期間中	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1人100円。（健康開発室）
プール 一般利用	〃	10:30～12:00、13:30～17:00に一般利用（プログラムにより変更あり）。有料。（プール）

「新・みんなのからだは芸術品～からだ探検ツアー」



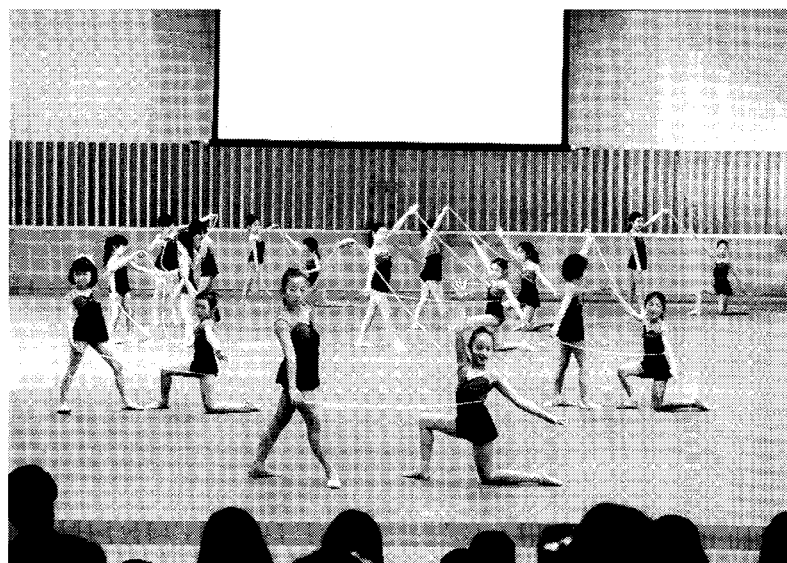
「ビッグサタデー～フライングディスク」

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳	A (組) 1・2歳児と親 (30)	(組) ① 29 ② 33 ③ 22	水曜日 10:00～11:00	親と子を対象とした水泳コース。父親も参加できるようにしている。特に土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期27,000円、3期17,000円。
〃	B (組) 1・2歳児と親 (30)	(組) ① 36 ② 33 ③ 30	土曜日 10:00～11:00	
幼児水泳	A (人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 18 ② 26 ③ 23	木曜日 14:00～15:00	単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身に付ける。クラスの数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。
〃	B (人) 4・5歳児 (60)	(人) ① 35 ② 47 ③ 40	木曜日 15:00～16:00	
〃	C (人) 〃	(人) ① 12 ② 19 ③ 21	金曜日 14:30～15:30	
〃	D (人) 3～5歳児 (50)	(人) ① 43 ② 44 ③ 43	火曜日 14:30～15:30	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
〃	E (人) 〃	(人) ① 32 ② 39 ③ 37	水曜日 13:30～14:30	
幼児体育	A (人) 3・4歳児 (40)	(人) ① 22 ② 19 ③ 15	水曜日 14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。
〃	B (人) 4・5歳児 (40)	(人) ① 22 ② 23 ③ 23	火曜日 15:00～16:00	
〃	C (人) 〃	(人) ① 18 ② 20 ③ 18	木曜日 15:00～16:00	「幼児体育A・B」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2期19,000円、3期13,000円。

「幼児体育」



第16回「新体操発表会」

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生水泳 A	(人) 小学生 (60)	(人) ① 43 ② 34 ③ 31	水曜日 14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。 10級 顔つけ もぐり 息こらえ ポビング 水なれ 9級 伏し浮き 背浮き 板キック ボディーイメージ1 8級 伏し浮きキック 背浮きキック ボディーイメージ2 7級 ノープレクロール バックキック ボディーイメージ3 6級 クロール・バック(12,5) プレスト・バタフライ(キック) 5級 クロール・バック(25) プレスト・バタフライ(リズム) 4級 クロール・バック(50) プレスト・バタフライ(呼吸) 3級 クロール・プレスト(タイム) 個人メドレー 2級 個人メドレー(100)(タイム) 1級 個人メドレー(200)(タイム) ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料＝1・2期25,000円、3期17,000円(2コース合計)。
〃 B	〃	① 24 ② 25 ③ 18	火曜日 15:30～16:30	
〃 C	〃	① 66 ② 60 ③ 56	水曜日 〃	
〃 D	〃	① 61 ② 55 ③ 51	金曜日 〃	
〃 E	〃	① 34 ② 45 ③ 42	木曜日 16:00～17:00	
〃 F	小2～6 (40)	① 50 ② 40 ③ 36	火曜日 16:30～17:30	
〃 G	〃	① 32 ② 34 ③ 24	木曜日 17:00～18:00	
シニア スイミング A	小・中学生 (30)	① 8 ② 7 ③ 10	火曜日 16:30～18:00	「小学生水泳」からのステップアップの場であり「シニアスイミングB」へのステップとしての役割もあるため、基礎体力の向上と4泳法の完成を中心に行った。 個別のメニューを組んでより速く泳ぐことにチャレンジする上級者向けのコース。水球も経験する。指導者の推薦が必要。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
〃 B	〃	① 10 ② 10 ③ 6	水曜日 〃	
シニアスイミング フレッシュ	小3～中 学生(30)	① 25 ② 34 ③ 22	金曜日 16:30～18:00	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。 受講料＝1・2期21,000円、3期14,000円。
小学生体育 A	小学生 (30)	① 32 ② 33 ③ 33	火曜日 16:00～17:00	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身に付ける。 受講料＝1・2期17,000円、3期11,000円。 ※バランス良い発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料＝1・2期25,000円、3期17,000円(2コース合計)。
〃 B	〃	① 29 ② 27 ③ 26	木曜日 〃	
ジュニア新体操	小1～3の 女子 (35)	① 23 ② 26 ③ 26	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1・2期26,000円、3期19,000円。
シニア新体操	小4～中3 の女子 (35)	① 28 ② 25 ③ 21	水・金曜日 16:30～18:00	「ジュニア新体操」から一歩進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1・2期26,000円、3期19,000円。
手足の不自由な子の水泳	小・中学生 (15)	① 10 ② 10 ③ 9	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1・2期16,000円、3期10,000円。
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス)	太りすぎ の小学生 とその親 (20)	① 22 ② 21 ③ 21	土曜日 16:00～17:00	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック——3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料＝1・2期22,000円、3期18,000円。

※講座回数＝1期13回、2期13回、3期9回(「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ(D. H. C.)	(人) 成人 メンバー ビジター 法人	(人) 年間延 8,948 388 108 合計 9,444	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月20,000円、月会費5,500円、利用料(利用の都度) 300円。パス券(月3,000円、4か月11,000円)、ビジター1,500円。『渋谷ウォーカー』ほかに広告掲載。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上の女性 (150)	① 62 ② 61 ③ 62	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加チケットを発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身に付けることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。 受講料=1・2期21,000円(13回分)、3期14,000円(9回分)。クーポン券(6回)5,000円。
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦 (月35)	年間延 1,217	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。お産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料12,000円(月7回)。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子のすくすくランド	(組) おすわりのできる乳児と母親 (20)	(組) ① 32 ② 23 ③ 24	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェーブアップも。1・2期は10回、3期は9回。 受講料=1・2期23,000円、3期21,000円。
幼児・母親体育 A // B	1・2歳児と母親 (20) 2・3歳児と母親 (30)	① 28 ② 29 ③ 30 ① 27 ② 30 ③ 30	火曜日 13:30～14:30 水曜日 11:00～12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身に付ける。1・2期は10回、3期は9回。 受講料=1・2期19,000円、3期17,000円。
ばちばちファミリースイム	1・2歳児と父母、祖父母 (30)	① 15 ② 34 ③ 17	金曜日 10:00～11:00	楽しくプールで活動をしながら、水慣れとともに父母・祖父母と孫のコミュニケーションを深める。1・2期は10回、3期は9回。 受講料=1・2期25,000円、3期23,000円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども集中水泳講習会 // // //	(人) 小中学生 A (50) 4・5歳児 (40) 小中学生 (50) 4・5歳児 (40)	(人) 50 40 50 40	7.22～26 9:30～10:30 7.22～26 10:30～11:30 8.21～25 9:30～10:30 8.21～25 10:30～11:30	5日間の集中練習で泳力アップとさまざまな泳法を体験。 受講料=7,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ガンバ！2003	(人) 小学生 (30)	(人) 30	8.21～25 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身に付ける、体操の苦手な子どもの体操教室。 受講料＝7,000円。
春休みこども集中水泳講習会	小・中学生 (50)	50	4.1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料＝7,000円。
〃	4・5歳児 (40)	40	〃 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 126	水・金曜日 18:00～19:00 (各月7回)	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円。
こども一日ドック	小・中学生 (10)	9	7.23 12:00～17:30	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。 料金＝10,000円。 (健康開発室)

〈専門指導者向け講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小児肥満のための指導者講習会	(人) 保育士・保健師・養護教諭など (40)	(人) 57	H16.3.12・13	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や体力測定についてのレクチャーおよび実践を行った。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
新体操夏合宿	7.29～8.1	集中的に練習を行うため、講座ではできない活動を体験。生活面、精神面の自立をうながし、集団活動による協調性を養うことを目標とした。精神面を含め、個人の成長がみられた。30人参加。東白河郡ユーパル矢祭（福島県）。
スポーツキャンプ	7.27～30	テニスの技術を学んだり、マラソンで体力トレーニングをしたり、サッカーやラグビーなどの球技も行った。栄養を考えた野外料理作りなど、合宿の要素が大きいハードなキャンプ。津南町の人の協力を得て、特産物を使った“おやき”作りを行い地域と交流。小3～中3、31人参加。グリーンピア津南（新潟県）。
チャレンジキャンプ	8.25～28	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。今回は、石割山登山にチャレンジした。天候が悪く、雨の中の登山となった。小1～3年生45人が参加。YMCA山中湖（山梨県）。
スキースクール パート1 1期 〃 2期	12.26～29 H16.1.4～7	1期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）、2期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるグリーンピア津南。2期は往復の移動の疲労を軽減するために新幹線を利用。また、2期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小2～中学生対象。1期は42人、2期は45人参加。
スキースクール パート2	3.26～29	小1～3年生の低学年が対象。雪遊びとスキーレッスンをととして自然と多くふれあうことが目標。スキーを初めてはく子どもも少なくないが、楽しみながらのレッスンで上達も早い。恒例の雪上レクリエーションでは、雪上運動会、雪合戦協会ルールでの雪合戦を行った。45人参加。グリーンピア津南（新潟県）。
健康スポーツ教室 夏合宿	8.4～6	毎週1時間のスポーツプログラムとは別に、長時間運動を続けることで、体を動かす楽しさを改めて感じてもらうことが目的。フライングディスクのゲームを中心に、ロングサイクリング、フィールドアスレチック、登山、水泳などの運動プログラムのほか、農場体験やそば打ち、野外炊事など、食と運動を中心としたキャンプ。13人が参加。グリーンピア津南（新潟県）。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	4.19・20	東京都足立区立子ども家庭支援センター。
身近な道具でスポーツ 遊び	6.15・16	長崎県江迎町子育て支援ネットワーク協議会。
親子ふれあい体操1・ 2・3	6.21、26	東京都中野区城山ふれあいの家。
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	6.30・7.1	栃木県南河内町児童館。
「おにごっこ」で楽しく 体力づくり	7.9・10	山梨県韮崎市立北西児童センター。
親子ふれあい体操1・ 2・3	10.20・21	山形県新庄市福祉事務所。
「おにごっこ」で楽しく 体力づくり	10.24・25	えひめこどもの城。
身近な道具でスポーツ 遊び	11.7・8	岐阜県北方町児童館。
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	11.9・10	滋賀県栗東市立葉山児童館。
//	H16.1.9・10	神戸市中央区児童館。
親子ふれあい体操1・ 2・3	3.2・3	長野県八千穂村。

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
楽しい運動遊び、親子 スキンシップ	5.22	東京都板橋区東板橋体育館。
お父さんが中心となっ てできるからだを動か す運動とあそび	6.1	神奈川県藤沢市・長後公民館ホール。
幼児期のからだ運動	6.3	東京都渋谷区スポーツセンター。
鬼ごっこで健康づく り、体力づくり	6.30	神奈川県川崎市中原区役所。
行事や日常の活動でで きる集団遊びとその指 導方法	7.1	東京都新宿区新宿桜町児童館。
鬼ごっこで健康づく り、体力づくり	7.8	長崎県立総合体育館。

名 称	日 時	内 容
幼児期に望ましい運動あそび	8.19	山梨県福祉プラザ。
乳幼児の手遊び、歌遊びとの関わり方	9.12	新潟市総合福祉会館。
ママと一緒に遊んで！ ～発達の遊び0・1・2歳編～	9.25	東京都大田区立沢田児童館。
子供の遊びからスポーツへのくふうをゲーム学の実技演習	11.10	埼玉県吉川市立児童館。
鬼ごっこしよう～楽しく遊んで体力づくり	12.21	宮城県石越勤労者体育館。
第3回ライフ・キッズ・スポーツ指導者研修会	12.27	大阪市ドーンセンター。
身体を使った活動関係の講義および実技	H16.1.24	山梨県田富町立第一保育園。
健康づくりのための仲間作り	3.19	宮城県石越町役場。

プレイ 事業部



平成15年度の活動

1. はじめに

プレイ事業部は、(1) 子どもの発達年齢や遊びの種類を考えた、よりよい遊び環境の整備 (2) ささまざまな児童文化財を題材にしたプログラムの提供 (3) 子どもたち同士の交流を促進するプログラムの開発、提供——を基本機能としている。これを土台に、社会や時代のニーズにあわせ、遊びのプログラムを提供している。

前年度から引き続き、学校週5日制にあわせて実施した小学生以上の子どもを対象とした「サタデー・ラボラトリー」は、プログラム内容をより広げて実施した。また、中断していた家族のためのプログラム「ファミリー・プレイタイム」を、より多くの家族が参加できるように運営方法を変更して再開した。想定していた人数をはるかに超える参加者が集まり、親子遊びや家族の交流の大切さ、ニーズの高さを改めて感じるようになった。

手作り人形を素材とした「パペットランド」のプログラムも、親子の交流をねらいの一つとした活動であるが、子育て支援活動の一環として、各地から講習会開催の要望も多くなってきている。

(ア) 一般利用

一般来館児・者を対象に、平常期間に日替わりで行っている週間事業、季節行事、そして特別期間にもさまざまなプログラムを実施した。

学校週5日制がスタートして1年が過ぎ、子どもの休日としての土曜日の過ごし方が、落ち着いてきたようだ。小学生以上を対象とした「サタデー・ラボラトリー」には安定した参加があり、よりバラエティに富む活動をめざした。

就学児童のみならず、幼稚園などでも5日制が実施され、家族単位での土・日曜日の事業展開について、さらに検討の必要がある。日曜日の家族向けの事業として、「ファミリー・プレイタイム」を再開し、小さい子と親がともに楽しむプログラムの拡充を図った。

一方、遊び場の整備については、昨今多数報道されている遊具事故などの情報を受けて、プレイホールの大型遊具などについて一層の安全化対策への配慮を進めた。従来から保守点検を依頼している業者などと連携して、欧州の遊具設置基準や国内で整備されつつある安全基準などを参考に、補助具の取り付けなどの遊具改造を進め、遊具の定期点検・適正整備を行った。これを機会になお一層の安全性を高める点検・整備方法を確立したい。

【サタデー・ラボラトリー】

AV事業部と共同で、毎週土曜日に小学生以上を対象としたプログラムを実施している「サタデー・ラボラトリー」は、2年目を迎え、さらにプログラム内容の充実を図った。

プレイ事業部担当のプログラムでは、手品の種を仕込んで演じてみたり、火起こし器を使って火を起こす体験をした。また、「道を究める～茶道体験～」では、茶道裏千家の先生を招いて、実際にお茶をたてるなど、お点前をとおして日本の文化について考えようと投げかけたプログラムも実施した。

毎回のように参加する子どもたちも多く、“常連メンバー”の活動を促進しようと、参加するごとに捺印するスタンプカード「サタデー・ラボラトリー研究員証」を発行。子どもたちとの新しい人間関係を結ぶきっかけとなり、新たな常連のメンバーをスタッフが把握できるようにした。

本年度は、これまでの科学遊びを中心とした内容から、

さらに遊びや体験の幅を広げたプログラムへと展開したことで、「サタデー・ラボラトリー研究員証」の発行などをおして新たな可能性を感じた一年となった。

（イ）講座・クラブなど

【キッズクラブとユースクラブ】

学校週5日制の導入に代表される学校の大きな変化にあわせ、子どもたちの生活時間帯・行動パターン・時間の使い方が大きく変わった。「ユースクラブ」「キッズクラブ」は子どもたちの遊びのクラブ。クラブを運営してここ数年で感じることは、子どもたちが学校以外に仲間を感じる場を求めたり、遊び（体験）の場を求める姿が、以前にも増して高まっているのではないかと、ということである。子どもだけでなく保護者にもみられる傾向で、学校以外の時間が増える中で、「こどもの城」のような施設に対する期待が高まり、その役割がさらに強くなっていると感じられる。

「キッズクラブ」では、夏休み期間中の特別プログラムとして、高校生リーダー「L. I. T.」と共同で、一般来館児・者向けに縁日風のゲームコーナーを企画、「れっつ！ゲッツ！夏っこ祭り」を開催した。ねらいは、さまざまな世代・価値観をもった子どもたちが出会い、他者との関係作りのあり方を学んだり、低学年にとっては生きていく上でのモデル対象を見出す機会、高学年にとっては低学年に慕われ信頼される関係の中で自尊感情をはぐくむ機会とする、とした。

特別プログラムをとおして、「キッズクラブ」のメンバー同士、あるいは「キッズクラブ」と「L. I. T.」の双方のメンバー同士の関係作りには成果が見られ、一般来館児・者との交流をとおして外部の子への思いやりを見せる場面も多く見受けられた。またこうした活動に対する保護者からの評価も非常に高かった。



「L. I. T.」の高校生と一緒に「キッズクラブ」の「夏っこ祭り」

開館当初から5年目ぐらいまでは、「こどもの城」の講座・クラブのメンバー、あるいは一般来館の子どもたちが交流したり、ともに活動する機会として「夏祭り」「こどもデパート」「ミステリーハウス」などが毎年行われていた。今改めて“子どもが作る子どものための活動”の意義を強く感じている。

【パソコン教室スペシャル】

パソコンは個人で操作する場面が多いが、「こどもの城」の「パソコン教室」では、使い方を学ぶのではなく、パソコンを子どもたちの仲間遊びの媒介として組み込んだ活動を実施している。

本年度は、夏休み特別期間に館内の遊び場やスタッフに取材してレポートを作成し、最終的にホームページに掲載する「マルチメディア探検隊」、春休み特別期間に「ロボットプログラミング入門」を短期集中講座として実施した。

「ロボットプログラミング入門」は、コンピュータで制御ができるレゴブロックのキットを使い、自分たちでロボットを組み立て、さまざまな動きを指示するプログラミングを楽しむ内容とした。初めて実施するプログラムであったが、自分たちの手で組み立てたロボットを、いかにコンピュータのプログラムで上手く動かすかというハードとソフトの両方の工夫を組み合わせる楽しさがあった。

苦勞しながらも思いどおりにロボットが動いたときは大きな歓声があがり、作業をとおして子どもたちの交流もどんどん深くなっていく様子がうかがえた。

【児童厚生員実技指導講習会

～パソコン遊びのワークショップ～

前年度に引き続き2年目。本年度も「遊びを広げるパソコンの活用法」を基本テーマに、6月と11月の2回の講習会を実施した。6月の講習会では、図鑑ソフトを活用したパソコン遊びや写真を加工した楽しむコラージュ遊びなど、できるだけ多くのジャンルのプログラムを紹介した。



「ユースクラブ」の“どきどきペットボトルロケットしくみ研究所”

「ゴールデンウィーク人形劇フェア」



11月の講習会のテーマは「コンピュータと仲間遊び」。“作って遊ぶ”“みんなで共同制作”という切り口で、コンピュータを媒介として、仲間遊びを楽しむことができるさまざまなプログラムを紹介し、参加者みんなで体験した。

両講習会とも満員となり、まる2日間にわたりパソコン遊びや、子どもたちにパソコン遊びを提供するためのさまざまな準備作業を体験した。参加者のコンピュータの使用経験が大きく異なるため、運営の難しさも多々あったが、参加者の熱意にも支えられて充実した講習会となった。

コンピュータを使った遊びのプログラムの情報はまだまだ少なく、児童厚生員向けの講習会もほとんど例がない。今後も引き続き、同様の講習会実施を検討していく必要があるかもしれない。

(ウ) グループ活動

仲間と協力することや一緒に楽しむことをとおして、子どもたちの豊かな心をはぐくむことを目的に、劇遊びやごっこ遊びを中心としたグループ活動を実施している。本年度は、「忍者修行道場」19件、「森へいこう」13件、「みんないっしょに」7件、「こどもの城オリンピック」6件、「みんなであそぼうパペットランド」4件、「忍者運動会」1件の計50件を受け入れた。

本年度の特色は、「みんないっしょに」の件数が増加したこと。「みんないっしょに」は、受け入れるグループの子どもたちの様子に合わせて遊びを組み立てるプログラムであり、利用グループ全てが養護学校や障害児学級の利用であった。

グループ活動全般で、小学生以上のグループの受け入れ拡大が検討されている。主に小学生以上が対象の既存プログラム「パソコンであそぼう」「こどもの城オリンピック」の充実をめざすとともに、新たなプログラムを引き続き検

「ファミリー・プレイタイム～たきび団んでほっかほかTime」



討する必要がある。

(エ) キャンプ活動

夏休みと冬休み特別期間に、小学校1～3年生が対象の「ちびっこ冒険団」「ゆきんこ冒険団」、4～6年生が対象の「フェローシップキャンプ」を実施した。子どもたちを取り巻く環境が変化し、自然の中での遊び体験や集団遊びによって社会性をはぐくむ場などが減少、子どもたちのさまざまな体験の場が少なくなっている。[こどもの城]のキャンプ活動では、自然の中でのさまざまな活動とおして、社会性を養うことを大きな目的として実施している。

平成元年（'89）に始まった「ちびっこ冒険団」は、本年度で15回目となった。天候にも恵まれ“森の冒険ハイキング”や“冒険団まつり”など、予定どおりのプログラムを実施することができた。また例年は、最終日の午前中は班別に過ごしていたが、今回初めて全体プログラムを実施した。班ごとのまとまりと、全体との一体感を楽しめるよいプログラムとなった。

「フェローシップキャンプ」は、創設以来初めて申込み当日に満員となった。「ちびっこ冒険団」からの参加者はじめ、リピーターやその仲間が多くなったからである。キャンプ当日は天候にも恵まれ、予定通りのプログラムを進めることができた。

人と人とのかかわりの中での気付きや学びを大切にするキャンプ活動では、子どもたちをさまざまな形でサポートするボランティア・リーダーの存在・役割が非常に重要である。ボランティア・リーダーには子どもたちと生活をともしたり、キャンプ全体の運営に携わったりと、スタッフとともにキャンプ作りにかかわってもらっている。近年キャンプの必要人数に対してボランティア・リーダーの参加・充足率が低下している。継続したメンバーが集まるキ

キャンプもあるが、新人メンバーが多いキャンプもある。キャンプによる偏りをなくすためにも、よりよいボランティアコーディネートが今後の大きな課題となってきた。

2. 家族向けプログラムの提供

ここ数年の来館児・者の様子をみていると、積極的に大人も子どもと一緒に遊びたい、楽しみたいという家族が多くみられ、プログラムなどに親子で参加する姿が増えている。また、家庭や地域などで、子どもと何をして遊ぼうか、どう遊ぼうかと、〔こどもの城〕にそのヒントを求める声も聞かれ、子育て支援の一端を担う施設としての使命をあらためて考えさせられる。

プレイホールでは、遊び空間の中に大人の居場所を用意し、家族が遊びの場にいられるようにしている。遊び場の仕切り代わりにベンチを設置し、大人が座って子どもの遊ぶ様子をみられるようにしたり、赤ちゃんのコーナーを設けることで幼い弟や妹と遊びながら兄や姉が別の遊具で遊ぶ様子を見ることができるようにするなど、家族で過ごす空間を工夫している。

プログラムは企画段階から家族の参加を想定し、親も子どもも対等に楽しめる素材は何か、子ども対象のものに親はどういう役割でかわるのがよいかなどを考え、計画している。

【ファミリー・プレイタイム】

積極的な親子の遊び空間を作ろうと、本年度から「ファミリー・プレイタイム」に取り組んだ。平成13年度まで行っていた同名のプログラムを見直し、事前受け付けだったものを当日受け付けの自由参加形式に変更し、主に日曜日や祝日などに実施した。

来館親子の年齢層のなかでも比較的多い幼児（3～5歳児）とその保護者（親・祖父母など）が対象で、家族単位

で遊びに取り組むことができるように企画を進めた。子どもだけが楽しむのではなく、保護者にも役割や楽しみ、居場所がある“子どもと一緒に取り組めるプログラム”とすることがいちばんのねらいである。

参加した保護者から「親子で遊ぶ機会が得られた」「親子で楽しく過ごせた」という声が寄せられ、親子活動プログラムへの関心と参加希望の多さを感じさせた。

実施していく中、会場をのぞいた小学生からも参加希望が多く出された。実験的に「小学生でも親子参加ならよい」としてみたところ、低学年から高学年までの参加があり、小学生も家族で楽しみ、年齢に合った課題への取り組み方が見られ、有意義であると思われた。小学生の参加は、その動きを目の当たりにする幼児の興味や関心・意欲を刺激するものでもあり、また、幼児と小学生を兄弟に持つ家庭には、一緒に過ごせる空間になっていた。小学生の親子にも今後参加の機会がもてるよう検討したい。

3. まとめ

開館以来一貫して、子どもたちの仲間遊び、交流体験による成長・発達を活動の中心課題としてきた。この人と人がふれあいながら育ち合うということは、子どもたち同士だけのことでなく、一緒に生活する家族同士でもまさにあてはまることであろう。

幼児と親のためのふれあいプログラムである「バベットランド」から始まり、「ファミリー・プレイタイム」、小・中学生のための遊びのクラブである「キッズクラブ」「ユースクラブ」、そしてキャンプ活動——どれも、人と人が交流を深めながら育ち合うことを願ったプログラムである。

乳幼児から始まる子育て支援のプログラムも、小学生、中学生、そして高校生へと一本につながり、さらに家族や、もっと多くの人を巻き込んだ活動となるべきであろう。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなの にこにこ広場	水曜日 15:00～15:30	人形劇、影絵、紙芝居の3つの鑑賞型プログラムを女性ボランティアの協力を得て、週替わりに実施。毎週この催しを楽しみに来館する親子もいて、大人も子どもも同じ場面で共感する様子がうかがえた。また、音楽に合わせて人形や場面が動いたりする演目では、赤ちゃんとそのお母さんも十分に楽しめ、体をゆすったりジャンプする姿も見られた。(プレイホール)
おりがみ遊び広場	木曜日 14:00～15:00	女性ボランティアの協力を得て実施。各回1～2種類取り上げる折り紙は、動物、食べ物、季節にちなんだものや作って遊べるものなどバラエティに富むよう工夫した。折り方を教えるだけの場ではなく、ボランティアと親子とが交流を楽しむことで、ゆったりとできる空間を作った。参加親子同士が時間を共有できるように、参加の声を積極的に行った。(プレイホール)
金曜開店！ あそびやさん	金曜日 開館時間中	期間ごとに3～4種類のおもちゃを選び週替わりで出した。 1期＝ブロック／木製の汽車遊びセット／ネジブロック 2期＝ビーダマ転がしブロック／板状のつまみセット／ネジブロック 3期＝手びねりゴマ／板状のつまみセット／UFOパニック（粘着ゴム性の宇宙人がおもしろい動きで滑り落ちるおもちゃ）／ドミノたおし (プレイホール)
おはなし人形広場	土曜日（不定期） 15:00～15:30	プロの人形劇団やアマチュア人形劇サークルによる人形劇やパネルシアターなどの公演。舞台の上での上演とは違い、同じ床面で繰り広げられる人形たちの世界はより身近に感じられ、小さい子どもから大人までが楽しめる時間となった。全18回実施。(音楽ロビー)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受け付け時間)	小学生以上を対象とした、科学遊び・映像遊びを中心とした直接体験を重視したプログラム。AV事業部と共同で、毎週異なったプログラムを実施。別表参照。(フリーホールほか)
〈七夕〉 夜空にかがやけ ねがい星	7.3・4 13:00～16:00 7.5・6 11:00～16:00 (受け付け時間)	七夕の由来を伝える行事。短冊に願いごとを書いて笹竹に飾ったり、紙芝居やパネルシアター、クイズ大会をボランティアの協力を得て実施。本年度はブラックライトを使用し、天の川を歩いているような体験ができる「星のトンネル」を設置。遊び場とは一風変わった雰囲気にならずと浸っていたり、暗闇に浮かぶ光る星を見るという新しい体験を楽しんでいた、きれいな言いながら通る親子の姿が見られ、七夕の雰囲気を感ぜられる機会になった。(プレイホール)
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H16.1.31・2.1 館内ラリー 11:00～15:00 参加劇 16:00	「もじもじオニさがし」(館内TV放送やプレイホール、ロビーなどで実際に動き回っている鬼たちを探し出し、隠し持っている文字から節分に関する言葉の導き出すという、館内を使ったラリー形式のゲーム)と「大まめまき大会」(福の神が子どもたちに向け節分の由来を分かりやすく説明していると、鬼軍団が会場にあらわれ悪さをする。その鬼たちを福の神と参加者が豆をまいて退治するという参加劇)の2つのプログラムを行った。(プレイホール)
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり～ つるしかざりをつくら う～	2.28・29 11:00～16:00 (受け付け時間)	伊豆稲取や福岡県柳川地区に伝わる雛飾り「つるし飾り」にスポットをあてた。薄い色紙と綿を使い、はい子人形・金魚・座布団・におい袋・ひよこ・ねずみ・うさぎ・かめ・俵・三角・桃・唐辛子の中から3種類を選んで作った。工作の部分で幼児は大人の助けが必要だが、大人が子どもの成長を願って作る飾りだけに、飾り作りをとおして「つるし飾り」の由来や願いを来館児・者に伝えていく機会となった。(プレイホール)
第33回バンパー大会	3.14 小学生の部 10:00～13:00 中・高校生の部 14:00～15:30	プレイホールの高学年コーナーにある人気遊具『バンパー』(ピリヤードに似たニュースポーツゲーム)の大会。夏休み大会と同様に、高学年コーナーに集まる子どもたちの、さらなる交流のきっかけ作りを目的に行った。小学生の部22人、中高生の部3人が参加。前回の大会の参加者も引き続き参加し、交流もさらに深まっている。中高生の部の参加者がここ数回低迷。今回は人数が少ないため、大会の形式を取らず、「交流試合」という形で行った。(プレイホール)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 どーんと億万長者	4.26 13:00～16:00 4.27、5.3～5 11:00～16:00 (受け付け時間)	子どもたちにとって身近なものの一つである「お金」をテーマに、幅広い年齢層の来館児・者が楽しめるように企画した。“タスキの世界で億万長者をめざそう”と参加者は8種類のゲームに挑戦。ゲームは、仕事をして給料をもらう「アルバイトゲーム」、参加料を払ってお金を増やす「チャンスゲーム」の2種類に大別される。ほかに、参加者同士が直接勝負をしてお金を増やす「5億ハッピーゲーム」という大会も実施した。「お金」というテーマの分かりやすさからか、連日、幼児から大人まで一緒に楽しむ姿が見られた。 (ふしぎが丘)
〈 〃 〉 ゴールデンウィーク 人形劇フェア	4.26、27、29 11:00～16:00 (受け付け時間) 公演=11:30/13:30/ 15:30	「人形を作る」「作った人形で遊ぶ」「人形劇を見る」という3つのプログラムで、親子が児童文化にふれる機会を設けた。例年、運営に携わっている、人形劇サークルや児童文化研究会に所属している大学生のネットワーク「じゃんぐるじむ」の働きかけにより、アットホームな会場を作り上げ、その中で親子がゆったりとプログラムに取り組んでいる姿が印象的であった。またOBの参加も少しずつ増えてきており、親子が楽しく参加できる環境を高める効果につながっている。 (Bスタジオ)
〈夏休み〉 クロッパークで水まつり	8.13～17 11:00～15:00 (受け付け時間)	水の障害物の中を進むすごろく、水鉄砲を使った的当て、水を含んだスポンジを使う玉入れなど、5つの水遊びを展開。受付で参加の証“リストバンド”をもらい、好きなゲームからチャレンジする。5日間の予定であったが、雨天のため初日と最終日2日間のみの実施となった。 (ふしぎが丘)
〈 〃 〉 第32回バンパー大会	8.31 小学生の部 10:00～12:30 中・高校生の部 13:30～17:00	プレイホールの高学年コーナーにある人気遊具『バンパー』(ビリヤードに似たニュースポーツゲーム)の大会。夏休み中に行う大会としては2回目、参加者も増加した。時期的に参加者が練習に来やすいからか、大会前からバンパーコーナーで交流する姿が見られた。小学生の部20人、中高生の部3人が参加。 (プレイホール)
〈開館記念〉 わくわくバベットランド	11.1～3 11:00～16:00 (受け付け時間) 公演=13:30/15:30	身近な素材である紙コップを使って、ネズミの人形を作るワークショップと作った人形を使って参加できる「あそぼ」の上演を実施。人形をカラフルに塗ったり、顔の表情にもそれぞれ工夫が見られたり、子どもたちは工作を楽しみながら自分だけのオリジナルの人形を完成させていった。でき上がると、人形を操作したり、親子でおしゃべりを始めたりと人形の世界を楽しんでいる姿が多く見られた。参加劇では、劇の中の人形の動きを自分の人形でまねしたり、出されたクイズに答えたり、子どもたちの参加意欲も高く、会場が一体となった時間を過ごすことができた。 (プレイホール)
〈冬休み〉 いろはにほへとでお正月～かるたみつくてあそびましょ～	H16.1.3 13:00～16:00 1.4～7 11:00～16:00	正月や伝承遊びにちなんだ7種類の遊びを展開した。本年度は、正月をテーマにしたゲームも取り入れて、遊びの幅を広げた。伝承遊びから、めんこ、三つ馬、こま、坊主めくりの4種、正月をテーマにしたゲームとして、開運おもちつみ(鏡餅を何段積み重ねられるか)、モンタージュ福笑い、クイズラリーの3種類。参加する子どもたちへの動機付けとして、子どもたちに人気の“カード集め”になぞらえた“かるた集め”を行い、参加者にオリジナルの“いろはガルト”の取り札をプレゼントした。 (プレイホール・屋上遊園ほか)
〈春休み〉 花開け！ 開運 運だめし広場	3.27・28 11:00～16:30	“運試し”という年齢に関係なく楽しめる要素のゲームを集め、親子、兄弟など年齢差を気にせずに対等に遊ぶ楽しさを体験してもらおうと実施した。「すごろく」「ルーレット」「ハイアンドロー(トランプの遊び)」などをアレンジした6種類を実施。いろいろなゲームに何度も挑戦する参加者の姿が見られた。また、1日2回「運試しゲームのつどい」という遊びの大会も実施した。「サイコロ」「ジャンケン」などを素材にしたゲームを行い、集まった大人数の参加者でいっせいに楽しむことができた。 (プレイホール)

〈パソコンルームのプログラム〉

名 称	日 時	内 容
パソコン探検マップ	4.16～5.12	あらかじめ用意した地図（土台）に、海賊船や山、宝箱、恐竜などのアイテムのイラストをはりつけて印刷し、オリジナルの探検地図を作る。できあがった地図をほかの人と見せ合う子どもたちの姿も見られ、楽しんでた。
きみもパソコンアニメーター	5.13～7.17	複数枚（2～4枚）の絵を画面上に書き、できあがったものを交互に映し出して簡単なアニメーションを作るプログラム。数種類の音楽の中から好きなものを選び（BGM）、画面に合わせて楽しむことができる。一人ひとりのユニークな発想で、多くの作品ができあがった。
キャラ文字あそびポップンプレート	7.18～9.9	文字をいろいろなフォントでデザインしたり、イラストを入れてドアプレートを作った。ひな形を用意し、文字列・フォント・文字装飾・イラストを入れ替えて作る。プリントしたものをパネルにはりつけて完成させる。
ネイチャークイズ	9.10～10.21	CD-ROMの鳥と花の図鑑を使って、鳥や花の名前を当てるといふクイズ形式のプログラム。鳥や花の写真には特徴をヒントとして記載、そのヒントから検索していく。答え合わせコーナーを設け、自分で答え合わせをし、正解にはスタンプを押せるようにした。
ジオラ街っく～君のビルで街を作ろう～	10.22～12.16	パソコンで、窓の形状を選んだり、模様をつけたり、壁の色を変えたりしてビルのデザインを楽しみ、印刷して工作したビルディングを「街のジオラマ」に建てていった。
パソコン紙相撲	12.17～H16.1.20	パソコンで紙相撲の力士をデザイン。力士の全身を手や足、頭など数種類のパーツに分け、それぞれのパーツに多数の形態のものを用意。気に入った組み合わせで力士を作り、ペイントする。できあがった力士は紙相撲の土俵で対戦させて遊んだ。
ことばあそびのA☆B☆C	1.21～2.17	パソコン相手に言葉遊びを楽しむプログラム。「しりとり」、文字を並び替える「アナグラム」、自分の作った文章が変化するのを楽しむ「4W遊び」の中から遊んでみたいものを選ぶ。しりとりの勝負でパソコンに勝ったり、アナグラムが解けたりすると、「ねえねえ勝ったよ」とスタッフに報告する姿、親に報告して一緒に喜んでいる姿などが多く見られた。高学年や大人が「英語しりとり」や「ことわざしりとり」に真剣に取り組んでいる姿も印象的だった。
サウンドエフェクター	2.18～3.21	用意された写真の中から好きなものを選び、その写真にあったBGMや効果音をつけて遊ぶプログラム。写真や音選びに迷っている子どもたちも多く、友だちや親子で相談している姿が見られた。一つの作品ができあがると子どもたちはコツを覚えたのか、同じ写真で違う音をつけたり、写真も変えて始めから取り組んだり、自由な発想でさまざまな作品が生まれた。
フレンドシップカード	3.23～4.25	名刺作成ソフトを使い、名前や住所・プロフィールなどを文字入力したり、イラストをいれて自己紹介カードをデザインした。できあがったものはプリントし、友だち作りのアイテムとして使うことができる。



「花開け！開運 運だめし広場」（春休み特別期間）



「ジオラ街っく～君のビルで街を作ろう～」（パソコンルーム）

〈サタデー・ラボラトリー〉

名 称	日 時	内 容
空飛ぶおもちゃ大集合	4.12	「わりばし飛行機」「ペットボトルジャイロ（ペットボトルを輪切りにし回転をかけて投げる）」「紙トンボ」の3種類を作り、飛ばした。飛行の原理を知り、それぞれが良く飛ぶように工夫した。参加67人。 (担当：プレイ事業部)
ビデオで 突撃インタビュー	4.19	デジタルビデオカメラでのインタビュー撮影体験。カメラマン、インタビュアー、ディレクターに役割を分担、館内の子どもたちに「こどもの城」での遊びについて質問した。参加16人。 (担当：AV事業部)
石こうで遊ぼう	5.10/6.7	石こうを使って遊ぶ。1回目は風船に石こうを流し込んで「恐竜の卵」、2回目は石こうで自分自身の手形をとった。5月10日＝参加61人/6月7日＝参加37人。(担当：プレイ事業部)
混虫（まぜむし）工場 スペシャル	5.17/6.14/10.4/H 16.2.7	1枚の紙に印刷された展開図を切り抜いて、胴体や足を細かく折り込み、昆虫の模型を作る。「サタデー・ラボラトリー」は小学校1年生以上が対象なので、低学年の子どもたちが作りやすいように組み立て方などを改良した型紙を制作した。5月17日＝参加44人/6月14日＝参加25人/10月4日＝参加21人/2月7日＝参加29人。 (担当：AV事業部)
ばらばらまんがを 作ろう	5.24/9.20/ H16.2.21	単語カードを利用して20枚の動画を描いて、アニメのように動いて見える「ばらばらまんが」を作る。表紙も付けて、割りピンやビニール被覆の針金で束ねて完成となる。5月24日＝参加45人/9月20日＝参加44人/2月21日＝参加39人。 (担当：AV事業部)
ビックリおもちゃ 大作戦	5.31/6.28	身近な素材を使って「サソリの標本」「発泡入浴剤を使ったロケット」「教訓茶碗」——人が「あっとおどろく」3種類のおもちゃを作った。5月31日＝参加43人/6月28日＝参加74人。 (担当：プレイ事業部)
アニメを作ろう ～切り絵アニメに挑戦	6.21	簡単なストーリーや場面などを考え、キャラクターを描いた紙を切り抜いて、背景画に置いて、コマ撮り（アニメ撮影）できるビデオカメラで撮影し、短いアニメ作品を作る。参加25人。 (担当：AV事業部)
クイズ100問答えて ラリー～君の頭脳と体 力に挑戦～	7.5/10.18/ H16.1.31	館内にはられた100問のクイズを探し、それに答えるクイズラリー。解答用紙はマークシート方式を採用し、その場で得点ランキングを発表した。毎回数問ずつ問題をかえ、繰り返して来る参加者も楽しめるものとした。7月5日＝参加56人/10月18日＝参加42人/1月31日＝参加15人。 (担当：プレイ事業部)
しりとりビデオに挑戦	7.12	ビデオカメラの撮影体験をする方法として、撮る対象が明確になる「しりとり」を映像で行うプログラム。まず「イス」を撮影したら、次に「ス」の付くモノを探して館内をまわり、「スイッチ」「地下」と画面をつなげていく。参加15人。 (担当：AV事業部)
砂糖大変身～さとうで つくるお菓子の科学～	9.13	砂糖を原材料としたお菓子「わたあめ」と「カルメ焼き」を作った。砂糖を熱すると液体となり、それが冷えて固まる過程の違いで、さまざまなお菓子に変わることを体験した。参加72人。 (担当：プレイ事業部)
おどろきマジックの 秘密	9.27/11.15	トランプやコイン、ロープなど、身近にあるものを利用した手品の種を研究。スタッフの行う手品を見た後、その種を作って実際に体験した。9月27日＝参加41人/11月15日＝参加40人。 (担当：プレイ事業部)
ふしぎなふしぎな 鏡の世界	10.11	光を半分は透過し、半分は反射する特殊なハーフミラーを使い、自分の顔とそれに合わせた絵を描き、その2つを合成してビデオプリンターで出力する。鏡の原理と不思議を体験するプログラム。参加35人。 (担当：AV事業部)
君の絵がぐるぐる動 く!! 「驚き盤」を作ろう	11.8	映画発明以前に存在した視覚がん具の中で、構造が簡単なフェナキスティスコープ（驚き盤）を「アニメ・キット」の型紙を利用して制作。裏面に描いたアニメのような連続した絵を鏡に写し、回転させて12個のスリット（細いすきま）越しに見ると絵が動いて見える。参加31人。 (担当：AV事業部)
火を考える	11.22/H16.1.24	まいぎり式火起こし器を使った火起こし体験。火種を作り、それをおがくずにのせ、息を吹きかけ、火が起きるまでを体験した。11月22日＝参加25人/1月24日＝参加44人。 (担当：プレイ事業部)

名 称	日 時	内 容
ニットに挑戦	11.29	簡単な編み物を作って楽しむプログラム。ガムテープのしんに割り箸を取り付けた編み機を使って、色とりどりの毛糸を編んでいった。参加 67 人。 (担当：AV事業部)
エンジョイ・吹き矢体験 !!	12.6/H16.2.28	紙を丸めて筒状にした吹き口と、紙の矢を作り、吹き矢を楽しんだ。吹き矢大会も数回行った。12月6日＝参加 23 人／2月28日＝38 人。 (担当：プレイ事業部)
パントマイム（スペシャル・プログラム）	12.13	パントマイミストのCHiCAさんを講師に、子どもたちがパントマイムを体験。約 1 時間の特別プログラムとして開催。体をほぐすことから始め、体をモノに見立てた動きなどをトレーニングし、最後には簡単なマイムをみんなで演じた。参加 32 人。 (担当：AV事業部)
あったかいぞ!! カイロをつくろう	H16.1.17	鉄粉と木片などを材料に、使い捨てカイロを作った。鉄が酸化するときに熱を出すこと、また材料の調合具合で温度変化に差があることを知るプログラムとなった。参加 31 人。 (担当：プレイ事業部)
道を究める～茶道体験～	2.14	茶道裏千家の先生を招いて、お点前を体験。実際にお茶をたてるだけでなく、お茶の心、作法についても話を聞いた。参加 35 人。 (担当：プレイ事業部)
ポップアップカード～しかけ絵本の秘密～	3.6	しかけ絵本の中で、よく使われている“ポップアップ”＝飛び出すしかけを使って 1 枚のカードを作った。参加 29 人。 (担当：プレイ事業部)
ビデオであそぼう～こどもワイドショー～	3.13	撮影してきたインタビュー映像を再生して館内のテレビに送出——放送の疑似体験。4 階ロビーに中継現場ふうのブースを設け、生出演した映像も映るようにしたところ、飛び入りの子どもたちが多数その場でのインタビューに応じてくれた。参加 11 人。 (担当：AV事業部)
サタラボまつり	3.20・21	人気のあったプログラム「クイズ 100 問答えてラリー」(2 日間)、「おどろきマジックの秘密」(20 日)、「驚き盤」(21 日)を行った。20 日＝参加 113 人／21 日＝参加 66 人。 (合同)

〈ファミリー・プレイタイム〉

名 称	日 時	内 容
おやこでチャレンジゲーム	5.18 12:30～16:00	家族で力を合わせて、目標（最高記録）にむかって競技を行う。「かちかちカウンター」「ころころサイコロ」「ゆらゆらバランス」「くるくるカード」「ばんばん手拍子」の 5 種目を実施。すきなゲームを自由にまわれるようにした。幼児から小学生までが無理なく楽しめるものとなった。参加 67 組 161 人。 (プレイホール)
ばたばたへんしんカード	6.8 12:30～16:00	伝承しかけがん具を親子で作った。めくると絵が変わるしかけを楽しみながら、親子でしかけ部分の構造に頭をひねりながら取り組んでいた。参加 51 組 122 人。 (プレイホール)
つくって・のそいて簡単万華鏡づくり	10.12・13 12:30～16:00	親子で一つの万華鏡を組み立てた。大人がやったほうがいい作業と子どもでもできる作業を、家族で分担しながら取り組んだ。でき上がった万華鏡で、取りつけたビーズや洋服の柄模様をかわるがわるのぞき、鏡が作り出す模様を楽しんでいた。10月12日＝参加 194 組／13日＝参加 170 組。 (プレイホール)
夕暮れどきは どんな色？	10.26 16:00～17:00	屋上遊園から見える、夕暮れどきの空や街の移ろいを感じてみるプログラム。秋風を肌寒く感じる中だったが、家族で思い思いの場所に椅子を出し、暖かい飲み物で暖をとりながらそれぞれに秋を感じていた。参加 11 組 26 人。 (屋上遊園)
たきびを囲んでほっかほかTime	11.23 12:30～16:00	〔こどもの城〕の裏にたき火を 3 か所用意し、たき火をかこみながら「スネークパン」「焼きマシュマロ」「あぶりだし絵」で遊んだ。たき火の中に、さつま芋とカボチャを仕込んでおき、焼きあがったものを参加者に試食してもらった。話を楽しみながらたき火の周りでのんびりと過ごす家族が多かった。参加 65 組 208 人。 (消防通路脇)
しりとりカードをつくらう	H16.2.11 12:30～16:00	3 つつながる“しりとり”を 3 枚の長方形の紙に絵で描き、折りたためるようにつないで“えほんカード”にする「しりとりえほんカード」と、その場に遊びに来た別々の親子が“しりとり”を絵で 1 枚ずつつないでいく「みんなであつなぐしりとりカード」を実施。“しりとり”の最初の文字はくじ引きで決まるため、文字につながる言葉を親子で相談する姿が楽しそうだった。「しりとりえほんカード」参加 64 組／「みんなであつなぐしりとりカード」参加 11 組。 (プレイホール)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 32 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15:00～17:00 (原則)	遊びのクラブ。家庭や学校では体験できない活動を行う、地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす、子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性や発言力を養う——ことを目的としている。本年度は、夏休みに特別プログラム「れっつ! ゲッツ! 夏っこ祭り」を実施した。縁日風のゲームコーナーをL. I. T. の高校生リーダーと共同で作り上げていくプロセスは、相互により刺激になったばかりではなく、一般来館児・者との交流をとおして大きな自信と達成感を得ることができた。開館20周年に向けて、さらにこうした交流の機会を考えていきたい。 1・2期6回、3期5回開講。受講料＝9,000円(1・2期)、8,000円(3期)。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	① 38 ② 34 ③ 35	隔週日曜日 13:30～15:30 (原則)	遊びのクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおして、豊かな人間形成をはかるのがねらい。さまざまな直接体験をする、仲間との人間関係を学ぶ、計画から実施をとおして夢を実現する——の3つが目的。限られた活動時間の中で仲間の関係を深め互いに夢が語り合えるような関係作りが進むよう、2期最終回には子どもたちの希望で館内に宿泊する活動を取り入れ、3期には自分たちで話し合った結果、仲間の夢の実現として最終回に「ユース探偵事務所」という〔こどもの城〕に遊びに来た子どもたちを巻き込むゲームを考え、泊りがけで準備して実施した。 1・2期6回、3期5回開講。受講料＝9,000円(1・2期)、8,000円(3期)。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生パソコン教室スペシャル～マルチメディア探検隊～	(人) 小4～6 (20)	(人) 9	8.25～29 (5日連続) 10:30～12:30	取材とパソコン操作による資料の作成という内容で、グループによる共同作業の形で行った。子どもたちで編集会議を行い取材の内容を考え、デジタルカメラを持って実際に〔こどもの城〕の中を取材し、写真入りのレポートの共同作品を制作する。作成したレポートは、ホームページで発表した。受講料＝7,500円。
小学生パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門～	// (20)	5	H16.3.28～31 (4日連続) 10:15～12:45	2人1組でコンピュータで制御できるレゴブロックでロボットカーを組み立て、あらかじめ決められたコースをうまく走らせたり、地面に引かれたコースをたどったりした。プログラミングにより、ロボットをいかにうまく動かすか(ロボット制御)を考える活動を楽しんだ。受講料＝7,500円。

〈指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「パソコン遊びのワークショップ」	(人) 児童厚生員など (20)	(人) 20	6.11・12 (2日間通い) 10:00～16:00	児童館などに導入が進んでいるパソコンをどう活用すれば、子どもたちの遊びを広げることができるか、またその準備作業はどう進めるかなどを、〔こどもの城〕で実施しているプログラムを体験しながら研修を行った。全国から参加。 受講料＝10,000円。
	// (20)	20	11.19・20 (2日間通い) 10:00～16:00	

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ちびっこ冒険団 2003	7.26～29 (3泊4日)	小学校1～3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と共に“何をして遊ぶか”“どうやって遊ぶか”などを相談したり、協力しあうなかで、自己と他者との関係を学んでいったり、協調性や社会性を獲得していくことを大きなねらいとしている。本年度は野外炊事を夜に設定したことからか、日中に“自然の家”の周りに基地を作ったり、通称“迷いの森”に出かけたりと、班ごとのアクティビティプログラムが活発だった。参加者72人、ボランティア19人、職員4人。参加費＝38,000円。 (福島県国立那須甲子少年自然の家)
フェローシップキャン プ 2003	8.3 ～ 7 (4泊5日)	小学校4～6年生のためのキャンプ。基本は舎営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度で8年目を迎え活動も順調に進むようになり、目的にそって充実した活動を展開することができた。今回は「沢歩き」をメインの活動とし、自然を豊かに感じ仲間とともに楽しみながらさまざまな体験を楽しんだ。参加者40人、ボランティア13人、職員3人。参加費＝45,000円。(福島県国立那須甲子少年自然の家)
ゆきんこ冒険団 2003	12.25 ～28 (3泊4日)	小学校1～3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を感じ、その中で遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は雪に恵まれ、ソリやかまくら作り、ネイチャースキー、雪合戦など冬の遊びを満喫。ふだんの生活では体験することのできないたくさんの雪を使ってグループごとに考えた遊びを十分に楽しみ、仲間との関係も深まったようだ。参加者75人、ボランティア26人、職員4人。参加費＝38,000円。 (福島県国立那須甲子少年自然の家)



「フェローシップキャンプ2003」



「ちびっこ冒険団2003」



「ゆきんこ冒険団2003」

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
みんなで遊ぼう パベットランド	9.29 研修会 9.30 ワークショップ	子育て支援にかかわる民生児童委員・保育士・図書館関係者などを対象とした、子育て支援プログラムの実技講習会（29日）。2日目は受講した民生児童委員も参加して、乳幼児子育て教室の1～3歳児とその親を対象にした交流遊びのプログラム「みんなであおむしくん」を実施。主催は峰山町（京都府）子育て支援センター。会場は峰山町中央公民館。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン （魔法使いチャンピオンシップ）	10.17 研修会 10.18・19 ゲーム大会	栃木県子ども総合科学館のプログラム「児童館フェア」の一環として、参加する栃木県内の児童館の児童厚生員を対象とする研修会と、「児童館フェア」に遊びに来た子どもたちに向けてゲーム大会「魔法使い大会チャンピオンシップ」を実施した。“魔法使いの世界一を決める大会がやってきた”という設定の、子どもたちの交流を目的としたプログラム。主催は栃木県子ども総合科学館と〔こどもの城〕。会場は栃木県子ども総合科学館。

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
東京都教育委員会 平成15年度家庭力向上のための学習資料作成委員	6～H16.3 （委員会5回実施）	思春期の子どもを持つ保護者のための学習資料である小冊子を作成する委員会に参加。完成した小冊子は、平成16年4月に中学校へ入学した都内全域の1年生の保護者へ、子どもを通じて配布された。主管は東京都教育庁社会教育課。
子育てサークルリーダー研修事業「はじめての一步」	10.21 11:00～12:00	子育てサークル活動の従事者、支援者、行政担当者などを対象とした、子育て支援プログラムの実技講習会。3歳児とその親のペアを想定した、人形を使った交流遊びのプログラム「みんなであおむしくん」を取り上げて紹介。靴下で作った青虫の人形を手にはめてお互いにあいさつしたり、くすぐりあったり、体を山や木に見立ててよじ登ったりという、親子のスキンシップに大きなポイントを置いている。主催は（財）こども未来財団、会場は新潟県新津市保健福祉センター。
平成15年度地域子育て支援センター担当者研修会	12.4 10:00～11:30	対象は子育て支援にかかわる児童館や保育所の指導者50人が参加。靴下人形を使った交流遊び「みんなであおむしくん」を紹介した。主催は（社福）日本保育協会、会場は〔こどもの城〕。
「心を育てるあそびの力」講演	H16.2.18 13:30～15:00	先生と保護者を対象に、子どもたちにとって遊びがいかに大切かを、〔こどもの城〕での実践例を紹介しながら講演した。主催は東京都江東区立扇橋小学校学校保健委員会、会場は同校。
熊本県児童健全育成推進セミナー「グループワークと集団遊び」	2.18 10:00～12:00	児童厚生員、学童保育職員、児童委員、子ども相談員など、地域で健全育成に取り組む人を対象に、児童を取りまく諸問題をテーマにしたセミナー。子どもたちのグループ活動や集団遊びとグループワークについて講習した。主催は熊本県家庭福祉課。
「親子スキンシップの会」講演	3.1 11:00～12:00 14:00～15:00	幼児とその親を対象とした親子遊びの実技講習。靴下人形を使った交流遊び「みんなであおむしくん」を紹介した。午前の部は20組、午後の部は13組の参加があった。主催は新潟県柿崎町教育委員会、会場は柿崎町町民会館。

キッズクラブのプログラム一覧

日 時	プ ロ グ ラ ム 名	内 容
4.19	キッズへようこそゲームパーティー	新メンバーを迎えた1回目は、ジャンケンを主体としたゲーム大会で親睦を図った。
5.17	AOYAMA QUEST (アオヤマクエスト)	〔こどもの城〕周辺で謎解きゲームを行う予定が、雨のため館内に。矢印を追いかけて、館内をグルグル歩き回った。
5.31	お台場に遠足に行こう！	台風接近にもかかわらず、りんかい線でお台場に遠足。ソニーエクスプローラサイエンスで遊んだ。お台場児童館の好意で食事場所を借りる。
6.14	楽しいおいしい夢のカップケーキ	スポンジの味付けやトッピングをジャンケンで取り合い、班オリジナルの蒸しケーキ作り。
6.28	ザ・とことん遊びスペシャル	一つの遊びをとことん楽しもうと、今回は輪投げに注目。輪投げやクロリティという輪投げ型ゲームで班別の対抗戦を楽しんだ。
7.5	ウォータープロジェクトⅧ	2チームに別れて、水鉄砲を使った陣取り合戦。夏休みの特別活動の布石として、高校生ボランティアのL.I.T.も参加し、熱い戦いが繰り広げられた。
8.10	夏っこ祭り準備	L.I.T.と共同で夏休みの特別プログラム「夏っこ祭り」を行うことになり、その初顔合わせを行った。親睦ゲームの他、「夏っこ祭り」の企画会議も実施。
8.23	夏っこ祭り準備・合宿	「夏っこ祭り」の準備2日目。地下1階フリーホールでゲームコーナーの仕込み。希望者のみ館内合宿も行った。
8.24	夏っこ祭り本番	一般来館児・者を対象に「夏っこ祭り」を実施。金魚すくい、射的、ボウリング、すごろくの4つのゲームが登場し、最後は盆踊りでにぎやかに締めくくった。
9.20	館内ビデオしりとり	5つの班に分かれ、館内でビデオしりとり。イスや扉など館内に設置してあるものに限らず、振りかえる、ルンルンするなど愉快な演技も飛び出した。
10.11	代々木公園であーそぼ！	千代田線で代々木公園まで出かけ、陣取りゲームのパックンを実施。秋の穏やかな気候の中、代々木公園を元気に走り回った。
10.25	キッズ・スーパードッジ大会	屋上ネット広場でドッジボール大会。もともと子どもたちの要望も高いプログラムで、意欲的に参加していた。
11.8	秋だ！キッズだ！遠足だ！	こどもの国（横浜市）で、キッズオリジナルのポイントラリーを実施。
11.22	こどもの城警察小学校一日体験入学	“刑事ごっこ”風の館内かくれんぼ。館内でいろいろなスタッフに聞き込みを行いながら、犯人に扮したリーダーを探し出した。
12.13	踊れ！大捜査線	〔こどもの城〕周辺で、発信機をつけて逃げ回る犯人を刑事役の子どもたちが受信機を持って追いかける、“刑事ごっこ”風のフォックスハンティングに挑戦。
H16.1.17	初笑い！お正月ゲーム大会	雨のため館内で指相撲や足相撲、サイコロ野球などの室内ゲームを実施。
2.7	記録に挑戦パート1 ～100枚の連ダコを作ろう～	次回の風あげに備えて、全員で100枚のエイ風を作り上げた。保護者の参加もあり、時間までになんとか101枚の風が完成！
2.14	記録に挑戦パート2 ～101枚の連ダコをあげよう～	二子玉川べりで、101枚の連風あげに挑戦。保護者にも協力してもらった。いざあげようとしているときに、おりからの春一番の強風で惜しくも惨敗。
2.21	記録に挑戦パート3 ～長い巻きずしを作ろう～	みんなで力を合わせて長さ9m10cmという、キッズクラブ史上最長の巻きずしを作った。
3.13～14	こどもの城に泊まって遊んじゃおう！	プレイホールに泊まりながら、ドッジボールや暗闇どろけい、代々木公園でのナンバーコールなどを楽しみ、最後は手作りの卒業お祝い会を開いた。

□ユースクラブのプログラム一覧□

日 時	プ ロ グ ラ ム 名	内 容
4.13	はじめましてのゲーム大会	新メンバーがなじめるように、前半は誰でも分かりやすいお金をテーマにしたゲームを実施。チーム対抗で競い合った。後半は自己紹介とクラブの紹介を行った。
4.27	代々木へGo！ 草っぱら遊び大作戦	広い野原でゲームを思い切り楽しんだ。新聞紙に穴をあけ足を入れて、破れないようにする鬼ごっこや三つ巴で陣取りをする「クマ狩り」というゲームを行った。
5.11	路上面白発見観察会 「地球のフタ探しDEあそぼ」	街の中にある珍しいマンホールを探し、デジタルカメラで撮影するという活動。まずは隠されたデジカメを探し出し、続いてグループでマンホールを探しにでかけた。
6.1	おらが自慢のカレー品評会 in こどもの国	こどもの国（横浜市）へ出かけて野外炊事。我が家から秘伝の隠し味の素を持ち寄り、班ごとにオリジナルのカレーを作った。
6.15	すごろくレース in こどもの城 & どんなことがやりたい？ 会議	巨大サイコロを使った人間すごろく。大きなすごろく盤の止まった目の課題に仲間と挑戦、クリアすると次のサイコロが振れる。後半は活動の企画会議を実施。
7.13	どきどきペットボトルロケット しくみ研究所	ゴム栓を使った簡単な仕掛けのペットボトルロケットを班で作作り、飛ばしてみた。班ごとに装飾に凝って、かっこいいロケットが勢ぞろいした。
9.7	ドカン！と水遊び & マル秘OYATU大作戦	水鉄砲を使ってペットボトルに水をためたり、陣取り合戦をするゲームを行った。後半は、ふだんなかなかできない「スイカ割り」を皆で楽しんだ。
9.28	アドベンチャーで遊ぼ！！ in 代々木公園	体をおもいっきり動かして、ゲームを楽しんだ。前半は「取り放題シッポ取り」、後半は「クマ狩り」を行った。
10.19	秋だ！ 焚き火だ！！ YAKI～IMOだ！	渋谷区立総合福祉施設「せせらぎ」のたき火ができる施設を借用して、やきいもを作るプログラムを実施。往路は、地図を頼りにルートを探して現地まで歩いた。
11.9	秋の三浦で山歩き& みかんハンティング	神奈川・三浦半島の三浦富士で、みかんにちなんだクイズなどに答えながら進む課題ハイキング。ゴールした後はみかん狩りを楽しんだ。
11.23	最終回企画会議 & みんなであそぼう	2期の最終回到何をするか、考える会議。館内に泊まっておもいっきり遊びたい！という意見でまとまり、内容を決定した。
12.13～14	レッツJr. ユース パーティー	夢の実現第一弾、おもいっきり遊ぶという活動に皆で取り組んだ。代々木公園で日暮れまで遊び、次の日は役割分担をして手作りでパーティーを行った。
H16.1.18	世界で一つだけの遊び大作戦	仲間と新しい遊びを考え出す活動。テーマは“まる”。まるい遊びやゲームを頭を付き合わせて考え出し、実際に全員で楽しんでみた。
1.22	どこから行くの？めざせGo！！ Go！！ 砧緑地	限られたお金を使い、班ごとに世田谷・砧緑地をめざす。バスや電車、徒歩などの手段を話し合い目的地へ。到着後、皆でアドベンチャーゲームを楽しんだ。
2.7	どっちのケーキショー& 最終回何する？会議	男女別の班を作り、ケーキを作り。男子も思いのほか、きれいな仕上がりで満足そうだった。後半は最終活動のプラン案を話し合った。
2.21	最終回どっちにする& どんなことする？会議	最終回で探偵ゲームを行うことを決定。どんなゲームにするかを話し合い、具体的な準備を行った。
3.13～14	ユース探偵ゲームプロジェクト	ユースクラブらしい活動を！を合言葉に、最終回はみんなで考えた“ユース探偵事務所”のゲームを実施。[こどもの城]に遊びに来ている子どもたちへ探偵ゲームを提供した。前日から泊まり込みで準備をし、当日は役割を決め、全部メンバーで運営した。

造形事業部



平成15年度の活動

1. はじめに

開館以来、造形スタジオでは子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに育てていく方法として、(1) 新しい視点で素材を探究して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせる方法(素材との出会い展) (2) そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感を新しくする方法(造形発見展) (3) 制作活動の基本となる「素材と道具と技法」の3つの関係を理解できるように視覚化した方法(オープンスタジオ)——これらの3つの「ワークショップ」を軸に活動。これらを、順次くりかえしながら、スタジオの運営をしている。

ワークショップの構成要素である“展示”“体験”“制作”という従来の基本コンセプトに加え、プログラムに応じて環境設定を行い、その環境に子どもたちが積極的にかかわっていきけるようにプログラムを展開した。

本年度は前年度に続き、夏休み特別期間に「造形発見展～建築と造形2」を実施した。“建築”という言葉が持つ硬いイメージを、子どもたちが少しでも変えられるように環境設定には特に気を配った。また冬休み特別期間に、現在最も注目されているアニメーション作家、山村浩二さんの世界を紹介する「ヤママラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー」を開催した。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

本年度の一般来館児・者への活動は、建築を造形的な見地から取り上げ、その構造、しくみ、美しさなどをテーマに、夏休みまで造形発見展「建築と造形2」を開催。10

月以降は「やってみよう! つくってみよう! ～布と造形」を実施した。

冬休み特別期間には、アニメーション作家・山村浩二さんの作品世界にスポットを当てた「ヤママラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー」をギャラリー、フリーホール、造形スタジオで実施した。

(イ) 講座・クラブ

講座・クラブの活動では、「こどもクリエイティブクラブ」5コースと、前年度再開した「映・造ワークショップ」をAV事業部と共同で行った。

(ウ) グループ活動

平常期間の午前中は、受け入れ窓口の総合案内課と協力して、「かげをうつそう」「木をつくろう」「ねんどのジャングル旅行」「竹体験ワークショップ」を実施した。これらのプログラムは、すでにルーチン化していて、事前の打合せ、リハーサル、実施とスムーズに運営できた。

スタッフ全員が交代で進行を担当したことで、同じテーマでもそれぞれのスタッフの持ち味を出した活動ができた。持ち味を生かしたプログラムの演出方法などを検討することができた。

前年度に引き続き、高校生(保育系の高校)や養護学校の活動もあり、それぞれのグループのニーズに合わせたプログラム活動を行った。「木をつくろう」では、42人のグループを受け入れるため、広いプレイホールに活動の場所を移動して実施。ダイナミックな活動となった。今後もこうしたそれぞれのグループに合わせたプログラム活動が重要になると思われる。

2. 造形活動のテーマについて

(ア) 建築と造形

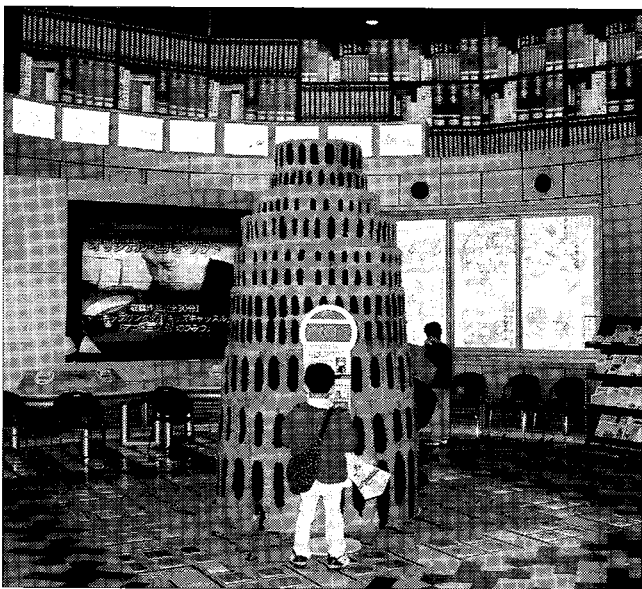
前年度に引き続き「建築と造形」をテーマにしたワークショップを行った。前年度は建築の様式や基本構造といった専門的な部分からのアプローチを試みたが、本年度は周囲を観察し、自然物といったより身近な物からのアプローチによって建築を見つめ直すことで、親しみ深い形のワークショップの展開が可能となった。

「やってみよう！ つくってみよう！ ～建築と造形」をプログラム試行のステップにして、プログラムの開発、実施、再考から特別期間のプログラム構成の準備を行った。特に、木の実、貝がら、植物、野菜、果物など、ふだんよく目にするがじっくりとみつめる機会が少ない物の形や構造を観察し、建築との類似点を見つけだし、プログラム化を進めた。

事前の活動を踏まえて、子どもたちがより楽しく身近なものとして建築を体験的に学ぶことができるように“展示”“体験”“制作”の3要素で構成する、造形スタジオ独自のワークショップ形式で活動を実施することができた。

夏休み特別期間の「造形発見展～建築と造形2」では、ハチの巣模様の壁に取り付けられたトビラを開けると、スタッフが収集してきた貝がら、木の実、鉱物、食物、植物などの建築構造模型を見ることができる展示をした。壁の上部には、見かけや構造が建物に似ている自然物の外観、断面図と基本的な建築構造を簡略化した線画を配置し、下部に飾った実際の自然物と照らし合わせて観察することができるようにした。

「夏休み造形教室」でも建築の要素をとり入れたプログラムを展開し、好評を博した。



「ヤママラアニメーション～こどもずかん」の“バベルの塔”

自然の中にはさまざまな形態の巣（住居＝建築）がある。それぞれに、住んでいる生きものの習性や体型に合わせて、機能性や装飾性、また耐久性などが考えられている。私たち人間が建物を建てる時に考える要素と非常に共通している部分がある。

では、人間にとってそれらの住み心地はどんなものなのか、ヤドカリとミノムシの巣を人間サイズで再現し、私たちの建築とどのように違っているのか実際に体験できる展示を行った。“ミノムシマント”では、フェルトのマントにフェルトの葉っぱをマジックテープで張り付け、お気に入りのデザインを作り出した。“モザイク巨大ヤドカリ”では、モザイクタイルの表面のすべすべ感を感じ取ったり、中で寝転んだり、子どもたち独自の視点でにぎわう人気コーナーとなった。

(イ) ヤママラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー

山村浩二さんの作品は、キャラクターや背景にさまざまな素材や撮影技法が駆使されている。色彩やテクスチャーなどが工夫された素材を用い、動きや表情などを豊かに表すアニメーションの技術で作られた画面に、繊細な音楽や効果音が調和し、アートの“心”と造形性の“技”が絶妙なコンビネーションで表現されている。

「ヤママラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー」は、第75回アカデミー賞短編アニメーション部門ノミネート、フランス・ヌーヴェル・ヴァシオン国際映画祭短編部門グランプリを受賞したアニメーション『頭山』を作ったアニメーション作家・山村浩二さんの世界を多角的にとらえ、子どもたちが想像力を豊かにし、造形的な感性をみがき、表現の広さを体感できるように企画したプログラム。〔こどもの城〕とヤママラアニメーションこどもずかんKit Group（以下キットグループ）の共催。ギャラリーとフリーホールで展覧会を開催し、上映会、ワークショップなどの関連企画も行った。

キットグループが、山村浩二さんの作品から子どものためのアニメーションを取り上げ、参加体験型の展覧会「ヤママラアニメーションこどもずかん」を平成15年夏に愛知県瀬戸市「ノベルティ・こども創造館」開館記念特別展として開催したものを基本に、子どもたちが楽しむ空間を拡大したもの。今回は、山村さんの作品が生まれる過程を、ラフスケッチ、ドローイング、原画など約1,000点を展示して紹介。体験空間「こどもずかん」と発見する空間「アートライブラリー」の2部構成とした。

「こどもずかん」では、『バベルの本』に登場する“バベルの塔”の巨大セットをアトリウム中央に設置。ギャラリー全体を「バベルの塔」の内部に見立て、山村さんの作

品世界に入っていく設定。ギャラリー2階はバベルの図書館風にした。

仕事場を拡大コピーで再現した「山村さんのアトリエ」、撮影セットの中に子どもたちが飛び込むことができる画面合成を体験する「クロマキー劇場」、『頭山』のクライマックスを立体的に再現した「頭山」、粘土と透過光を使った珍しい撮影方法を体験できる「水棲」、絵を描いて“あいうえおずかん”をみんなで作る「ひゃっかずかん」、立体ゾートロープの展示、マジックロールで山村さんのキャラクターを動かして遊ぶ「アニメーション広場」。撮影に使われた背景を展示し、そこにあたる光（照明）によって朝から夜の変化が体験できる「キップリングジオラマトンネル」、キャラクターの実物立体が大型図鑑の中に展示された本棚「図書館の廊下」、取り出し可能なキャラクターやストーリーなどをベースにした遊びの本棚「バベルの図書館」など、直接さわったり、動かしたり、体や五感を使った体験をとおして、ヤマムラアニメーションの世界に出会う環境にした。

「アトライブラリー」では1,000点を超える撮影素材、絵コンテなどを作品ごとに大きな本に仕立て展示した。さらにラフスケッチ、イラストレーション、アートワークなどを引き出しボックスや額に入れ、子どもだけでなく大人も楽しめるように設定した。会期中には、山村さんによる「ギャラリー・レクチャー・ツアー」も開催した。

造形スタジオでは、子どもたちがヤマムラアニメーションの世界で映像体験をしたり、制作するワークショップ「あふれるイメージ制作中」を実施した。関連企画として渋谷区にある映画館・ユーロスペースで「ヤマムラアニメーション図鑑」（平成15年12月13日～16年1月12日）の上映を行った。山村浩二さんと前田ちま子さん（名古屋芸術大学）の協力を得て展覧会の内容を推敲していったことで展示、ワークショップなどに広がりを持てた。

（ウ）布と造形

私たちの身の回りにある布にスポットをあて、「布ってなあに？ 布はどうやったらできるの？ 布はどんな使い方があるのかな？」など、改めて造形素材として考える“展示”“体験”“制作”のワークショップを展開した。

スタジオへ向かう廊下壁面にいろいろな肌触りの布をパネルにしたもの、ロビー床面には同様の布パネルを飛び石ふうに配置した。スタジオ入口展示コーナーには、アイキャッチとして、小学生コーナープログラム「クルンデル」の巨大版を展示した。

スタジオ全体をさまざまな布で覆い、天井には「造形実験室」で実施した染めのプログラムで、子どもたちが作っていった作品を種類別につなぎ合わせたものを展示した。

子どもたちが穴から手を入れて、布の感触を探れるよう、5つの穴を開けた約3mの箱「布の手触り体験コーナー」を置いた。それぞれの穴には手触りが違う布を袋状にしたものがついている。箱の表面には“がさがさ”“すべすべ”“ごわごわ”“ふかふか”など、数十種類の擬声語をランダムにはりつけ、布の感触から感じた言葉を探せるようにした。

たて糸を張った木枠に、子どもたちがよこ糸を交互にくぐらせて“平織り”の体験ができる「織り物体験コーナー」も設置。また、ルーペで、さまざまな織り方が観察できるようにした。

スタジオ奥の体験コーナーでは、ロビーの円形劇場壁面に展示した、用途に応じたふろしきの包み方のいろいろをイラストと実物でパネルで構成した「ふろしき包みのいろいろ」と連係させ、「ふろしき体験コーナー～いろいろなものを包んでみよう」を行った。“お使い包み”“ビン包み”“すいか包み”など、実際にさまざまな包み方が体験できるようにし、布の機能の多様性を学べるコーナーとした。

また春休み特別期間中、毎日夕方4時から、小学新2年生以上を対象にしたワークショップ「身体を使って布を織ってみよう！」を実施した。子どもたち自身が織り機となって、交互に立ち上がって持ち上げたたて糸の間を、よこ糸を持った子どもが通り抜けて、大きな布を織っていった。

3. まとめ

開館以来18年間、造形スタジオでは常に、子どもたちの造形体験が豊かであるように、また、感性を健やかにはぐくんで行けるようにさまざまな試みを行ってきた。本年度は建築の構造、しくみなどのなかに造形的な美しさを発見できるよう「造形発見展～建築と造形2」を実施した。

建築と自然物に隠された造形的な要素を、どのように造形表現へと結び付けるかを探り出すことから始めた。このようなアプローチの仕方に新しい発見もあり順調にプログラム開発へと進んだ。

造形事業部とAV事業部は“造形”と“映像”といったジャンルを超えて、開館当初から講座「アニメ体験」映・造ワークショップ」などのワークショップを断続的ではあるが共同で行ってきた。「ヤマムラアニメーション～こどもずかん」は、こうした活動をもとに生み出され、山村さんの多様でイマジネーションあふれる世界を子どもたちに体験させることができた。

また、前年度に続き「第7回図工大好き子ども美術展」を実施し、造形スタジオの活動の幅を広げていけるような外部との共同事業を積極的に行った。今後も継続実施していきたい。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
やってみよう! つくってみよう! 「建築と造形」	4.9～20、5.9～7.18	夏休み特別期間プログラム「造形発見展～建築と造形2」に向け、プログラム試行のステップとしてプログラム開発、実施、再考を行いながら、建築を体験的に学ぶワークショップ活動を実施した。
やってみよう! つくってみよう!	9.9～10.5	夏休み特別期間に引き続き、「やってみよう! つくってみよう! 建築と造形」を実施した。
やってみよう! つくってみよう!	10.7～26、11.5～30、 H16.2.4～16、3.4～25	春休み特別期間プログラム「やってみよう! つくってみよう! ～布と造形」に向けたワークショップ活動を実施した。
こども歳時記		
端午の節句	4.22～5.5	「端午の節句」のこいにちなんだワークショップを実施。エレベーターホールから廊下に、カッティングシートで作ったたくさんのこいを泳いでいるように飾り、造形スタジオへの誘導役とした。ロビーにはボイド管（大きな紙の筒）の天井にこいのステンドグラスを配置したもの、スロープに設置した波板に色付きスポットライトをあてたこいのぼりを飾った。布を型染めした「こい手拭い」や、親子プログラム「ゆりゆられて親子こい」の大きなサイズのものをWクラフト紙で作ってモビールにしたもの、金網と金属を使って制作した小学生プログラム「どっこいメッシュ」（小3～）の巨大版などを飾った。また、端午の節句にちなんだ、全国各地の伝統的な民芸品も展示した。期間中、時間を決めたイベント「フロッタージュでうろこを作って、こいのぼりに飾りつけしよう」コーナーを実施、いろいろな素材でフロッタージュをし、それをうろこ型に切り、紙で作った大きなこいの体子どもたちがはりつけた。幼児も参加できるもので多くの子どもたちが参加した。できあがったこいのぼりは、期間中展示した。
七夕	6.24～7.7	「七夕」にちなんだワークショップを実施。スタジオ天井には、1本の長い紗の布を飾り、天の川にみたてた。その周りに透明アクリルの半球を合わせた惑星をつるし、壁面には紙で作った大量の星を飾り、さらに織り姫、ひこ星を飾った。また、親子プログラム「星の舟」の大きな見本も飾った。
節分	H16.1.14～2.3	「節分」の鬼にちなんだワークショップを実施した。廊下壁面には、全面にミラーシートをはり、鏡に自分の姿を映すと鬼に変身して見えるように、紙で作った鬼のパンツや顔のパーツを飾った。スタジオ入口やスタジオ内には、布で作った鬼や豆を子どもたちがふれることができる高さに展示し、その触感も楽しんでもらった。スタジオ天井からは、親子プログラム「まきまきオニ」の大きなサンプルをモビール風にして飾った。また小学生プログラム「マリオニット」（小3～）で遊べる「マリオニット劇場」も設置。鬼の操り人形を置いておき、小さな子どもも遊べるようにした。
桃の節句	2.17～3.3	「桃の節句」にちなんだワークショップを実施した。廊下壁面のミラーを生かし、紙で作った桃の花や菱餅を飾った。合わせ鏡にはたくさんの花が映りこんで見えた。スタジオ入口には、紙管で作った雛壇に、お雛様を作り飾った。また「布と造形」をテーマにしている期間なので、布で作ったお雛様や桃の花も飾った。スタジオ天井からは、紙で作った桃の花やお雛様をたくさんつるし、華やかな雰囲気を出した。また、全国各地の伝統的な民芸品（お雛様）の展示も行った。子どもたちは、それを見てプログラム制作の参考にしていった。

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 造形発見展 「建築と造形2」	7.19～8.31 (9.5～7)	人間と密接な関係にある建築をテーマにいろいろな素材を使い、建築構造の重要性、形のおもしろさなどを造形的にとらえ、建築を体験的に学べるよう展示・体験・制作のワークショップを実施した。
〈開館記念〉 第10回親子体験ワークショップ	10.28～11.3	開館記念として親と子が積極的にかかわるプログラム「親子ワークショップ」の10回目。
〈 〃 〉 開館18周年記念 第18回造形スタジオ展	11.1～24	平成14年11月から15年10月までに造形スタジオに来た子どもたちが制作したさまざまな作品と「こどもクリエイティブクラブ」の子どもたちの作品を展示。一般プログラムでは、内容をより分かりやすくするために、実物見本と写真、キャプションで説明したプログラムボード形式の展示を行った。
〈冬休み〉 ヤマムラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー	12.13～H16.1.12	『頭山』で第75回アカデミー賞短編アニメーション部門にノミネートされ、フランス・ヌメシー国際映画祭短編部門でグランプリを受賞したアニメーション作家、山村浩二さんのアニメーションの世界を多角的にとらえ、子どもたちが想像力を豊かにし、造形的な感性をみがき、表現の広さを体感できるように、展覧会を開催。上映会、ワークショップなどの関連企画も実施した。「ヤマムラアニメーション～こどもずかん」(12.13～H16.1.12/ギャラリー)、「ヤマムラアニメーション+アートライブラリー」(12.20～H16.1.12/フリーホール)。 主催：ヤマムラアニメーションこどもずかんKit Group、財団法人児童育成協会/企画：前田ちま子(名古屋芸術大学)、こどもの城造形事業部、AV事業部/協賛団体：富士ゼロックス(株)、ART BY XEROX、(株)中川ケミカル、山田ダンボール(株)、リンテック(株)/協力：山村浩二、ヤマムラアニメーション、スローラーナー、ユーロススペース、小学館、福音館書店、NHKエデュケーショナル、渡辺亮、住岡由統
〈 〃 〉 ヤマムラアニメーションこどもずかん～あふれるイメージ制作中！～	12.2～25	廊下壁面には全面にミラーシートをはり、山村さんのキャラクターを飾って造形スタジオへの誘導役とした。ロビーやスタジオ内、入口や天井にも山村さんの個性豊かなキャラクターをたくさん飾り、にぎやかで楽しい雰囲気を作った。キャラクターたちに見守られながら、子どもたちは自分のイメージを形にしていた。また、巨大な本の表紙ののぞき穴を見ると、キャラクターや山村さんのアトリエの模型が見える遊べる本も展示した。また、キャラクターの似顔絵を子どもたちが描く「みんなでかこう！ヤマムラアニメーションキャラクター」コーナーは、だれでも随時参加でき、幼児も楽しめて、人気だった。時間を決めてのイベントもほぼ毎日勢力的に行った。約1時間でキャラクターを制作し、それをコマ撮りした。ギャラリーと造形スタジオを使って、2時間枠のスペシャルイベントも行った。コマ撮りという、映像の技法としては簡単だが、子どもたちは自分が制作したものがテレビ画面の中で動いているのを楽しんでいた。リピーターも多くいた。
〈春休み〉 やってみよう！つくってみよう！「布と造形」	H16.3.26～4.5	布を体験的に学ぶワークショップ活動を実施した。



造形発見展「建築と造形2」

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ A 土の冒険～クレイワーク	(人) 小1～中3 (20)	(人) ① 15 ② 16 ③ 15	火曜日 16:00～17:30	土に触れ、たたいたり、のぼしたり、ひもにしたり、道具を使って変化させる。他の造形素材と同じように表現の材料として土を用い、子どもたちが造形表現の可能性を広げられるよう指導していった。1期は「かたまりからの変化」。ふだんは用いることのないような大きさの粘土の塊を使い、体全体を使った活動を行った。最初は、粘土はどうすればできるのかを体験するために、3種類計50kgの土の粉に水を入れ、手で混ぜたり輪になって踏んだりして大量の粘土を作った。続いて、つまみ出しとくり抜きの技法を使う「蚊取り線香台」、くり抜きと象が、磨きの技法を使う「貯金箱」などを制作した。2期は「板からの変化」を実施。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸で切っていくと、たたら板の厚さの粘土の板「たたら」ができる。これを丸めたりブロック状にして形を作る「たたらキャッスル」、たたらを任意の形に切って陶器のパズルを作る「スタンプパズル」などを制作。3期は「ひもからの変化」で、ひも状にした粘土を積み上げて作る「ほらあなをつくろう」「ビー玉転がしゲーム」などを制作した。これらの体験とおして、子どもたちは与えられた粘土だけで作るのではなく、自分たちが使う粘土が何からどうやってできているのか、また素材同士のあわせ方や土の変化の過程、触感の違いなどを、それこそ体全体を使って感じることとなった。
〃 B 素材の楽しみ～ゆかいな造形	〃 (20)	① 21 ② 21 ③ 20	水曜日 16:00～17:30	木や金属、プラスチックなどのさまざまな素材を用い、そしてそれら素材に見合った道具を使い分け、遊びをとおしてより深い造形体験をすることが基本。1期の最初は、全員で「新聞紙でトラスジャングル」を制作。次は、自分の背丈ほどの竹を加工して巨大な貯金箱にする「チョコキングダム」。竹の中には数十本の竹ひごが打ち込みであり、上からコインを入れると竹ひごにあたり、アフリカの音具のレインスティックのように、サラサラと乾いた音を奏でる。その他、柔らかい布に溶けたロウを組み合わせて作る「布をかためて水族館」、ビンホールカメラの原理を使った「サカサマスコープ」を制作。2期には、ベニヤ板を箱状に組み立て、その中に木や竹、布などを使ってインテリア模型にする「木になるハウス」、アルミ板を鍛金技法で形作り、弾力のあるピアノ線で宙に浮かせる「メカボヨヨマン」などを実施。3期には、一枚のベニヤ板からドミノをのこぎりで切り出して作る「ドミノBOX」、ページをめくると底のページにはった写真の自分が金属の服を着たり、竹でできた動物の顔になったりする「パタパタモンタージュ」などを制作した。子どもたちは、さまざまな素材や道具、そして技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見い出していた。
〃 C 親子でアート～わくわくアート	(組) 5歳児と 親 (10)	① 12 ② 10 ③ 8	木曜日 15:30～16:30	身近にあるいろいろな材料や素材を使って、親子が協力しあい、あるいは個々に制作をするという造形表現活動をとおして、新しい親子のかかわりに目覚め、大人と子どもの関係を見直していくことを目的としたクラブ。クレヨン削って二つ折りにした紙にはさみ、アイロンをかけてできる「溶かし絵」、色紙を細かくちぎって水にふやかし、ミキサーでドロドロにした後、好きな形にかためた「お弁当」、粘土に指で穴を開け、石膏でかたどった指をコマに使う「親子ゲーム盤」、スポンジを使って、サンダル裏がスタンプになっている「スタンプサンダル」を制作。身近なものが姿や形をかえ、新しい存在に変化していく楽しさを親子協力しあって体験した。特に、石膏で固まった指を見て、爪の大きさ、形、指のしわなどを発見し、大いに驚いていた。その他に、溶かしたパラフィンに毛糸や画用紙を浸した「おもしろそうく」、アルミの板をたたいてお皿に仕上げる「アルミのお皿」、角材をのこぎりで切って釘、金具、針金で飾り付ける「親子カー」、フェルト羊毛を使った、直径150cmほどにもなる全員共同制作「巨大ピザ」、同じ方法で各自が作る「羊毛の帽子」、光をテーマに、OHP、透明シート、アクリル板を活用してクルクルとレコードのように回して見る「光の回転本」、筒状の金網を体にしてセロハンなどで飾り付けた「光のマペット」などを制作。時間を忘れて黙々と、時に会話をはずませながら、複数の親子が自然にとけあい、楽しく活動することができた。

※「クレイワーク」：1期11回 (27,500円)、2期10回 (25,000円)、3期9回 (22,500円)。各期ごとに焼成費8,000円が必要。

※「ゆかいな造形」「絵本の世界へ」「ハンズワーク」：1期11回 (27,500円)、2期12回 (30,000円)、3期9回 (22,500円)。

※「わくわくアート」：1期11回 (33,000円)、2期12回 (36,000円)、3期9回 (27,000円)。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ ロ イメージする楽しみ～絵本の世界へ	(人) 小1～中3 (20)	(人) ① 17 ② 14 ③ 14	金曜日 16:00～17:30	製本された“本”を制作するだけでなく、いろいろな素材、技法を体験していく中で、子どもたちが持つイメージの世界を形にする表現力を養うことをめざした。子どもたちがイメージを喚起しやすいようにプログラムを考え実施し、世界に1冊しかない絵本作りをした。1期は、いろいろな素材、技法の体験を中心に進めた。「名札エプロン」では、ろうけつ染め技法で作業用エプロンを制作。講座中に使う6つの制作台に敷くカバーを共同制作した。大きな紙にローラーで道を描き、その周りを街の飾りにした。「くるくる花器」は、3つの立方体の木の中心に穴を開け一輪挿しの花器を軸に立方体をクルクル回すと、いろいろな絵の組み合わせが現れるもの。「地下都市」では、2つの筒に、石膏の型取りで作る地上の世界とのごきりや釘打ちで街を作って蓄光塗料で着色した地下の都市を制作。穴からのぞくと、怪しく光る地下の世界が広がる。2期には、さらにお話しの要素を取り入れ、いくつかの構成で作る絵本の制作を行った。丸めた透明シートに絵を描き、別の筒を中に入れてくるくる回すと、絵が動く円柱形の回る絵本。2チームに分かれて共同制作した「巨大絵本をつくろう」では、見開きで150×150cmの大きさになる木製パネルに、しりとりで言葉をつなげて絵を描き、自分の影を写したり、スタンプで文字を作ったり、いろいろな技法を取り入れ制作した。子どもたちは自分たちより大きな絵本作りをダイナミックに行っていた。3期は、1年の集大成として「なりきり絵本」を制作した。子どもたちがフェイスペインティングなどで仮装した姿を写真に撮影。それを製本した本にコラージュや描画で、自分たちが登場する世界で1冊しかない絵本を制作した。“お話作り”という1人の作業になりやすいが、本年度は共同制作をうまく取り入れたことでお互いの創造力を刺激していた様子である。
// E 創造探検～ハンズ ワーク	小4～中3 (20)	① 9 ② 5 ③ 5	土曜日 16:00～17:30	石膏や金属、樹脂、木材など抵抗感のある素材、新しい素材を積極的に取り上げ、日常に潜むおもしろさ、不思議さの発見をめざした、小学校4年生以上の高学年向けクラブ。電動工具など高学年ならではの道具を使うこと、与えられたものをキツ的に組み立てるのではなく、構造、仕組み、耐久性などをじっくり考察しながら設計し、材料を選択、時間をかけて制作することもおもしろい特徴の一つ。バーニングペンによる「こがし絵」で木の香りを楽しんだり、石膏型の中に溶かした金属を流し込む「鑄造メダル」では同じ物質の固体と液体の表情の違いにふれた。湿った石膏板に鉄粉で描くことにより、刻々と鉄が錆びて変化していく時間の流れを感じることができる「さび絵」も実施した。また、ラジオカセット、携帯電話、パソコンなどの機械を全員で協力しあいながら解体し、あまり目にしない内部構造や部品を観察。各自好みの部品を収集し、再構成して台座に固定、オブジェに生まれ変わった。ハンドルをまわすと連続する絵が動いて見える“キノアラ”を参考にしたアニメーション装置も制作した。
// F 映・造ワークショップ	// (10)	① 4 ② 4 ③ 4	日曜日 13:30～16:30	“時間”“動き”“光”を伴う映像性と“素材”“色”“形”“触覚性”を持った造形性の融合によって生まれる総合的な表現を子どもたちとともに追求するクラブ。本年度は、「ルネサンス」を取り上げ、遠近法を体験するプログラムを実施した。1期はデジタルカメラを使って屋外で撮影し「ピープショー」を制作した。一人ひとり何に興味を持つかで、焦点の持っていく位置が異なり、不思議な遠近感の「ピープショー」ができた。2期は、パペットやマリオンネットなどを使い、人の動きの解剖に焦点を当てた。デジカメで撮影したそれぞれの体の動き(静止画)を、ゾートロープで動く映像として見た。また、アニメーション作家山村浩二さんに特別インタビューをした。3期は全員で“いつ”“どこで”“だれが”“なにをした”の4項目で一つのテーマを考え、各人が30秒以内の映像作品(コマ撮りアニメーションに限らない)を作ることにした。偶然の言葉の組み合わせで決定したタイトルは「放課後」に「東京」で「火星人」が「よっぱらった」となった。制作したオムニバスはパッケージもデザインし、DVDにすることとした。切り紙アニメ、セル画を描くアニメーション、人形を制作して動かす人形(立体)アニメなど、各人が自分の表現にあった撮影方法を選んで制作した。参加している中学生はパッケージングも含めた総合的なアプローチに興味を持ち、自ら広報担当になり、予告編とデザインまで担当した。前田ちま子さん(名古屋芸術大学)協力。

※「映・造ワークショップ」：1期7回(17,500円)、2期7回(17,500円)、3期5回(12,500円)。

※講師は、すべて〔こどもの城〕専門職員。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
大人のための造形表現教室	(人) 保育士、児童厚生員、学校教員、児童の造形教育、表現教育に興味のある人 (30)	(人) ① 25 ② 30 ③ 26	木曜日 18:30~20:00	児童の造形教育の新しい方法論を開拓したブルーノ・ムナーリさんの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめ、造形スタジオで実施してきたプログラムなどの資料と活動をととして、造形表現とは何かを体験していく講座。本年度はムナーリのワークショップから「さまざまなかたち」「直接の投影」「木をつくろう」など、造形スタジオの活動から「かげをうつそう」「竹体験」などを実施した。 受講料=1期(8回) 16,000円、2期(11回) 22,000円、3期(7回) 14,000円、講師は、岩崎清元こどもの城造形事業部長(武蔵野美術大学非常勤講師)

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 A スライド邸	(人) 小3~高3 (5日間 計75)	(人) 延べ 65	7.26~30 10:00~16:30	上下で十字に交差する二つの部屋それぞれが、スライドしたり、上の部屋の透明な床から下の部屋が見渡せたり、壁に開いた穴からさしこむ光で部屋の形や色が楽しく変化する家。受講料5,000円。
// B おでかけ建築図鑑	//	延べ 49	8.2~6 10:00~16:30	持ち運びに便利なおかもち形ケースの中に入ったいろいろな構造建築模型とユニットロード。自在なセッティングが可能。青空の下で建築マップをひろげて建物観察ができる。受講料5,000円。
// C 3S(スーパー・セパレート・ストリート)	小3~高3 (5日間 =2回/日= 計150)	延べ 91	8.9~13 10:00~12:30 14:00~16:30	2枚のベニヤの間を、柱に見立てた角棒でささえ、地下通路に仕立て上げる。ポラロイドで写した自分や、雑誌のコピーなどを使って飾り付け。謎の通路は2分割が可能で、通路自体を様々に変えることができる。受講料3,000円。
// D クルクル階層都市	小3~高3 (5日間 計75)	延べ 68	8.16~20 10:00~16:30	金属、木、樹脂とさまざまな素材でできた町が層になって組み合わさった空中都市。各層が個別に回転して空間変化を起こす。受講料5,000円。
// E プラネタリウム	小3~高3 (5日間 =2回/日= 計150)	延べ 127	8.23~27 10:00~12:30 14:00~16:30	アルミの板をたたいてできたドーム。ところどころに穴があいていて、中からもれた光がバックスクリーンに映し出され、光の粒がプラネタリウムのように幻想的。受講料3,000円。



夏休み造形教室D「クルクル階層都市」



夏休み造形教室A「スライド邸」

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
造形ワークショップ+ 造形ワークショップ展	11.21 (実技研修会) 11.22~12.13 (展示)	18年間の造形スタジオの活動の中で人気の高かった一般親子のプログラムの中から、身近な素材と道具を使ったプログラム「素材ア・ラ・カルト」を実施。並行して12月13日まで「造形ワークショップ展」を開催した。児童厚生員など50人参加。 (山口県児童センター)
//	H16.2.14 (実技研修会) 2.14~3.5 (展示)	18年間の造形スタジオの活動の中で人気の高かった一般親子のプログラムの中から、身近な素材と道具を使ったプログラム「素材ア・ラ・カルト」を実施。並行して3月5日まで「造形ワークショップ展」を開催した。鳥取県国府町職員52人参加。 (国府中央公民館)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
ブルーノ・ムナリー展	4.25~6.15	造形事業部所蔵の「ブルーノ・ムナリー巡回展キット」を貸し出し、展示、ワークショップ、ギャラリートークを行った。ワークショップは「直接の投影」「テクスチャー」(5月24日)、「木をつくろう」「ギャラリートーク」(5月25日)を行った。主催は静岡アートギャラリー、協力はアート・バイ・ゼロックスと日本ブルーノ・ムナリー協会。 (静岡アートギャラリー)
鉄はうたう vol. 2	5.17~6.1	ユーラシア大陸を中心に世界中に分布し、生活に密着した音具「口琴」の展示とコンサート。今回は、ノルウェーの口琴「ムンハルベ」を展示。ノルウェー憲法記念日の5月17日にノルウェーからスヴェイン・ウェスタッドさんを招き造形スタジオでコンサートを実施。主催は日本口琴協会、こどもの城造形事業部。ノルウェー王国大使館が後援。 (造形スタジオ)
第7回図工大好き子ども美術展	9.9~10.12	東京都小学校図工専科教師の有志団体「東京児童幼画堂」との共催で、都内公立小学校の子どもの作品展をギャラリーで開催。〔こどもの城〕では3回目。 (ギャラリー)
造形実技研修会	11.25	18年間の造形スタジオの活動の中で人気の高かった一般親子のプログラムの中から、子どもと一緒に作るプログラムを取り上げ研修した。主催は埼玉県保育士会。 (埼玉県男女共同参画推進センターWith You)
日本保育協会地域子育て支援センター担当者研修会	12.4	日本保育協会主催による実技ワークショップ。プログラムは「マペット」「糸はんが」「くつつけ虫」。 (造形スタジオ)



「ヤママラアニメーション〜こどもずかん」ギャラリーワークショップ



「ヤママラアニメーション〜こどもずかん」
山村浩二さんによるギャラリーレクチャー

平成15年度プログラム一覧表

1. 親子プログラム

名 称	内 容
〈建築と造形2〉	
すけるコーン	円錐の型にビニール袋をかぶせ、針金を形にそって巻く。針金とビニール袋をテープでとめ、裏返し、台紙につける。ペンやセロハンで飾れば、中が透けて見える建物が完成。建物の角度や形を変えることができる。
シェルフ	5～6本のWクラフト紙の帯をまとめ、片端を重ねて台紙につける。残りの端を放射状にひろげ、カーブを調整しながら貝のような屋根を作る。帯をつける角度や位置、帯と帯の間隔をかえれば、さまざまな形の屋根ができる。
クルクループ	Wクラフト紙の帯に切り込みを入れて2本に分け、らせん状に巻きながら、台紙に糊付けする。色紙やペンで飾りをつければ、クルクルと回りながら移動できる道が完成。
入れ小屋	Wクラフト紙の帯で大、中、小、3つのサイズの輪を作り、輪と輪を短い帯でつなぐ。いちばん上の輪にタコ糸をつけてひくれば、大きな輪から小さな輪が飛び出す。飾り付けをして、入れ子状の建物が完成。
ハニカムハウス	色ラシャ紙を8分割するように折り、6角柱を作り、何本かに切り分ける。組み合わせて飾りをつければ、ハチの巣のようなハニカム状の家のできあがり。
ネットランド	10×15 cmほどのネットを、台紙の上で曲げたりくねらせたりしながら形を決め、ホチキスでとめる。ネットの形を建物や街、遊園地などに見立てて自由な飾り付けをする。
ふわふわルーフ	色ラシャ紙をもんで柔らかくし、両端に針金を挟んで屋根を作る。穴をあけた段ボールに針金を差し込んで組み立て、全体を飾る。紙はていねいにもめばもむほど布のように柔らかな肌触りに変化する。
おでかけボーチハウス	麻の布を2つに折り、中心にボール紙をつけ床にする。布の縁に紙をはって、穴をあけたら糸を通す。飾って首からさげれば、どこへでも一緒にお出かけできるボーチ型の家。
〈布と造形〉	
なんですタイ?	布の帯の片端にポンチで穴を開け、全体を自由に飾り付け。ポンチ穴に毛糸をとおして首に結ぶとオリジナルネクタイ。
くねっ布	布の帯を半分に折り、中にアルミ線を入れて糊付け。飾り付けをすると完成。くねくねと動かしたり、腕に巻き付けたりして遊ぶ。
ヌノードル	直径長さともに5 cmほどの紙管に、布帯をガムテープでとめる。これに竹ひごを組み合わせ、飾り付けをすると完成。竹ひごを動かすと、布帯がユーモラスな動きをする。
つつむくん	5 cm角ほどの布で折ったり丸めたりした新聞紙を包み、アルミ線で形を整えながら手足を作る。飾り付けをすると小さな布人形になる。
なりきりますく	10×20 cmほどの布に、目の回りか口の回りの飾り付けをしたら、両端に耳にかけられる輪ゴムを通す穴をポンチであける。後は目や口にも大きめのポンチで穴をあけるとできあがり。



親子プログラム「すけるコーン」(受付でプログラムの説明)



子どもだけのプログラム「かたそめーる」

名 称	内 容
〈こども歳時記ほか〉	
〈端午の節句〉 ゆらりゆられて親子ゴイ	Wクラフト紙を半分に折り、ゲージを使い丸く切る。穴開けポンチで穴をあけたり、紙を使ってコイのぼりの飾り付けをする。2匹作り、風糸でつなげる。1匹を指ではじくと親子のコイが仲良く揺れる。
〈七夕〉 星の舟	色ラシャ紙を半分に折り、両端をとめて袋を作る。底に鏡面の紙をはる。袋の口には細く線状に穴を開けたトレシングペーパーをはり、七夕の飾り付けをする。袋を開くと、天の川の水面がキラキラ光る星の舟。
〈開館記念〉 おやこ・ラージュ	台紙に各種の布や波段ボール、スポンジペーパーなどさまざまな素材を使い、コラージュ感覚で飾りや模様を作る。親子体験ワークショッププログラム。
〈節分〉 まきまきオニ	Wクラフト紙の帯をななめにベンに巻き、スプリングを作る。その片端に竹ひご、もう片端には紙で作った鬼の顔をつける。竹ひごを揺らせば、ゆらゆらと動く鬼の完成。
〈桃の節句〉 おしゃれびな	ケント紙をななめに巻いて円錐型にし、お内裏様とお雛様を作る。その回りに着物になる布紙を巻き付け、布やベンで飾り付けをすると、おしゃれな雛人形の完成。
〈特別プログラム〉	
キャラットハット	「ヤマムラアニメーション」関連プログラム。Wクラフト紙を円筒にし、そこから切り込みを入れ変形させ、飾り付け。山村さんのキャラクターの王冠も配付した。ギャラリーの展示「クロマキ劇場」にかぶって遊びに行けるプログラム。
なそのおやつ袋	「ヤマムラアニメーション」関連プログラム。もみ紙したラシャ紙でおやつ袋、「巻く」「包む」「挟む」の技法を取り入れていろいろな素材でおやつを制作。山村さんの作品「バクシ」がいつも袋を持ってお菓子を食べているところから着想。

2. 子どもだけのプログラム

名 称	内 容
〈建築と造形2〉	
積層ランド	段ボールからさまざまな大きさの○△□を切り取る。これを少しずつずらして重ね、ボンドでとめる。台紙につけ、飾り付ければ、重なった段ボールの断面が美しい風景になる。 (小2以上、1時間)
ワックスタウン	和紙で建物を作り、溶かしたロウに浸して固める。片側が鏡面の台の上に置く。うすいロウの膜から和紙が透けて見え、床に映りこんだ周りの風景の中で、和紙の持つ柔らかな白さや暖かみがいちだんと引き立つ。 (小2以上、1時間)
アミノタワー	金網を丸めて作った塔を、釘で板に打ち付ける。色の付いた針金や釘、びょうを使って建物や地面を飾れば、網目の影も美しい建物のある街ができあがり。 (小2以上、1時間)
ツリードーム	2本づつ枝別れるように8本の針金を束ね、木を作る。この木を3本まとめて1本に束ねたり、個々に台にとめてドームを作る。台に飾りを付け、平面状の針金が立体へと変化する建物ができる。 (小2以上、1時間)
カクカク塔	段ボールの四隅に穴を開け、それぞれに針金を差し込んで短いストローを通す。針金の先を一つにまとめストローとストローの間にモールをつなげて結ぶ。飾りをつければカクカク曲がりくねる塔が完成。 (小2以上、1時間)
スライドハウス	直径7～8 cm程度の竹を5 cmほどの長さに切り、ナタで半分に割る。片方(壁になる)を段ボールにはる。ドアレール用に切った2 cm幅ほどの半割り竹をドアの動きに支障のないようにとめる。飾り付けして完成。 (小2以上、1時間30分)
丸太大国	直径7～9 cmの丸太を2 cm幅程度にのこぎりで切り、各種のくぎや紙、毛糸などで飾り付けし、自分の国を作る。 (小2以上、1時間)
くじゃっとタワー	ベニヤの四隅に針金を釘でとめ、透明チューブを通す。針金の先を束ねて、モールなどで飾り付けをすれば、くじゃっと曲がり形を変える塔の完成。 (小4以上、1時間)
なにめの家	布に穴をあけて窓にし、紙管に巻き付け家を作る。オリジナルの屋根を作れば、内側、外側と表情の違うリバーシブルの布の家ができる。 (小2以上、1時間)
どこでも巾着ルーム	段ボールを底板に使い、四辺に長方形の布を1枚ずつはる。布の上部に穴をあけて糸を通し、中を飾れば、どこへでも持ち歩ける巾着型の部屋ができる。 (小2以上、1時間)

名 称	内 容
〈布と造形〉	
ぬのがため	自分の手の形に切ったガーゼを水で溶いた石膏に浸し、段ボールに立てたアルミ線の骨組みにかぶせて硬化させる。これをドームや生き物のすみかに見立てて飾り付けをする。 (小2以上、1時間)
かたそめーる	型紙にポンチで穴をあけて模様を作る。それを布の上に置いて穴に染料をつけていく。最後に固着処理をすると、型染め技法のハンカチができる。 (小2以上、1時間)
折って染める	直接系染料を使った折り染め。20 cm角の布をじゃばら折り、三角折り、くしゃくしゃ折りなど自由に折りたたみ、水につけてよくしぼった後、染料を染み込ませて固着処理をする。折り方や染料の染み込ませ方によって、模様はさまざまに変化。 (造形実験室＝小4以上、1時間)
スッタン布	スポンジシートを任意の形に切り、染料をつけて布に押しつけていく。最後に固着処理をすると、版染め技法のハンカチになる。 (小2以上、1時間)
絞って染める	直接系染料を使った絞り染め。15 cm角の布でビー玉やピンの頭を包み込むようにし、輪ゴムでしばる。水につけてよくしぼった後、染料を染み込ませて固着処理。輪ゴムでしばった部分が白く残る、独特の模様になる。 (造形実験室＝小4以上、1時間)
なんだろ？ミトン	20×30 cmの帆布を半分に折り、自分の手の大きさに合わせたミトン型ゲージを写しとる。線は、ゲージの線よりもひとまわり大きく描く。外側の線をはさみで切り、内側の線を針と糸でぬい、自由に飾り付けをすると完成。 (小2以上、1時間)
挟んで染める	直接系染料を使った絞り染め。15 cm角の布を三角や四角など、任意の形に折ったものを、四角い棒ではさんで輪ゴムできつくしばる。水につけてよくしぼった後、染料を染み込ませて固着処理。折り型によって、模様はさまざまに変化する。 (造形実験室＝小4以上、1時間)
カバート	垂木を好きな形に5～6個切り、それぞれの周りに色紙をはり、土台にボンドでとめる。伸縮性に富んだ白い生地、生地を引っ張りながら全体を覆うと、内側の紙の色が布の表面にうっすらと浮かび上がる不思議なオブジェになる。 (小2以上、1時間)
クルンデル	垂木や小割を自由に切って、動物や家などを任意の形に組み立てる。これを帯布でくるんで飾り付けをすると完成。 (新小3以上、1時間)
〈こども歳時記〉	
〈端午の節句〉 どっコイメッシュ	金網を丸め、針金などの金属を使って飾り付け。コイを作る。半分に割った丸太を切って磨き、丸太のカーブを下にして台にする。台に針金を立ててコイを飾り、丸太をゆらせば左右に揺れるコイのぼりの完成。 (小3以上、1時間)
〈七夕〉 ベルトハウス〈特別プログラム〉	トレーシングペーパーの帯に、透過性のある素材やペンで七夕の飾りをする。外側にストローをはり、つなげて輪にする。飾りを付けた台にキリで穴をあけ、竹ひごを立てられるようにする。ストローに竹ひごを差し込んで固定すれば、竹ひごの位置によって、形が変わる七夕風の家が完成。 (小2以上、1時間)
〈節分〉 マリオネット	垂木や竹、紙管をノコギリで切る。毛糸で手足、頭部などのパーツをつなぎ、持ち手には竹ひごを使う。鬼の飾り付けをすると、マリオネットの鬼バージョンの完成。 (小3以上、1時間)
〈桃の節句〉 プリントびな	扇形のケント紙に毛糸や布など、凹凸のある素材をはり、版にする。インクをつけ、布にプリント。乾いた布を円錐型に巻いて飾ると、雛人形のできあがり。 (小2以上、1時間)
〈特別プログラム〉	
キャラクター変化	「ヤマムラアニメーション」関連プログラム。山村さんのキャラクターを自由に変身させよう、というテーマ。キャラクターの上に透明シートを重ね、ペンやいろいろな素材でキャラクターを変身させる。次にその服に似合ったオリジナルキャラクターを子どもたちが制作する。 (小3以上、1時間)
ちょっとフラット制作中！	「ヤマムラアニメーション」関連プログラム。粘土でキャラクターの頭部を立体的に作り、それをコピー機で平面に複写。胴体は透明シートで制作、そこにペンやいろいろな素材で飾り付けをし、裏に竹ひごをつける。台に差し込むと自立する。背景も制作。山村さん独特の平面と立体を組み合わせたキャラクター造形の技法から着想した。 (小3以上、1時間)

音楽事業部



平成15年度の活動

1. はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般来館児・者活動の拠点とし、A・Bスタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場としている。

音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、[こどもの城]の中でもなくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

平常期間の平日は、一日1回の音楽遊びのイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは特に親子のスキンシップが図れる歌遊びやダンスを取り上げ、1回30分プログラムの流れのなかで“動”と“静”のめりはりをつけた構成としている。

日曜日・祝日は、12時30分から5時まで、7本のプログラムが組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」そして世界の民族楽器が体験できる「いろいろ楽器コンサート」などである。

さらにそれらのプログラムの合間をぬって、管楽器や打楽器で編成されるバンドが、マンボ・ポルカ・サンバなどの楽曲演奏を展開。自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、常に音楽で遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館児・者活動の核となるのが、Bスタ

ジオで行われる「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽を定期的に取り上げて、来館する親子に鑑賞型の音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においてプログラムを実施。多人数異年齢の集団に幅広い音楽体験の場を提供している。

また、ワークショップのプログラムも積極的に実施。平常期間では前述の「わいわいスタジオ」枠でフィルムケースを使ったおもしろ笛の数々を作っている。さらに、夏休み特別期間にはインドネシアやアフリカの楽器をベースにした「手作り楽器のワークショップ」を実施。すべてのコースが満員となり人気企画として定着している。

講座・クラブについては、ほかでは体験できない音楽活動をめざして邦楽・民族音楽系なども含むユニークなラインアップで運営している。

音楽事業部が担当するグループ活動は、[こどもの城]全体の利用件数の約半数を占めている。個々のグループの要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。

2. 新しい取り組み

【新講座「おんがく大好きミュージックパーク」】

前年度まで小児保健部の主催で開講されていた「母と子のリトミック(ダウン症クラス)」を、本年度から音楽事業部が引き継いで行うこととなった。定員10人のところ、前年度からの継続者が多かったこともあり、12人でスタートした。

基本的な講座内容は、小児保健部が主催していたときとほぼ同じ。新しく、日本ダウン症児協会理事長の玉井邦夫



12月からスタートさせた「赤ちゃん特等席 ばぶりんパラダイス」

山梨大学助教授を特別講師として招いて、11月に講演会およびワークショップ「感じる心を育てる」を行った。受講生・保護者だけではなく、そのほかの障害をもった子どもの保護者も興味を引く内容。広く受講を呼びかけ、講座紹介もかねたワークショップも行い、好評を得た。

【2年目を迎えた「高学年楽器体験コーナー」】

前年度から実施している土曜日の高学年向け楽器体験プログラム。乳幼児が多い音楽ロビーに、いかにして高学年の子どもたちを呼び込み、定着させるかが課題であった。

音楽ロビーに入ってもらうのを待って声をかけるのではなく、こちらから積極的に働きかけをしてみようと、本年度から音楽ロビー入口の外側に「高学年楽器体験コーナー」を設けるようにした。通りがかった子どもたちを気軽に呼び入れることができ、参加者の増加につながった。ただし、ドラム、金管楽器などの音量の大きいものは音楽ロビーの外で行うことが難しいため、従来どおり音楽ロビー内で実施している。

音楽ロビー内で行う場合も、いくつかシミュレーションした結果、前年度に実施していた場所から音楽ロビー入口近くに移動することにした。音楽ロビーの外から見え、すぐに入ることができるので、音楽ロビーの外で行っているときに近い状況を作り出すことができた。

平行して行っている幼児・低学年向けプログラムとの音の重なり問題は随分と軽減した。

対象である小学4年生以上の子どもたちが、多くないのが現状である。今後の展開として、対象年齢の見直しを検討するとともに他事業部の高学年プログラムとの連携を図れるように情報交換を行っていききたい。

【新コーナー「あかちゃん特等席 ばぶりんパラダイス」】

特別期間に実施している「ゆったり親子のおんがく園」（0～3歳児と保護者のためのスペース）は通常期間はスペースが確保できないため、実施できずにいた。利用者には人気があり、期間が終了してからも「ゆったり親子のおんがく園」を目的に訪れる来館児・者が多かったことから、



音楽ロビーの外に場所を移した「高学年楽器体験コーナー」

何とか平常期間にも音楽ロビーで実施できないかを検討、12月からスタートした。

平日の音楽ロビーは比較的小さな子どもたちが多く、対象を「ゆったり親子のおんがく園」と同じ0～3歳児にすると、ロビーに遊びに来るほとんどの子どもたちが該当し、コーナーを分ける意味がなくなることから、0～1歳を対象とした。ハイハイや安心して寝ころんでもらうためにクッション性のあるマットレスを敷きつめた。

小児保健部が主催して音楽ロビーで開催している「赤ちゃんサロン」との関連もあり、乳児と保護者の利用度も高くなっている。大きな子どもたちが、靴のまま動きまわるフロアと分けることによって安心して乳児を遊ばせる場所として定着してきた。まだ、環境を整えただけのコーナーにとどまっており、増加してきた来館児・者への対応やこれらの親子をを意識したプログラム作りなど、今後の課題としていきたい。

3. まとめ

小児保健部が音楽ロビーで実施している「赤ちゃんサロン」、そして本年度から新たに設けた「ばぶりんパラダイス」——2つのプログラムの流れで、0～2歳の親子の利用が大幅に増えている。3歳～小学生低学年のプログラムについては、開館以来かなりのノウハウが蓄積されているが、0～2歳についてはまだまだ研究しなければならないことが多い。また、同年齢の子を持つ母親の情報交換、コミュニティの場になればと考えている。

土曜日に行っている「高学年楽器体験コーナー」のように、高学年の学童を対象とした一般来館児プログラムもスタートしたばかりであり、試行錯誤を繰り返してよりよいものを作り上げていかなければならない。単に“楽器を教える”ということではなく、音楽を介したコミュニケーションをとおして、高学年が気軽に足を運べる“溜まり場”的な形として定着させていきたい。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなでライブ	火曜日 14:30～15:00	子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童話、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむ中で、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。親子がペアになって楽しむダンスも好評で引き続き行っている。直前まで行われている「赤ちゃんサロン」との関連で、乳児と保護者の参加が増加。幅広い年齢層に対応するプログラム作りを工夫している。 (音楽ロビー)
水曜パチパチパーク	水曜日 15:30～16:00	歌遊び・手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国の音楽を聞かせる鑑賞型プログラムを実施。後者は観賞型であるが、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設け、一体となって音楽を感じあえるイベントを行っている。 (音楽ロビー)
木曜なかよし広場	木曜日 14:30～15:00	遊び歌を中心としたプログラム。親子でじっくりふれあう、大勢で盛り上がる、パネルシアターや絵本を見る——など。担当スタッフの個性やレパートリーに合わせて内容は変わるが、子どもたちが楽しめる、おもしろがるプログラム構成で行っている。 (音楽ロビー)
王さんの楽器屋さん	木曜日 15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。子どもたちが気軽に参加できるように音楽スタッフが店長・店員になって“楽器屋さん”という遊びの演出を行っている。引き続き、一緒に活動する女性ボランティアの位置付けを模索。本年度はボランティアも演奏に参加することを試みた。 (音楽ロビー)
みかんちゃんズの オバオバサンバ!	金曜日 15:00～15:30	サンバのリズムに合わせて体を動かす女性ボランティア中心の活動。親子でともに活動することに重点をおく「楽器でチュー」と、音楽にあわせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。新しいボランティアメンバーも加わり、活気のある活動になっている。 (音楽ロビー)
赤ちゃん特等席 ぱぶりんパラダイス	火～金曜日 開館時間中 (上記催し開催時間を除く)	12月2日から始めた、0～1歳児と保護者のコーナー。特別期間に実施している幼児向けプログラム「ゆったり親子のおながく園」の平常期間版。同じ年ごろの子どもをもつ保護者同士が気軽に交流する姿が見られた。 (音楽ロビー)
ハートフルライブ	土曜日 13:00～13:30 14:00～14:30	演奏を聞く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおり、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。さまざまな楽器をテーマを決めて紹介（竹、アフリカ、日本、インドネシア、弦楽器など）。本年度の新規テーマは、“筒”と“金属”。邦楽器で外国曲を演奏したり、違う国の楽器を組み合わせる演奏することも試みた。 (音楽ロビー)
高学年 楽器体験コーナー	土曜日 10:30～11:00 13:30～14:00 14:30～15:00	2年目を④えたコーナー。ドラム、箏、エレキギター、金管楽器など、目にすることはあるが実際に手にしてみることができないものを取り上げた。楽器によっては子どもサイズのものをそろえ、じっくり体験してもらうことができた。新規プログラムとして、中国の楽器を取り入れた。延べ385人が参加。じっくり体験でき、充実感のあるコーナーとなった。(音楽ロビー)
いろいろ楽器 コンサート	日曜日・祝日 16:30～17:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴を紹介。ふだんなかなか体験できることのない楽器にふれ、文化までも感じられるよう構成した。 (音楽ロビー)
うたってハッピー	日曜日・祝日 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童話のほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。 (音楽ロビー)
マンボ! ボルカ!	日曜日・祝日 13:45～14:00 14:30～15:00 15:45～16:00	マンボ、ボルカ、サンバなどのリズムカルな楽曲を、マリンバ、サックス、フルート、トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦して、レパートリーを増やしている。「みんなであそぼう!音楽広場」を実施する日は、14:30の回はなし。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
みんなであそぼう！ 音楽広場	日曜日・祝日 14:30～15:00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えバラエティー豊かなプログラム。「わいわいスタジオ」のある日は実施しない。 (音楽ロビー)
わいわいスタジオ	日曜日・祝日 (ほぼ隔週) 13:30～14:00 15:30～16:00	来館している親子全般を対象にしているコンサートで、幼児でも楽しめるように構成している。アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国などの民族音楽、ラテンジャズやロック、草笛など演奏者を招いて行うコンサートと、フィルムケースを用いて笛を作る手作り楽器のワークショップなど、常に新しい企画、さまざまなジャンルの音楽を取り上げるように努めている。通常はBスタジオで行っているが、本年度は特別企画として「アンデスのしらべ」(11月2日)、「ウキウキアフリカンコンサート」(3日)を音楽ロビーで実施し、大盛況だった。(Bスタジオ)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ストリートオルガン タイム	4.26、27、29 12:30～13:00	親子、兄弟、友だち同士がベアになり、音楽ロビー常設のオランダ式手回しオルガンの演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 うたってハッピー	4.26、27、29 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 いろいろ楽器 コンサート	4.26、27、29 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 おながくゲーム アーケード スーパースター ゲッター	5.3～5 10:30～17:30	マラカスを振って踊る「マンボDEウー」、インドネシアのガムランを使ったじゃんけんゲーム「ボナンでボン」、マイクで歌う「うただミルキーウェイ」、アルペンホルンに挑戦「ザ・ラッパだめし」、楽器の音当て「クイズ耳をすませば」など、音楽を素材にした5つのゲームを用意。子どもたちはエントリーバッジを作ってゲームに参加、ポイントによってシールを集めた。3日間で延べ1,026人参加。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 おながくがスキ！	5.5 11:00～12:00 13:30～14:30 15:30～16:30	毎年恒例の〔こどもの城〕オリジナルプログラムのコンサート。本年度はトランペット、サクソ、トロンボーンのホーンセクションを加え、ラテンバンドの雰囲気演出。沖縄のカチャーシーダンスなども加えて、プログラムのバリエーションも充実した。 (青山円形劇場)
〈 Ⅱ 〉 ゆったり親子の おながく園	4.26、27、29、5.3～5 開館時間中	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋として前年度に引き続き開園した。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。 (Aスタジオ)
〈夏休み〉 ストリートオルガン タイム	7.19～27 12:30～13:00	親子、兄弟、友だち同士がベアになり、音楽ロビー常設のオランダ式手回しオルガンの演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 夏のごいっしょライブ	7.19～27 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 マンボ！ボルカ！	7.19～27 14:30～15:00	前年度から平常期間のプログラムとして日曜日に行っているものを、30分に拡大して実施。夏らしく管楽器を多用してラテン色を濃くし、レパートリーの拡大に努めた。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 いろいろ楽器 コンサート	7.19～27 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 面白楽器商店街	7.28～8.31 開館時間中	前年度から引き続き3年目のプログラム。世界各地の民族楽器を集めた「めずらし屋」、がらくたを集めて作った「がらくた屋」、インドネシアのガムランを体験する「青銅屋」、竹の楽器を集めた「竹屋」、いろいろな国の太鼓を集めた「皮屋」の5つのコーナーに分け、それぞれを「楽器屋」と設定して、音楽ロビー全体を“楽器屋”が立ち並ぶ商店街とした。店の配置を前年度と変えて、子どもたちが見やすく、体験しやすくなる店舗作りをめざした。3年目に入り、アルバイトを含むスタッフの連携やイベントの進行が円滑に行われるようになった。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 面商完全攻略ツアー	7.28～8.31 11:30～12:15	平常期間の土曜日や前年度の動向から判断して、対象を小学4年生以上から3年生以上に変更した。45分間で商店街の5つの店をまわり、楽器の説明、体験をする。年齢の高い子どもたち限定のため、内容も深くまで掘り下げることができ、質問などにもていねいに対応しながら進行することができた。前年度を上回る、358人が参加。(音楽ロビー)
〈冬休み〉 わいわいスタジオ〜クリスマススペシャル	12.21、23 13:30～14:00 15:30～16:00	恒例となったクリスマスコンサート。21日はアイルランドの音楽「アイリッシュで楽しむクリスマス」。楽器演奏だけでなく、アイリッシュダンスもあり、親子で参加できる内容となった。出演は守安功、雅子の両氏。23日は「おはなしおんがくパンパカパーン クリスマスのおくりもの」。ピアノ、パーカッションとおはなし。オリジナル作品の『赤鼻のルディ』と『ほんとにほしいもの』の2作品を上演。出演はとらいぼっど。(Bスタジオ)
〈 〃 〉 元気なクリコン!	12.14、20、21、23 14:30～15:00	子どもたちに人気のクリスマスソングをメドレーに編曲。いろいろな楽器で演奏。親子そろって合奏する姿が多く見られた。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 いろいろ楽器コンサート	12.20～23、27、28 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアングロン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってハッピー	12.20～23、27、28 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 サンタカーニバル	12.24～25 11:00～11:30 14:00～14:30	踊り、歌、演奏、おはなし——さまざまな内容が凝縮したクリスマスプログラム。参加型のパネルシアターやサンタダンスなどを行い、小さな子どもから小学生まで楽しく過ごすことができた。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 ハッピークリスマス	12.24～25 13:00～13:30 15:00～15:30	スタッフはサンタに、子どもたちは背中に羽をつけた天使に扮してスタート。鈴を配り、小さな子どもと一緒に歌、演奏、踊りなどを楽しんだ。愛らしい子どもの姿に、保護者も喜んでいった。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 飲々喜々音楽会! ファンファンシーシー インユエホイ!	H16.1.3～7 開館時間中	新規プログラム。イベントタイトル、室内装飾、扮装も中国風にし、華やかな一年の始まりを演出。歌ったり踊ったりする「楽々舞台“ルールーウータイ”」、子ども用のバンドセットを設置したステージ「照相“ツァオシャン”コーナー」、中国の楽器をはじめとするいろいろな国の楽器に触れる「ミニコンサート」を実施。「照相コーナー」ではスタッフの演奏に合わせて、ミュージシャンになりきって演奏する子どもたち。その姿を最近主流となったカメラ付き携帯電話で撮影する親の姿が多く見受けられ好評であった。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	1.3～7 開館時間中	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋として前年度に引き続き開園した。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。(Aスタジオ)



「面白楽器商店街」皮屋



「飲々喜々音楽会」照相コーナー

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 世界なりきり！ ハリキリダンス！！	3.26～4.5 14:30～15:00	ダンスプログラムの集大成。前年度も好評だった「アフリカンドラム・マンボ・サンバでおどろう」「ほのぼのフォークダンス」「インドネシアのジョゲダンスとバンブーダンス」「かっこいい！ ヒップホップダンス」の4プログラムを日替わりで実施。バンブーダンスは、竹の障害物をクリアしながら進んでいくと、結果的にダンスになる方法にかえ、低年齢児と大人数に対応できるように工夫した。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってハッピー	3.26～4.5 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか。アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 いろいろ楽器コンサート	3.26～4.5 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	3.26～4.5 開館時間中	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋として前年度に引き続き開催した。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。 (Aスタジオ)
〈 〃 〉 ぼくらのサウンド2004	3.19 17:30～18:30	「和太鼓グループ」「レッツ・プレイ・サンバ」「レッツ・プレイ・サンバ初級」の公演。サンバの演奏には、女性ボランティアも参加。 (青山円形劇場)
	3.20 13:00～14:30 16:00～17:30	「おかあさんもいっしょリトミック」「合唱講座」「こどもの城合唱団」「混声合唱団」の公演。 (青山円形劇場)
	3.21 13:30～15:00	「リズム・ムービングA（ペアーズ）・B」「リズム・ムービング&パーカッション」「パーカッション・アンサンブル」「おとなのためのリズム・ムービング」の公演。 (青山円形劇場)
	3.21 17:30～18:30	「エレクトリックアンサンブル」「三味線」「ガムラン講座」の公演。 (青山円形劇場)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
リズム ムービング (ペアーズ)	(組) 3歳児と 保護者 (12)	(組) ① 4 ② 5 ③ 3	火曜日 14:30～15:20 (全32回)	身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ、子どもたちの眠っている感覚を揺り動かし、創造性を引き出し、はぐくむことをめざした活動を行っている。3歳児クラスは、本年度から保護者とともに受講するカリキュラムで実施。主にコンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用。そのほかに音を全身で表現したり、造形活動を行ったりしている。楽譜は使用していない。 受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
〃	(人) 4・5歳児 (20)	(人) ① 14 ② 10 ③ 8	火曜日 15:30～16:20 (全32回)	
リズムムービ ング&パーカッ ション	小1～3 (15)	① 7 ② 7 ③ 7	火曜日 16:30～17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
パーカッション・ アンサンブル	小4～高3 (15)	① 16 ② 16 ③ 15	火曜日 17:30～19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのほじけるようなリズム感を表現する。初心者もていねいな指導で、すぐに楽しんでいる。 受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
おとなのためのリ ズム・ムービング	18歳以上 (15)	① 9 ② 8 ③ 8	火曜日 18:00～19:30 (全16回)	小学校教諭や音楽教室の指導者、一般企業の会社員や子どもコースの保護者とさまざまなメンバーで構成されるクラス。小太鼓やマリンバを用いて基礎的奏法からアンサンブルまでを行う。 受講料＝1期15,500円、2期15,500円、3期10,500円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おかあさんもいっしょ リトミック I	(組) 3歳児と 母親 (20)	(組) ① 16 ② 17 ③ 14	水曜日 14:00~15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をととして親子のコミュニケーションを図り、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
II	4歳児と 母親 (20)	① 20 ② 17 ③ 15	水曜日 15:00~16:00 (全32回)	「I」で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めていっている。受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
III	5歳児と 母親 (20)	① 19 ② 16 ③ 16	水曜日 16:00~17:00 (全32回)	就学を迎えるころになると感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみながら学び、遊んでいる子どもたちが印象的。受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
おんがく大好きミュージック・パーク~ダウン症児のための楽しいリトミック	2歳6か月~6歳のダウン症児と親 (10)	① 12 ② 12 ③ 10	木曜日 14:30~15:45 (全29回)	音楽をととして、親子で一緒にリズム遊びや楽器の体験、いろいろな運動を楽しむ。このような活動をととして、少しずつ表現することや身体的発達など、子どもたちの可能性を探っている。 受講料=1・2期19,000円、3期17,000円。
和太鼓グループ	(人) 小3~高3 (12)	(人) ① 11 ② 9 ③ 7	土曜日 14:00~15:30 (全32回)	湯島(東京都文京区)に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
レッツ・プレイ・サンバ初級	小1~3 (10)	① 21 ② 18 ③ 15	土曜日 13:00~14:00 (全15回)	「レッツ・プレイ・サンバ」の低学年向けの初級コース。サンバ楽器を使った演奏と踊りの指導を行っている。サンバをととして、音楽の楽しさや仲間と演奏することの楽しさ、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを感じてもらうことをめざしている。受講料=1・2・3期各6,500円。
レッツ・プレイ・サンバ	小4~高3 (10)	① 10 ② 9 ③ 8	土曜日 15:30~17:00 (全15回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。対象年齢を引き上げたため、より高度で力強い演奏を展開している。 受講料=1・2・3期各6,500円。
合唱講座	小1~4 (30)	① 39 ② 38 ③ 38	土曜日 14:00~15:30 (全32回)	遊ぶことをととして無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。とにかく、体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
こどもの城児童合唱団 I	小2~3 (合唱講座修了者・30)	① 50 ② 45 ③ 44	土曜日 15:30~17:30 (全32回)	音楽をととし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験し、総合的なプログラムを展開。 受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
II	小4~中3 (合唱講座修了者・60)	① 120 ② 113 ③ 104	土曜日 17:00~19:00 (全32回)	
混声合唱団 こどもに聞かせる おとなのコーラス	高校生以上 (15)	① 62 ② 63 ③ 64	土曜日 19:00~21:00 (全32回)	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは、高校生から社会人まで幅広く、コンサートや合唱などのときは、常に「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
エレクトリック・アンサンブル	中1~高3 (8)	① 6 ② 5 ③ 4	日曜日 10:45~12:15 (全29回)	ドラム、ギター、キーボードなどを使用したバンド形式のアンサンブル。初めて楽器に挑戦する初心者から経験者まで、技術の向上をめざし個別に対応。講座生作曲のオリジナル曲にも取り組んだ。受講料=1・2期16,000円、3期15,000円。
三味線講座 A (初級)	小2~高3 (12)	① 17 ② 17 ③ 17	日曜日 10:00~11:30 (全32回)	学校教育への和楽器導入を受け、三味線への注目度がよりアップしたようだ。定員を上回る申し込み者にこたえるために、楽器の補充や講師陣の充足を図った。 受講料=1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
B (経験者)	小2~高3 (12)	① 13 ② 12 ③ 11	日曜日 11:30~12:45 (全32回)	

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ガムラン講座	(人) 小1～高3 (15)	(人) ① 16 ② 14 ③ 15	日曜日 13:00～14:30 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者と継続者のクラス。さまざまな音楽的要素が潜在しているガムラン音楽は、アンサンブルすることでその特異さがわかる民族音楽。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんがく星みつけた～就園前のリトミック～	(人) 2歳児 と母親 (30)	(人) ① 28 ② 30 ③ 33	木曜日 10:30～11:30 (1・2期＝10回、3期9回)	就園前の幼児と母親が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期各16,000円、3期15,000円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子で作り楽器のワークショップ	(人) 小1～高3 の親子 ※小4以上は 子どもだけで の参加も可。 (各日30)	(人) 計 60	8.10、20 13:00～16:00	“竹のハンドベル”ともいわれ、多人数で演奏するほど魅力を発揮する楽器。初めての試みとして、完成したアンクルンを持って、アトリウムで演奏（発表会）を行い、盛況だった。6年目を迎える不動のプログラム。 受講料＝親子ペア5,400円、子どものみ2,700円。
		計 60	8.12、18 13:00～16:00	竹のたて笛を2種類製作。インドネシアの6穴のたて笛「スリン」は、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている。細い棒をスライドさせて、鳥の鳴き声をまねできる「スライドホイッスル」も制作。4年目のプログラム。受講料＝親子ペア5,400円、子どものみ2,700円。
		計 180	8.13、17、21、25、 28、31 13:00～16:00	「講義」＋「製作」＋「演奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。本年度も全日満員。セネガル出身のパーカッションист、ワガン・ンジャエローズさんの合奏指導も、前年度以上の白熱ぶりだった。4年目を迎えた大人気プログラム。受講料＝親子ペア9,200円、子どものみ4,600円。
	インドネシアの竹の木琴? “ガンパン”	// (17)	8.14 13:00～16:00	ジャワ島のガンパンは、木琴に似た竹製の楽器。“ドレミファ……”の聞きなれた音階と民族音階の両方が楽しめます。 受講料＝親子ペア9,000円、子どものみ4,500円。
	ベトナム式の金属で作る “口琴（コウキン）”	// (25)	8.16 13:00～15:30	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。その音色は人々を楽しませてくれる。指ではじいて中央の弁を振動させ、半開きのくちびるにあてると、口腔や頭に共鳴して音を出すというユニークな楽器。“宇宙人のような声が出せる楽器”と紹介。3年目。受講料＝親子ペア5,000円、子どものみ2,500円。
ツブ	アフリカのトーキングドラム “タマ”	// (30)	8.27 13:00～16:00	西アフリカのウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズさんに指導してもらう。太鼓の胴にたくさんのひもが張られていて、ひもをコントロールすることで音程が変化し、しゃべっているかのような音を表現できる。 受講料＝親子ペア9,800円、子どものみ4,900円。
親子のための1日 ガムラン講座	親子 ※小3以上は 子どもだけで の参加も可。 (15)	4	11.16 16:00～17:30	多くの子ども、大人にまだまだ知られていないインドネシア・ジャワ島の民族音楽「ガムラン」を体験してもらおうと実施。参加者は、小1～3、3人とそのお母さん1人と少なかったが、アンケートにも大変楽しんだと記され、充実した体験が展開された。今後とも、講師陣と連携をとりながら実施していきたい。 受講料＝大人3,000円、子ども2,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子どものための “お箏”短期体験 講座	小学生～ 高校生 (各10)	計 20	12.7 12:30～14:00 14:30～16:00	箏という楽器に親しんでもらい、かんたんな合奏に挑戦する。クリスマスにあわせて「きよしこの夜」を教材として取り上げた。初めての試みとして、講座の最後にミニコンサートを開催。講師の模範演奏、受講生の合奏、一般来館児・者の体験コーナーも設けた。体験コーナーで受講生が指導スタッフをサポートする姿が好評だった。受講料＝1,500円。

〈専門指導者向け講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
大人（指導者・一般）のための手作り楽器「アングルン」と「スリン」	指導者・一般 (20)	30	8.24 13:00～16:00	大人（指導者・一般）が参加できるコースを初めて開催。アングルンやスリンの制作だけでなく、子どもへの指導方法などをレクチャー。指導者にとって魅力のある内容。意欲的に取り組んでいた。受講料＝4,800円。
感じる心を育てる～感性の重要性	一般・講座受講生 (80)	80	11.3 13:30～16:00	日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫山梨大学助教授を講師に招いて、「おんがく大好きミュージック・パーク～ダウン症児のための楽しいリトミック」講座の紹介もかねて、講演を行った。一部、受講生によるワークショップも実施。受講生以外のダウン症児やそのほかの障害児をもつ保護者も多数参加した。協力、日本ダウン症協会。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」	5.24・25	〔こどもの城〕音楽プログラムから生まれたバンド形式の参加型コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器の紹介、がらくた楽器の演奏など。約1,000人の親子が参加。24日には、児童厚生員などを対象に「打楽器で遊ぶワークショップ」の実技研修を実施（参加約100人）。 (広島市西区文化センターホール)
手作り楽器のワークショップ	10.27	身の回りにある廃材（フィルムケース）を利用して音の出る音具を制作し、それを使って遊びに展開するプログラム。参加者は80人を超え、積極的かつ熱心に受講。研修の成果を現場に持ち帰って、広がりをもてるであろうことが期待できた。 (千葉県佐倉市子育て支援課)

〈講師派遣〉

名 称	日 時	内 容
民族音楽講義と演習	4～6月	小学校の国語と理科と音楽の教師になるためのコースの大学生に対し、民族音楽の講義と演習を行った。「インドネシアのガムラン音楽」「ブラジルのサンバ」「手作り民族楽器」など、ほとんどの学生にとっては初めて体験する音楽ばかりと思われるが、非常に熱心で演奏の質も高かった。短時間の授業だったが、教師になったときにこの経験が何かに生かされるであろうという、小さな期待を持った。〔こどもの城〕で行っている民族音楽の活動の新しい一つの広がりであったように思われる。東京学芸大学。
ババママいっしょにリズムであそぼ！	6.28	日ごろ児童館に来館できない父親や保育所に通園している子どもたちにも、児童館の活動に参加してもらおうと土曜の午前中に実施。約20組が参加。1歳半以上から4歳まで、幅広い年齢層に対応できる内容で行った。東京都調布市深大寺児童館。
子育て支援の輪づくり講座	7.11	ここ数年行っている新潟市主催の子育て支援講習会。テーマは「乳幼児の手遊び、歌遊びと関わり方」。今回は子どもたちに人気のあるパネルシアターも加えた。参加者は約80人。新潟市総合福祉会館。
民族音楽講義と演習	8.1、4	教員免許取得課程の大学生に対し「ブラジルのサンバ」を中心に民族音楽全般の講義と演習を行った。確実に知識としても演奏技術としても身に付け、それを子どもたちに指導できるようにする、という目標を前提に行った。その場の音楽体験にとどまらず、何らかの形で子どもたちに展開していったらいいだろうという期待のもてる授業となった。千葉大学。

名 称	日 時	内 容
ようじのつどい	10.9・10	音楽と遊びをとおして親子でふれあうプログラムを中心に行った。9日は0～1歳児。10日は2～3歳児の親子が対象。約30組の親子が参加。東京都目黒区不動児童館。
親子であそぼう	11.8	双葉祭という保育園行事の一環で実施。親と子が音楽をとおして楽しくすごすことをねらいとしたプログラム。園児（1～5歳児）150人、親は約200人が参加。双葉の園保育園（東京都墨田区）。
リズムにのってらんらん	12.2	10か月から3歳まで30組を対象とした音楽プログラム。季節がらさまざまなクリスマスの曲をプログラムとして取り上げて遊びに使用。参加者も合奏で参加。東京都調布市深大寺児童館。
地域子育て支援センター指導者研修会	12.4	日本保育協会主催の研修会。全国各地から約45人が参加。乳児と親のプログラム、幼児と親とのプログラム、プログラムの組み立て方、親子で遊ぶための呼びかけ、パネルシアターの上演、などを中心に行った。会場は〔こどもの城〕。
おやこでうきうきリズムであそぼ	12.9	1歳前後の子どもを中心とした親子の音楽プログラム。季節がらさまざまなクリスマスの曲をプログラムとして取り上げて遊びに使用。参加者にも合奏で参加。パネルシアターで取り上げた曲で参加者がダンスを披露。東京都調布市多摩川児童館。
リズムにのって	H16.1.27	1～3歳の25組の親子を対象とした音楽プログラム。元気に体を動かすプログラムや楽器鑑賞、ゆったりとスキンシップを楽しむプログラム内容で構成。東京都調布市調布ヶ丘児童館。
親子のための楽しい音楽	2.13、3.10	2月はアフリカの楽器の演奏と大型絵本を使った読み聞かせ、表現あそびの公演。3月は手遊び、歌遊び、パネルシアターなどの公演。0～2歳までの乳幼児と保護者約120組が参加。東京都江戸川区南篠崎児童館。
親子で楽しくリズム遊び	2.18	2歳から3歳まで25組を対象とした音楽プログラム。親子で元気に身体を動かすプログラムや、ゆったりとスキンシップを楽しむプログラム内容で構成。東京都調布市染地児童館。

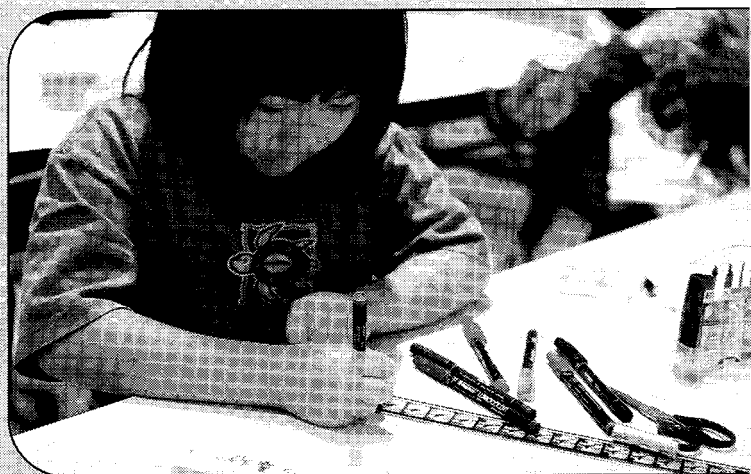
〈演奏依頼〉

名 称	日 時	内 容
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	H16.1.12	〔こどもの城〕の音楽プログラムから生まれたバンド形式の参加型コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器紹介、がらくた楽器の演奏などを盛り込んだプログラム。約400人の親子が参加。栃木県子ども総合科学館。
〃	2.6	約100人の親子が参加。神奈川県川崎市北部療育センター。
〃（欧州公演）	2.13～22	毎年恒例となった欧州公演。5か国7公演を行い、延べ約2,000人の親子が参加。開催都市はウィーン、パリ、ジュネーブ、ブリュッセル、ミュンヘン、フランクフルト、デュッセルドルフ。
ブッチガドコンサート 童謡コンサート	3.14	〔こどもの城〕の音楽プログラムから生まれたミニバンド形式の参加型童謡コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器紹介、がらくた楽器の演奏なども盛り込んだプログラム。約200人の親子が参加。埼玉県上福岡市勤労福祉センター。
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	3.19	約200人の親子が参加。東京都世田谷区下馬保育園。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
こどもの城児童合唱団 夏合宿	7.29～8.4	夏合宿にあわせて、石川県内の児童館など4か所で公演。石川県の子どもたちとの交流を深めた。輪島の特産品・彫金やわらじ作りなども体験。公演は根上町総合文化会館ホール（7月30日）、金沢市立三和児童館（31日）、県立中央児童会館（8月1日）、輪島市文化会館（2日）。

A (オーディオ・ビジュアル) V 事業部



平成15年度の活動

1. はじめに

A V事業部の活動は、〈見る〉プログラムと〈くする・つくる〉プログラムに大別される。前者には、35の視聴用ブースを備え、約2万タイトルのビデオソフトが登録されている『ビデオライブラリー』、国内外の優れた作品をフィルムで上映する『こどもの城映画劇場』や『おもしろビデオ館』などがある。

『ビデオライブラリー』では、利用者自らが作品を選定するのに対し、上映プログラムではスタッフがぜひ子どもたちに見てもらいたい作品を厳選している。この二つが好対照をなすことで、A V事業部の〈みる〉プログラムが成立している。

後者の〈くする・つくる〉プログラムでは、『不思議な映像実験室』という名称のもと、“映像が動いて見える仕組みを体験する”“実際に簡単なアニメをつくる”などをテーマに

数多くのワークショップを実施している。また、学校の季節休みなどに子どもを対象とし、視覚がん具や天体望遠鏡をつくる短期講習会を実施したほか、年間をとおして指導者向けの講座・講習会を〔こどもの城〕内外で実施した。

前年度からスタートし、プレイ事業部と合同で運営にあたってきた『サタデー・ラボラトリー』を本年度も実施した。平成14年4月からの学校5日制導入に伴い、小学生対象の土曜日プログラムの充実を目的に始めたものである。本年度も、日常の中に潜むさまざまな不思議を題材とし、遊びの中で自然な形で実体験できるようなプログラムの実施を心がけた。

2. 不思議な映像実験室

映画発明以前の動く絵を見る“視覚がん具”を作るワークショップ、ビデオ機器を使用したワークショップを総称して『不思議な映像実験室』と呼んできた。しかし、近年ではビデオ機器を使用したプログラムを『サタデー・ラボラトリー』で実施する機会が多くなったため、実質的には“視覚がん具”をテーマにしたプログラムを『不思議な映像実験室』と称するようになりつつある。

“視覚がん具”とは、映画発明以前に動く絵などを見るために考え出された“見るおもちゃ”のこと。“視覚がん具”を中心に取り上げているのは、それが映画発明以前のものであるため、仕掛けの単純なものが多く、映画が動いて見える仕組みを分かりやすく体験できるからである。

【プログラムの推移】

『不思議な映像実験室』では、対象年齢を小学生以上に設定した数種類のプログラムを行ってきた。しかし、来館児・者の低年齢化に伴い、プログラムの参加者数が減少す



フィリップ・バイロック監督の映像ワークショップ
（「キンダー・フィルム・フェスティバル」から）

る傾向がみられるようになった。そのため『不思議な映像実験室』で小学生以上を対象としたプログラムを実施する機会が減り、前年度に立ち上げた小学生を対象とした『サタデー・ラボラトリー』に、小学生向けのビデオ機器を使ったプログラムが移行するという現象が起きてきた。もちろんビデオ関連のプログラムが小学生向けで、視覚がん具を取り上げたプログラムが幼児向けというわけではない。今後、幼児から楽しめるビデオを使ったイベントを『不思議な映像実験室』で企画していく可能性はある。

【プログラム構成】

近年の『不思議な映像実験室』の実施形態は、(1) くるくるアニメコーナー (2) 視覚がん具の展示 (3) 視覚がん具のワークショップ——の3つを実施日や期間、場所によって組み合わせて実施している。

「くるくるアニメ」は2枚の絵を描いて作る簡単アニメおもちゃで、幼児から参加できる遊びである。実施環境によってプログラム形態を変えた場合でも、ほとんどの場合に、基本プログラムとして組み込まれている。幼児から大人まで楽しめて、材料費やプログラムにかかる人件費まで含めても、最もコストパフォーマンスのよいプログラムであるため、これに代わるプログラムが無いというのが現状である。

平常期間の第4日曜日は、前記3種類を組み合わせた構成で『不思議な映像実験室』を行っている。平常期間の毎週土曜日の午後には「くるくるアニメ」と、視覚がん具のワークショップとして「ソーマトロップ」を行い、夏休み特別期間には展示と「くるくるアニメ」を組み合わせた『不思議な映像実験室』を実施した。

【「サタデー・ラボラトリーまつり」での“くるくるアニメ”】

年度末の3月に、音楽ロビーで「サタデー・ラボラトリーまつり」を開催。通常は幼児から遊べるスペースとして利用されている音楽ロビーが、小学生以上のコーナーとなってしまうので、幼児から遊べるように、「くるくるアニメ」のコーナーを設けて実施した。



2枚1組の“くるくるアニメ用紙セット”

土曜日などに音楽ロビーで行う「くるくるアニメ」では、これまで厚紙と上質紙の2枚1組の用紙を使ってきた。数年前に印刷業者に発注して数万部作成したものである。しかしそのストックが底をついてしまい、簡易版と呼んでいる、A4判の上質紙を縦に半分に裁断した用紙を使うことにした。

この形の用紙には、絵を描くエリアを間違えると絵が動いて見えないという欠点があり、それを解消しようと作成したのが厚紙と上質紙を組み合わせた用紙セット。絵を描くエリア以外に図柄を印刷して、絵を描くエリアを間違えないようにした。これまでも夏休み特別期間など大量に用紙が必要になる場合にはコストの関係上、簡易版の用紙を使ってきた。しかし、用紙セットにくらべ、子どもの作る作品も失敗が多く、お絵描きコーナー状態になってしまうこともあったので、極力使用をひかえてきた。

今回は、ほかに展示などもなく、「くるくるアニメ」だけのコーナー。欠点があるのを知っていながら簡易版の用紙を使うのは、あまりに忍びない。準備の時間もとれるので、A4判半裁の簡易版の用紙にも、絵を描いてはいけないエリアに簡易印刷機で図柄を印刷してみた。

二つに折って作る関係で、両面印刷しなければならず、作業は少々やっかいである。しかし刷り上がったものを試してみると全ての問題が解決されていた。もっと早い時期に採り入れれば良かったように感じるかもしれないが、昔の簡易印刷機で両面印刷をするとインクが裏写りして使い物にならないという事情もあった。この十数年の間に印刷機の精度やインクが改良されたために、簡易印刷機でこの用紙を印刷できるようになったのである。

この改良型簡易くるくるアニメ用紙でプログラムを実施したところ、以前のような失敗はなくなった。これをきっかけに、以降の『不思議な映像実験室』のメインプログラム「くるくるアニメ」の用紙は、A4判の紙に簡易印刷機で裏表に図柄を印刷し、縦に半裁したものを採用することにした。



A4判1/2の用紙に両面印刷した“改良型簡易くるくるアニメ用紙”

3. 講座・講習会

【夏休み短期講習会】

一般来館児・者を対象としたワークショップとは別に、より複雑で材料費が少々必要となるものを短期講習会『映像科学ワークショップ』として実施した。AV事業部の短期講習会は4年目となるが、本年度は定着してきたためか、充足率も99.8%とほぼ満員であった。

○プラクシノスコープ

鏡に映った絵が動いて見える視覚がん具を制作。本年度はこのコースだけが、小1から保護者なしで参加できるプログラムとなったため、3年目の実施にもかかわらず好評であった。

○ムービーミエール

35mm映画フィルムを見ることができる“簡易フィルムビューア”を作るプログラムをワークショップで行いたいと、以前から検討してきた。『不思議な映像実験室』で映画フィルムに直接絵を描き、アニメを作るワークショップを行っているためである。

ワークショップ会場ではムピオラというフィルムビューアを使って完成品を動かしてみる。しかし、子どもたちには持ち帰った作品を動かしてみる手段がない。ぜひとも子どもたちが自宅で映画フィルムを動かしてみる装置を作りたいと考えてきた。

映画を動かしてみるといっても、その機構は立派な“機械”である。簡便な方式でなんとかフィルムを動かすことはできないかと考えたこともあるが、映画100数年の歴史の中でそんな“びっくりメカ”は存在しない。それなりの装置を作るプログラムを一般来館児・者対応で行うにはコストがかかり過ぎてしまう。しかし、この数年行っている『映像科学ワークショップ』の枠で、材料費を2～3千円かければなんとかなるのでは？ と思い前年度から本格的に試作品の作成にとりかかった。数十個の試作品を経てとりあえず本年度版が完成した。

『プラクシノスコープ』のように昔あった視覚がん具の再現品ではないため、名称もオリジナルで『ムービーミエール』にした。“ムービーが見え～る”と“映画発明者リュミエール”をかけたネーミングである。

講座では、あらかじめ加工したパーツの組み立てと、フィルムへのダイレクトペイントを行った。

○いきもの図鑑

〔こどもの城〕売店でも販売しているペーパークラフトキット『混虫（まぜむし）工場』に、教室限定のパワーアップ版型紙を追加し、その制作行程から、標本箱での飾り方までをたどっていくもの。本年度は、対象テーマを前年度までの“昆虫”から“いきもの”にまでひろげ、昆虫以外

の生き物も扱うようにした。それでも本年度のメインテーマは、“昆虫”のヘラクレスオオカブトムシ。1枚の型紙を切り抜き、折っていくことで、実物大のカブトムシを完成させた。

工作後の物知り講座では、教室で扱った“いきもの”に関連付け、生物の体の構造や、系統図などを、トピックとして取り上げた。

○天体望遠鏡工作教室

基本的な天体観察には十分な性能をもつ望遠鏡「マックロースコープⅡ」を作った。特注品のレンズ以外の材料には、塩化ビニールパイプやボール紙など身近にある材料を使った。

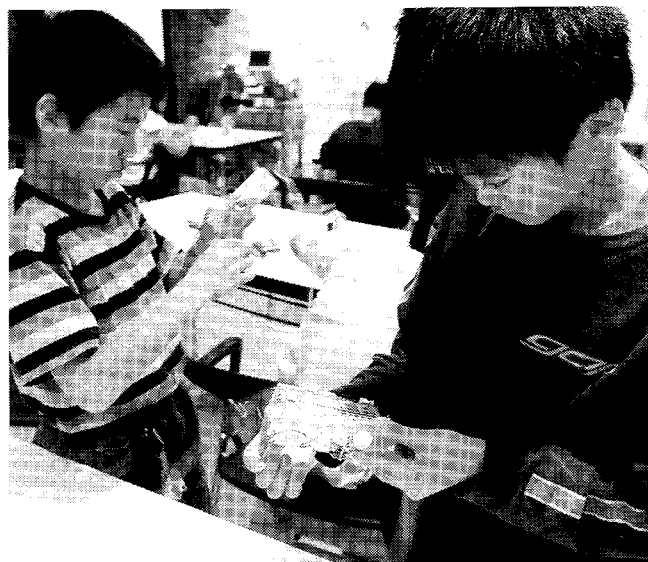
限られた時間内に工作を終えるため、材料にはある程度職員による事前工作や部品化を施した。過剰な部品化は、“ただ組むだけ”のものになり、工作の苦労や喜びを薄めることになる。工程数を減らしつつも、“紙巻き”や“切断”などの“手作り”のエッセンスを残すのに苦労した。

工作後には簡単な天体観測ガイドを行った。とりわけ8月末には、6万年振りに火星が大接近するということもあり、この望遠鏡で火星を見るためのアドバイスも盛り込んだ。

【一般向け講習会・セミナー】

ひろく一般の指導者や教育関係者を対象とした『現代アニメーション講座』を本年度も開催した。本講座は、日本アニメーション学会の協力を得て、同学会の事業と共催することで、著名な講師を招くことが可能になっている。

本年度はメディア・アーティストとして世界的に活躍している岩井俊雄さんを招き、カナダのノーマン・マクラレンについて数作品を分析、現代のメディアとの関連や岩井さんの表現活動との接点などを講演した。学会からの教育機関向けの情宣や、Eメールでの受講者受け付けが効果的



夏休み映像・科学ワークショップ
手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ムービーミエール

サタデー・ラボラトリーのスペシャル・プログラム「体験!! パントマイム」



に機能し、大学生などの参加者も多く盛況であった。

このほか、前年度に引き続き各種一般向けの映像講座・セミナーも実施した。

4. サタデー・ラボラトリー

小学生以上の子どもたちが興味をひろげ、日常にある疑問や不思議な事柄を遊びのなかで体験していくという主旨で、クラフト、科学遊び、映像遊び、室内ゲームなど、さまざまな内容のプログラムを行っている。

初年度である前年度は、以前に実施していたが最近ではあまり行っていない高学年向けのプログラムに、少々アレンジを加えて実施することが多かった。本年度は、新規のプログラムを考えたり、従来のプログラムの内容や実施方法を『サタデー・ラボラトリー』ならではの形式に組み替えるなどして、積極的に活動を展開した。

スペシャル・プログラムとして、12月に「体験!! パントマイム」を実施。パントマイミストのCHiCAさんを講師に迎え、子どもたちがパントマイムを体験するというもの。パントマイムは、身体を使って人や動物のしぐさや動きなどを表す表現だが、子どもたちが実際に体験できる機会は少ない。CHiCAさんは、成人向けのワークショップ実施などの経験もある。その指導経験をもとに、子ども向けのアレンジを加え、手を使って鳥やカタツムリなどを表現する“ハンドマイム”などを中心に、パントマイムを楽

しく体験するプログラムを行った。

このほか、簡単な手品が覚えられる「おどろきマジックの秘密ーてじなの“て”」など、ここで体得した経験を自分で後にほかの場所で披露することができるプログラムや、火おこしの体験をする「“火”を考える」、ビデオカメラの撮影を体験する「ビデオで突撃インタビュー」など、学校や家庭では費用や設備の点で難しい遊びなどを積極的に取り上げた。今後も、子ども自身がじっくりと取り組めるような内容のプログラムの充実に努めたいと考えている。

5. まとめ

現代の子どもたちにとって、映像は生まれたときから身近にあり、空気や水のような存在といっても過言ではないだろう。しかし、日常における映像への接し方を見た場合、そのほとんどがテレビ放送を〈見る〉ということではなかろうか。

確かに、テレビ放送は多くの人々が興味を持つ事柄を取り上げ、タイムリーに情報を送ってくれる便利な存在である。しかし、その特性上、映像の送り手側が年齢・性別・嗜好などの範囲を一方向的に絞り込まざるを得ないという面もある。そこで、AV事業部ではこの点を補完する意味合いから、『ビデオライブラリー』の運営や、子ども向け優良作品の上映といった〈見る〉活動を実施している。

子どもたちは、普段から文章を読んだり絵を鑑賞したりするのはもちろんだが、これらを書く（描く）ことで自己表現をしている。ところが、映像の場合はなぜか〈見る〉ものという観念にとらわれがちとなる。『不思議な映像実験室』では、映像が自己表現のための媒体として優れた特性を持っているのだということを、子どもたちに体感してもらいたいという思いから、日々の活動を行っている。

今後も、子どもたちが“大きな広がりを持つ映像世界に能動的に接すること”そして、それをおし“豊かな感性を養うこと”などに重点をおき事業を展開して行きたい。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなどさまざまなジャンルにわたるビデオソフトが、20,000タイトル網羅されたビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された35のブース（小部屋）で好みのソフトを視聴できる。 (ビデオライブラリー)
走れ！キャスルトレイン～こども鉄道模型 運転会(第17～19回)	4.12～20 7.5～13 10.18～26	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。プラレールの展示もした。 (フリーホール)
不思議な映像実験室 「くるくるアニメをつ くろう」／サタデー・ ラボラトリーまつり	3.20～21	音楽ロビーを2つに区切り、幼児から参加できる「不思議な映像実験室～くるくるアニメをつくろう」と、小学生以上対象の「サタデー・ラボラトリー」(科学遊びのプログラム)を実施。幼児から参加できる“くるくるアニメ”には、2日間で1,000人を超える参加があった。 (音楽ロビー)
おもしろビデオ館	金曜日 15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて作品を選び、上映。 (Bスタジオ)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受付時間)	学校5日制(週休2日)が始まったことを受けて、小学生を対象として始めたプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなど、身近にある“不思議”を体験するさまざまなプログラムを実施。プレイ事業部と共同で主催。 (フリーホールほか)
不思議な映像実験室	土曜日 15:30～17:30	2枚の絵が動いて見える簡単なアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロップ」を作った。音楽ロビーの利用者にあわせて、幼児から参加できるように、かんたんな工作で視覚がん具が楽しめるようにしている。 (音楽ロビー)
わいわいスタジオ「不 思議な映像実験室」	日曜日・祝日(月1～2回) 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ(視覚がん具)の展示とワークショップを行った。展示と、幼児向けのくるくるアニメコーナーは開場時間中は随時参加できるようにしてある。ワークショップ(3種類)は、2時間程度の時間枠を決めて実施。11時30分から「ソーマトロップ」、13時30分から「フィルムに絵を描こう」、15時30分から「ばたばたアニメ」を実施した。 (Bスタジオ)
こどもの城映画劇場	日曜日・祝日(月1回)	フィルム・ライブラリー「武蔵行雄記念文庫」収蔵のNFBC(National Film Board of CANADA)のアニメーション映画などを11時35分/13時35分/14時35分/15時35分の4回上映。 (Bスタジオ)
館内放送テレビ中継録 画	日曜日・祝日、特別期間	Bスタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「こども活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送出手行った。 (Bスタジオ・映像調整室)



走れ！キャスルトレイン～こども鉄道模型運転会

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ふしぎワールドへようこそ～山村浩二作品特集	5.3～5	『頭山』で、第75回アカデミー賞・短編アニメ部門に日本人として初めてノミネートされた、アニメーション作家の山村浩二さんの子ども向けに作られた作品を選んで上映。（Bスタジオ）
〈夏休み〉 ビデオライブラリー 「鳥」特集	7.19～8.31	「鳥」にかんするビデオソフトの視聴促進を目的に行った特集。千葉県我孫子市鳥の博物館から、身近にいる野鳥のはく製を15体借用し、ビデオライブラリー内に展示。あわせて、鳥の名前・特徴などを覚えてもらうため、双眼鏡などを使ったゲームなども実施。（ビデオライブラリー）
〈 〃 〉 第11回キンダー・フィルム・フェスティバル	8.2～10	ドイツのベルリン国際映画祭・子ども映画部門「キンダー・フィルムフェスト・ベルリン」の協力を得て、優れた映画やアニメを紹介する映画祭。ゲストとしてカナダのフィリップ・パイロック監督が来日し、人形映画作りの舞台裏を紹介するトークショーを開催。9・10日は青山円形劇場に会場を移して実施した。（Bスタジオほか）
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	8.6～9.1	視覚がん具の展示とワークショップを実施。展示コーナーは本格的な視覚がん具の再現品から、夏休みの宿題のヒントになるような身近な材料で作れる視覚がん具を展示。ワークショップコーナーは、幼児から小学生低学年を主な対象として「くるくるアニメ」を実施。（Aスタジオ）
〈冬休み〉 ヤムムラアニメーション こどもずかん+アートライブラリー	12.13～H16.1.12	アカデミー賞やアムシー国際アニメーション映画祭グランプリなどに輝いた『頭山』を制作した山村浩二さんの作品世界を体験型の展示で楽しめる展覧会。原画、セル画、人形などを展示し、ワークショップも開催した。造形事業部との共同企画。主催は、こどもの城、ヤムムラアニメーションこどもずかんKit Group。（ギャラリーほか）
〈春休み〉 こどもの城映画劇場 「カナダのアニメーション特集」	3.28～4.5	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」所蔵のカナダのアニメから、表現技法や対象年齢別に18タイトル6プログラムを組んで上映。（Bスタジオ）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
映・造ワークショップ	(人) 小4～高3 (10)	(人) ① 6 ② 4 ③ 5	日曜日 13:30～16:30	造形活動と映像作りを合体させた「映・造ワークショップ」(造形事業部と共同)を実施。アニメーション作りやトリック映像作りなどをおして、映像の動きなどを追究した。 受講料=1・2期(各7回) 17,500円、3期(5回) 12,500円。（造形スタジオ）

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
16mmフィルム 撮影初歩セミナー	(人) 一般(20)	(人) 5	7.19・20 (2日間)	16mmフィルムでの映画撮影入門セミナー。フィルムの取り扱いから撮影技術まで、基礎的な専門知識を習得する講座。ボレックスやアリフレックスなどのポピュラーな16mm撮影機の取り扱いをとおして、フィルムについての基礎知識や露出の計測までを初心者に分かりやすく講義。受講料=10,000円。（Aスタジオ）
アニメーション 「撮影」技術セミナー	〃 (20)	9	7.26・27 (2日間)	アニメ作りでの撮影技術にスポットをあて、カメラや照明機器の選び方とその使用方法などを講義するセミナーと、実際に受講者が短い作品を作るワークショップを実施。受講料=10,000円。（Aスタジオ）

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み映像・科学ワークショップ	(人) いきもの図鑑 小4～高3 (5日間 =2回/日= 計120)	(人) 計115	8.12～16	オリジナル昆虫ペーパークラフト「混虫(まぜむし)工場」に、ヘラクレスオオカブトムシなどのこの講習会限定の型紙を付け加えて行った、実践的なペーパークラフト教室。受講料=1,800円。(Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ムービーミエール 小3～高3 (3日間 =2回/日= 計72)	計 74	8.17～19	35mm映画フィルムを動かして見る簡易フィルムビューアーを作る講座。「ムービーミエール」本体の組み立てと、ビエロがパントマイムをする白黒映画フィルムへのダイレクトペイントを体験。受講料=2,500円。(Aスタジオ)
	天体望遠鏡工作教室 小4～高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 98	8.20～23	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って、天体観察用望遠鏡「マックロースコープ」を作る。受講料=2,200円。(Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ブラクシノスコープ 小1～高3 (7日間 =2回/日= 計168)	計168	8.24～31 (8.27は休み)	映画が発明される前にあった視覚がん具「ブラクシノスコープ」を作る講座。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料=2,200円。(Aスタジオ)

〈専門指導者向け講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
プロフェッショナルビデオ講座「ビデオマンの電気基礎コース」	(人) 指導者・一般(30)	(人) 5	H16.2.21 13:00～17:00	伝送や照明などに関して現場で起こりうるトラブルを検証しながら、ビデオ撮影や機器運用に不可欠な、電気に関する基礎的な知識を再確認するための講座。受講料=10,000円。(会議室)
「VE技術コース」	// (30)	4	2.29 13:00～17:00	アナログ機器に必須なビデオの信号管理と実際の技術を、各種モニターを実際に使用しながら詳細に解説。ウェーブフォーム、ベクトル、ピクチャーの各モニターを受講者が体験使用する時間も設定。受講料=5,000円。(会議室)
DV+ノンリニアの現在	// (60)	7	3.27 18:00～21:00	ビデオで作品を作るときに用いるノンリニア編集のコツや内容に応じた構成などについて解説。講師は、ビデオ作家の浜口文幸氏。豊富な実例や参考作品も披露。参加者は、施設のビデオ担当者、ビデオ業務関係者、学生と多数で、実践的な内容が好評だった。受講料=5,000円。(Bスタジオ)
現代アニメーション講座2004	// (30)	71	3.28 18:00～21:00	指導者・一般向けに、日本アニメーション学会の協力により実施しているアニメや映像にかんする知識をひろめる講座。本年度は、日本を代表するメディア・アーティストの岩井俊雄さんを講師に招いた。カナダのアニメーション作家、ノーマン・マクラレンについての分析を行い、さまざまな実験などをまじえて、現代の映像メディアとの関連を解説。受講料=2,000円。(Bスタジオ)

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
不思議な映像実験室	H16.1.19	映像遊びのワークショップを記録したビデオソフト『不思議な映像実験室』の上映、ソーマトロップ、くるくるアニメ、ピンホールカメラの紹介と、紙工作で作るピンホールカメラの実習を行った。 (岐阜県多治見市総合福祉センター)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
バルテノン多摩 アニメ・ワークショップ	4.1～4 7.22～24, 29	毎年行われているアニメ・ワークショップに講師を派遣。4月1～4日には、かんたんな視覚が ん具作りなどを行う初級コース、切り紙や粘土の人形などでアニメを作る中級コースを実施。 本年度から、夏期に上級コースを設け、16mm映画を作る「映画制作コース」とパソコン・ア ニメを作る「デジタル・アニメコース」を実施した。東京都多摩市バルテノン多摩。
北海道・東北ブロック 児童厚生員等研修会	6.12	映像プログラムを中心にして、科学遊びの観点から、プログラムの実施にさいしてのテーマ設 定や実施方法を解説。実技として参加者一人ひとりが「ソーマトロップ」などの視覚がん具作 りを行った。児童健全育成財団主催の指導者講習会。青森県八戸市。
アニメ制作教室	8.19～21	東京都日野市市制40周年を記念して、地元出身の土方歳三を取り上げ、「新撰組」をテーマに した活動を実施。青少年事業として「新撰組」をテーマにしたアニメ・ワークショップを行い、 講師として協力した。
埼玉県児童厚生員研修 会	10.1	科学遊びの観点から映像遊びのプログラムをとらえ、「ピンホールカメラ」「ライトパノラマ」な どを実習。埼玉県鴻巣市文化センター。
こどもの城児童厚生員 等実技指導講習会	10.23～24	「遊びをアレンジする」をテーマに、映像プログラムがどのように考えられ、形作られ、それが どのような形に変わっていったのかといった実際の活動での変遷を伝え、AVのプログラムを 例に、それをどのようにアレンジして活動に取り入れていくのかといったアイデアをグループ ごとに検討して、発表した。〔こどもの城〕研修室。
あいち健康プラザ「伝 える・伝わる」	11.2～3	愛・地球博の会場設営のため休館している、愛知県児童総合センターのプログラムを他所で展 開する事業が「あいち健康プラザ」で行われていて、その特別企画として「ビデオであそぼう ～しりとりビデオにチャレンジ」を実施した。
フィルムワークショッ プ「ムービーミエール」	11.30	横浜赤れんが倉庫で行われた「ブラッケージ・アイズ」関連企画として、フィルムワークショ ップを実施。ダイレクトペイント、シネカリグラフィアニメーションの制作を行った。映画フィ ルムの再生装置として、夏休み短期講座で制作した「ムービーミエール」を使用。
日本保育協会 地域子育て支援センタ ー指導者研修会	12.5	日本保育協会主催の研修会。指導者を対象とした子育て支援のプログラムを〔こどもの城〕各 部が紹介。AVプログラムは「不思議な映像実験室」と題して、絵が映ったり、動いて見える視 覚がん具作りのワークショップを実施。

〈映像記録〉

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	館内の講座等をビデオ取材しソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくラン ド」(Part 1～3)の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの 各特別期間	〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。 体育事業部「チャレンジキャンプ2003」「スキースクール」(Part 1～1期、同2期、およ びPart 2)/プレイ事業部「ちびっこ冒険団2003」「フェロシップキャンプ2003」「ゆきん こ冒険団2003」/企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール2003」「ジュニア・スプリ ング・キャンプ2004」 同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場で行われた公演・発表会をビデオ記録し、編集の上ビデオライブラ リーで公開。また一部を出演者等に販売。 ◎青山劇場＝自主公演「Quebec a Tokyo ケベック文化週間」 ◎青山劇場＝外貸公演「フコク生命 presents ミュージカル シンデレラストーリー」 ◎青山円形劇場＝自主公演「第1回日韓ダンスコンタクト」「ぼくらのサウンド2004」など20 本 ◎青山円形劇場＝共催公演「ミュージカル・ドリームボーイ」「こどもの城・キリン・ファミ リーオペレッタ とびこむ絵本Ⅲ」など4本

保育研究 開発部



平成15年度の活動

1. はじめに

厚生労働省を中心に、新たな少子化対策として「次世代育成支援対策推進法」が制定され、すべての子育てで家庭への支援、国や地方公共団体が講じる施策、企業などが行う雇用環境整備の取り組み、国民の責務などについて定められた。こうした国の動向を見すえながら、本年度も保育研究開発部は「子ども家庭支援プログラム」の豊かな内容をめざして以下の3つの事業を進めた。

保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳児の遊び場」）、および研修事業（「保育セミナー」「子育て相談研修会・基礎編」「子育て相談研修会・応用編」「子育て支援のニュースレターの発行」）である。

保育事業においては近年、保護者からの保育相談が増えている。定期的に保育に参加している子どもの保護者からが多い。相談内容は、子ども同士のトラブルに親が介入して親同士が気まずくなった、子どもの発達を必要以上に気にしてしまう、集団の中で他の子どもたちとうまくかわれない、今後の教育（幼稚園、小学校）について悩む——などである。

こうした傾向から、親同士の共通理解が必要と考え、特に幼児グループにおいては、定期的に行っている保護者会の席で話し合いのテーマに取り上げてみた。保育者の意図に反して、保護者会には出席するものの親同士が子どものことについて困っていること、悩みなどを率直に語り、本音で話し合うという方向にはなかなかいかなかった。反面、個人面談を希望する保護者が多かった。中には相談するまでもない内容と思われることもあるが、初めての子育てで

自信が持てないでいる親（母親）の話し相手、聞き役としての保育者の役割は大きくなっている、と感じた。

親（母親）の話し相手、聞き役としての役割は、一般来館児・者事業で行っている1、2歳児のための子育て支援プログラム「よちよちクラブ」でも同様である。おおかたの親（母親）は、保育者に話を聞いてもらえたことをうれしく思い、繰り返しプログラムに参加するようになる。

定期的に保育に参加している子どもの保護者との面談の中にも、「よちよちクラブ」で聞く親（母親）からの話の中にも、子育てにおいて深刻な事態に発展することが予測されるものもあり、話の内容によっては小児保健部や専門機関を勧めたり子育て相談研修会の講師にスーパーバイズを依頼したりしながら保育を進めた。

また、平成10年度に続き（社福）日本保育協会の機関誌「保育界」に子育て支援のプログラムの紹介を1年間連載したところ、多くの反響が寄せられた。これを読んだ自治体などから、子育て支援の指導者向けの研修会に講師として招かれ、〔こどもの城〕の事例紹介やワークショップなどを行う機会が増えた。研修会では、現場で子育て支援に従事している保育者や指導員、その他の職員たちから、今抱えている、例えば家族の問題などにどのように対応したらいいのかなど、多くの質問や相談が出されるようになってきた。単に子育て支援のプログラムを紹介するだけではなく、子育て支援の講師として新たな力量が問われだした年度でもあった。

本年度は次世代育成支援対策推進法が制定されたこともあり、〔こどもの城〕で長年行ってきた小・中学生の保育体験ボランティアプログラムの取り組みを重点的に取り上げ、今後の子育て支援プログラムの方向を探ってみたい。

2. 幼児とふれあい、交流する
小・中学生保育体験ボランティア

平成4年9月から学校5日制（当時は月1回）がスタートしたが、それにとまなう社会教育的な役割がスタート以前からさまざまところで論議されていた。〔こどもの城〕の保育研究開発部でも、学校5日制になることでどんなプログラムが考えられるのか模索していた。そこで、平成4年の夏休み特別期間に、試験的に幼児とふれあい、交流するための小・中学生保育体験ボランティア活動を行うこととした。

スタート当初から小・中学生の教育プログラムという性格と同時に、卒業生に対するアフターフォローを強く意識したものであった。

一方、保育事業を利用する保護者から、核家族化とともに異年齢で子ども同士が気軽に遊び、ふれあえる場がめっきり少なくなったという声や「夏休みになったら保育に遊びに来たいな」という小・中学生の子どもたちからの要望もあったことが、プログラムをはじめの直接的なきっかけともなった。

主に定期的に2年間の保育に参加した「幼児グループ」の修了児（小学5年生以上）を対象に行っているが、修了児が友だちを誘うことも多くなり、今では「幼児グループ」修了児以外の子どもたちも参加している。例年、夏休みが近くなると子ども本人からよりも、親からの問い合わせが入ってくるのもこのプログラムの特徴になっている。

例年〔こどもの城〕の夏休み特別期間に集中的に行っているが、本年度は7月22日から8月29日の実質26日間行った。参加人数は20人、延べ人数にすると50人であった。この中には一時的に海外から帰国した小・中学生もいて、子どもたちが異文化を体験する場にもなっている。

(ア) 保育体験ボランティア活動の実際

活動のねらいは、(1) 幼児、小・中学生の双方にとっての異年齢交流体験の場にすること (2) 小・中学生が幼児について体験的に理解することの2点に置いている。



活動記録を作ります（小・中学生保育体験ボランティア）

【小・中学生保育体験ボランティアの一日（3～5歳児保育の例）】

時間	小・中学生ボランティアの活動内容
9:30	〔こどもの城〕へ来る／あいさつ／荷物を置く／身支度／貴重品を受付に預ける／トイレに行く／メモを出してテーブルにつく
9:40	保育担当者から遊びにくる子どもたちの様子を聞く／保育体験ボランティアとしての動き方を教わる（例えば、子どもの目線に合わせる、腰を落として対応する――など）
10:00	子どもたちが入室してくる／保育者のかたわらで親子に「おはようございます」と声をかける／一人ひとりの子どもにロッカーがあることを知る／汽車のおもちゃ、ままごと遊び、ねんど遊びなどをしている子どものそばに行ってみる／「何してるの?」「一緒に遊んでいい?」などと声を掛けてみる／外遊びについていくこともある
11:00	集まりに参加する／子どものトイレについていく（手伝ってあげる）／子どもの名前や人数を知る／子どもたちの集まりで保育体験ボランティアを紹介される／歌、手遊びなどを一緒に楽しむ／水遊び、砂場遊びを一緒にする／安全に気をつける／自分が小さいとき遊んだことを思い出してみる／着替えや手洗いをやさしくみてあげる
12:00	給食の時間／子どもの隣に座って食べる／「いただきます」「ごちそうさま」を言う／子どもの食べる様子をみながら食べる
12:30	給食のかたづけをする／食後はゆったりと子どもに絵本などを読んであげる／好きな遊びをする子どもに付き合う（外遊びに行くこともある）
13:30	帰りの集まり／お帰りの支度を手伝う／絵本、紙芝居、パネルシアターなどを一緒に見る／保育体験ボランティアの感想を子どもたちの前でひとこと言う
14:00	子どもたちと手をつなぎさよならのあいさつをする／迎えに来ている親と会う子どもを見る
14:10	お茶を飲みながら、保育に参加した振り返りを保育者とともにする／活動記録を書く
14:30	終了

〔こどもの城〕の「幼児グループ」修了の子どもたちに手紙を出して、小・中学生保育体験ボランティア活動の参加



一緒に虫の観察（小・中学生保育体験ボランティア）

お兄ちゃんと一緒に遊ぶ（小・中学生保育体験ボランティア）



を呼びかける。参加を希望する小・中学生には、事前に活動に参加するための心構えを記した手引きを改めて送付し、よく読んでから参加するように伝える。手引きの主な内容は、次のような事柄である。

「自分より、はるかに小さい子どもたちの中で過ごすことになります。自分の過去、幼児時代を振りかえってどんなことが思い出されるでしょうか。いろいろなことがあったり、さまざまな人が周りにいたことでしょうか。今度は、あなたがその“人”になります」「小さい子どもたちにとっては、あなたたちはとても大きく頼もしい存在だと映るでしょう。将来、あんな風に大きくなるだろうと思い描くこともできるのです」などの心構えのほか、「できるだけいねいに話し掛けてみましょう。自分から名前を告げるのも忘れずに」などの具体例、さらに当日の服装や持ち物、時間などの注意事項など16項目を詳細に記してある。実際の保育に入る前には再度オリエンテーションを行い16項目を確認している。

こうした手続きを経て本年度保育体験ボランティア活動に参加した小・中学生の活動記録からは、次のようなことが浮かび上がっている。

「保育の場に入っておもしろかったこと、うれしかったことは？」の問いかけに対して、2歳児の保育、3～5歳児の保育の場に参加した小・中学生の多くは「お姉ちゃんと言ってくれた」「子どもたちの方から遊ぼうと誘ってくれてうれしかった」「作った箱をとて喜んで使ってくれた」など自分の存在を認めて、かわりを求めてくる子どもたちに素直に感激している様子がうかがえた。

その反面「困ったこと、気になったこと」では「何を言っているのかわからなかった」「片づけに協力してくれなかった」「叩かれた」「けんかになって怖かった」など、小さい子どもの成長発達について初めて知ることや接することに戸惑いを覚えたと書く小・中学生も少なくなかった。

一方保育者は、小・中学生に対して具体的に子どもたちへのかかわり方を指導しながら活動を進めた。

ほとんどの小・中学生は緊張しながらも一生懸命に子ど

プールへ行こう！（小・中学生保育体験ボランティア）



もとかかわろうという姿がみられた。活動記録にも全員の小・中学生が、来年もまた保育体験ボランティア活動に参加したいと書き込んでいる。

（イ）保育の子どもたちと小・中学生

〔こどもの城〕の保育に参加している子どもたちの家族構成をみると、年々兄弟数も少なくなり一人っ子も多い。保護者が子どもを夏休み期間の保育に参加させる理由の多くも「家庭では母親と2人きりで子どもは退屈になり、母親も（息が）つまってしまう」「近所に友だちがいない、幼稚園が始まるまで遊びに行かせたい」などとなっている。

こうした背景の中での小・中学生とのふれあい遊びとなる。「お兄さん、今日もいるかなー」と楽しみにやって来る2歳児。「お姉さん絵が上手だねー」と素直に小学5年生をほめて、自分も一生懸命がんばって描いている3歳児。中学生に「ごはんを食べた後はぶくぶくしなきゃだめだよ」と言われた3歳児が「わかった、お兄さん。ほくちゃんとするよ」という場面などがしばしば見られた。

また、少々粗削りな小・中学生との遊びも、兄弟がいない子どもや大きい子どもとふれあう機会のない子どもにとっては、わくわくする魅力となっているようである。いずれにしてもふだんの保育では見られない子どもたちの生き生きとした姿が現われてくる。

（ウ）さまざまな年齢の子どもたちが 保育をとおして豊かに育ちあう

今では、保育体験ボランティアのプログラムは、子育て支援を行っている児童福祉施設では珍しいことではなくなっている。しかし、受け入れているボランティアの多くは高校生、中学生であり、保育の場への小学生の受け入れは全国的にも少ないと思われる。

保育研究開発部では以前から、年齢的に幼児に近く、身近な存在である小学生の受け入れを考え、実際に受け入れてきた。対象学年を5年生以上としたのは、理性的な判断がある程度できる年齢ではないかと、プログラムスタート

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
親子遠足（春）	5.10	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士の交流を図る上では保育スタッフの積極的な親へのかかわりも必要と考え、本年度はお弁当を親子の中で一緒に食べた。気軽に会話ができて、親同士、親とスタッフとの親近感が増したと好評だった。代々木公園（渋谷区）、親子105人参加。
親子遠足Part II（秋）	10.4	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族一緒に元気に遊びましょのスローガンのもと、代々木公園（渋谷区）で外遊びのプログラム。さわやかな秋の一日を親子同士楽しく過ごせた。親子147人参加。
保育活動展	H16.1.27～2.11	初めてテーマを設け「こどもよう」とした。例年「幼児グループ」を中心に、「保育クラブ」の2～5歳児の一年間の作品や活動の様子を写真やビデオで紹介している。今回は、この中に保育の中で聞かれる子どもたちの「言葉」を集めて紹介した。保護者以外の一般の来館児・者もほほえましく見学をしていた。手作りの小冊子は好評であるが、作成に時間がかかるなどから、検討課題となった。（ギャラリー）
よちよちクラブ	土曜日 11:00～12:00 13:30～14:30	〔こどもの城〕に来館する1・2歳児の親子のための子育て支援プログラム。年間20回。延べ440組の親子約850人参加。リピーターが増え、「親子教室」「保育クラブ」につながるケースも出てきた。インターネット、雑誌などで知ったという親も増えた。家庭ではできない遊びや親同士のおしゃべり、保育スタッフへの子育て相談など気軽に参加できるのがいいと、親の感想。予約制だが、当日参加が多い。（保育室1）
保育室の一般開放	土曜日 14:00～17:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	1・2歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こどもの城〕に来館する親子に遊べる場を提供した。定期的に遊びに来る親子もいる。こどもの城ボランティアグループが定期的に絵本の読み語りを親子に行っている。（保育室2）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 つくって遊ぼう親子工 房「カード・ジャンピ オン」	5.3～5	使い終わった磁気カード（メトロカード、バスネットカード、テレフォンカードなど）でビヨ ンビオン跳ねる、フィギュアを作った。「パパとママとで愉快的なジャンプ競争してはどうでし ょう」のキャッチフレーズで行った。今回は、入れ替え制にして実施。バスネットカードは丈 夫、加工しやすい、軽いなどのメリットがある。親子で楽しめた。親子233人参加。 （保育室1）
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工 房「いきいきヨットレ ース」	8.15～17	磁気カードを使った「親子工房」第2弾。磁気カードの軽さと水をはじく性質を生かして、水 に浮くおもちゃを作って遊んだ。1枚のカードを縦半分に切る。半分でヨットのボディーやサ ーフボードを作り、残りの半分でそれにつける帆を作った。保育室の机の上に手製の水槽を作 った。実際の水を使ったのは、初めての試み。涼しさが増した。親子同士が知り合いになり、 一緒にヨットを競争させている姿が見られた。親子311人参加。 （保育室1）
〈開館記念〉 つくって遊ぼう親子工 房「よじ・のぼるくん」	11.1～3	磁気カードを使った「親子工房」第3弾。カードに3～5個の小さな穴をあけるだけで、豆の 木に登るジャックのように「ヒキヒキコキコ」と天をめがけて登る「よじ・のぼるくん」。磁 気カード以外の材料は、タコ糸、持ち手（一個）、両面テープ、穴あけパンチ、セロハンテープ、 色紙。親子290人参加。 （保育室1）
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	〔こどもの城〕に来館する1・2歳児の親子が、おもちゃなどで自由に遊べる場を提供した。夏 休み特別期間などは、通常は利用しない初めての親子が多くなる。悩みはおもちゃの傷みが激 しいことなど。 （保育室2）

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4歳児 (11) 5歳児 (11)	(人) 8 11	火～金曜日 10:00～14:00	〔こどもの城〕を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢保育となる。多様な人間関係を体験するため、ボランティアとも遊ぶ。チームで保育を行い活動を深める。プレイ、音楽、AV事業部と連携をして、子どもたちはプログラムに参加した。かかわりの難しい親子への対応は、全職員が共通理解をしながら進めた。親の転勤で途中でやめる子どもが毎年いる。「保育クラブ」に連動している。保育料41,000円、給食費4,800円(いずれも月額)。延長保育を希望する家庭が多い(別途保育料)。
保育クラブ	2～5歳児 (登録数 400)	14 9 (1日 あたり)	月～金曜日(2歳) 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日(3～5歳) 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして利用する会員制の保育活動。日時を選べる。少子化の影響からか、集団遊びへ参加したいとの応募理由が多い。入会のためのガイダンスをビデオで見せ、ていねいに「保育クラブ」の利用の仕方を伝える。家庭環境調査票、児童調査票の提出を義務付けているのは、親とともによりよい子育てを考えることがねらい。保育のほかにイベント、通信の送付、家族プログラムのサービス実施。希望で延長保育(3～5歳児)も受けられる。入会金10,000円、年会費5,000円。保育料として、2歳児1,200円(1時間)、3歳児以上850円(1時間)。昼食代600円、おやつ代200円(1回)。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子教室	(組) 1期 1歳児親子 2期 (各期16) 3期	(組) 16 13 14	月曜日 10:00～12:30 (全10回。 土・日曜日含む)	親子遊びを中心に子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。スタッフの援助で、ほかの親子との交流も図れるようにしている。医学・心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイスもある。父親の参加3回を含む。リピーターの参加者も受け入れた。受講料は35,000円。

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て相談研修会 (基礎編)	(人) 育児相談 担当者 (110)	(人) 93	5.31 10:00～17:00	テーマは「保育所や児童館が行う子育て相談の基本と実践」。春・秋とも「保育行政の動向」(角田雄三厚生労働省保育指導専門官)、「基本的な相談の技法」(山崎美貴子神奈川県立保健福祉大学)の基本講義。秋には「他機関との連携」(大島恭二社団法人全国保育士養成協議会)などについて学習。各回とも〔こどもの城〕子育て相談研修会の企画委員の事例報告を題材に、事例を分析・把握するための手法「エコマップ(環境関係図)」「ジェノグラム(家族関係図)」の書き表し方を学んだ。事例や具体的な説明が多く分かりやすいと参加者には好評。本年度から、参加者の要望にこたえて、研修時間を長くし、10～17時とした。受講料6,000円。 (研修室)
〃	秋 〃 (110)	87	9.6 10:00～17:00	
子育て相談研修会 (応用編)	〃 (50)	38	6.14、10.25、 H16.1.10 14:00～20:00	テーマは「保育所や児童館が行う育児相談とは何か」。スーパーバイザーは、山崎美貴子(神奈川県立保健福祉大学)と山田美和子(元全国社会福祉協議会高年福祉部)の両氏。参加者が持ち寄る事例を中心に、具体的な子育て支援のかかわり方を学んだ。受講料30,000円。 (研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第17回こどもの城保育セミナー 「子どもと生活・家庭と文化 PART V～子育て家庭のよきパートナーになるために～」	(人) 保育関係者など (150)	(人) 99	8.9 10:00～17:00 8.10 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。毎回、児童福祉が現代社会の中でどのような動きとなっているのかを取り上げている。基調講演では、カナダの子育て支援プログラムを紹介、参加者の関心を呼んだ。また、保育行政の動きをトピックスとして取り上げた。参加している各地の子育て支援の実践者は情報交換を交えながら保育の質を確保しながら進める今後の方向性を探った。 【基調講演】 「完璧な親なんていない」 三沢直子（明治大学教授） 【トピックス】 「幼保一元化の試み」 角谷正雄（学校法人金城幼稚園園長） 「認証保育所の実際」 佐藤慧子（東京都認証保育所MOMO家園長） 「我が園と第三者評価」 御園愛子（社会福祉法人みつわ台保育園園長） 【分科会】 「今、大切にしたい保育の質とは」 助言者＝吉村真理子（元東雲短期大学教授） 「苦状処理対応の現状と対策」 助言者＝財前民男（社会福祉法人光明会理事長） 「子どもの健康、子どもの生活」 助言者＝荻野悟郎（こどもの城小児保健クリニック院長） 遠藤幸子（東京都中野区立中町保育園看護師）

3. その他

〈講師派遣〉

名 称	日 時	内 容
スポーツレクレーション教室	6.5、11.19	児童館における小学生の健全育成を図る目的。主催は東京都大田区南雪谷児童館。
〔こどもの城〕における保育の実際	6.26	〔こどもの城〕保育研究開発部の事業の説明と子ども家庭支援プログラムの必要性について43人の学生に講義。保育の実践例をビデオで紹介。ワークショップも加えて学生の関心を高めた。主催は玉川大学文学部教育学科。
たのしい手遊び歌遊び	7.12	児童館で子育て支援にかかわるボランティアグループに、楽しく遊べる手遊び、歌遊びを紹介。一味違う遊びができると好評。主催は埼玉県川越市児童センター。
こどもの造形指導研究会	8.4	習志野市小学校教諭を対象に「廃材を利用したリサイクル作品」のテーマで実技指導を行った。約100人が参加。「目からウロコです」の感想も聞かれた。主催は千葉県習志野市教育委員会。
身の回りの素材・人材で遊ぼう	9.12	生活の中から楽しく遊べる素材を見つけ、保育を豊かに展開する保育士の研修会。約100人が実技を楽しんだ。質問も多く、地方における研修の場の少なさを実感。主催は山梨県甲府市児童家庭課。
子どもと親のふれあいを中心とした親子体操	9.13	子育て支援センターを利用している地域の1～5歳児の親子を対象に親子体操を紹介。主催は社会福祉法人やすらぎの保育園。
子育てを楽しもう～遊びの中からしつけやマナーを学ぶ～	10.3	乳幼児を持つ、地域の家庭を対象に子育て支援の講座。〔こどもの城〕の保育の事例を交えてワークショップを行った。地域で活動する80人の民生委員も後半に参加して、現代の子育て事情について情報交換をした。主催は東京都多摩市民生委員協議会。
3歳児の遊びとその理解・保護者への指導	11.5	3歳児の発達を踏まえて、個々の子どもの成長に合わせた保育展開をするための保育士の現任研修会。公立、民間の認可保育所3歳児担当約100人が参加。既成観念にとらわれない発想の表現や創作は新鮮に受け止められた。熱心な参加者に時間オーバー。主催は宮城県子ども総合センター。
親子教室で運動遊び	H16.1.16	2歳半以上の幼児と親を対象に、体を動かして遊ぶ楽しさを味わってみた。40人の参加者で心地よい汗をかく。主催は埼玉県川越市児童センター。

名 称	日 時	内 容
4、5歳児の造形・表現活動	1.26	現任保育士約100人のための研修会。幼児期の発達を踏まえながらの造形活動。子どもの自由な発想をどのようにとらえ、生かしていくか、保育士の柔軟さも求められるとの感想。主催は宮城県子ども総合センター。
0歳からできる音楽遊び	1.29	地域の0歳の子どもを育てている家庭に、親子でゆったりと音楽を楽しむような工夫をワークショップで紹介し、喜ばれた。主催は東京都江東区子ども生活部。
親子でたのしいふれあい遊び	1.30	心身に障害を持つ子どもとその親に対して、日常的に楽しく遊べる触れ合い遊びを紹介。気軽に参加できるプログラムが少ないと親からの切実な悩みがだされるなど、障害児のための子育て支援のあり方を考えさせられた。埼玉県三芳町立みどり学園。
0、1、2歳児の遊びと保育環境について	2.12	保育士自身が広い分野に目を向け、感性を養うための実践を交えた遊び方や環境作りを習得して、日常の保育に生かすことを目的にしたもの。約30人受講者は、改めて自分達の保育環境を振り返ったとの感想。主催は千葉県市原市児童家庭課。
3、4、5歳児の遊びと保育環境	2.19	保育士のための現任研修。これまでの枠にとらわれずに、感性を養うためのさまざまな試みを紹介。実技は持ち帰ってすぐに保育現場に生かせるように配慮した。主催は千葉県市原市児童家庭課。
2、3歳の遊びと生活	3.15	地域の2・3歳の子どもを持つ家庭に対する子育て支援プログラム。約40組の親子が表現遊びや歌、手遊びを楽しんだ。主催は埼玉県川越市東口児童館。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
ニュースレターの発行	第29号 (7.15) 第30号 (H16.1.15) 第31号 (3.15)	行政、経済界、利用者に関する情報および子育てをめぐる情報、子育て相談研修会の内容の概要などを紹介。児童福祉施設における子育て支援のプログラムの充実が求められてきていることから、具体的な資料の要望が多くなってきている。〔こどもの城〕で行っている「親子工房」の紹介をはじめ、これからの保育所、幼稚園の在り方、次世代育成支援施策等について反響があった。主な配付先は、市長会、見学者、関係所管課。年間講読料2,000円(郵送費、印刷代一部負担金)

小児保健部



平成15年度の活動

1. はじめに

子どもが心身ともに健全に育つよう援助し、保護者への子育て支援を行うことが小児保健部の目的である。そこで、以下の4つを中心に活動をしている。

- (1) 「小児保健クリニック」での診療・相談
- (2) 保護者に対して、グループで行う講座や催しなどの“子育て支援”活動
- (3) “子育て支援”の現場にかかわる専門職への啓発活動
- (4) 活動の成果をまとめるための研究

個々の子どもの相談は、個人的な問題であると同時に、現代社会のさまざまな動向と関連している。一つひとつの相談に対処しながら、社会の風潮や子育ての状況を敏感に察知し、さらに新しい活動や情報提供を考えていくことが求められているといえよう。

子どもはいつか成長し、思春期・青年期を経て大人になり、また次の世代を育てる——このサイクルが人間の歴史（社会）でもある。本年度は、厚生労働省から新たに「次世代育成支援施策」が発表された。

21世紀を迎え、我が国では便利で物の豊かな社会を実現した反面、育てる大人は子どもの気持ちをくみ取る感性を失いかけている。子どもも生活の基本となる睡眠や食事などが乱れる傾向があり、豊かさの“副作用”が、大人にも子どもにも目立ってきているように思える。親世代（大人）の人間的な感性・判断力を養いながら、健全な子育てを応援することも必要となる。

男女を問わず、社会的に自分自身を成長させていくことも大切だが、次世代をになう子どもたちの育成にも関心を

持ってもらいたい。子育ての楽しさ、子どもたちとのふれあいなど、さまざまな経験をとおして人生を豊かなものにしていくことが大切ではないだろうか。急速な少子化が進むなか、積極的に次世代の育成を考える社会へと変化していくことが必要であろう。

小児保健部も、次世代育成を視野に入れた“子育て支援”の活動が求められているといえる。

2. “子育て支援”事業

本年度は、「親と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」を音楽事業部に移管し、新たに「親子のほっとタイム」という少人数グループの子育て支援の講習会を開始した。

「親子のほっとタイム」は、平均70～80組の一般来館の乳幼児親子が集う「赤ちゃんサロン」と個別に行う診療・相談の間に位置付けた、定員10組の少人数による子育ての話し合いの場である。対象は3～10か月の乳児と保護者。3日間コースで、1回ごとに「健康管理」「食生活」「発達や親子関係」をテーマとし、保健師・看護師、管理栄養士、臨床心理士が保護者の輪のなかに入って、子育ての疑問に答えている。

参加者同士が互いに語り合うことで、単に知識を身につけるだけでなく、自分なりの子育ての判断力や感覚を養ってもらおうというものである。本年度は、3回行い、毎回5～6組の参加があった。乳児は会場に慣れたところで職員が相手をし、参加の親たちには子どもと別コーナーで率直に疑問に思うことや考えていることを話し合ってもらった。参加者募集の広報の方法など課題はあるが、こうした小グループでの経験も重ねながらさらによりよい“子育て支援”のあり方について考えていきたい。



本年度からスタートした「親子のほっとタイム」

小児保健部の“子育て支援”活動は、平常期間に行っている、妊婦対象の「マタニティ・スイミング」、乳幼児と保護者対象の「赤ちゃんサロン」「離乳食講座」「親子のほっとタイム」、年1回の催し「マタニティ・コンサート」「マタニティ・スイミング同窓会」「赤ちゃん大集合」という形になった。個別の支援では「小児保健クリニック」による乳幼児健康診査や診療・相談を行った。

指導者対象の講習会は「小児保健セミナー」「子育て支援講習会」を開催した。「小児保健セミナー」は『かむということ～口の役割・食行動から攻撃まで～』というテーマで現場で対応に苦慮しがちな具体的な問題を取り上げた「子育て支援講習会」も最新の小児保健の知識を学ぶという主旨で、どちらも希望者が多く、高い評価を得た。

本年度は、これまで小児保健部が行ってきた「マタニティ・コンサート」と「赤ちゃんサロン」を組み合わせた「妊娠中の女性と乳幼児を持つ母親のための子育て支援事業」を独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて年6回全国で



「マタニティ・スイミング同窓会」

開催した。企画研修部がその運営の中心にあたったが、小児保健部も協力した。

3. 診療・相談活動

(ア) 統計にみる診療・相談の特徴

表1は、平成15年度の診療・相談件数の統計である。診療（予約制・健康保険扱い）の総件数は1,321件で前年度より251件も増加した。医師の診療枠はほぼ前年と変わっていないが、診療の延べ件数の増加がみられたのは、前年度マスコミで「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」が紹介され、肥満を主訴に継続的に通院する人が増えたためである。

肥満の栄養相談は、前年度より140件も増加している。一方、健康診査（公費）やダウン症療育相談の件数は変わらず、心理・発達相談は50件減少したが前年度が多かったものでやむをえないところである。

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療	110	105	130	130	106	95	121	92	89	125	112	106	1,321
健康診査（公費）	10	13	10	10	8	6	14	10	11	7	6	13	118
健康診断（自費）	5	0	20	21	3	3	2	1	1	1	5	0	62
育児・健康相談	0	1	0	0	0	2	1	1	3	0	0	1	9
心理・発達相談	142	122	131	113	109	98	104	132	120	98	115	111	1,395
ダウン症療育相談	7	10	7	7	10	6	5	6	9	9	7	5	88
合計	274	251	298	281	236	210	247	242	233	240	245	236	2,993
内 初 診（新規）	28	27	36	41	32	23	28	38	25	22	22	33	355
再 診	246	224	262	240	204	187	219	204	208	218	223	203	2,638

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	港区	大田区	練馬区	その他23区	市郡部	計	神奈川県	埼玉県	千葉県	その他	計	合計
人	76	30	27	23	14	103	24	297	34	11	10	3	58	355
(%)	(21.4)	(8.5)	(7.6)	(6.5)	(3.9)	(29.0)	(6.8)	(83.7)	(9.6)	(3.1)	(2.8)	(0.8)	(16.3)	(100)

【小児保健クリニック初回来所時の年齢内訳】（表3）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12～17歳	18歳以上	合計
人	55	50	26	21	20	27	27	24	21	17	26	13	23	5	355
(%)	(15.5)	(14.1)	(7.3)	(5.9)	(5.6)	(7.6)	(7.6)	(6.8)	(5.9)	(4.8)	(7.3)	(3.7)	(6.5)	(1.4)	(100)

【新規来所者の診療・相談内容別内訳】(表4)

内	容	件 (%)
発達 の 相 談	学習障害・注意欠陥多動性障害(疑いも含む)	38 (10.7)
	精神遅滞(疑いも含む)	20 (5.6)
	言語発達遅滞(疑いも含む)	18 (5.1)
	自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)	8 (2.3)
	ダウン症、その他先天異常	4 (1.1)
	小 計	88 (24.8)
身 体 的 ・ 心 身 症 的 な 相 談	肥満・肥満と心理的な問題	48 (13.5)
	心身症(脱毛・チック・吃音など)	14 (3.9)
	身体疾患(扁桃腺肥大・血管腫など)	6 (1.7)
	夜尿症・遺尿・頻尿など	6 (1.7)
	アレルギー疾患・湿疹・ぜんそくなど	3 (0.8)
	小 計	77 (21.7)
情 緒 ・ 行 動 面 の 相 談	情緒障害・情緒不安	44 (12.4)
	神経症(強迫神経症・恐怖症など)	8 (2.3)
	育児不安(夜泣き・指しゃぶりなど)	7 (2.0)
	不登園・不登校	4 (1.1)
	集団不適応	3 (0.8)
	小 計	66 (18.6)
合 計		231 (65.1)
健 診	健康診査(公費)	84 (23.7)
	健康診断(自費)	40 (11.3)
	小 計	124 (34.9)
総 計		355 (100)

新規来所者の件数は、323件から355件に32件増加した。医師による診療は例年300件前後であるが、大幅に多くなった。内訳は約3分の1が健康診査・健康診断である。新規来所者の増加は、保育研究開発部の子どもの健診受診者が増えたためであったと思われる。診療・相談は前年比で8件の増加であった。

新規来所者の診療・相談の内容内訳(初診時の診断の分類)では、「発達についての相談」がいちばん多く、次いで「身体的・心身症的な相談」「情緒・行動面の相談」の順であった。前年度と比較すると、「情緒障害・情緒不安」が17件、「心身症」が8件、「学習障害・注意欠陥多動性障害」が5件増加した。「肥満・肥満と心理的な問題」は48件といちばん多いが、増加は3件である。一方「不登園・不登校」は12件、「集団不適応」は5件減少した。

最近の傾向としては、「不登園・不登校」が減り、「学習障害・注意欠陥多動性障害」ではないか、という訴えで受診する人が増えているのが特徴である。しかし初診の診断では、早期から情緒発達になんらかの問題をかかえている「情緒障害・情緒不安」と診断されることが多いようだ。子どもの行動が気になる時、以前は“情緒的に不安定なのではないか”と思う人が多かったが、最近は“発達障害ではないか”と心配する人が増え、当クリニックに診断を求め

て訪れる人が多くなっているといえよう。

(イ) 診療からみえること～小児科医師の立場から

小児保健クリニックは予約制で、小児科医の初診は急性の病気は診療せず、時間をかけて相談ができる体制をとっている。そして、医師のほかに保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が連携して医学と心理学の両面からかかわることが特色となっている。

週1回診療を行っている医師の視点から、小児保健クリニックの診療風景を紹介したい。

【小児科医の視点で(稲井郁子)】小児保健クリニックの診療の特徴は「1人にかかる時間が長い」「病院らしくない」の2点に集約される。通常の乳幼児健康診査(以下健診)でも、完全予約制で1人30分の時間をとり、また初めての相談は小児科医が1時間かけて話を聞いている。一般の小児科外来で、健診や診療にこれだけの時間をかけることはまず不可能なので、その点が大きな違いとなっている。

また、「こどもの城」という“子どもの遊び場”の一角にあるため、病院というイメージがなく、「入りづらい、行きづらい」といった抵抗感がないということも好評のようだ。そのため、診療をしていると一般の小児科外来ではおおよ見られないような一面を、しばしば目にすることがある。その意味では、小児科診療の“手の届かないところ”に携わっているといえるのかもしれない。

乳幼児健診には、主に「こどもの城」周辺地域の子どもたちがやってくる。待たずに、しかもゆっくり健診が受けられるので、リピーターも多くなってきた。

通常の健診では、ゆっくり時間をかける分いろいろな質問が出てきて、今の子育てがよく反映されている。なかでもいつも気になるのが“マニュアル”を求めてくること。飲ませるミルクの量からはじまって、着せる洋服の枚数、部屋の温度にいたるまで、細かに質問してくる。“数字”の答えがないと不安のようだ。本当は、子どもの様子に合わ



小児科医師による診療(「こども一日ドッグ」)

せて親が調節することが大事なのだが、それができない。

一方、育児雑誌などでいろいろな“マニュアル”が氾濫していて、その内容のとおりになっていないことでさらに不安がつのったり、混乱したりする。誰にも相談できずに「子育てが思い通りに行かない、楽しめない」という悩みを抱えてしまっている親の姿が浮かび上がってくる。「肩の力をぬいて、もっと楽にいこうよ」と声を大にして言いたくなる。

健診以外で受診してくる子どもたちの主訴の多くは「発達の遅れ」「学校や幼稚園などでうまくいかない」など。ここでも現代の世相が浮き彫りになっている。

多くは保健所や学校などから受診を勧められて来所するが、最近はマスコミやインターネットの情報で受診するケースが急増している。特に多いのが「自閉症ではないか?」「注意欠陥多動性障害(ADHD)ではないか?」「学習障害(LD)ではないか?」という相談である。これらの病名がテレビなどで取り上げられた直後に、相談の申し込みが増加している。

相談に来た親のほとんどがインターネットなどを利用して病気の情報を集めてきて「インターネットに出ているチェックリストにうちの子の症状があてはまる」と訴える。受診の時点で親が診断していて、それを確認にきた、といった雰囲気になっている。

聞いてみると、本当に家でも学校でも対応に困っていて、早急に何らかのサポートが必要なケースもあるが、一方では、インターネット上の断片的なキーワードだけで“病気”と思い込んでしまっている親が増えているというのも現状である。

本来、自閉症(広汎性発達障害)やADHD、LDなどの

診断は検査だけでつくものではなく、生育歴や家庭環境なども含めて総合的に判断するものである。「多動があるのでADHDだと思う」(2歳)、「目を合わせないことがあるので自閉だと思う」(生後7か月)など、その年齢では一般的な行為で“病気”とは考えられないのに、キーワードが独り歩きしているケースが目につく。情報が氾濫しているなかで、親子でおぼれかかっている状態になっているようで、とても心配である。正しい情報を責任もって発信する大切さを痛感させられている。

〔こどもの城〕小児保健クリニックで対応しているケースの数はほんの少数だが、一般の小児科外来ではなかなかつかめない“手の届かないところ”をとらえていると思う。子どもに関する問題が深刻になっている現在、この“手の届かないところ”に光をあてて情報を発信していくことは当クリニックの重大な任務だと思っている。

4. まとめ

小児保健部の“子育て支援”の中心は、ていねいに時間をかけて行う「診療・相談」である。そこには現在の社会の様相が現れているといっても過言ではない。今回はそれを診療に携わる医師の視点から詳しく紹介した。診療件数も増加し、医師の診療のほか、栄養相談や心理相談にも定期的に通う親子が多く、常にフル活動している状態といえる。

本年度は新しい「親子のほっとタイム」という子育て支援活動のほか、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて行った「妊娠中の女性と乳幼児を持つ母親のための子育て支援事業」(担当＝企画研修部)で全国に出かける機会もあり、新たな方向性を模索する1年でもあった。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理相談 発達相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00	診療・相談はすべて予約制。小児科医師・看護師・保健師・臨床心理士・管理栄養士が診療・相談にあたる（週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む）。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は相談料1回5,000円。心理・発達相談は担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接入る場合の初回相談料7,000円、専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。
※専門相談 ダウン症療育相談	日曜日・金曜日(各月1回)	専門医が担当。
赤ちゃんサロン	火曜日(年18回) 12:30～14:00	対象は3か月～1歳半の乳幼児とその保護者、妊婦。参加者同士の自由な交流（井戸端会議）の場で、育児情報の交換や、医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士による育児相談が行われる。本年度は延べ2,614人が参加した。入館券対応。（音楽ロビー）
第11回マタニティ・スイミング同窓会	5.28 13:30～15:00	乳児(2歳未満)のいる、「マタニティ・スイミング」の卒業生(母親)を対象とした同窓会。小児科医師のトークや体育事業部スタッフによる親子体操を行い、久しぶりに会った仲間と語り合い、楽しいひとときをもった。58組116人が参加。（研修室）
第18回マタニティ・コンサート	7.6 15:00～17:00	妊娠によって生活に制約を受けがちな妊婦に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。ソプラノ（大森智子）・ピアノ（田村緑）の歌曲の演奏に、やなせたかしの詩「愛する歌」の朗読、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。このほか、野末源一医師（山王病院産婦人科）と荻野悟郎こどもの城小児保健クリニック医師のメディカル・トーク、体育事業部スタッフによるリラックス体操などを行った。公募、無料招待。251人参加。劇場事業部との共同事業。（青山円形劇場）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈開館記念〉 第10回 赤ちゃん大集合 ～赤ちゃんサロンス ペシャル～	10.29 10:30～15:00	企画研修部主催の全館行事。対象は3か月から2歳未満の乳幼児と保護者。小児保健部は9階研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で「小児科医トーク」や「井戸端会議」（そのなかで子育て相談）を行う。また8階で育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」を開催。他の事業部もそれぞれ「手遊び歌遊び」「すくすく体操」「ピヨピヨパーク」「パネルシアター」「子育てビデオ特集」「みんなのここに広場」などを実施した。参加者は500人(250組)。（研修室ほか）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉 第20期	(組) 太りすぎの 小学生とそ の親(20)	(組) ① 22 ② 21 ③ 21	土曜日 14:00～17:00	太りすぎの改善のために医学指導(東京女子医科大学附属第二病院小児科医師)・栄養指導(和洋女子大学家政学部栄養学助教授・講師)・体育指導(水泳と体育を交互に)を行う。保護者向けレクチャー(栄養、体育、心理の年3回)、親子で屋外活動(スケート、フィールド・アスレチック、都内ウォーキングの年3回)、新潟県グリーンピア津南で夏合宿(8.4～6)なども実施。体育事業部との共同事業。 受講料1・2期(12回) 22,000円、3期(9回) 18,000円。（体育室／プールほか）

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週 以降の妊婦 (35)	(人) 4月:18 5月:23 6月:24 7月:30 8月:31 9月:29 10月:26 11月:25 12月:17 1月: 9 2月:11 3月:12 (計255)	火・木曜日(月7回) 11:00~12:00	水泳という活動をととして、妊娠中を心身ともに健康に過ごすことを目的としている。母になる人々の友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師とスタッフが担当。年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金10,000円、月謝12,000円。 (プール)

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(組) 5~15か月の乳児とその親(10)	(組) 5月: 3 7月: 8 9月:10 11月: 0 1月: 4 3月: 4	木曜日(隔月) 13:30~14:30	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合い、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。 受講料2,000円。 (小児保健部ブレイルーム)
親子のほっとタイム	3~10か月の乳児とその親(10)	6月: 6 9月: 5 2月: 6	木曜日(3日間) 13:30~14:30	1コース、3日間。健康管理・食生活・発達や親子関係のテーマについて、親同士の輪に小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなど話し合う。話を聞いたり、正しい情報を得ることで、不安を解消し、子育ての自信をつけることが目的。受講料3回で5,000円。 (小児保健部ブレイルーム)
こども1日ドック	小・中学生(10)	9	7.23 12:00~17:30	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。医師による診察、尿検査、血圧測定、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、心理検査、体力測定の結果に基づいて診断・指導を行う。受診者は9人。料金10,000円。 (小児保健クリニックほか)

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第18回小児保健セミナー「かむということ〜口の役割・食行動から攻撃まで〜」	(人) 保育士・保健師・養護教諭・児童館職員など子育て支援の専門家 (100)	(人) 130	12.6 10:00~17:00	子どもたちの食事のとり方が変化し、口の機能がうまく発達しない現象があるといわれている。集団生活での“かみつ”などの問題行動が、心の発達とからめて話題になることが多い。かむということをもテーマに「動物にみる口のはたらき〜かむことの原点」(中川志郎茨城県自然博物館長)、「口にまつわる子どもの行動と心の発達」(室田洋子聖徳大学教授・臨床心理士)、「食べたり飲んだりするはたらき」(向井美恵昭和大学歯学部教授・小児歯科医師)の講義で、口腔機能の発達や心の発達との関連を学んだ。受講料8,000円。 (研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て支援講習会 (第3回) 「最近の小児保健の 基礎と実際～心と からだの健康～」	(人) 保育士、保 健師、児童 館職員など (40)	(人) 55	H16.2.13・14 10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「子どもの成長と発達」のほか「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「赤ちゃんサロン」の事業説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育士、保健師、児童館職員など全国各地から中堅の職員が多数参加した。受講料 15,000 円。(研修室)
小児肥満のための 指導者講習会(第 33回)	養護教諭、 栄養士、保 健師、保育 士など (50)	30	3.12・13 10:00～17:00	2日コース。全国から肥満児の指導について学習したい養護教諭・栄養士らが集まった。「肥満の判定と指導」(村田光範和洋女子大学教授・小児科医師)、「肥満改善のための食事・栄養指導」(坂本元子和洋女子大学教授・栄養学)、「肥満児の運動指導・実技紹介」(羽崎泰男こどもの城体育事業部長)、「肥満の子どもの心理的理解と対応」(井口由子こどもの城小児保健部長)。最後に、情報交換の場を持った。受講料 20,000 円。(研修室・体育室)

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	5.16	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。発達などについて親向けのトークを行った。(東京都足立区子ども家庭支援センター)
〃	7.1	親子向けの体育プログラムに保健師が同行。親向けに季節の健康面でのアドバイスなどトークを行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。(栃木県河内郡南河内町立児童館)
〃	11.10	親子向けの体育プログラムに保健師が同行。親向けに季節の健康面でのアドバイスなどトークを行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。(滋賀県栗東市葉山児童館)
〃	H16.1.10	親子向けの体育プログラムに管理栄養士が同行。「赤ちゃんサロン」の経験から親同士の交流の場に援助者が加わって相談を受ける方法を実際に行った。午後は職員向けに研修会を行った。(兵庫県神戸市中央区児童館)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
神奈川県藤沢市教育委員会 相談指導教室研修会	5.15、7.17、10.23、 H16.2.20	不登校の児童・生徒の相談・指導にあたっている教職員の研修会に、定期的に臨床心理士が出向いて、助言・指導を行った。(神奈川県藤沢市教育委員会相談指導教室)
(財)母子衛生研究会 マタニティひろば～ハ ロー赤ちゃん	月1回(水曜日・午後)	妊婦対象の教室で「妊娠中の栄養の話」(管理栄養士)と「妊娠中の健康管理について」(看護師)のワンポイント・アドバイスをを行った。(こどもの城研修室)
こども未来DAY 2003	5.10	こども未来財団主催の一般保護者向け“子育て支援”イベントの救急対応担当として看護師が派遣された。(東京都日比谷公園)
東京都世田谷区民部 3・4歳児子育てセミ ナー「親子関係のあり 方」	6.18	幼児を持つ保護者に対し、臨床心理士がグループ・ワークを交えて、親子のコミュニケーションの持ち方について講習を行った。(太子堂地区センター)
高知県教育センター道 徳性の芽生えを養う保 育の実践	8.28	教職員研修会で、道徳性の芽生えを育む幼児期の子どもへの係わり方などについて臨床心理士が講演を行った。(高知県教育センター)

名 称	日 時	内 容
愛媛県健康増進センター「肥満の子どもの心理的理解と対応」	6.8.28	小児保健関係の職員（保健師・養護教諭など）を対象に肥満の子どもの心理的側面の理解と対応について臨床心理士が講演を行った。 (愛媛県健康増進センター)
鹿児島県保育連合会給食担当者研修会「乳幼児の食生活を考える」	9.18・19	鹿児島県の保育所給食担当者を対象に、管理栄養士が最近の乳幼児の食生活と食事のあり方について講演を行った。鹿児島県保育連合会給食担当者研修会。 (鹿児島市城山観光ホテル)
韓国美術治療学会「大震災に被災した幼児の絵画にみる、心の混乱と成長」(学術講演)／「子どもの相談―描画による心理査定と遊戯療法」(ワークショップ)	10.30・11.1	臨床心理士が、大震災後の援助体験から、被災した幼児の絵画に現れる心の変化について講演した(慶山・嶺南大学校)。また、韓国・日本・アメリカの国際ワークショップで、描画を用いた子どもの心理査定と引き続く心理療法の実践について、実習を交えた講義を行った。 (慶州・コーロンホテル)
(社福)日本保育協会子育て相談推進セミナー「食生活に関する相談のすすめ方」	11.3	広く地域にも視野を広げて子育て相談をすることが保育所の機能として求められてきている。その際の食生活に関する相談のすすめ方について管理栄養士が分科会で助言を行った。 (こどもの城研修室)
韓国同徳女子大学校「早期教育国際セミナー」	11.30～12.2	我が国で早期教育の是非について論議されているが、韓国やアメリカなどにおいても同様に社会問題となっている。この韓国・日本・アメリカの国際セミナーに小児科医と臨床心理士が参加し、実際に早期教育を受けた子どもの報告、並びに統計的な調査結果の報告を行った。 (ソウル・同徳女子大学校)
(社福)日本保育協会子育て相談推進セミナー「食生活に関する相談のすすめ方」	H16.1.11	保育所が地域にむけて子育て相談を行うことが求められている。その際の食生活に関する相談のすすめ方について管理栄養士が分科会で助言を行った。 (大阪国際交流センター)
(社)岐阜県民間保育園連盟乳児保育研修会「0・1・2歳の子どもの心身の発達と健康」	1.13	岐阜県の民間保育園で乳児の保育を始めるにあたり0・1・2歳の子どもの発達について学ぶ研修会で臨床心理士が講演した。 (岐阜市ウェルサンピア岐阜)
児童環境づくり愛知県民講座「みんなで子育てを考えよう！」	2.15	乳児を持つ家族を対象に、子育ての原点について小児科医が講演。年齢ごとにグループに分かれてそれぞれに問題を出してもらい、小児科医師と臨床心理士が相談を行った。 (あいち健康プラザ)

＜妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業＞

名 称	日 時	内 容
盛岡市ふれあいランド岩手 (岩手県)	9.15	独立行政法人福祉医療機構・子育て支援基金からの助成を受けて実施された事業。地元の子育て支援関係のNPO法人や市民グループ、自治体などの協力を得て、妊娠中の女性と夫の参加する「マタニティ・コンサート」と乳幼児とその保護者の参加する交流の場「赤ちゃんサロン」を同時に実施し、妊婦にも乳児にふれる体験をしてみようとの主旨で企画された。地域で妊娠中からの子育て支援事業を奨励する目的。企画研修部が運営にあたり小児保健部が協力して行った。毎回、臨床心理士・管理栄養士が交代で参加し、主に「赤ちゃんサロン」の実施と地域の援助者を対象に行った「子育て支援研修会」の講義を担当した。
越谷市中央市民会館 (埼玉県)	11.1	
大野城市まどかぴあ (福岡県)	11.24	
山形市遊学館(山形県)	12.13	
おきのえらぶ文化ホール あしびの郷・ちな (鹿児島県)	H16.1.25	
交野市保健福祉総合センターゆうゆうセンター (大阪府)	3.13	

企画 研修部



平成15年度の活動

1. はじめに

本年度も、「企画部門」と「研修部門」の2部門において事業とそのとりまとめを行った。

企画部門では、「こども活動エリア」での一般来館児・者を対象とした事業、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、ギャラリーや研修室を使用した外部関連団体との協力事業などを実施している。また、国庫補助事業〈動くこどもの城〉の事務局、全国の児童館などの情報の収集、インターネットを利用したホームページの運営のほか、全国レベルでの子育て支援に関するモデル事業を行う助成金事業について各部と協力して実施した(助成金事業については「こどもの城から全国へ」=127ページ=の項参照)。

研修部門では、ボランティアの養成と日常活動のコーディネートほかに、夏休み・春休み特別期間の野外活動、高校生の社会参加を目的としたグループ活動(L. I. T.)、児童厚生員などを対象とした実技指導講習会、手話講座などの企画運営にあたった。

(ア) 事業全体のとりまとめ

企画部門での中心的な業務は、劇場部門を含めた複数の事業部にわたる事業調整にある。この事業調整の基本になるのが、「事業計画書」および「事業報告書」のとりまとめ、事業内容をまとめた小冊子『こどもの城事業と運営』の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめ、日常的なものでは週間事業予定表や週末や特別期間の館内掲示用事業予定“デیلیー版”の作成などである。

変更の見落としや場所の調整など、細かい点での注意不

行き届きを指摘されることが多かった。[こどもの城]の外部に働きかける事業の増大とともに、こうした基本業務の機能についての点検がおろそかになっていることは見直していきたい。

(イ) 来館児・者を増やすために／ 学校週5日制への対応

来館児・者数の増加を図るために、春休み特別期間の新1年生招待(渋谷・港・目黒・世田谷の4区)、年間をととした小学校開校記念日の全児童招待(渋谷・港の2区)を本年度も継続して実施した。

新1年生招待用に、4区の幼稚園・保育所に招待券付きちらし合計10,000枚を送付。342件の利用があり、回収率は3.6%と前年度(3.5%)を若干ながら上回った。開校記念日の招待券回収率は、渋谷区10.0%(昨年度8.1%)、港区11.5%(昨年度7.2%)とあがってきている。

このほか、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間に渋谷・港・目黒・世田谷4区の公立小学校に全児童分のちらしを送付。土曜日招待ちらしも同封した(ゴールデンウィークを除く4月12日～7月12日の土曜日有効・合計127校約47,000枚)。夏休み特別期間には、23区と三鷹・武蔵野市の小学校、幼稚園、保育所、児童館(合計約52,000枚)に、冬休み・春休み特別期間には渋谷・港・目黒・世田谷4区の公立小学校に全児童分のちらしを送付した。

近隣への案内も長期的に見ると、児童数減少の影響は否めない。こうした招待を始めた平成7年当時に比べ、渋谷区内の小学生数は1,000人以上減少している。とはいえこうしたマクロ的な案内の重要性は変わりなく、今後も効果

的な案内を心がけていきたい。

前年度からはじまった学校週5日制に対応するための土曜日プログラムの充実と「小・中学生 土曜日パス」の制度は本年度も継続。「小・中学生 土曜日パス」の販売数は68枚と半減した。近隣4区の小学生への土曜日招待の来館児・者数は110人と初年度の勢いを維持することができなかった。

優待パス類の売り上げは、平日の大人用「平日ゆうゆうパス」245枚（前年度238枚）、夏休みフリーパスの子ども用「ドキドキパス」130枚（前年度142枚）、おとな用「わくわくパス」133枚（前年度142枚）で前年度とほぼ同様の売り上げがあった。

(ウ) グループ活動

受け入れ件数は、160団体3,260人。本年度も件数、利用者ともに過去最高を更新する結果となった。年間100件以上の利用が続く状況は、結果的には満足する数字を残しているといえる。しかし問題点まったくないわけではなく、新規プログラムの開発が進まない、年度末への利用の集中、養護学校・保育所・幼稚園への利用のかたより、新規活動紹介ビデオの制作ができていないことなど、解決されていない問題も多い。

(エ) 動くこどもの城

※「こどもの城から全国へ」（127～134ページ）参照。

(オ) こどもの城友の会

「こどもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、〔こどもの城〕の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織で、本年度も別表のように一般の催しへの優待や友の会独自の催しを行ってきた。

会員のための会報「こどもの城友の会通信」を12回発行し、本年度末で通巻84号となった。毎回、会員から「こどもの城で行われるイベントやお芝居などの優待・招待情報がとても充実していて読みごたえがある」「いろいろな子育ての意見が聞けて、心の支えになる」などの意見が寄せられている。「こどもの城ニュース」（年11回）、講座募集や催しの案内なども会員あてに、毎月1回ダイレクトメールを発送した。

会員数は1,238家族で、残念ながら依然として減少傾向にある。友の会会員は〔こどもの城〕のよき理解者であるだけでなく、モニターの機能を持ち、一般客に対するPRを担い、集客効果のある大切な組織である。外部協力の映画試写会などからめて新規入会キャンペーンを実施したり、特別プログラムの実施・招待、〔こどもの城〕の催し・劇場公演の優待など対策をとっているが、加入率よりも非継続率が高く、現在も苦戦している。

(カ) 〔こどもの城〕ホームページの更新

平成15年3月に全面的な改定を行い、情報量も従来の

【「こどもの城友の会」の活動】

プログラム名	日 時	内 容
特別試写会招待(新規入会キャンペーン)	11.16 (10.26～11.3)	映画『飛ぶ教室』特別試写会を恵比寿ガーデンシネマで実施。定員約200席(満席)。新規入会も23家族あった。協力＝メディア・スーツ、アドクリエーツ。
特別試写会招待	H16.2.27	映画『ブラザー・ベア』特別試写会をブエナビスタ試写室・六本木で実施。25組50人参加(満席)。協力＝ブエナビスタインターナショナルジャパン、新通。
催し招待など	通年	2003イタリア・ボローニャ国際絵本原画展(外部提携・板橋区立美術館)／ブロックであそぼう!ロボットコンテストに挑戦(優先予約)／えいごとともだちアルクのabc(外部提携・ビデオ英語教材プレゼント)
劇場公演などに招待・優待	//	以下の公演に抽選で招待。(青山＝青山劇場／円形＝青山円形劇場) KOUSKY人形と音の不思議空間(円形)／ル・シャルム～魅惑あふれるレディたち～(青山)／月猫えほん音楽会2003(円形)／フコク生命ミュージカルシンデレラストーリー(青山)／クリスマスの贈物(青山)／～ゆかいなご婦人たち～ファニー・レディ(青山) その他、自主公演の料金割引などの優待を以下のように行った。 ミュージカル ドリーミングボーイ(円形)／APAS青山劇場ワークショップ&フォーラム「初めてのダンス」「ミュージカル」「人形をあやつる」「演劇表現」(B1ハーサル室)、「舞台の仕事」(青山・研修室)／人形劇 ホップ・ステップ・カップのガイちゃん(円形)／Quebec a Tokyo「ロジナの目」「ハマン/ナバス プロジェクト」「ビクトリア」「アニマ」(円形)／「ワタシなりのダンスの歴史」フランスダンス03(円形)／APAS青山劇場ワークショップ&フォーラム「フィリップ・ブリアッソの青少年向けダンスワークショップ」「ドミニク・ボワヴァンのダンスワークショップ」(B1ハーサル室)／「とびこむ絵本Ⅲ クルクル ミチルの青い鳥」(円形)／少年隊ミュージカルプレゾン2003(青山・優先予約)

約8倍と充実。本年度の総閲覧ページ数は2,511,367ページ（前年比1.13倍）であり、年々利用も増え、案内媒体としての重要性も増して来ている。今後も正確で、新鮮な情報提供に努めるとともに、親しみを持たれる画面作りを心がけていきたい。

（キ）特別期間などに実施した事業

特別期間などには、ギャラリーや青山円形劇場などを使って、外部関連団体との提携事業などを積極的に行った。

2. ボランティア活動と養成

〔こどもの城〕には、施設内で専門スタッフとともに、子どもの健全育成活動を行う「こどもの城ボランティア」がいる（登録制）。このボランティアを養成し、活動に参画してもらうことも、大切な事業の一つである。

〔こどもの城〕の施設ボランティアとして、活動を希望する人に対し、年3回の講習会を実施している。講習会は対象別に2種類。大学生と社会人を対象とした「ボランティア講習会」（年2回）と、主に平日昼間に参加しやすい女性を対象とした「女性ボランティア講習会」（年1回）である。それぞれの講習会の修了者は、青年ボランティアが70人、女性ボランティアが15人で、合計85人が新規登録した。前年度からの継続者を含めて、平成16年3月末までの登録人数は、青年ボランティアが312人、女性ボランティアが89人、合計401人となった。

これら登録ボランティアは、毎月延べ500～700人余が、さまざまな活動を行っている。

（ア）ボランティアの活動

平常期間の平日や土・日曜日に、ボランティアが中心となって定期的に活動を行っているプログラムは、約20種類ある。紙芝居や人形劇などの歌やお話を中心とした公演、

コマなどの伝統遊び、屋上での外遊びを実施するものなど、3～5人のグループが中心となって活動している。これらのプログラム活動は、短いものでも5～6年以上継続しているものばかりである。

グループ単位の活動は年間をとおして、ボランティア自身のマネージメントによって運営されているが、最近グループへの帰属意識の希薄化が目立つようになってきた。グループに所属してはいるものの、自分の都合の良い時だけ参加し、それ以外は無関心というケースが多くなった。その結果、中心になっている2～3人のメンバーに大きな負担がかかる傾向が恒常的になりつつある。健全なグループ活動が維持されるために、ボランティアへの細やかな働きかけが大切である。

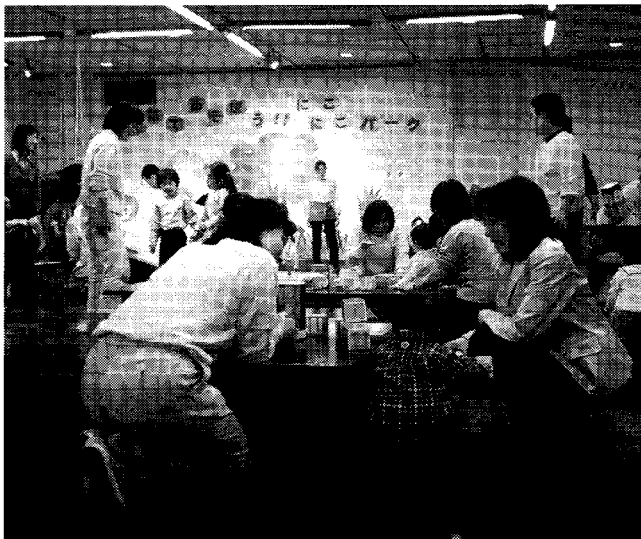
女性ボランティアが中心になって企画、運営をした「みんなであそぼう！にこにこパーク」は特筆すべき活動。3月の平日3日間、乳幼児とその親を対象にフリーホールで行ったプログラムである。小児保健部が定期的に行っている、育児支援プログラム「赤ちゃんサロン」を念頭におきながら、専門職ではないボランティアが、その独自性をどう生かしていけるかを考えながら企画した。

段ボールで作ったすべり台などの大型遊具のコーナー、牛乳パックを利用した手作りおもちゃのコーナー、乳児がゆっくり遊ぶことのできるコーナー、親が子どもから手を離し、ゆったりとお茶を飲むことのできる喫茶コーナーが設けられた。自分の子育て経験を生かしながら、子育て中の親に優しく接する女性ボランティアのアプローチは、「赤ちゃんサロン」のように、専門的な育児相談、栄養相談などとはできないものの、親が“ホッとできる空間”を演出することができた。

朝から丸一日、女性ボランティアとおしゃべりをして過ごす親、初めて子どもを他人に抱いてもらって感激する親が多くいたことなどからその効果がうかがえる。また、小



「マックのおはなし広場」（参加劇遊び）



「あそびのポケット～みんなであそぼう！にこにこパーク～」



「あそびのおもちゃ箱」には、ぐんまこどもの国児童会館(左)、神戸市総合児童センターこべっくランド(中)、福井県児童科学館エンゼルランドふくい(右)のボランティアが公演に参加。栃木県子ども総合科学館のボランティアも手伝いに来てくれ、ボランティア同士交流した。

児保健部の専門スタッフにも協力してもらい、専門的な相談活動も行えるよう配慮した。

乳幼児とその親を対象にしたプログラムは、初めての取り組みだったが、ボランティアがその運営に携わることの意義が十分に感じられた事業であった。

(イ) L. I. T. の活動

「L. I. T.」(Leader In Training)は、高校生の社会参加活動プログラム。前年度の9月から継続しているメンバーが8月まで。そして、9月から新しいメンバーで本年度の活動を行った。

注目すべき活動は、6～8月に行った、「キッズクラブ」(小学1～4年生対象、プレイ事業部担当)との合同プログラム「れっつ! ゲッツ! 夏っこ祭り」。「L. I. T.」と「キッズクラブ」のメンバーが、共同で準備作業を行い、実施した。屋台形式の遊びのワークショップを運営し、来館児・者に提供するプログラム。共同作業を行うにあたって、5つの目的を設定した。

(1) 世代の違う子どもたちの交流活動をととして、互いの違いを認め合いながら共同で物事を進めていくことの難しさと、その意義を感じる機会とする。

(2) 現代社会における人間関係の希薄化は、大きな課題となっている。子どもたちはこうした状況の中で、自分自身が生きていくうえの目標となるような、身近な存在のモデルを見つけにくくなっている。「キッズクラブ」の小学生が、高校生とともに活動し、人間関係を結ぶことは、こうしたモデルを見つける機会にもなる。

(3) 「L. I. T.」にとって、低学年児童との定期的な交流活動は、より深く子どもを理解するきっかけにつながる。一人ひとりの子どもの自己実現をめざすために、自分自身がどうアプローチしたらよいかを考える機会にもなる。同時に、低学年児童に慕われ、信頼される人間関係の構築は、彼らの豊かな自尊感情をはぐくむ機会ともなる。

(4) 開館20周年を目標に、〔こどもの城〕の各グループ

を基盤とした、子どもが作る子どものためのプログラムの準備段階。

(5) 「L. I. T.」担当と「キッズクラブ」担当のボランティアが、共同で子どもたちの活動を支援することで、互いの理念、価値観、知識、技術を共有し、それぞれのグループの活性化を図る。

「L. I. T.」は、「キッズクラブ」の子どもたちと遊びのプログラムを企画・運営するチームと、「夏っこ祭り」全体のスムーズな運営を心がける本部チームの2つに分かれ、それぞれ活動をした。2か月間の一連の活動は、「L. I. T.」にとって大きな学びの機会となった。例年、「L. I. T.」のメンバーだけで企画を考え、実行しているのとは異なり、「キッズクラブ」という別のグループのメンバーやボランティアとよりよいパートナーシップを築きあげながら進めた「夏っこ祭り」は、人間理解、リーダーシップの理解、チームワークのあり方の理解、自己理解など多くの学びがあった。

活動終了後のフィードバックでは、例年のような「満足した」「達成感があった」「みんなとやれて楽しかった」など、どちらかといえば自己の欲求が満たされたことに対する感想も多かったが、「子どもの発想はすごい」「子ども同士の関係を結ぶのが難しかった」「子どもと信頼関係を結べてよかった」などの感想があり、他者との関係において自分のあり方を考える機会となったようだ。

(ウ) 野外活動

「ジュニア・アウトドア・スクール」を、8月上旬に6泊7日の日程で、宮城県で行った。全国的に冷夏で不順な天候が続く中、キャンプ当日は多少の雨は降ったものの全てのプログラムが予定どおりに実施できた。本年度は20回目の「ジュニア・アウトドア・スクール」を記念して、子どものための野外活動への、親の理解をより深めることを目的に、キャンプ5日目に保護者の見学会を実施した。

午後3時にキャンプ場に集合し、テントサイト、フィー

ルドの見学、その後屋台形式で行うキャンププログラムの一つ「森の仲間の祭典」への参加、終了後解散というプログラム。「こんな環境の中で生活する子どもたちは本当にすごい」「自然があふれていて、しかも安全に配慮されているキャンプ場だ」「子どもたちが感じるキャンプの魅力を実感できた」などの意見をいただいた。14家族、33人の参加者があった。

「ジュニア・スプリング・キャンプ」は、応募が多く、定員を10人増やして実施した。今回は中学3年生の参加が15人と多く、自発的にキャンプを作ろうとする意欲が例年以上に感じられた。スタッフもこうした動きを受け、中学生が主体的に運営する「中学生タイム」を中学3年生と企画し実施した。「中学生が班の運営で悩んでいるから、メンバーとしてキャンプを楽しむ時間が欲しい」という意見から生まれた企画だった。

小学生就寝後のタイムとして実施されたが、中学生同士、お菓子を食べながらわきあいあいと集う姿は、小学生とともに過ごす表情とまた違っていた。終了間近になると、自主的に部屋のゴミを集め、片付けをして声をかけあい部屋に戻る姿が印象的だった。こうしたことをきっかけに、今後のキャンプの中で、「子どもたちが主体的に作っていくキャンプ」という意識をリーダーも子どもたちも、高めていけるよう考えていきたい。

この他、他事業部からの活動依頼を受けて、下記の野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団（プレイ事業部）／フェローシップキャンプ（プレイ事業部）／ゆきんこ冒険団（プレイ事業部）／スキースクールパートⅡ（体育事業部）

（エ）ボランティアの養成

ボランティア活動を希望する人を対象とした講習会を以下のとおり行った。

【ボランティア講習会】

大学生以上（社会人を含む）の青年層を対象とした講習会を2回実施した。

第48期講習会は5～6月に行い、43人が受講、修了後登録した人は38人。参加者の内訳は、学生25人、20代の社会人12人、30代以上の社会人が6人。男女別では、男7人、女36人だった。

第49期講習会は11～12月に行い、23人が受講、修了後登録した人は21人。参加者の内訳は、学生15人、20代の社会人6人、30代以上の社会人が2人。男女別では、男2人、女21人だった。

前年度の振り返りを踏まえて、より多くの人に参加してもらおうと毎年2月に実施しているボランティア講習会を

繰り上げて、本年度は11月に実施した。しかし、参加者は30人定員のところ、23人だった。また、講習会を終えたのち、学生はすぐに学年末試験期間に入るため、活動への継続参加が難しかった。受講者数の減少、その後の活動に意欲的に参加できる環境の設定などにいくつかの課題が残った。

【女性ボランティア講習会】

第19期女性ボランティア講習会は10月7～30日に行い、14人が修了した。

講習会の中で実施している、すでに活動をしているボランティアが自分たちの活動を紹介するワークショップが、活動への理解を深める助けになっている。スタッフから一方的にレクチャーするのではなく、当事者同士の情報交換や人間交流を主体としたこの時間は、受講者に大きな影響を与えるようだ。講習会修了後の活動参加状況を見ると、かなりの高率でいずれかのグループ活動に参加している。このワークショップの成果といえる。

【ボランティアグレードアップ講習会】

例年実施している野外活動の技術講習を目的としたものを、6月と平成16年2月に実施した。

6月の講習会は、「ジュニア・アウトドア・スクール」の事前トレーニングと位置づけ、埼玉県・横瀬高原パークキャンプ場で実施した。野外活動の技術の再確認とともに、ソロ体験を中心に、より深い自然体験のトレーニングを行った。また、野外活動経験者が、自分自身の知識や技術をより向上させることができるように、追跡ハイキングの指導法、キャンプクラフト研究なども実施した。

2月は「ジュニア・スプリング・キャンプ」のための現地トレーニングをかねて、新潟県国立妙高少年自然の家で実施した。経験者の知識、技術を生かし、雪上キャンプファイヤーの運営法、雪洞設営法などのトレーニングを実施した。こうした取り組みは、参加メンバー一人ひとりのより積極的な姿勢の醸成と、初参加者との人間関係の活性化などの面でもその効果をあげている。



「ボランティアグレードアップ講習会」

3. 講座・クラブなど

【社会福祉講座】

「手話講座」（全15回）は、4月からと9月からの2コースを開講した。講師は、NHK手話ニュースキャスターとしても活躍されている中野佐世子さん。

本年度は、中野講師の紹介で、さまざまな表現活動のワークショップを全国的に展開している庄崎隆志さん（デフパペットシアターひとみ）を特別講師に招いて、9月からのコースで特別講義も行った。特別講座は、受講生のみならず、ボランティアのグレードアップ講習としても位置付けて参加者を募り、多くの参加を得た。

前年度から課題となっていた、新規受講生の獲得は数人ほどで、継続者が多い“クラブ形式”の講座に変化がなかった。また受講者数も、前期24人、後期22人と定員を下回った。新規参加者の定着率も低く、やむを得ず、今期で手話講座を終了することとなった。

開館以来続いた講座で、受講生のなかには初回から参加しているメンバーが数人いて、閉講を惜しむ声もあった。「手話講座」に替わり、対象を児童にした新たな「社会福祉講座」を、次年度から実施する計画を伝えて理解を得ると同時に、今後とも協力・支援をしていただけるようお願いした。

4. まとめ

開館して18年が経過する。「児童の健全育成」という大きな目的は変わらないにしても、社会状況の変化とともに〔こどもの城〕の果たすべき社会的な役割、社会が〔こどもの城〕に求めるものも変化してきている。来館児・者の年齢層は、乳幼児を連れた大人から高校生までと幅広く、それぞれの年代をカバーするにはきめ細やかな対応が求められる。一方で少子化が進んだこと、「施設としての目新しさ」がなくなったことなどから、ここ数年来館児・者数が低迷しているという事実もある。〔こどもの城〕も時代にふさわしい変化を求められていると感じる。

“変化”は、ボランティアの育成を例にとっても同様で、当初の施設ボランティアの育成を中心とした考え方から、子どもの社会参加の一環としてのボランティア活動、〔こどもの城〕以外でも活動できるボランティアの育成へと考え方がシフトして来ている。

こうした“変化”への対応は、一挙に行うのではなく、継続する事業のなかですこしずつ対応している。前年度の事業年報で、〔こどもの城〕の内外で行う事業のバランスが必要だと書いたが、こうした“変化”へもバランスよく対応するとともに、時代に対応する柔軟性や自分たちを変える勇気を持ち続けて行きたいと思う。

平成15年度活動一覧表

1. 一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こども探偵団 ～46のナゾ～	4.26・27・29、5.3～5	探偵団員になるための修行として、ギャラリー内に隠されたヒミツを探しあて、最後に「いなくなった動物」を推理するという遊び。2コース設置。無事に答えを探しあてた参加者には、「探偵団員証」を発行した。単純なルールの遊び方が好評だった。 (ギャラリー)
〈 〃 〉 こども フェスティバル	5.3～5	来館児・者の多いゴールデンウィークに、良質のプログラムを気軽に劇場で観劇できるよう、毎年度実施している。家族で楽しめる芝居、観客参加のコーナーをふんだんに取り入れたコンサート。「ガドガド」は、音楽ロビーの一般活動から生まれたバンドで、音楽事業部スタッフと協力してくれているミュージシャンがメンバー。今回はホーンセクションを加え、にぎやかなステージとなった。 ◇3日「ニコリのたね」劇団青芸 ※(財)児童健全育成推進財団優良巡回劇事業 ◇4日「愉快なコンサート」ロバの音楽座 ※(財)児童健全育成推進財団優良巡回劇事業 ◇5日「おながくガスギ」ガドガド (青山円形劇場)
〈 〃 〉 アイスクリームのプレ ゼント	5.3	5月9日のアイスクリームの日にちなんで、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。協力は(社)日本アイスクリーム協会。 (フリーホール)
〈児童福祉週間 &開館記念〉 マックロー グリーティング	5.5、11.1・3・4	〔こどもの城〕のマスコット、マック・マックローの誕生日である5月5日の「こどもの日」と開館記念特別期間の11月1～3日に館内の子どもたちと握手をして回った。11月には、記念のピンバッジを配付。 (館内各所)
〈夏休み〉 ブロックであそぼう！ロ ボットコンテストに挑戦	7.20～9.1	子どもたちに科学に関心を持ってもらおうと、レゴジャパン(株)の協力を得て、レゴ・マインドストームを使い、ロボット製作とそのロボットを使った玉入れゲームを実施した。小学生以上を6人1グループで4チーム作り、グループごとにさまざまなパーツを組み合わせてオリジナルのロボットを製作。パソコンで、そのロボットを動かすプログラムを組み、2分間でどれだけのボールをゴールに運べるかを競った。活動時間を約90分とり、ロボットを製作して試験走行を行ったり、不具合な部分を改良したり、操作プログラムを変更したりと試行錯誤を繰り返すことができるように配慮した。マイクロコンピュータを使って動かすロボットの製作ということで、初めは不安げな子どもも多かったが、次第にさまざまな工夫をし始め、最後に行った玉入れコンテストではどのチームも夢中に取り組んでいた。 (ギャラリー)
〈 〃 〉 第9回 人形劇カーニバル	8.16～19	毎年度テーマを設定し、それに沿った作品をプロの人形劇団に上演してもらっている。本年度のテーマは「オオカミだって主人公」。悪役や脇役と思われがちなキャラクターでも、子どもたちから多くの声援を受ける。その愛らしさに着目し、サブキャラクターを見つめなおすのがテーマ。小さい子どもたちから参加できるワークショップも期間中に開催し、厚紙とひも(糸)を使って一部が動く人形と小道具を制作した。後援は、東京都公立児童厚生施設連絡協議会、(財)児童健全育成推進財団。 関連企画、指導者向け講習会「つくって演じる人形劇2003」を8月17日と9月14日に実施。 ◇16日＝ドラマジック劇場/人形劇・木ぐつ木 ◇17日＝れもん座/エッソ・ワールド ◇18日＝高津人形座/エッソ・ワールド ◇19日＝劇団かかし座/がさく (研修室)
〈開館記念〉 第10回おりがみカー ニバル/全国児童館お りがみ作品展	10.25～11.16	子どもからお年寄りまで幅広く気軽に楽しめる折り紙に、多くの人に親しんでもらうための催し。日本折紙協会と共催。「全国児童館おりがみ作品展」を同時に開催。「おはなしの世界」をテーマに17館から出品された作品を展示した。関連企画として「おりがみにつよくなる講習会」を開催した。 (ギャラリー)

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 自分でつくってよくあ がる「えい風づくり」	H16.1.3～7	日本の伝統的な行事が行われることの多い年末年始。〔こどもの城〕でも、伝統的な遊びの文化を伝えるために、毎年さまざまな催しを実施している。「えい風づくり」もその一つ。本年度は5日間で307組が参加。風を作って揚げる、という活動につなげたいが、〔こどもの城〕の外（屋上、ピロティなど）は十分な広さが無いので、風が巻いてしまう。風揚げに適しないのが残念。（ギャラリー）
〈 〃 〉 新春もちつき大会	1.4	日本の風習を子どもたちに伝えていきたいと、毎年行っている。できるだけ多くの人たちに参加してもらうために、ピロティで実施。マック・マックローも応援に駆けつけた。もち米50kgを2うすずついた。女性ボランティアが、つきたてのもちをまるめ、あんときなこをまぶして、もちつきを体験した子どもに配布。約500人が参加。（ピロティ）
〈春休み〉 ニッサンゆかいな絵本 と童話展 「SUN SUN さんぽ!」	3.26～4.5	「第19回ニッサン童話と絵本のグランプリ」で入賞した作品の原画、国際アンデルセン賞受賞作家の絵本などを展示。童画家の青木貴子さんが、会場全体の装飾をてがけた。グランプリ受賞作品の展示をとおして新しい才能や絵本の可能性を提示するほか、世界の子どもたちに愛されてきた名作の童話をとおして質のよい読み物を提供できるので、毎年続けたい催しである。前年度実施して好評だった「お弁当作り」のワークショップを本年度も行った。日産自動車の工場から出る内装材や緩衝材を使って“お弁当”を作るというもの。親子で作ったり、大人・子どもそれぞれに作るなどして、年齢を問わず楽しめた。共催は（株）日産自動車。（ギャラリー）

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
おもちゃ図書館 マックロー	年末、年始を除く水曜日	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年（97年）に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も4人のボランティアを中心に運営され、延べ49回開催した。年間300人を超える利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しも行った。（会議室）
ふれあいおもちゃ広 場	12.2～7	おもちゃメーカーの協力で、障害を持った子どもたちにも使いやすい市販のおもちゃの展示と紹介をする「おもちゃ展」。（財）日本おもちゃ図書館財団との共催。（ギャラリー）
アートスケープ 2004	H16.3.26～4.5	〔こどもの城〕での開催が今回で19回目となった、首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール12校と日本校1校の合同美術作品展。500人におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、ステンドグラス、陶芸、建築模型、写真など様々なジャンルの作品を展示。（ギャラリー）



「ブロックであそぼう！」ロボットコンテストに挑戦



「アートスケープ2004」

2. ボランティアの活動

〈平常期間〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 9:45～16:00	「保育クラブ」「幼児グループ」に、1～2人程度が参加し、保育活動の運営補助。長期休暇期間に、短期で行う活動も学生を中心に活発な活動を行った。 (保育室ほか)
おはなし紙芝居のつどい (みんなのにこにこ広場) (プレイ)	水曜日 15:00～15:30 (月2回)	女性ボランティアが、紙芝居の持つ温かさを伝えることを目標にした定期的な活動。月2回、水曜日が公演日。公演日以外は練習日。メンバーも増え、活性化している。 (プレイホール)
おはなし人形広場 (みんなのにこにこ広場) (プレイ)	水曜日 15:00～15:30 (第2・4水曜日)	女性ボランティアの人形劇・影絵の両グループが第2・4水曜日に公演。第19期のメンバーが4人加わり、意欲的な活動を行う。従来のメンバーにとっては期待感ととまどいの両方が感じられる。 (プレイホール)
おりがみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14:00～15:00	女性ボランティアが中心となって運営、週1回、折り紙ワークショップを行う。メンバーの入れ替わりはあったが、安定した活動を展開する。 (プレイホール)
楽器屋わんちゃん (音楽)	木曜日 15:30～16:00	音楽スタッフが運営するプログラムの補助活動。本年度も積極的な活動を展開した。 (音楽ロビー)
みかんちゃんズのおバ オバサンバ! (音楽)	金曜日 15:00～15:30	女性ボランティアが定期的に活動。音楽のスタッフと一緒に“サンバ”を素材としたリズム遊びのプログラムを運営。ボランティア独自のプログラムも充実してきた。 (音楽ロビー)
手作りおもちゃ (企画研修)	第2・4金曜日 11:00～15:00	女性ボランティアのグループが、プレイホール幼児コーナーに置く抱き人形やままごと用具などを製作。プレイ事業部が積極的にアプローチを行い、意欲的な活動を続ける。 (ボランティアオフィス)
絵本のよみかたり (企画研修)	第1・3金曜日 14:30～15:00 第2日曜日 14:00～14:20	青年・女性ボランティアがともに活動に参加。メンバーが増えたため活動回数を月2回に増やし、意欲的に活動を展開。青年ボランティアを中心にした日曜日の活動は、メンバーがそろわないことが多くなったが、女性ボランティアを中心にした金曜日の活動はメンバーが増え、活性化してきた。日曜日は保育室で実施。金曜日はプレイホールから4階Aスタジオに場所を移し、絵本を読む環境が整った。 (Aスタジオ、保育室)
ビッグサタデー (体育)	土曜日 10:30～12:00	フライングディスク、サッカー、バレーボール、バスケットボールと3か月ごとにプログラムが変わり、ボランティアはスタッフのサポート。3人程度のボランティアが定期的に参加するようになった。 (体育室)
手足の不自由な子の水 泳 (体育)	土曜日 17:00～18:00	ハンディキャップを持つ子どもたちを対象とする唯一の活動。本年度は定期的に活動するボランティアが増えた。 (プール)
土曜昔あそびの会 (企画研修)	第2・4土曜日 14:00～17:00	こま、三つ馬などの昔遊びを中心に活動。継続している3人は、本年度も意欲的な活動を展開。前年度に新規メンバーの加入もあったが、定着しなかった。新しいメンバーの加入が大きな課題。 (ふしぎが丘)
キッズクラブ (プレイ)	月2回土曜日 15:00～17:00	小学校低学年30人の遊びのクラブ。ボランティアは、グループワーカーとしての視点からプログラムの立案・準備・実施にかかわっている。年度初めに、新しく加入するボランティアが数人いたが、なかなか定着しない。 (会議室ほか)
こどもの城アドベンチ ャー (企画研修)	月2回土曜日 14:00～17:00	前年度の9月からスタートしたボランティアのプログラム。〔こどもの城〕の館内全体を歩きながら、さまざまなポイントを探していく方法がプログラムの軸。本年度は新規プログラム『モンスターレーニングスクール』(館内のポイントを回り自分のモンスターを育てていく、シミュレーションゲーム。ポイントによって30種類余りのモンスターカードの中からカードがもらえる)を実施した低学年から高学年まで、子どもたちが意欲的に取り組めるプログラムで、高い評価を受ける。しかし、年度後半から中心になって活動していたメンバーが就職などの関係で活動が難しくなり、新しいメンバーの加入が大きな課題となった。 (こども活動エリア)
青年人形劇 (企画研修)	月1回土曜日 14:00～15:00	マクロー人形劇と手遣いの人形劇のプログラムを実施。本年度は結婚、出産により活動を休止するメンバーが多く、毎回2～3人のみの活動となる。 (プレイホール)

名 称	日 時	内 容
ユースクラブ（プレイ）	月2回日曜日 13:00～15:00	小学校高学年から中学生までの40人が対象。グループリーダーとしてのボランティアは、思春期の子どもたちにとっての“モデル”として大きな存在となっている。長年この活動をサポートしていたボランティアが抜けることになり、大きな動揺があった。「ユースクラブ」ボランティアも新しい局面を迎えた。（会議室ほか）
パネルであそぼう （企画研修）	月2回日曜日 13:00～15:30	パネルシアターの公演とワークショップ（幼児コーナー）を行っている。新規メンバーの加入がある。男性も加入しムードが変わるが、グループとしての凝集性はまだ低く、活動が活性化するまでには至らない。（プレイホール）
日曜クラブ （企画研修）	月2回日曜日 14:00～17:00	ドッジボール、長なわ、フラフープなどの活動を実施。季節行事ごとにクイズ大会のプログラムも取り入れる。メンバーはあいかわらず固定化している。新しい活動が生まれてこないのは、こうしたメンバーの固定化に起因しているのかもしれない。（ふしきが丘）
つくってあそぼう （企画研修）	月2回日曜日 14:00～17:00	前年度の9月からスタートしたプログラム。新規プログラム『手裏剣、吹き矢、忍者でござる』を実施。紙皿で作る2種類の手裏剣、ストローで作る2種類の吹き矢——低学年でも高学年でも興味もてるプログラムだった。環境設定にも力を入れ、忍者屋敷のように装飾。自分で作ったおもちゃで意欲的に遊べるように工夫した。新規メンバーも安定して加入し、グループの充実度の高さがうかがえる。（フリーホール）
ファミリープレイタイム （プレイ）	月1回 11:00～12:30	親子を対象に毎回さまざまなプログラムに挑戦。ボランティアリーダーはプログラムの運営をサポートした。（プレイホール）
わいわいスタジオ （音楽）	月1・2回日曜日 13:00～17:00	音楽事業部との連携も充実してきた。夏休み特別期間の手作り楽器のプログラムにも意欲的に参加するボランティアが多かった。（Bスタジオ）
L.I.T.（企画研修）	原則的に月2回 10:00～16:00	高校生のボランティア体験活動を主眼に置いたグループ活動。年間をととして社会人のボランティアがグループワーカーとして活動をサポートしている。8年以上固定したボランティアに、本年度新規メンバーが一人加わった。「キッズクラブ」との合同プログラムで、ボランティアも大きな刺激を受けた。（会議室ほか）
日曜体育室（体育）	日曜日 14:00～17:00	日曜日の体育室のプログラムの指導補助を行う活動。本年度は活動者なし。（体育室）

〈特別期間ほか〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 どーんと！億万長者 （企画研修・プレイ）	4.26・27・28、5.3～5 11:00～16:00 （受付時間）	タスキの世界の億万長者をめざすゲーム大会。6日間で延べ88人のボランティアが活動に参加した。今回のプロジェクトチームの中心メンバーは43～46期の大学3年生。日常活動へも熱心に取り組んでいるメンバーが多いため、ボランティア同士およびスタッフとの間に信頼関係も構築されていた。6日間という長い期間にわたり、今までにないまったく新しいプログラムへ意欲的に取り組むことができたのもそのためだろう。反面、世代交代の狭間で例年より活動参加者が少ないことが気になった。（ふしきが丘）
〈 Ⅱ 〉 マックのおはなし広場 （企画研修）	5.4・5 11:00～16:00 （受付時間）	青年ボランティアの人形劇とパネルシアターのグループが協力し、2日間連続で「マックロー人形劇場」「パネルシアター」の公演、人形作りのワークショップとその人形を使って遊ぶ参加劇を行った。参加劇は経験を生かし、質の高いプログラムを展開した。しかし、人形劇グループが、メンバーの減少に苦しむケースが多く見られ、今後の活動展開が危惧される。2日間で延べ28人のボランティアが参加。（研修室）
〈夏休み〉 クロッパークで水まつり （企画研修）	8.13～17 11:00～15:00 （受付時間）	水遊びをテーマにしたゲーム大会。雨にたたられ、実行できたのは2日のみとなった。プロジェクトチームの中心となるボランティアを決めてから、企画・準備を進めて行く形式をとっていたが、今回はボランティアとスタッフのパートナーシップの見直し、新規ボランティアの加入の促進を目的として、プレイ事業部スタッフ主導でプロジェクトを進めた。当初、ボランティアにも戸惑いがあったものの、新規ボランティアが多く主体的に参加できた。また、経験のあるボランティアが、リーダーとしての役割をもう一度考える機会になったようだ。5日間で延べ64人のボランティアが参加した。（ふしきが丘）

名 称	日 時	内 容
〈開館記念〉 はる・なつ・あき・ふゆ あそびのカレンダー (企画研修・プレイ)	11.1~3 11:00~16:00 (受付時間)	恒例のチャレンジゲーム大会。本年度も準備段階での取り組みを各ボランティアグループ単位とした。事前に募集し、参加の意思があるグループに集まってもらい、企画会議を実施。「昔あそび(青年ボランティア)」「キッズクラブ(青年ボランティア)」「つくってあそぼう(青年ボランティア)」「代表者会(青年ボランティア)」の4グループが参加した。ふだんから人間関係ができていたグループなので、アイデア会議もスムーズ。今までにないユニークなゲームが立案された。『走って、つなげて、はる・なつ・あき・ふゆ』(季節にちなんだカードをしりとり要領でつなげていく)、『メンコで秋色1・2・3』(広告ちらしで作ったメンコで牛乳キャップをひっくり返していく)、『めざせ さんま名人』(ハンガーで作ったさんまを、ハンガーのつりざおで一度に何匹つりあげられるかを競う)、『ゲッツ! フルーツ! スロットダーツ!!』(大中小3つのルーレットに、羽根を投げ入れていく。3つ同じフルーツがそろうと高得点)、「じゃんけんカレンダー」(リーダーとじゃんけんをして何回連続で勝てるかを競う。じゃんけんは1~12月の季節にちなんだじゃんけんを行う)の5つのゲームを実施した。この形式で実施するのは2年目。各グループの状態を客観的にみることができる。「つくってあそぼう」グループはこの活動を契機に活性化。3日間で47人のボランティアが参加。 (ふしぎが丘)
〈 Ⅱ 〉 あそびのおもちゃ箱 (企画研修)	11.23・24 11:00~16:00 (受付時間)	青年人形劇、女性人形劇、影絵、紙芝居、女性影絵、パネルシアター、音楽の各グループの合同公演。公演の合間に、トコトコ人形で遊ぶワークショップを実施。本年度は、他県の大児児童館のボランティアにも参加を呼びかけ、公演活動を行った。旅費などは自己負担だったが、4施設(福井児童科学館 エンゼルランドふくい/ぐんまこどもの国児童会館/神戸市総合児童センター こべっこランド/栃木県子ども総合科学館)のボランティアが参加。受け入れのための食事、宿泊の介助を含め3日間で延べ91人のボランティアが参加。 (フリーホール)
〈冬休み〉 いろはにほへとでお正月~かるたみつけてあそびましょ~ (企画研修・プレイ)	H16.1.3 13:00~17:00 1.4~7 11:00~17:00 (受付時間)	前年度から継続的にこの企画にかかわっているボランティアが中心になって進めた。経験を生かし、準備作業も順調に進んだ。「カルタ」という要素を取り入れ、今までと違う方法で伝承遊びを子どもたちに提供した。新しい取り組みが実現したのも、経験豊かなボランティアの力と考えられる。反面、準備、実施時に学生ボランティアの参加が少なかった。日常的なグループ活動が比較的活性化中、イベントプログラムへの関心が薄くなっているのが課題。5日間で延べ69人のボランティアが参加。 (屋上遊園、Bスタジオ)
あそびのポケット~みんなであそぼう!にこここパーク~ (企画研修)	3.10~12 13:00~16:00 (受付時間)	女性ボランティア全体で取り組む企画。本年度が4回目。女性ボランティアの独自性を生かすこと、企画の準備、実行のプロセスをとって相互交流を図ることがねらい。本年度は、0~2歳児くらいまでの子どもとその親を対象に、親子で一緒に遊んだり、ゆったりできるスペースを提供することを目的に企画、運営した。「公園コーナー」「クラフトコーナー」「はいはいコーナー」「親の喫茶コーナー」の4つに分け、「公園コーナー」にはビニールプールの中に手作りのクッションを入れた「砂場」、「ダンボールの大型遊具」「電車ごっこで遊べるコーナー」を設置した。「クラフトコーナー」では牛乳パックで作った簡単なおもちゃを紹介し、自由に遊べるようにした。「はいはいコーナー」はマットを敷いて、乳児とお母さんがゆったり遊べるコーナーとし、布で作った手作り遊具や小児保健部から借りた遊具をおいた。「親の喫茶コーナー」では、親が子どもから離れてゆっくりくつろげるよう、紅茶のサービスを行った。小児保健部の専門スタッフにも時間を決めて参加してもらい、専門家に子育てについての相談を受けられるようにした。オープンと同時に多くの親子が訪れ、ゆったりと過ごしていた。ボランティアと母親がゆっくりと話す姿、子どもを抱いてもらっている間に落ちついた表情でお茶を飲む母親の姿が多く見られた。母親が「専門職の方ばかりだと緊張するけれど、ここはなんだかホッとします」と、ボランティアならではの温かさ、細やかなサービスがこうした空間を生み出したと考える。[こどもの城]の育児支援プログラムで、ボランティアと専門スタッフの協同関係のありかたを考える機会となった。3日間で延べ66人のボランティアが参加。(フリーホール)
〈春休み〉 S-1オリンピック~めざせあそびの金メダル~ (企画研修)	3.20・21 11:00~16:30 (受付時間)	集団を介したレクリエーションゲーム。オリンピックイヤーの今年は、オリンピック種目をモチーフに子どもたちが楽しめる種目を開発した。[こどもの城]オリジナルのプログラムを作ることを目的に、事前にキャンププログラムの『室内オリンピック』を体験し、開発を行った。グループ対抗のゲームを多くし、来館児同士の交流を促進した。「だるまさんがクロール」(だるまさんがころんだのルールで、泳ぐまねをしながら前に進む)、「三段とび」(子どもがサイコロの出る目を予想して、ホップ・ステップ・ジャンプで、数字の旗のところまで進む)、「高飛び」(伝承遊び「いろはにこんぺいとう」を、グループ対抗で行う)、「新体操」(カードにイラストで書いてあるポーズをグループごとにまねする。制限時間内にいくつポーズができるかを競う)、「射撃」(数取り器を1分間に何回押せるか)、「ボクシング」(ボクシンググローブに万歩計をつけて振り続け、時間内の数を競う)、「リレー」(大きな紙にグループ毎に同心円を書いていく。時間内に何重の円がかけられるか)などユニークな競技が多くの参加者とともに実施された。3日間で延べ21人のボランティアが参加。 (ふしぎが丘)

〈高校生プログラム＝L. I. T.(Leader In Training)〉

名 称	日 時	内 容
春のイベント「ヒーロー伝説2003」準備	4.6 10:00～16:00	前年度から継続している活動。4月20日にイベントを予定していたが、準備活動に参加するメンバーが少なく、全員のコンセンサスが取れていないことを理由に計画の見直しをスタッフから提案。課題と目標の明確化、メンバー間の相互作用の活性化をねらって介入。参加20人。
〃	4.13 10:00～16:00	前回の介入の結果、メンバーも生き生きと活動。リーダーのフィードバックでは、L. I. T. メンバーとのパートナーシップが話題となる。彼らが出してくる課題の多いアイデアに、彼らの主体性を尊重しながらどうアプローチすればよいかを話し合う。したいことだけに目を向けるのではなく、提案の背景にも着目することが大切だと意見交換した。参加20人。
〃	4.20 10:00～16:00	長期欠席者と出席しているメンバーの人間関係が、希薄になってきているのが課題としてあげられる。また、ネガティブな発言の多いメンバーを、他のメンバーが受け入れられるようにアプローチすることが必要になってきた。参加18人。
〃	5.4 10:00～16:00	人数も多く、積極的な活動を行う3年生に注目が集まり、2年生の存在が希薄になりがちなのが課題となる。2年生それぞれの持ち味が発揮できるような機会を設け、メンバー相互が互いを認め合える関係作りをめざす。参加20人。
〃	5.10 14:00～19:00	最後の準備活動を行う。グループ全体のムードは活気あふれる状態になっている、発言もリラックスして自由に述べられる雰囲気。しかし、それ故に、全体の状況を考えずに発言し、相手を傷つけてしまうこともあった。メンバーが自分以外の人、物事に関心を持ち、気遣いながら活動を進めていけるようアプローチする。参加15人。
春のイベント「ヒーロー伝説2003」実施	5.11 9:00～19:00	「500年前、悪者グレゴリスとともに柩(ひつぎ)に封じ込められた、お姫さまを助ける」というストーリーのプログラム。受付でオリエンテーションを受けた後、館内にある4つのゲームポイントをまわり、グレゴリスを倒すための力をつける修行を行う。それぞれのポイントでゲームをクリアすると、グレゴリスを再び柩に封じ込める呪文を教えられる。その後、最後の戦いにそなえた準備を行い(12階会議室)、戦いの場へ向かう(11階会議室)。最後の戦いは参加劇になっていて、グレゴリス、お姫さま、門番役のL. I. T. と劇遊びを体験する。集団ジャンケンで弱らせ、全員で呪文を唱え、グレゴリスを再び柩に封じ込める。お姫さまからお礼に記念のバッチがもらえる。103人の子どもたちが、L. I. T. と楽しい時間を過ごした。このプログラムを企画、準備、実施する中で、下記の目標を定め活動した。参加14人。 ・プログラム実行までのプロセスを学ぶ機会とする ・ボランティア、スタッフ、メンバー、子どもとのよりよいパートナーシップを考える ・準備、実行までのプロセスで、互いの持ち味を尊重しながら、組織的に協力体制を作る
夏の行事企画会議および「ジュニア・スプリング・キャンプ2003」の反省会	6.22 10:00～13:00	午前中は、8月に実施する「キッズクラブ」との合同プログラムの打ち合わせをプレイ事業部の担当者を招き行う。活動内容、子どもたちの様子を聞き、今後のスケジュールを話し合う。午後は、春休みに実施した「ジュニア・スプリング・キャンプ2003」の反省会。「キャンプ中に困ったことはなにか」「子どもたちとの活動で得たものはなにか」「魅力的な活動とその理由」の3つのテーマで話し合い。参加18人。
夏の行事企画会議	7.20 10:00～16:00	夏の行事のタイトル、「キッズクラブ」との合同会議(8月10日)の流れ、役割分担を決定。キッズメンバーのグループを担当する班付きスタッフ、準備合宿やプログラムをサポートする本部スタッフの2つの役割を立候補制で決定する。「キッズクラブ」担当のボランティアも一緒に参加する。参加17人。
「ジュニア・アウトドア・スクール2003」	8.1～7	6人がキャンプの本部リーダーとして参加。子どもたちの生活を直接支えるメンバーと、本部で食事や物品のサポートをする2つの役割に分かれて活動。互いの活動をシェアできるよう、夜のフィードバックでは情報交換を行い、課題や発見の共有ができるよう配慮した。
夏祭り企画会議	8.10 10:00～18:00	「キッズクラブ」との初めての合同企画会議。L. I. T. は午前中から集まり、午後の合同企画会議の進め方の確認や準備を行う。「キッズクラブ」が午後から加わる。親睦ゲームを行ったのちにグループ分け(作って遊ぶ系、投げ入れる系、釣る・すくう系、的当て系、競争系)。グループごとに店名や内容を考える企画会議を行った。終了後のフィードバックでは、子どもたちの気持ちをくみ取れない歯がゆさ、メンバーそれぞれの意見を生かした店作りの難しさ、子どもたちのエネルギーに対する驚きなど、今までの活動ではなかった、さまざまな発見や課題が見つかった。参加17人。

名 称	日 時	内 容
夏祭り準備	8.16 10:00～18:00	夏祭りの最終準備。「キッズクラブ」メンバーとの店作りのための下準備、合宿を含めた全体進行の確認、物品や食事の相談、全体装飾の準備などを行う。参加18人。
夏祭り準備・実施	8.23・24 (1泊2日)	6月から準備していた夏祭りの本番。23日から泊まり込みで準備、24日の本番を迎えた。平成14年度生L. I. T. の最後の活動となる。小学校低学年とパートナーシップを結びながら行う活動は、今までにない学びの機会となった。L. I. T. 終了式では、メンバーの希望で、キャンドルを囲んで1年間の感想を語り合う時間を設けた。「生活の中でL. I. T. が占める時間がとても多かった。解散するのがさびしい」「L. I. T. に参加できて本当に充実した高校生活だった」「ボランティアになりたい」などの感想が述べられた。参加20人。
平成15年度 L. I. T. 開講式	9.21 13:00～16:00	新規メンバーが多く、継続者は4人のみ。人間関係作りが苦手という男子メンバーも多い。開校式後に面接を行い、一人ひとりに参加した動機やL. I. T. への期待感などを聞く。その後、L. I. T. についてレクチャーを行い、自己紹介を中心にした、グループワークトレーニングを実施し相互の交流を図った。メンバー同士の相互関係の活性化、グループへの帰属意識、〔こどもの城〕とL. I. T. への理解を深めることが今後の課題となった。参加20人。
ボランティア体験活動	10.13 10:00～16:00	長なわやドッジボール(屋上ふしぎが丘)、ままごと(プレイホール)などの自由遊びを行うボランティアの体験実習。子どもとこんなことがしたいという願いを持つ、子どもと遊ぶ楽しさを感じる、笑顔・明朗さ、行動力が大切なことに気づく、自分の第1印象に気づく——ことを目的に活動した。参加19人。
オーバーナイト ハイ キング	11.8・9 (1泊2日)	神奈川県三浦半島一帯33kmを一晩かけて歩く活動に挑戦。自己の限界に挑み自己認知のきっかけとすること、グループへの帰属感を高めることが目標。3グループに分かれ、声をかけ合い全員が無事全行程踏破。フィードバックでは「みんなと話すことができた」「一人では絶対歩くことができなかった」「みんなのいろんな面が見れた」などの感想が聞かれた。参加20人。
今後の活動ミーティ ング	12.14 15:00～18:00	ボランティア体験活動の2回目として、手作りおもちゃのワークショップを計画。自己決定した活動を、互いの協力関係の中で準備・実施し、その時に起こるさまざまな問題や課題に気づくことを目標に実施する。ワークショップの内容の決定を中心に話し合った。参加19人。



「キッズクラブ」の小学生と合同で「れっつ！ゲッツ！夏っこ祭」(前日から〔こどもの城〕に泊まり込んで準備)



春のイベント「ヒーロー伝説2003」

名 称	日 時	内 容
「サンタの手作りおもちゃ村」準備	12.21 10:00～18:00	手作りおもちゃのワークショップ「サンタの手作りおもちゃ村」の準備活動。男子メンバーの自発性に欠ける姿勢が問題となる。問題解決をめざして、男子メンバーが自分を自由に表現できるムードをグループ内に作ることを最優先にアプローチすることにした。また特定のメンバーのリーダーシップによって進められるグループの状態も問題となる。参加18人。
「サンタの手作りおもちゃ村」実施	12.23 9:00～18:00	「パタパタレース」(画用紙で作ったホルダーの中にビー玉を入れ、坂道をころがして遊ぶ)、「紙とんぼ」(板状の画用紙を2つに折って先の部分をひねり、上から落として遊ぶ)の2種類の活動を行う。フィードバックでは「こどもが楽しんでくれてよかった」「子どもが喜んでいる姿を見て感動した」「短時間でみんなで協力して準備できてよかった」などの感想。参加20人。
「じどうかんジャンボリー」打ち合わせ	12.26 10:00～18:00	平成16年1月に実施される「じどうかんジャンボリー in 北海道」の参加希望者が集まり、準備活動。実施に向けてのオリエンテーション、遊びのワークショップの準備を行う。また、「低学年児童の生活支援の心得」を学び、グループリーダー活動に備えた。参加19人。
「じどうかんジャンボリー in 北海道」	H16.1.10～12 (2泊3日)	(財)児童健全育成推進財団が独立行政法人福祉医療機構の助成を受け実施した「平成15年度全国児童交流事業 じどうかんジャンボリー in 北海道」に、L.I.T. 11人、ボランティア4人が参加。夕張市一帯に、全国22施設、454人の児童館、学童クラブに所属する小学生～高校生とスタッフが集まり、交流事業を展開した。初日、新千歳空港が大雪のため閉鎖になり、羽田空港で足止めされた100人近い参加者が、「こどもの城」に宿泊するというハプニングもあったため、北海道では1泊2日の日程で事業を展開した。主なプログラムは、各施設が準備したプログラムによる遊びの交流会、自慢の食材によるランチパーティー、参加者全員でキャンドルサービス、施設ごとに牧場や湖の散策など。L.I.T. は他施設の子どもたちと体験活動を行うとともに、宿泊や食事などの生活支援を行った。初めての、他施設の子どもたちとの交流、北海道の人、文化、自然にふれたことはとても貴重な体験となった。参加10人。
「じどうかんジャンボリー」反省会および今後の活動ミーティング	1.18 10:00～16:00	午前中は「じどうかんジャンボリー」参加者による活動のフィードバック。午後は今後の活動計画の話し合い。今後の計画では、(1)内容は去年までのものにこだわらず自由な発想で。互いに納得するまで話し合うことが大切 (2)子どもたちとこんなことをしたら楽しいのではないかとという夢を具現化する (3)実施までの準備期間を自発的に進めること——が目標。カード法を使ったアイデア会議を行い、企画概要をかためた。参加19人。
プログラム企画会議	2.8 10:00～16:00	タイトルを「マックロー魔法学校」に決定。そこで行う5つのゲームの概要を考えた。活動に消極的だった男子が、ジャンボリー参加を機会にしだいに笑顔が見られるようになった。今回は役割分担を行い、メンバー一人ひとりの活動に対する目標や責任を明確にさせることを目標とした。参加16人。
プログラム準備	2.15 10:00～16:00	5つのゲームの内容をそれぞれのチームで決定。メンバーの自己決定を促すアプローチを意図的に多くした。メンバーの相互関係がまだ深まっていないので、グループで決定するまでのプロセスに時間がかかる。参加15人。
〃	3.14 10:00～16:00	ゲーム制作と全体装飾の2つの役割に分かれ準備。メンバーと次のような目標を確認。(1)互いの持ち味を生かしながら協力して準備をすすめ、子どもたちにとって魅力的なものにする (2)上記のようなプロセスをしっかりと踏まないと、プログラムの質が低下する。参加18人。
「ジュニア・スプリング・キャンプ2004」	3.27～31 (4泊5日)	子どもたちの組長付きL.I.T. と本部付きL.I.T. に役割を分け、キャンプ活動のサポート。キャンプ初参加のメンバーも意欲的な取り組みを見せた。日常活動では見られなかった互いの可能性を確認しあえる機会となり、相互交流の促進が見られた。参加9人。

3. 講座・クラブなど

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
手話講座（前期）	(人) 高校生以上 (30)	(人) 25	火曜日 18:30~20:00	4月から8月までの5か月間、全15回の講座。講師は、NHK「手話ニュース845」キャスターの中野佐世子手話通訳士。
手話講座（後期）	//	22	//	10月から2月までの5か月間、全15回の講座。講師は中野佐世子手話通訳士。

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第48期ボランティア講習会	(人) 18歳以上 (高校生不可) (50)	(人) 39	5.17~6.10 18:00~20:30 (5.30~6.1 宿泊研修)	18歳から60歳代までの年齢層が集まる。平均年齢24歳。「ボランティア1・2・3」(世田谷ボランティア協会山崎富一さん)、「子どもと遊ぶ指導者の役割」(中野区宮の台児童館 千葉 雅人さん)、「みて・さわって・あそぶハンズ・オンと子ども」(ハンズ・オン・プランニング染川香澄さん)のほか、「こどもの城ボランティア活動」「子どもと野外活動」の講座と、主に人間関係トレーニングを中心とした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、南足柄市どんぐりの家(神奈川県)で実施。
ボランティアグレードアップ講習会 「野外活動講習会」	野外活動に参加するボランティア (30)	19	6.27~29	小4~中3を対象にしたキャンプ『ジュニア・アウトドア・スクール』に参加するボランティアリーダーが対象。都内近郊に実習地を定め、多くのメンバーが参加できるように配慮した。(1) キャンプを支援するリーダーとして最低限知っておかなければならない、野外活動に関する知識、技術の習得をめざす(2) キャンプにおける組織運営のシミュレーションを行い、個人の課題、組織の課題に気づく機会とする(3) リーダー同士の情報交換、意見交換、共同作業をとおして人間関係を深め、互いに理解し、キャンプに向けたリーダー組織の確立をめざす——を目的に実施した。主なプログラムは、「火起こしから野外炊事」「追跡ハイキング運営法」「徹底的にキャンプクラフト」「オーバーナイトソロ」「野遊び企画、指導法」。実際のキャンプに向けて係ごとの活動を本番さながらに行い、キャンプ運営の実際に取り組んだ。ボランティア自身が企画し運営をするプログラムを取り入れ、自発的なプログラム開発を促した。高原パークキャンプ場(埼玉県)。
第19期女性ボランティア講習会	概ね30歳以上の女性 (20)	15	10.7、9、16、28、30 13:00~15:00	32~58歳のメンバーが集まる。平均年齢42歳。「児童健全育成の活性化に向けて」(吉澤英子大正大学大学院教授)のほか、「交流!こどもの城ボランティアの活動」「子どもと関わる時大切なことは」の講座を実施。
第49期ボランティア講習会	18歳以上 (進路決定の高校生可) (30)	23	11.16~12.9 18:00~20:30 (12.5~7宿泊研修)	18~36歳のメンバーが集まる。平均年齢23歳。「今、子どもの世界は」(教育ジャーナリスト青木悦さん)、「あそびゴコロ こどもゴコロ」(日本児童遊戯研究所 有木昭久さん)、「児童健全育成活動と児童館」(児童健全育成推進財団依田秀任さん)のほか、「ボランティア はじめの一步」「ボランティアプログラムをつくる〜パネルディスカッション〜」の講座と、主に人間関係トレーニングを中心とした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、足柄ふれあいの村(神奈川県)で実施。
ボランティアグレードアップ講習会 「雪上野外活動講習会」	野外活動に参加するボランティア (30)	24	H16.2.20~22	小3~中3を対象にしたキャンプ『ジュニア・スプリング・キャンプ』に参加するボランティアリーダーが対象。主な内容は「ナイトスキーハイキング」「ネイチャースキーの実際」「雪上テント泊実習」「雪上ゲーム大会の実際」など。経験豊かなメンバーの力を活用し、運営できるトレーニングメニューを多く取り入れ、相互関係、相互援助の活性化をめざした。国立妙高少年自然の家(新潟県)。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ジュニア・アウトドア・スクール2003	8.1～7	小学生43人、中学生35人、スタッフ39人の合計118人が参加。全国的に冷夏で不順な天候が続いていたが、キャンプ中は時々小雨は降るものの良好な天気ですべてのプログラムが順調に実施できた。参加した子どもたちの生活技術の低下が目立つようになってきた。特に野外炊事の場面では、技術的に未熟な子どもが多かった。今までのリーダーの介入方法にも問題があるのではないかと考えた。レクリエーション的な野外プログラムが中心となっていたこのキャンプを、生活を基盤にしたプログラムにシフトする必要が出てきた。国立南蔵王青少年野営場(宮城県)。
ジュニア・スプリング・キャンプ2004	H16.3.27～31	小学生47人、中学生31人、スタッフ40人、合計118人が参加。天候は全日をとおして良好。すべてのプログラムが順調に行われた。6年ぶりに雪上テント泊を実施。昨年までのイグルー作りの技術を活用して、生き生きとスノーブロックで作る壁の制作に取り組むメンバーが多かった。「雪の上での1泊体験」に勇気を持って取り組むメンバーが多く、子どもたちの自尊感情を育てる絶好の機会となった。また、中学生と相談して中学生タイムを実施し、中学生のキャンプへの主体的な取り組みを促した。国立妙高少年自然の家(新潟県)。

平成15年度「グループ活動」プログラム一覧表

プログラム名		対象年齢	時間	内 容
体 育	すてきな新体操	3歳児～中3	60分	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操。
	楽しい体育・運動	//	//	身近な道具を使った運動、マット・とび箱などを使ったサーキットなど。
	レクリエーション	//	//	鬼ごっこやしっぽとり・フライングディスク・パラバルーンで楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう	//	//	ウォールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タグラグビーなどの球技から一種目を選択。
ブ レ イ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	60～80分	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検。ごっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	//	//	悪者忍者の挑戦を受け、さまざまな忍者修行に挑むごっこ遊び。
	みんなであそぼうパペットランド	//	//	紙コップ、封筒などの身近な物で人形を作り、お話の世界で遊ぶプログラム。
	みんないっしょに	3歳児～小2	//	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどをスタッフと一緒に楽しむプログラム。
	こどもの城オリンピック	小1～	//	オリンピック種目を愉快地アレンジしたレクリエーションゲーム大会。
	パソコンであそぼう	5歳児～	60～90分	コンピュータグラフィックス・パソコンクラフトなど、パソコンを使ったさまざまな遊びを体験。
造 形	かげをうつそう	4歳児～小6	60～80分	自分の影をプレイングボード（大きな白い壁）に写しとって、その影の中を絵の具でデザイン。
	木をつくろう	//	//	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る。計画の楽しさを知ろう。
	粘土でジャングル旅行	5歳児～小2	//	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作り、みんなでジャングル旅行。
	竹体験	小1～	//	日本の伝統的な植物“竹”の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら、竹の造形を楽しむプログラム。
音 楽	忍者ってほんとうにいたの？	3～5歳児	60分	子どもたちのイマジネーションによる忍者ごっこ遊び。
	スカーフであそぼう	//	//	スタジオの照明にはえるスカーフで楽しく遊ぶプログラム。
	まつりばやし	//	//	お祭り広場になったスタジオで、楽しく和太鼓をたたくプログラム。
	ガムランで遊ぼう	3歳児～	//	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりするプログラム。
	サンバでおどろう	4～5歳児	40～50分	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊るプログラム。
	たたいてみよう日本の太鼓	//	//	いろいろな種類の和太鼓を思いっきりたたいてコンサート。リズムは簡単！
	タムタム大王と遊ぼう	//	//	アフリカの太鼓の名人、タムタム大王と一緒に太鼓の大合奏。
楽	インドネシア・アングルン	小1～	//	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	//	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。

	プログラム名	対象年齢	時間	内 容
A	みんなでつくろう“ばたばたアニメ”	4歳児～	60～90分	みんなが描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメを体験。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	60分	透明な映画フィルムに着色してから映写すると、楽しい図柄がスクリーンに映し出される。
V	ビデオであそぼう	小3～	60～120分	突撃インタビュー・ビデオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	60分	針穴があけただけのカメラ、ピンホールカメラを作るプログラム。

※障害児対応のプログラムについては、障害の程度によって実施できるプログラムが異なります。
 体育部門の活動は、各プログラムを組み合わせることも可能です（打ち合わせ時に相談）。

劇場 事業本部



APAS2003(ワークショップ) 「舞台の仕事」

平成15年度の活動

1. はじめに

本年度は、青山劇場も青山円形劇場もフル稼働に近い状態であった(公演演目一覧参照)。これらは景気とリンクする部分も多いが、興業界の“ディスカウント方式”ともいえる現象と関連しているのではないかと思う。つまり、経費をかけずになるべく公演回数を増やし、新しいプログラムを次々と上演することで制作経費の回収をはかることを目的とした方式が多くなってきている。「興業」の持つイメージ、すなわちハイリスク・ハイリターンという一種賭けのような側面はかげをひそめたといえるかも知れない。

劇場の稼働が増えたのはサービス面での改定(青山劇場における利用時間の延長、仕込み休演日の使用料改定など)も大きく効果があったことと判断される。一方、もうひとつの劇場の役割である文化の発信という面では、ここ数年現状維持といえるが、ほとんど事業予算をもたずに他の公的・私的助成機関頼みのため、助成額によって大きな変動がある。

本年度はカナダ・ケベック州政府の協力があって、ケベック州のさまざまなパフォーミングアーツを紹介できた。また、フランス政府のバックアップによりフランスコンテンポラリーダンスを紹介することもできた。しかしながら、劇場が文化機関であるための創作事業は、助成金の減少とともに縮小を余儀なくされている。

バブル期に乱立した文化施設は、「ハコ(劇場)はできたがソフトがない」「芸術に対する目利き育成が急務」などといわれていた。それから10年余、結局なにも進展していない。それどころか、少子化や景気低迷などの要因もあって、文化施設の物理的稼働状況、文化発信稼働状況はとも

に低下の一途をたどっているのが全国的な現状ではなかろうか。

シラク仏大統領がフランスの農業祭で「人間は土とともに生き、土から食べ物を摂取します。人間の文化(La culture humaine)と、土を耕すこと(La culture de la terre)とは実際に、分けることはできないのです」と演説した。劇場という文化施設についても同じことが言える。私たちは、劇場から文化機関としての役割を放棄することなく、常に土を耕し、文化の芽を育てなければならない。明日そこに種を蒔くのではなく、毎日毎日土を耕すことが必要ではなかろうか。

このような観点から本年度は「劇学提携」という試みにも取り組んだ。“劇場”の専門性と“大学”の若い感性を組み合わせることによって、劇場空間へ足を運ぶ人々を増



〈ケベック文化週間〉のワークショップ「人形をあやつる」

やすことを狙いとしたものである。

開館20周年を目前にした〔こどもの城〕の二つの劇場も、使い捨ての文化芸術という果実を購入するのではなく、日々土を耕すことを忘れず、小さな文化の芽を育てなければならぬ。どんな災禍にあってもよく耕した土には必ず芽がはえるのだから……。

2. 主な自主・提携公演

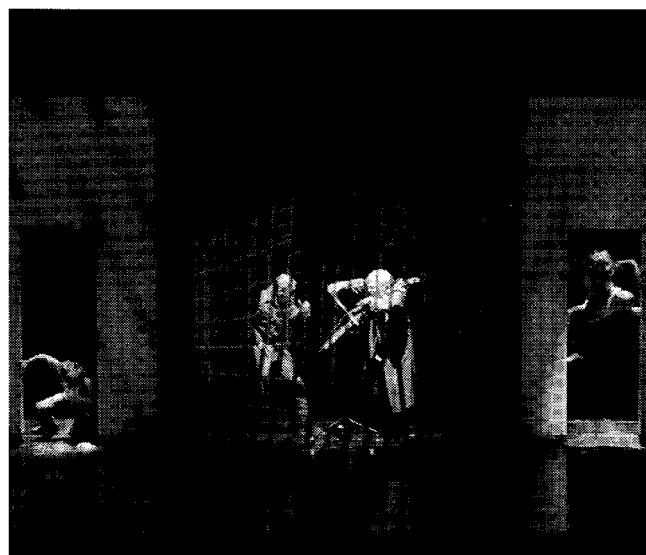
(ア) 青山劇場

■ケベック文化週間

シルク・デュ・ソレイユ、ロベール・ルパージュ、ララ・ヒューマンステップスなどを生み出した舞台芸術の宝庫・カナダ・ケベック州の多彩な舞台芸術のいまを特集して『ケベック文化週間』を8月2～10日に開催した。カナダ・ケベック州はヨーロッパと北アメリカの文化の交差点にあり、独自の歴史と文化とインスピレーションがケベックのクリエイターを革新へと駆り立て、世界からも大きな注目を浴びすぐれてオリジナルな作品を生み出す原動力となっている。

ケベック州政府在日事務所が設立されてから30周年にあたる本年度、舞台芸術の宝庫・ケベック州から国際的に活躍するアーティストを招いて多彩な公演を行った。ダンス、演劇、人形劇、マルチメディア・アーツなどさまざまなジャンルからオリジナル性の高い作品、そして子どもから大人まで楽しめる作品の数々を選び、ケベックからの贈り物として届けた。

また、世界的にも活躍し、独自の指導法をもつアーティストと出会い、参加交流するワークショップも、青山パフォーミング・アーツ・セミナー（APAS）のプログラムとして同時に開催した。



〈ケベック文化週間〉「4D art/anima アニマ」
(写真：Amold GROESCHEL)

◎青山劇場 (8月9・10日)

☆4D art/anima アニマ [マルチメディアアーツ]

制作・演出：ミシェル・ルミュー&ビクトール・ピロン

◎青山円形劇場 (8月2～8日)

☆ロジナの目 [パペット・マイム] (8月2・3日)

演出：ジョゼ・パパン/出演：テアトル・アンクリネ

☆ハマン/ナバス・プロジェクト [ダンス] (8月4・5日)

コンセプト：ジョゼ・ナバス、ウォルター・ハマン/振付・

出演：ジョゼ・ナバス/チェロ演奏：カテリーナ・ジュラスコヴァ

☆ビクトリア [演劇] (8月7・8日)

演出・出演：デュルシネア・ラングフェルダ

.....

〈主催〉財団法人児童育成協会、ケベック州政府在日事務所

〈助成〉日本財団、ケベック・カウンスル、ケベック州国際関係省、ケベック州文化通信省

〈後援〉文化庁、国際交流基金

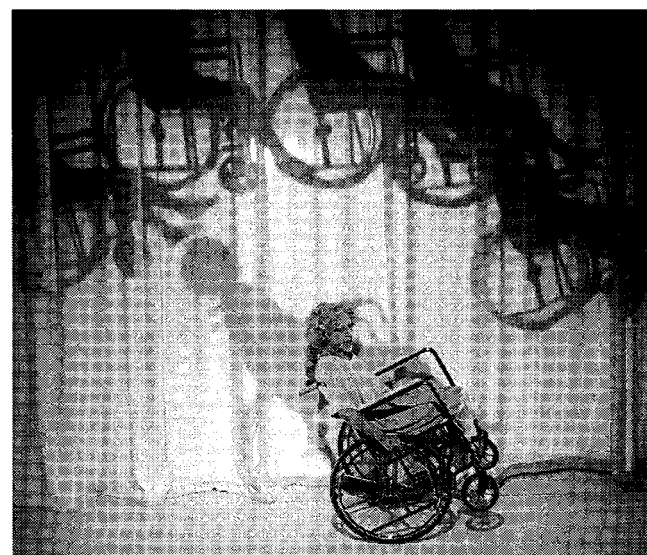
〈特別後援〉フジテレビ

〈協力〉QFRONT、アーツフィア、ダンス・カフェ、エツコワールド、キンダー・フィルム・フェスティバル、PROMAX Inc.

〈スタッフ〉舞台技術監督：中嶋英樹/照明コーディネーター：片田光彦、柘植幸久/音響コーディネーター：武藤一郎/舞台監督：川上大二郎、江沢晃一/通訳：橋本ユキ、王愛美、荒木英俊/宣伝美術：松岡功/制作：浜口彩子、正木弘美/プロデュース：小野晋司/統括プロデュース：高谷静治

■フランス・ダンス・03

フランス外務省フランス芸術文化活動協会(AFAA)は、平成15年10月11日～12月19日に東京、横浜、京都、



〈ケベック文化週間〉「ビクトリア」
(写真：Amold GROESCHEL)

大阪など日本各地の文化機関・劇場と連携し、フランス現代ダンスの多様で興味深い現在を日本の多くの観客に鑑賞してもらい、両国のダンスをめぐる多様な活動をとおしてさらに交流を深めることを目的に、フランスの現代ダンスフェスティバルを開催した。

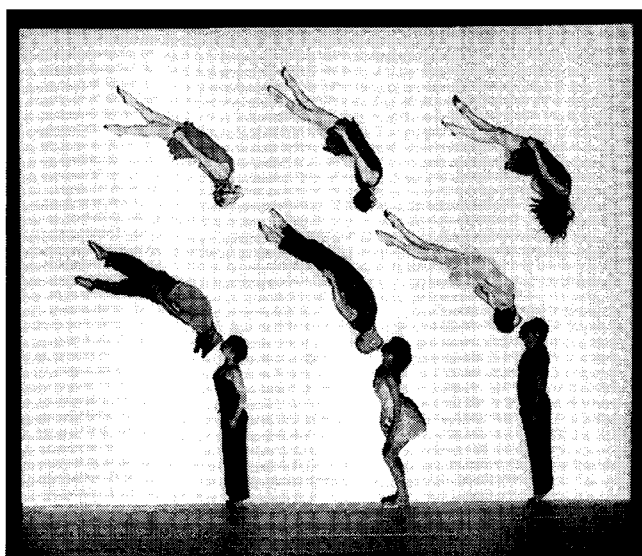
青山劇場・青山円形劇場では「フランス・ダンス・03」の開催趣旨に賛同し、従来クラシックバレエの鑑賞機会はあってもコンテンポラリーダンスに出会う機会がない子どもたちへこそ、その自由な表現と楽しさを体験してもらうこと、子どもたちへたくさんの想像力を手渡すことの大切さを考えて採し当てたのが、カンパニー・ボー・ジェストの現代ダンス入門・ダンスの歴史物語「ワタシなりのダンスの歴史」、カンパニー・モンタルヴォ＝エルヴュの「バラディ（楽園）」である。

芸術や文化は国や民族、地域ならではの固有性、独自性が望まれる一方、異文化との交流や出会いからインスピレーションを受けたり与えたりして、相互に影響をおよぼしあい、巡り巡りながら変化してきた。このフェスティバルでの新たな出会いや発見を通じて、フランスと日本のダンス創造活動がさらに刺激的で豊かな関係に発展すること、ひるがえって日本のダンスの現場が活性化することを目的に開催した。

◎青山劇場（12月19日）

☆バラディ（楽園）

振付：ジョゼ・モンタルヴォ、振付助手：ドミニク・エルヴュ（カンパニー・モンタルヴォ＝エルヴュ、クレティユーヴァル・ドゥ・マルヌ国立振付センター）／ビデオデザイン：ジョゼ・モンタルヴォ／ダンサー：ウアリド・ブーマニー、デルフィーヌ・キャロン、アーメド・エル・ジャタリ、ジョエル・イフリグ、シャンタル・ロイヤル、メラニー・ロモフ、モクタル・ニアティ、サビヌ・ノヴェル、メルラン・



〈フランス・ダンス・03〉「バラディ（楽園）」
（写真：Arnold GROESCHEL）

ニヤカム、ロベルト・パニ、オルガ・プラザ・ヴィラン／音楽：アントニオ・ヴィヴァルディ、ジャン＝フィリップ・ラモー、DJ TAL／音響環境：ヴェルトラン・ネイレ／照明デザイン：クリストフ・ピトワゼ、ロベール・ムラカー／技術監督：イヴ・ファヴィエ／写真・ビデオ：パスカル・ミネ／舞台監督：セブリス・コンブ／照明技術：ヴァンサン・パオリ／音響技術：エリック・モラン／マネージャー：アンヌ・ソヴァージュ／海外ツアーマネジメント：DLBパフォーミング・アーツ、ディディエ・ル・ベスク、アシスタント：ティエリー・ベヴィエール

◎青山円形劇場（10月24～26日）

☆ワタシなりのダンスの歴史

振付・出演：ドミニク・ボワヴァン（カンパニー・ボー・ジェスト）／アソシエイト：クリスティーヌ・エルベ／アーティスティック・コラボレーション：フィリップ・プリアツ／映像：ジュディス・プリアツ、フィリップ・プリアツ／照明：エリック・ラミ／音楽：ボー・ジェスト／制作・広報：シルヴィ・ベケット

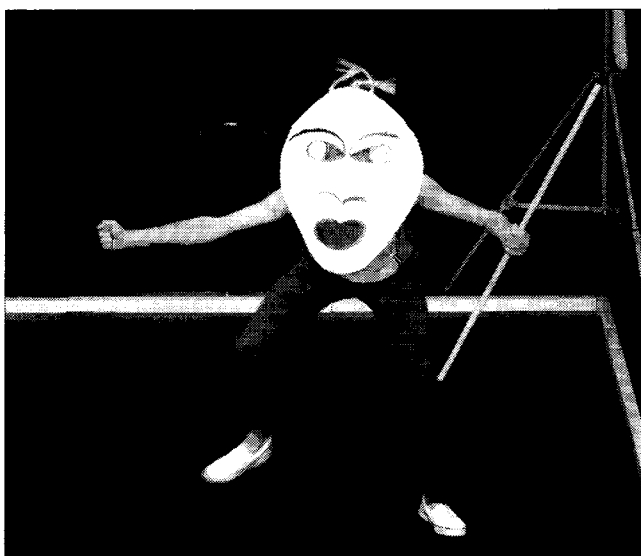
.....

〈主催〉財団法人児童育成協会

〈共催〉フランス外務省フランス芸術文化活動協会（A F A A）、フランス大使館、朝日新聞社、フランス・ダンス・03実行委員会

〈助成〉平成15年度文化庁国際芸術交流支援事業

〈スタッフ〉舞台技術監督：中嶋英樹／舞台監督：堀尾由紀／照明コーディネーター：片田光彦／音響コーディネーター：武藤 一郎／舞台機構操作：柏崎雅弘（青山劇場公演）／通訳・日本語ナレーション：山田ひろ美（青山円形劇場公演）／通訳：柴田綾子（青山劇場公演）／宣伝美術：有北真也／アドミニストレーター：浜口彩子／制作：正木弘美／プロデュース：小野晋司／統括プロデュース：高谷静治



〈フランス・ダンス・03〉「ワタシなりのダンスの歴史」
（写真：Arnold GROESCHEL）

青山円形劇場オブジェクトシアター vol.7「KOUSKY」
～人形と音の不思議空間～沢則行 Meets 中西俊博



(イ) 青山円形劇場

■青山円形劇場オブジェクトシアター vol.7
「KOUSKY」～人形と音の不思議空間～

沢則行 Meets 中西俊博

オブジェクトシアターとは、人形だけではなく、様々な“モノ（オブジェクト）”や仮面や俳優自身の肉体も舞台に登場し、総合的に作品を作り上げる人形劇の表現方法のひとつで、チェコスロバキアやポーランドで生まれ、世界に広がっている新しい舞台様式。フィギュアシアターとも呼ばれ、衝立の影に隠れて人形を操るパペットシアター（いわゆる人形劇）とは異なる表現である。

「KOUSKY」とは、部品・部分を意味するチェコ語の複数形。ここではチェコを拠点に活躍している人形劇作家・沢則行の小作品集のことで、いくつかの短編作品を中心に構成されている。

今回は新しい試みとして、ポップス・バイオリンの第一人者中西俊博とのコラボレーションに挑戦した。人形の魔術師・沢則行と音のファンタジスタ・中西俊博がコラボレートして、人形が音楽を、そして音楽が動きを引き出し、おしゃれで美しい舞台を作り出した。

初めて沢則行のオブジェクトシアターをみた人は、これが人形劇？ と思うかもしれない。人形や仮面やオブジェという生命の無い“モノ”と、生命を持つ沢という“ヒト”による、せりふの無い芝居だからだ。そこにバイオリニスト・中西俊博の即興的な“オト”が加わることで、世界初の不思議な空間が青山円形劇場に現出され、好評を博した。

公演アンケートから観客の声を抜粋する。

○映画や舞台、コンサートとは違う楽しめる枠が一つ増えたのがすごくうれしい！

○唯一無二、見たことのない世界。

○人形劇とバイオリンで二度おいしいって感じです。

○いろいろな材料を使い、イメージを膨らませていける。

Aoyama First Act #3
bird's-eye view #007「campus ; full」



次は何が…と、ワクワクする。

○期待、想像してた以上のすばらしい舞台。中西さんの作り出す音に幸せ気分になっていただきました。沢さんの指から身体から、何が飛び出すのかワクワクさせられっぱなし。童心にかえってしまいました。

■Aoyama Organic Night
vol.1 CHORO CLUB “COLORS”
vol.2 みなぐどうし2003
Special 平良とみのウチナー音楽劇

「ニライカナイ」

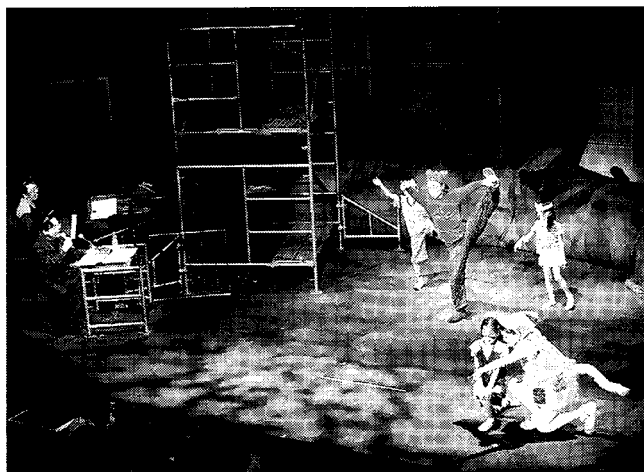
身体に優しく、心がなごむ音楽。老若男女、すべての世代を超えて心が温かくなり身体が元気になる“声”“音”……。ストレスの多い現代人に、そんなオーガニックなひとときを提供するのが、「Aoyama Organic Night」。このシリーズで、「こどもの城」に“癒し”という大変意義深い新たな側面を与えることができた。今後もまだまだ認知度の低い癒し系ミュージシャンたちを支援することでその登竜門としての地位を確立していきたい。

出演：CHORO CLUB、古謝美佐子（ゲスト）、畠山美由紀（同）＝vol.1「CHORO CLUB “COLORS”」／古謝美佐子、宮里奈美子、比屋根幸乃、島袋恵美子、佐原一哉、普天間かおり（ゲスト）、桑江知子（同）＝vol.2「みなぐどうし2003」／平良とみ、CHORO CLUB、大島保克、小嶺和佳子、加藤直（演出）＝Special 平良とみのウチナー音楽劇「ニライカナイ」／主催：mauve／後援：J-WAVE／提携：こどもの城劇場事業本部

■Aoyama First Act #3 bird's-eye view
#007「campus ; full」

若手新進劇団およびパフォーマンス集団支援育成プロジェクトとして前年度から始まったのが「Aoyama First Act」。完全円形という青山円形劇場の特殊な空間は、多

月猫えほん音楽会2003
えほん×ジャズ=めっちゃ² 楽しいシアターライブ



くの若手劇団にとって、自分たちのオリジナリティを存分に表現できる場として、今や一つの芸術的目標となっている。しかし、青山円形劇場の特性を生かせる企画を持ちながら、資金難などで公演を実現できなかった集団も多い。

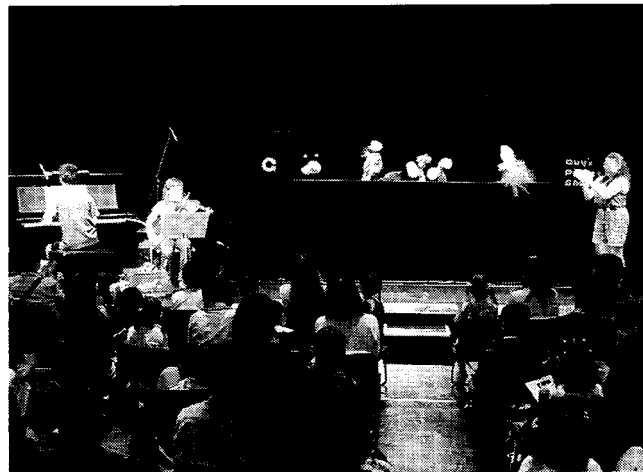
そこで、青山円形劇場未経験の劇団から、才気と熱意にあふれる集団を選び出し、最初の1回だけのチャンスを与え、公演を実現させて飛躍のきっかけをつかんでもらい、将来は青山劇場、青山円形劇場はもちろんのこと、演劇界の担い手として精進してもらうのが目的のシリーズ。今回はその第3弾として、bird's-eye view (バーズ・アイ・ビュー) による「campus ; full」という芝居を上演した。

bird's-eye viewは平成10年秋、当時、双数姉妹で役者として活躍していた内藤達也を中心に、同世代の役者やクリエイターが劇団の枠を超えて集まり結成された演劇ユニット。ポップなビジュアル・デザインと一つのコンセプトを写真のごとく断片的に捉えて組み立てる[PHOTOPLAY]という手法を用いて、同世代が共有するリアルさを描いてきた。その後も、話題のインディーズ・ブランド「Future eyes」の山本華漸が参加するなど、ファッションや映像とのコラボレーションによるアートな舞台表現を展開している。

本公演では、青山円形劇場の壁面全面に映像を投射したり、常に天井から水が滴り落ちるオブジェを作製するなど実験的アート感覚あふれる舞台の中、彼ららしい乾いた笑いとはかなげな空間が展開された。今後の彼らの活躍を期待するとともに、これからはAoyama First Actを通じて、さまざまな個性を展開させたい。

演出：内藤達也／出演：杉浦理史、小野ゆたか、山中崇、大吞智恵 他／振付：金崎敬江／コスチューム：山本華漸「Future eyes」／主催：bird's-eye view／協力：博報堂／提携：こどもの城劇場事業本部

ホップ・ステップ・カッパのガイちゃん
～愉快な仲間と不思議な旅をするの巻～



■月猫えほん音楽会2003

えほん×ジャズ=めっちゃ² 楽しいシアターライブ

平成11年度から始まり、大好評を得ている「月猫えほん音楽会」は、“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公演。（財）こども未来財団との共催。

大きな月（スクリーン）に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。また、希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向でライブの楽しさを演出することに成功した。

昨今、“絵本”と“読み聞かせ”の魅力が見直されている。それは、何かと暗い世相の中で、絵本の持つ美しさと奥深さに人々が改めて目を向け始めたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘されるなか、絵本の読み聞かせがコミュニケーションを深めるのに役立つと多くの人が気づいたからではないだろうか。

そのような関心の高さを示してか、定員1,750人のところ約2,540世帯7,982人という過去最高の応募があった。出演：佐山雅弘（ピアノ）、波多雅子（進行）、本多愛也（パントマイム）、能祖将夫（朗読）／演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：小竹信節／協力：東京動物園ボランティアーズ／主催：（財）こども未来財団、（財）児童育成協会

■ホップ・ステップ・カッパのガイちゃん

～愉快な仲間と不思議な旅をするの巻～

夏休み特別期間の青山円形劇場のファミリー向け公演として上演された人形劇。人形劇も演劇の1ジャンルなので、人形劇との出会いが、初めての演劇との出会いになった大人は数多いと思う。とはいっても、人形劇は人間が演ずる

演劇のミニチュア版ではなく、独自の演劇表現方法であることは言うまでもない。

人形劇で使われる劇人形の種類は、両手遣い、片手遣い、糸あやつり、棒遣い、抱え遣い、着ぐるみ、仮面、影絵と多種多様である。命のない「モノ」(人形)が、生き生きと動き出す世界が人形劇で、人間は動かない(人形の遣い手としては動くが、演技はしない)。

それゆえ、人間の演劇では考えられない、自由な発想の表現方法が可能になる。例えば、人間(人間の形の人形)が簡単に空を飛んだり、突然海に潜ったり——時空を超えて生き生きと動き出し、観る側の想像力いかんでは、ファンタジーの世界にも楽々と遊ぶことができる。そんな人形劇を楽しんでもらおうと、今回は数多い人形劇団の中から、「ガイ氏即興人形劇場」に出演依頼した。

作・演出・振付に舞踊演出・振付家の上田遥さんを迎えて、新作に挑戦。カッパのガイちゃん(人形)と歌とバイオリンとピアノとシンセサイザーの愉快的仲間(人間)が、春夏秋冬、時空を超えて不思議な旅に出かけるというストーリー。四季折々の歌と音楽でつづるファンタジーの世界は、見る人の想像力を喚起し、子どもばかりではなく大人にも深い感動を与えた。

ビジュアルとしての人形、生の音楽、生の語りとで構成した劇中劇(絵本の読み聞かせ)の「イソップ物語」では、上記の人形劇の特性をもとにしつつ、伝統に培われた人形操作の人形、新しい感性の音楽、卓越した語りとのコラボレーションという、新しい形の人形劇を披露した。

作・演出・振付：上田遥／音楽：坂出雅海／出演：吉村温子(うたのあっちゃん)、CHICA(ヴァイオリンのちかちゃん)、吉森信(ピアノのまこと君)、坂出雅海(いたずらシンセのまさみおじさん)、ガイ氏即興人形劇場(中嶋咲枝、荻野義幸、越川理恵子、酒井美知＝カッパのガイちゃんの人形たち)



APAS2003(ワークショップ)
アレッシオ・シルベストリンの「初めてのダンス」

■第1回日韓ダンスコンタクト

ワールドカップ2002の共同開催によって、日韓の関係は“近くて近い隣国”になった。さらに次ぎのステップとして〈交流からパートナーシップの確立〉へ進まなければならない。東京「青山円形劇場」とソウル「Theatre Zero」(1998年開館、韓国舞踊芸術の本拠として有名)が企画段階から連携して、時代を映すダンスの分野で、企画・共同創作・制作へ乗りだした。日本と韓国の新進アーティストの創造活動がさらに刺激的で豊かな関係に発展すること、日韓双方の舞台表現の現場が活性化することをめざして交互に共同で開催していく。

平成17年の日韓国交正常化40周年「ジャパン・コリア・フェスタ2005」を視野に入れながら、本年度は9月に青山円形劇場を舞台に、日本と韓国の共通点と差異をとともに受け止め、同時代に生きる若い芸術家の課題や問題点を切り開いていくことを目的に第1回「日韓ダンスコンタクト」を開催した。

Aプログラム(9月23日)

「青い蜘蛛」＝振付・出演：リュウ・ヒジュウ

「ラベンダー」＝振付・出演：北村成美

「同行」＝振付・出演：バク・ウンソン、ジョ・ヒョンジン

「まばたきぐり」＝構成・演出・振付・出演：岡本真理子

Bプログラム(9月25日)

「Edge」＝振付・出演：木野彩子

「頭を悩ます女」＝振付：キル・ヒョンジョン

「UNDERGROUND CHEER LEADER」＝振付・出演：たかぎまゆ

「Pure, G」＝振付・出演：バク・ソヨン

Cプログラム(9月27日)

「ピノキオⅢ」＝振付・出演：ホン・ソンミ

「epilogue」＝振付・出演：ノ・ジンファン

「春の日々が過ぎ去る」＝振付・出演：ジャン・ウンジャン



APAS2003(ワークショップ) フランス・ダンス・03
「フィリップ・ブリアッソの青少年向けダンスワークショップ」

「SHOKU soloverion」＝振付・出演：黒田育世

〈主催〉財団法人児童育成協会、日韓ダンスコンタクト実行委員会

〈提携〉Theatre Zero (ソウル)

〈助成〉芸術文化振興基金、韓国文藝振興院

〈後援〉駐日韓国大使館 韓国文化院、国際交流基金

〈協力〉ダンス・カフェ、玉川大学芸術学部

〈制作協力〉オフィス☆ダム、Dance in Deed!

〈スタッフ〉舞台監督：原口佳子／照明：アイカワマサアキとスタッフ塾／音響：山田恭子／制作：小野晋司、正木弘美／プロデュース：高谷静治

■青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」15th anniversary

役者と音楽家が一体となって作り上げる「ア・ラ・カルト」は、クリスマスの時期を迎えたある老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショート芝居とバイオリニストの中西俊博を中心としたバンドマンの生演奏でつづるしゃれたエンターテインメントショーとしてすっかり冬の風物詩となっている。

15周年記念公演と銘打った今回も、毎回おなじみの定番となっている役柄が新しい笑いと感動を呼び起こし、全25ステージが完売、約9,000人を動員。ゲストにテレビでお馴染みの羽場裕一を迎え、歌にダンスに、そして心にしみわたる芝居で素敵な時間を提供した。

記念公演として、15年を集大成したパンフレットを作成し好評を呼んだ。

大阪公演も昨年に引き続きMIDシアターで5ステージ行い、年末の大阪を賑わせた。

出演：高泉淳子、白井晃、陰山泰、羽場裕一（ゲスト）、中西俊博（ヴァイオリン）、クリス・シルバースタイン（ベース）、

宮下誠（ギター）、林正樹（ピアノ）／演出：吉澤耕一／構成：白井晃／台本：高泉淳子／音楽監督：中西俊博／協賛：富士通（株）

*大阪公演の主催は関西テレビ放送、(株)ハートス、キョードー大阪

■第16回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本 III ～クルクルミチルの青い鳥～」

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづるお正月恒例のファミリーオペレッタ。[こどもの城]のスタッフで創作するこの作品は、今年で16回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

上演は、第14回からのシリーズとなる『とびこむ絵本』の第3弾。絵本「ぶっかりタウン」に住む天使たちと、その世界に飛び込むことができるクルクルが巻き起こす物語。

いつも忙しく働いているお母さんは、幸せなのだろうか…と考えたミチルちゃん。お母さんの幸せはいったいどこにあるのでしょうか？ ミチルちゃんとクルクルの幸せ探しが始まります。今回のテーマは、“幸せ”。童話「青い鳥」をモチーフに、人はたくさんの幸せに出会うことができるということ、そして、親子にとっての幸せを考えたストーリー。シリーズとおしてのテーマは“絵本の読み聞かせ”で、親と子が語り合うこと、ふれあうことのすばらしさを描いた。

温かで楽しい登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語の中に引き込み、子どもだけでなく大人からも多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大切さを感じとれるような良質な舞台作品を創作し、より多くの人に提供したい。

脚本：山下哲／演出：高谷静治／出演：オペラクリエーシ



第16回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本 III ～クルクルミチルの青い鳥～」



青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」15th anniversary (写真：北村光隆)

ョン・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、岸辺バレエスタジオ、他／共催：麒麟福祉財団

■デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration

青山本場所

邦楽のトップアーティスト——レナード衛藤（太鼓）、三橋貴風（尺八）、福田千栄子（箏・三味線）、稲葉明德（箏・篳篥＝ひちりき）らとデーモン閣下が向き合い、従来の音楽の枠にとらわれることなく、真摯な編曲と稽古を経て競演を展開、日本の音楽の可能性をさらに追求。

“聖飢魔Ⅱ”時代から新風を注入し続ける邦楽との共演の集大成として、“音楽で語り朗読で歌う”朗読パフォーマンス、邦楽の古典から現代曲、洋楽器と競演する古典曲そして邦楽器で味わう洋楽——アートとエンターテインメントの絶妙なバランスにより邦楽の既成概念を打破し続ける「邦楽維新Collaboration」シリーズの大きなステップとして青山本場所が実現した。

【花鳥風月】（平成16年1月10～12日）

出演：デーモン小暮閣下（歌・朗読・進行）、福田千栄子（箏・三味線）＋橋本芳子（箏）＋久本桂子（二十絃箏）、稲葉明德（箏・篳篥）＋高原聰子（笙）＋太田豊（龍笛）、黒船バンド（松崎雄一：編曲・キーボード＋石川俊介：ベース＋雷電

湯沢：ドラムス）

【風林火山】（1月13～15日）

出演：デーモン小暮閣下（歌・朗読・進行）、レナード衛藤（太鼓）、三橋貴風（尺八）、黒船バンド（松崎雄一：編曲・キーボード＋石川俊介：ベース＋雷電湯沢：ドラムス）

……………

〈主催〉財団法人児童育成協会

〈助成〉芸術文化振興基金

〈協賛〉株式会社宮本卯之助商店、財団法人ヤマハ音楽振興会

〈制作協力〉吉本興業株式会社

〈スタッフ〉舞台監督：山村唯史／音響：実吉英一／照明：雑賀博文／大道具：C-COM／宣伝デザイン：藤森文胡／プロデュース：三橋貴風／制作：小野晋司

（ウ）青山パフォーミング・アーツ・セミナー

ダンス、ミュージカル、演劇、舞台の仕事などパフォーミング・アーツをより身近に体験できる“場”を青少年や一般にひろく提供するワークショップ＆フォーラム・プログラムとして、6月から12月まで16のワークショップと4つのフォーラムを開催し、延べ1,135人が参加した。

平成15年度公演演目一覧表

1. 青山劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
ル・シャルム	6.12 (1)	1	8,000	1,164	910	78.2	
ケベック文化週間	8.8~10 (2)	2	S=5,000 (前売4,800) / A=3,500 (前売3,300)	1,820	908	49.9	
ファニーレディ	12.9 (1)	1	8,000	1,156	969	83.8	
フランスダンス2003 「バラディ (楽園)」	12.18・19 (2)	1	S=4,500 (前売4,000) / A=3,500 (前売3,000)	1,110	595	53.6	
クリスマスの贈り物2003	12.22・23 (2)	1	A=4,000/B=3,500	1,192	858	72.0	
(自主・提携公演 小計)	(7)						
〈貸し館〉							
オケビ! (パルコ)	4.1~20 (20)	22	SS=12,600/S=10,500/ A=8,400/B=6,300/ 立ち見=5,000	23,632	23,352	98.8	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.21~5.11 (21)	25	S=7,800/A=5,800	27,725	25,835	93.2	
スーパーダンスバトル 2003 (ディスクガレージ)	5.16~18 (3)	4	S=7,000/A=5,000	4,792	4,518	94.3	
ドントトラストオーバー30 (ホリプロ)	5.19~6.8 (21)	20	S=9,500/A=7,500	23,120	18,193	78.7	
ベギー葉山コンサート (オデッセー)	6.11 (1)	1	S=10,500/A=8,000/ ペア=16,000	1,162	1,071	92.2	
民謡の底力 (民謡の底力実行委員会)	6.14・15 (2)	2	5,500 (前売5,000)	2,312	1,638	70.9	
THE CONVOY SHOW「雲のゆくえ」 (ゼクシード)	6.16~30 (15)	12	7,350	14,376	13,453	93.6	
少年隊PLAYZONE 2003 (ヤングコミュニケーション)	7.5~8.5 (34)	32	12,000/立ち見=9,000	35,264	34,838	98.8	
シンデレラストーリー (東宝芸能)	8.11~31 (21)	20	S=10,000/A=8,000/ 立ち見=5,000	22,320	17,988	80.6	
日本太鼓全国障害者大会 (日本太鼓連盟)	9.5・6 (2)	1	招待	1,101	569	51.7	
都愛子リサイタル (ザカンパニー)	9.12 (1)	1	S=7,000/A=6,000	1,156	948	82.0	
畠山美由紀コンサート (ディスクガレージ)	9.14 (1)	1	4,800	1,156	1,059	91.6	
OINARI 浅草ギンコ物語 (東宝芸能)	9.17~27 (11)	8	S=8,500/A=7,000	9,252	6,277	67.8	
押尾コータローコンサート (キョードー東京)	9.28 (1)	1	4,800	1,143	1,141	99.8	
ブラッドブラザーズ (RUP)	9.30~10.19 (20)	20	S=9,800/A=8,500	22,819	21,947	96.2	
谷村新司コンサート (キョードー東京)	10.27~11.9 (14)	10	1F=10,000/2F=8,000	11,696	11,171	95.5	
渡辺真知子コンサート (キョードー東京)	11.10 (1)	1	6,500	1,156	792	68.5	
つかこうへいダブルス2003 「幕末純情伝」・「飛龍伝」 (RUP)	11.11~12.7 (27)	26	S=8,500/A=7,500	28,088	26,981	96.1	
「すべては愛のために」試写会 (日本ヘラルド映画)	12.11 (1)	1	招待	1,088	598	55.0	
黒坂正文オカリナコンサート (黒坂音楽工房)	12.14 (1)	1	5,000 (前売4,500)	1,178	901	76.5	
アニークリスマスコンサート (日本テレビ)	12.20・21 (2)	4	S=5,000/A=4,800	4,840	4,467	92.3	

名 称	日 時	回 数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
榛名由梨40周年コンサート (コンサート実行委員会)	12.24~25 (2)	1	SS=10,000/S=7,000/ A=4,000	1,164	1,041	89.4	
サクラ大戦帝国歌劇団・花組 「2004年新春歌謡ショウ」 (レイネット)	12.27~ H16.1.5 (7)	7	SS=9,000/S=7,000/ A=4,000/ ファミリー券=12,000	8,110	7,185	88.6	
都民芸術フェスティバル特別公演 (東京都生活文科学局)	1.9~10 (2)	1	招待	1,180	998	84.6	
DOKIDOKI Night (ミュージックギャラリーヒロ)	1.13~18 (6)	9	S=8,500/A=7,000	5,590	3,846	68.8	
安部なつみ・後藤真希ミュージカル 「サヨナラのLOVESONG」「おかえり」 (オデッセー)	2.9~22 (14)	15	9,800	18,126	16,301	89.9	
ジャックブレルは今日も生きて パリでうたっている (キョードー東京)	3.1~7 (7)	6	S=7,000/A=5,500	6,936	3,278	47.3	
スター誕生 (日本音楽事業者協会)	3.10~31 (22)	18	S=10,000/A=8,000	21,594	19,611	90.8	
(貸し館 小計)	(280)						
(青山劇場 合計)	(287)						

2. 青山円形劇場

名 称	日 時	回 数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉							
オブジェクトシアターVol.7 「KOUSKY~人形と音の不思議空間~沢別 行 Meets 中西俊博」	4.11~13 (3)	4	4,500 (前売4,000)	1,039	897	86.3	
ミュージカル「ドリーミングボーイ」	6.9~15 (7)	7	2,000 (前売1,800)	1,498	1,433	95.7	
Aoyama Organic Night vol.1 「CHORO CLUB "COLORS"」	6.16~17 (2)	4	5,500 (前売5,000)	575	469	81.6	
Aoyama First Act Entry bird's-eye view #007 [campus;full]	7.16~21 (6)	6	3,500 (前売3,200)	1,720	1,398	81.3	
月猫えほん音楽会	7.24~27 (4)	5	招待	1,850	1,647	89.0	
ケベック文化週間	8.2~8 (7)	6	3,500 (前売3,300)	1,172	773	66.0	
ホップステップ カッパのガイちゃん	8.15~17 (3)	4	3,200 (前売3,000)	824	566	68.7	
日韓ダンスコンタクト vol.1	9.22~27 (6)	3	3,500	492	356	72.4	
Aoyama Organic Night vol.2 「みなぐどっし2003」	9.29~30 (2)	2	5,500 (前売5,000)	590	477	80.9	
シークレット・クラブ vol.2	10.14~19 (6)	6	6,000	1,797	1,570	87.4	
フランスダンス「ワタシなりのダンスの歴史」	10.23~26 (4)	3	3,500 (前売3,000)	597	303	50.8	
欲望という名の電車	11.4~30 (27)	32	6,500	10,944	9,887	90.3	
ア・ラ・カルト	12.1~26 (26)	25	6,000	9,614	9,151	95.2	
麒麟ファミリーオペレッタ 「とびこむ絵本 III」	12.27~29, H16.1.2~7 (9)	11	2,800	4,048	3,805	94.0	
デーモン小暮の邦楽維新	1.9~15 (7)	6	4,800	2,028	1,869	92.2	
Aoyama Organic Night Special 平良とみのウチナー音楽劇「ニライカナイ」	2.13~17 (5)	3	4,500 (前売4,000)	642	601	93.6	
ダウンタウンフォーリーズ	3.3~14 (12)	13	8,000 (前売7,000)	4,062	3,574	88.0	
オオサカヤネン	3.22~23 (2)	1	3,500 (前売3,000)	222	136	61.3	
Lynx	3.29~31 (3)	-	仕込み・稽古 (公演は4.1~)	-	-	-	
(自主・提携公演 小計)	(141)						

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈内部利用〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
こどもフェスティバル	5.2~5 (4)	9	無料	2,634	1,900	72.1	企画研修
マタニティコンサート	7.5~6 (2)	1	無料	350	251	71.7	小児保健
キンダー・フィルム・フェスティバル	8.9~10 (2)	6	無料	1,624	1,245	76.7	AV事業部
混声合唱	9.28 (1)	2	無料	512	417	81.5	音楽事業部
ぼくらのサウンド 2004	H16.3.19~21 (3)	5	無料	1,262	861	68.2	〃
(内部利用 小計)							
〈貸し館〉							
押尾コータローコンサート円形1 (キョードー東京)	4.4~5 (2)	2	4,500	744	700	94.1	
ひとり舞台 アイ・アイ・アイ (吉本興業)	4.8~10 (3)	4	4,500 (前売4,000)	1,268	1,100	86.8	
STELLAコンサート (東京音楽文化協会)	4.14 (1)	1	3,500	356	260	73.0	
サイケとバラバラの日々 (ウズメ)	4.15~20 (6)	6	5,800 (前売5,500)	1,596	1,446	90.6	
Spice Boys (吉本興業)	4.21~22 (2)	2	2,700 (前売2,500)	486	343	70.6	
BLOOMING (舞台美術とダンスコラボレー ション実行委員会)	4.23~24 (2)	2	4,000	498	496	99.6	
鶴瓶 2003春 (デンナーシステムズ)	4.25~29 (5)	5	4,200	1,829	1,683	92.0	
CELL-lean Blue 2003 + "B" + とろわん (mauve)	4.30~5.1 (3)	1	4,500 (前売4,000)	218	163	74.8	
渡辺えり子プロデュース vol.2 「ドタキャンするの!？」 (オフィス300)	5.6~15 (10)	11	4,000 (前売3,800)	2,541	2,339	92.1	
PERCUSSIVE NOVEMENT (梯郁夫)	5.16 (1)	1	4,500 (前売4,000)	320	276	86.3	
頑張れ! 難病と闘う人々 チャリティ・コンサート (鴻池薫)	5.17~18 (2)	2	6,000	564	422	74.8	
鈴木恵美子バレエ☆コンタクト 「la DOUBLE」(鈴木恵美子バレエスタジオ)	5.22~24 (3)	2	4,500	764	671	87.8	
学芸会 (くろいぬパレード)	5.27~6.2 (7)	7	3,200 (前売3,000)	1,148	1,102	96.0	
シアタージャック「義経」 (劇団シアタージャック)	6.18~22 (5)	4	4,300 (前売3,800)	880	798	90.7	
Live cafe music #6 「図書室の窓から見上げた空は…」 (オズエンタテイメント)	6.26~27 (2)	2	6,500	672	540	80.4	
旅路の果てに (劇団ステージドア)	6.28~29 (2)	3	2,500	942	809	85.9	
エドゥアルドタンゴトリオとエンリケ岩尾 (エンリケ岩尾)	7.1 (1)	1	5,000	216	160	74.1	
ウー・ファンコンサート 2003 こころの声 (ミュージックハウス・モズ)	7.3~4 (2)	2	5,000 (前売4,500)	502	441	87.9	
SLEEPLESS (クリオネ)	7.7~13 (9)	9	4,500 (前売4,000)	3,044	2,586	85.0	
中西俊博 Leaping Bow Vol.3 (ミュージックハウス・モズ)	7.14~15 (2)	2	5,500 (前売5,000)	536	450	84.0	
田原総一郎の熱論90分(テイクシステムズ)	7.31 (1)	1	無料	300	280	93.3	
ドラマエデュケーションフェスタ (ドラマエデュケーションカンパニー)	8.21~24 (4)	2	2,000/3,000/4,000	256	210	82.0	
第一回青山寄席「笑福亭鶴瓶落語会」 (デンナーシステムズ)	8.30~31 (2)	2	3,800	688	647	94.0	
宇宙堂第3回公演「りぼん」 (おふいす300宇宙堂)	9.1~11 (11)	15	5,800 (前売5,500)	4,643	3,589	77.3	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
久世星佳テアトロボウ (シス・カンパニー)	9.12~15 (4)	4	6,500	1,177	1,093	92.9	
浜田真理子「あおやま美音堂秋」 文殊の知恵熱「サニーサイドアップ」 (美音堂)	9.16~17 (2)	2	3,500	631	460	72.9	
上田遥ダンスリサイタルVII (上田遥)	9.18~21 (4)	4	6,000	904	700	77.4	
L'ombre クローデル頌 (植木江津子)	10.1~5 (5)	6	5,000 (4,500)	1,258	1,016	80.8	
私とワタシ (豪勢堂)	10.6~13 (8)	8	4,500 (前売4,000)	2,388	2,013	84.3	
ジグムント・フォーリーズ (バルコ)	10.27~11.3 (8)	10	6,000	2,410	2,105	87.3	
ミラクル・パーカッションアンサンブル コンサート 冬 (ミラクルパーカッションアンサンブル)	H16.1.16~17 (2)	2	4,500 (前売4,000) / 高校生以下= 2,500(前売2,000)	502	441	87.9	
メデスキー・マーティン&ウッド (ファットリフ・プロダクションズ)	1.23 (1)	1	7,500	375	360	96.0	
White Man Project presents 「プレゼンラジオ」 (ホワイトマンプロジェクト)	1.25~2.1 (8)	8	4,800 (前売4,500)	2,209	1,196	54.1	
KIRORO (ソーゴー東京)	2.6 (1)	1	招待	292	278	95.2	
第二回青山寄席「笑福亭鶴瓶落語会」 (デンナーシステムズ)	2.7~8 (2)	3	3,800	1,011	918	90.8	
Music Performance Band 響 PRESENTS「ROAD」 (劇団わらび座)	2.9~10 (2)	2	4,800 (前売4,300) / ネットチケット= 3,500	400	334	83.5	
熊谷和徳 TAP! The LIVE! (キョードー東京)	2.12 (1)	1	3,500	376	343	91.2	
飛ぶ劇場vol.23 「カズクン、旅に出る」「生態系カズクン」 (飛ぶ劇場)	2.19~22 (4)	4	3,000 (前売2,800) / 学生= 2,300	804	570	70.9	
ひしや塾 (菱谷塾)	2.23 (1)	2	1,000	328	190	57.9	
蛙茶番謎帯一寸徳兵衛 (日本映画学校)	2.24~3.1 (7)	6	2,000	1,338	1,090	81.5	
吠える! (ヴァニラスカイ)	3.15 (1)	1	3,000	275	170	61.8	
押尾コータローコンサート円形2 (キョードー東京)	3.26~28 (3)	3	5,000	1,103	1,041	94.4	
(貸し館 小計)	(150)						
(青山円形劇場 合計)	(303)						

3. その他

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー2003 (APAS) ワークショップ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
アレッシオの振付ワークショップ -Finding again-	(人) 一般 (各30)	(人) 延べ 139	6.25~29 19:00~20:30	講師=アレッシオ・シルベストリン。受講料=3,000円(各回)。 (Bリハーサル室)
初めてのダンス	小学生 (各30)	延べ 57	6.28~29 14:00~15:30	講師=アレッシオ・シルベストリン。受講料=1,500円(各回)。(")
ミュージカル・ワークショップ	12~22歳 (各30)	延べ 192	7.25~30 11:00~17:00	講師=リチャード・テイラー(音楽)、ヴィッキー・ボルデイン(振付)。受講料=2,000円(各回)。(")
〈ケベック文化週間〉 人形をあやつる	// (30)	14	8.3 10:00~12:00	講師=ジョゼ・バパン。受講料=2,000円。(")
〈 " 〉 ダンス	一般 (30)	16	8.5 13:00~14:30	講師=ジョゼ・ナバス。受講料=2,000円。(")
〈 " 〉 演劇表現	12~22歳 (30)	18	8.8 13:00~15:00	講師=デュルシネア・ラングフェルダー。受講料=2,000円。(Bリハーサル室)
舞台の仕事	中・高校生 (各25)	延べ 30	8.25~26 13:00~17:00	講師=青山劇場技術スタッフ。受講料=2,000円(各回)。(青山円形劇場)
ストレッチ second version	一般 (各30)	延べ 125	8.27~31 18:00~19:30	講師=柳瀬真澄。受講料=3,150円(各回)、15,000円(5日間連続) (Bリハーサル室)
表現する身体~パ レエからの応用	// (各30)	延べ 115	8.27~31 19:30~21:00	" (")
表現する身体(1)	舞踊経験者・ 教師など (各30)	延べ 100	9.1~5 11:00~12:30	講師=カルメン・ワーナー。受講料=3,500円(各回)、16,500円(5日間連続) (")
" (2)	ダンサー・俳 優・声楽家な ど(各30)	延べ 85	" 19:00~20:30	" (")
〈フランス・ダンス・03〉 ドミニク・ボワヴァンの ダンスワークショップ	一般 (25)	26	10.22 19:00~20:30	講師=ドミニク・ボワヴァン(振付家、アーティスト、カンパニー・ボー・ジェ スト芸術監督)。受講料=2,000円。 (Aリハーサル室)
〈 " 〉 フィリップ・ブリアッソの青少 年向けダンスワークショップ	12~22歳 (25)	33	10.26 11:00~12:30	講師=フィリップ・ブリアッソ(振付家、アーティスト、カンパニー・ボー・ジェ スト共同製作者)。受講料=1,500円。 (")
〈 " 〉 アフリカダンス ワークショップ	一般 (20)	14	12.17 13:30~15:00	講師=カンパニー・モンタルヴォ=エルヴュのダンサー。受講料=2,000円。 (Aリハーサル室)
〈 " 〉 ヒップホップダン スワークショップ	一般 (20)	10	" 16:00~17:30	講師=カンパニー・モンタルヴォ=エルヴュのダンサー。受講料=2,000円。 (")
〈 " 〉 コンテンポラリーダ ンスワークショップ	一般 (20)	23	" 19:00~20:30	講師=カンパニー・モンタルヴォ=エルヴュのダンサー。受講料=2,000円。 (")

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー2003 (APAS) フォーラム〉

名 称	対象・定員	要請数	日 時	内 容
カナダ・ケベックのパフォーミング・アーツ	(人) 一般 (50)	(人) 36	6.21 18:30～21:00	ゲスト=ジョルジヌ・パイオン (演劇・人形劇)、ジョン・ランバート (マルチメディアアーツ)、西田留美可 (ダンス)、天野信巳 (ケベック州政府在日事務所文化広報担当)。受講料=1,200円。(研修室)
〈ケベック文化週間〉 マルチメディアと舞台芸術	// (50)	31	8.7 19:00～20:30	ゲスト=ミシェル・ルミュー、ビクトル・ピロン (演出家・プロデューサー)。受講料=2,000円。(研修室)
韓国のダンス	// (50)	31	8.23 18:30～21:00	ゲスト=長谷川六、崔柄珠 (ダンス評論家)。受講料=1,200円。(研修室)
〈フランス・ダンス・03〉 フランスダンスの現在	// (50)	42	10.4 18:30～21:00	ゲスト=佐藤まいみ (『フランス・ダンス・03』代表プロデューサー)、後藤美紀子 (『オフィス・ラ・フェリシテ』プロデューサー)。受講料=1,200円。(研修室)

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

公 演 名 称	期 間	回 数	公 演 会 場 (都 道 府 県)
月猫えほん音楽会2003	5.3	1	可児市文化創造センター小劇場 (岐阜県)
//	5.5	1	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール (滋賀県)
//	8.7	1	長久手町文化の家 森のホール (愛知県)
//	8.24	1	杜のホールはしもと (神奈川県)
//	8.27	1	チトセピアホール (長崎県)
//	9.14	1	美野里町四季文化館 森のホール (茨城県)
//	9.21	1	城島町総合文化センター (福岡県)
//	9.23	1	北九州芸術劇場 文化情報センター (福岡県)
ア・ラ・カルト	12.29 ～31	3	MIDシアター (大阪府)
こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ (コンサート版)	H16. 3.28	1	水沢市養護老人ホーム 福寿苑 (青森県)

広報部



平成15年度の活動

1. はじめに

広報部の仕事は、一言で言えば、多くの人に〔こどもの城〕を知ってもらう、理解してもらうことである。機関紙「こどもの城ニュース」の編集・発行、ちらし・ポスターの制作、外部（マスコミやミニコミなど）への情報提供など、さまざまな手段を使って“知ってもらう活動”を展開している。

知ってもらいたいことはたくさんある。催しものを開催するので参加してほしいというものから、子どもの健やかな成長のためには大人の力が不可欠なことを理解してもらうといったことまで、さまざまである。知ってもらいたい情報の内容や質は千差万別であり、その数も無数にある。情報を伝える手段・方法もいろいろ考えられるし、対象によって伝え方（表現）も工夫しなければならない。

情報を出せば勝手にもっていつてくれる場合もあるが、現実にはもっていつてもらえるように情報を出さないと、なかなかもっていつてもらえない。情報の出しかたを考えなければならない。それが広報部の仕事である。

その時には、“知ってもらいたい”という気持ちが大切になってくる。つまり、事務的に情報を扱うのではなく、積極的な意志を持って扱うことが必要になってくる。“〇〇したい”“〇〇してほしい”という強い気持ちがあり、そのためにはなにを、どうしたらいいのかを考えて行動する——そういう基本的な発想が大切。

2. 情報の収集と提供

広報活動の基本となるのは、それぞれの部門でどのような活動をしているのか、しようとしているのか等々の情報

を集めること。正確な情報を収集して、そのなかからふり分けして選び、知ってもらいたい情報として外部へ伝えていくことになる。

思春期の子どもたちから、小学生、幼児、乳児、さらにこれから子育てにとりかかろうとする大人までを対象に、さまざまな分野のプログラムを提供する〔こどもの城〕には、たくさんの知ってもらいたい情報がある。すべての情報を掌握することは不可能に近い。とはいえ、日常的に情報の収集を心がけていなければならない。

さらに、集めた情報のなかからどれを取捨選択して提供していくかという問題もでてくる。好き嫌い、理解できないというレベルで判断するわけにはいかない。〔こどもの城〕としての判断が要求される。知ってもらいたい情報というのは、〔こどもの城〕がなにをめざして活動しているのかということと密接に関係し、取捨選択の基準もそれに依拠しなければならないからである。

必要とあれば、理解できるまで調べることもしなければならない。広報の仕事は情報を仲立ちする形になるので、自信をもって人に情報を伝えるためには、それなりに理解していないと、うまく伝えることができないからである。

情報を伝える形は、大きく二つに分けられる。「こどもの城ニュース」「ちらし・ポスター」「こどもの城写真ニュース」など、自前の媒体で情報を伝えること（媒体のスペースを買う広告もこれに準じる形と考えられる）と、外部の媒体を使って情報を伝えるという形である。積極的に外部の媒体に情報を提供し、取り上げてもらえるように働きかけるのである。〔こどもの城〕の活動を理解していただくために、毎月定期的に情報を送るなど、地道な関係作りが大切となる。

3. まとめ

携帯電話という情報端末があれば、世の中のたいていのことが間に合ってしまうような時代になってきた。手のひらに収まってしまうような小さいものが、私たちの生活を大きく変えてしまうのである。その中核にあるのが“情報”である。

広報というのは、この“情報”を扱うのが主な仕事。その活用の仕方、取り扱い方などに今まで以上に注意を払わなければならない。そして、より多くの人に「こどもの城」を知ってもらい、あわせて活動を支援してもらえるように、信頼される情報を提供し続けられるように心がけていきたい。



平成15年度活動一覧表

名 称	日 時	内 容
「こどもの城ニュース」 の編集・発行	毎月15日発行 (1月を除く)	〔こどもの城〕の活動を紹介する新聞形式の機関紙。B3判、表面4色、裏面1色印刷。各号25,000部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など(6,350部)／都道府県児童福祉主管課(1,156部)／こどもの城友の会(約2,000部)／渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校(390部)／渋谷区町内会ほか(202部)／その他・一般来館児・者など(約15,000部) ◇主な内容◇ 第137号(4月15日号)＝乳幼児をもつ親への“子育て支援”(赤ちゃんサロンほか) 第138号(5月15日号)＝不思議を探検“科学遊び”(サタデーラボラトリー) 第139号(6月15日号)＝パフォーミング・アーツ(舞台芸術)を身近に体験するワークショップ 第140号(7月15日号)＝キンダー・フィルム・フェスティバル～国際こども映画祭 第141号(8月15日号)＝スポーツっておもしろい(体育・ビッグサタデー) 第142号(9月15日号)＝高校生(L.I.T.)と小学生(キッズクラブ)が協力して夏イベント 第143号(10月15日号)＝全国児童館おりがみ作品展～折り紙で「おはなしの世界」 第144号(11月15日号)＝豊かな“育ちあい”めざす 小中学生対象に保育体験ボランティア 第145号(12月15日号)＝ヤマムラアニメーション～こどもずかん+アートライブラリー 第146号(平成16年2月15日号)＝大型の児童館で活動する“遊びのボランティア” 第147号(3月15日号)＝〔こどもの城〕の春休み特別期間～はじまる はじける 春がくる
「こどもの城写真ニュース」作成・掲示	毎月20日	館内の壁面に掲示しているA3判サイズ・カラーの写真ニュース。毎月20日に更新。 4月20日＝ニッサンゆかいな絵本と童話展／世界スポーツめぐり ほか 5月20日＝こどもフェスティバル／ど〜んと!! 億万長者／よちよちクラブ ほか 6月20日＝マタニティ・スイミング同窓会／つくってあそぼう! ほか 7月20日＝マタニティ・コンサート/APAS「初めてのダンス」 ほか 8月20日＝月猫えほん音楽会2003／ケロパークで水まつり ほか 9月20日＝パソコンマルチメディア探検隊／手作り楽器のワークショップ ほか 10月20日＝幼児グループ・保育クラブ「秋の親子遠足」／サッカーフェスティバル2003 ほか 11月20日＝赤ちゃん大集合／開館記念チャレンジゲーム～遊びのカレンダー ほか 11月20日＝親子DEパチャパチャ／ちょこっと体験講座～お筆 ほか 平成16年1月20日＝もちつき大会／パソコン紙相撲 ほか 2月20日＝わいわいスタジオ～大地をゆるがす太鼓のひびき／節分会 大まめまき大会 ほか 3月20日＝アートスケープ2004／あそびのポケット／新体操発表会 ほか
特別期間のちらし・ポスターなどの作成		以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成。あわせて英語のちらしも作成した。 ○児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間ちらし(A4判/4色×1色/32,000部) ○夏休み特別期間ちらし(B4判2つ折り/4色×1色/105,000部)、同ポスター(B2判) ○冬休み特別期間ちらし(A4判/1色×1色/30,000部) ○春休み特別期間ちらし(A4判/4色×1色/45,000部) 夏休みについては、同じデザインでポスター(B2判)も印刷した(他の期間はちらしを拡大コピーして使用)。英語版もあわせて作成した。
その他のちらし作成		講座・クラブの募集ちらし(2期、3期、夏休み短期講座など/B4判・A4判/1色×1色)や土曜日プログラムのちらし(55,000部)も作成した。
こどもの城の案内		〔こどもの城〕の案内を一部改訂して増刷。和文200,000部、英文15,000部印刷。
平成16年度講座・クラブ一覧	H16. 2	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4判4ページ(2色)。260,000部印刷。一部は新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。

名 称	日 時	内 容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間や講座・クラブ受講生募集などの時期に、新聞広告を通してPRした。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に定期的に記事広告を特約掲載。
児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間のお知らせ	4.8	毎日小学生新聞（タブロイド3段）
夏休み特別期間のお知らせ	7.5～8.31	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／埼玉少年少女スポーツ新聞（半2段・半3段）／朝日小学生新聞（半2段・全5段）／毎日小学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（半5段・全5段）／毎日新聞（特集広告）
冬休み特別期間のお知らせ	12.18～H16.1.1	朝日小学生新聞（全5段）／毎日小学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞（全5段）
平成16年度の講座・クラブ受講生募集	1.29～3.19	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／朝日小学生新聞（全5段）
春休み特別期間のお知らせ	3.21	毎日小学生新聞・同中学生新聞（タブロイド3段）
その他の広告		
渋谷駅周辺案内地図への広告掲出	通年	JR渋谷駅（玉川口・山手線外回りホーム）に設置してある駅周辺案内地図に広告掲出。
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	8.9～16	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm×515mm）で夏休み特別期間をPR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に14日間にわたって掲出した（約3,800枚）。
平成16年度の講座・クラブ受講生募集の新聞折り込み・ポストイン	H16.2.11、15	平成16年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを〔こどもの城〕周辺地域の読売新聞・毎日新聞の朝刊（計30,450部）に折り込み広告を実施。サンケイリビングの各戸ポストイン（204,060部）も行った。
取材関係	通年	取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞17（28）、テレビ・ラジオ10（26）、雑誌44（14）、その他74（139）で、全体では145（207）となっている。取材を受けたところには、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第20回渋谷スタンプラリー	7.20～8.31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。NHKスタジオパーク、こどもの城、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館のほか、本年度からUNギャラリーが加わり6館で開催した。参加者は約1万人。

3

こどもの城から全国へ

こどもの城 から全国へ



平成15年度の活動

1. はじめに

本年度も、[こどもの城]のセンター的な機能の充実を目的にさまざまな取り組みを実施した。

児童館活動の充実を目的として、こどもの城児童厚生員等実技指導講習会の開催、〈動くこどもの城〉事業、講師の派遣や実習生・研修生の受け入れなどを行った。

また、地域の子育て支援活動の充実を目的に、独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金助成事業「子育てサークルネット支援事業」「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」を行うとともに、厚生労働省と（財）こども未来財団が主催した「子育てサークルリーダー研修事業」を実行委員会の一員としてコーディネートした。

（ア）児童厚生員対象の講習会

【こどもの城児童厚生員等実技指導講習会】

本年度も2日間の通い型1回、2泊3日の宿泊型2回の計3回の実技指導講習会のほか、児童館でのパソコン遊びをテーマに、実際にパソコンにふれながらプログラムを体験する2日間の通い型の講習会を2回、新たに実施した。

1回目の実技指導講習会のテーマは「飛ぶおもちゃ」。「折り紙飛行機」は、身近な材料で気軽に遊べるものだが、よく飛ぶ折り紙飛行機作りは意外と難しい。作り方の基本と機体調整などのコツを学んだ。「凧」もやはり作り方が重要で、制作をとおして作り方のポイントを学んだ。

2回目は「遊びをアレンジする」がテーマ。遊びのプログラム作りの発想の原点やアレンジの手法について講習。子どもたちが意欲的に取り組めるようなプログラムを考えるために、子どもの遊びを支援する専門職として必要な発

想・創造力をいかに養っていくのかを実習した。

3回目は「児童館とキャンプ活動～リーダー研修のチェックポイント～」。足柄ふれあいの村（神奈川県・南足柄市）を利用して実施。児童館で行われる野外活動はボランティアや地域住民の協力により行われることも多い。そこで今回は協力者のトレーニングに焦点をあて、効果的な研修プログラムを企画運営するためのヒントを、ワークショップをとおして学んだ。また、児童館スタッフの野外活動の理念や技術の向上も図った。

実技指導講習会（パソコン編）の1回目は、児童館へのパソコンの普及が進められている中で、実際に子どもたちの遊びとしてどのように利用したら良いかを考えた。現実には導入時に用意されたゲームやインターネットなどの利用程度という声が多く聞かれるので、開館以来パソコンルームで行ってきたプログラムをもとに、パソコン遊びの紹介からソフトの種類やプログラム提供のための準備などをそれぞれ実際にパソコンを操作しながら学んだ。また、パソコンがあれば何でもできるわけではなく、用途に応じたソフトの購入が必要であることを伝えた。

2回目は、その性質から個々の遊びとなりがちなパソコンを、発想を転換させることによって、またパソコンの能力の使い方によってグループ遊びにつなげられるものであることを実際に体験しながら学んだ。一般的なソフトの活用法から、専門ソフト購入により実施できるプログラムの紹介を、準備の方法も含めて講習した。

【その他の講習会】

一般来館児・者向け催しと関連させて、指導者向け講習会「つくって演じる人形劇」と「おりがみにつよくなる講習会」を実施した。どちらの講習会も大変好評であり、今

後も続けていきたいと考えている。

（イ）研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、本年度は研修生3人を受け入れた。前年度に比べ研修生が少ないのは、前年度行った岩手県立児童館「いわて子どもの森」の開館前の長期間にわたる研修が本年度はなかったためである。こうした研修の受け入れは、〔こどもの城〕としても得ること多いので、運営全体にかかわる研修を今後も続けていきたいと考える。

実習生は大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学等の科目履修を目的とした実習の場として、学生を受け入れたものである。本年度は27人を受け入れた。このなかには、近年増加傾向にある職場体験的なインターンシップ、日産自動車(株)が実施しているNPOラーニングシステムでの奨学生受け入れも含まれる。

指導、教育の伴う実習生は受け入れ側には時間のかかる仕事であるが、〔こどもの城〕の社会的役割を果たす上でも必要な事業として今後も継続していきたい。

（ウ）講師派遣

地域で開催される児童健全育成のための研修会や催しのために、〔こどもの城〕の職員が講師として招かれる例はここ数年増加傾向にあったが、本年度は、前年より若干減少して115件であった。講師派遣自体はセンター的な機能を果たす上で意義のあることだが、〔こどもの城〕の事業とのバランスを考え、一定のルール作りを検討している。早く実行に移したい。〈動くこどもの城〉、講習会、講師派遣をバランス良く行い、効率よくセンター的な機能を果たしていきたい。

2. 〈動くこどもの城〉

前年度まで、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて実施してきた「おはなしコンサート」は、回数を重ねたこ



〈動くこどもの城〉「お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ」
(栃木県南河内町児童館)

とで研修プログラムなども充実してきたため、本年度から〈動くこどもの城〉の派遣プログラムに加えた。別掲のようなプログラムを34地域に派遣した。

平成6年度に始まった〈動くこどもの城〉事業も10年を経過し、ほとんどの都道府県に派遣することができた。今後は、派遣事業が各地の児童館などでどのように活用されているか、事業の成果についても追跡していく必要があると考える。そして、その結果に基づき、研修プログラムを再検討していきたい。

3. 助成金による事業

本年度は、独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受け、「子育てサークルネット支援事業」と「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」の2事業に取り組んだ。

3年計画で実施してきた「子育てサークルネット支援事業」は最終年となり、3年間のまとめとその成果の啓発活動に力を入れた。実際には、全国10地域でモデル事業を実施し、子育てネットワーク活動の推進に必要な調査研究を行った。その成果は全国フォーラムで発表するとともに、報告書「みんなで子育て」に掲載し普及に努めた。

「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」は、これまで〔こどもの城〕で実施してきた「マタニティ・コンサート」と「赤ちゃんサロン」のノウハウを生かし、妊娠中の女性と乳幼児を持つ先輩ママとの交流を図るものである。全国6地域で実施した。

【その他の共催事業】

前年度に引き続き、厚生労働省・こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」の、新潟県新津市、愛媛県松山市、山形県米沢市での実施に際してコーディネートをした。

前年度は全日の研修を2日間実施したが、乳幼児を持つ母親にとっては、参加しづらいとの意見があり、本年度は午前中のみ4日間の実施とした。コミュニケーショントレーニング、サークル運営のノウハウ、親子遊びの実例紹介、子育てサークルの運営やネットワーク作りについてのディスカッションを行った。

4. まとめ

ここ数年、センター的な事業に継続的に力を注いできた結果、自治体や子育て支援団体などの新たなネットワークが確立して来ている。また、こうした事業は各地から高い評価を受けるようになり、〔こどもの城〕の新たな価値観を築いてきているように感じる。しかし、従来からの業務とのバランスをとっていくことについて今後継続的に検討していく必要がある。

平成15年度活動一覧表

1. 講座・クラブなど

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成15年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第1回「飛ぶおもちゃ～風・飛行機～」	(人) 児童館職員ほか (50)	(人) 31	5.21、28 (2日間の通い)	手作りおもちゃの中でも特に“飛ぶおもちゃ”をテーマに、折り紙飛行機と風を取り上げ講習会を実施した。1日目は誰でも作れるよく飛ぶ紙飛行機の作り方、飛ばし方の工夫を戸田拓夫さんの科学的な説明に沿って実習した。2日目は風作りや風あげをする最も適した場所などを基礎から見直し、子どもたちに伝えていくための方法論を、日本の風の会事務局堤昭明さんを講師に迎え実習を行った。(研修室)
第2回「遊びをアレンジする～発想・創造・実行力をみがく～」	// (50)	52	10.22～24 (2泊3日)	児童館などのスタッフにとって、子どもたちが意欲的に取り組めるようなプログラムを考えていくことはとても重要。1つのプログラムでもその切り口や進行の方法で幅広い年齢を対象とすることができるように、アレンジ1つでさまざまなプログラムへと発展させることができる。子どもたちが意欲的に参加できるようなプログラム作りの参考になればと、〔こどもの城〕のオリジナルプログラムを紹介しながら、その発想の原点やアレンジの手法を、〔こどもの城〕の実践例を紹介しながら実習。前半は運動遊び、後半は視覚が教具遊びに分けて講習。講師は〔こどもの城〕スタッフ。(研修室)
第3回「児童館とキャンプ活動～リーダー研修のチェックポイント～」	// (50)	22	H16.1.21～23 (2泊3日)	キャンプ活動は、子どもたちがさまざまな体験を得ることができる効果的な活動。キャンプ活動において、なくてはならないキャンプリーターの研修方法について講義や実技をとおして講習を行うとともに、参加者自身の技術の向上も図った。(神奈川県足柄ふれあいの村)
平成15年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編				
第1回「児童館でのパソコン遊び(1)」	(人) 児童館職員ほか (20)	(人) 20	6.11・12 (2日間の通い)	パソコンは、画像や音で表現することや、物を作り出すための道具として、また、コミュニケーションをとるためにも使うことができる多機能な道具である。これらパソコンの持つ機能をうまく利用すれば、子どもたちの遊びを広げる《遊具》として活用することができる。今回の講習会では、いくつかのパソコン遊びのプログラムの体験を通して、子どもたちの遊びを広げるパソコンの活用法について考えるとともに、プログラムを計画・準備する具体的な方法について体験した。(パソコンルーム)
第2回「児童館でのパソコン遊び(2)」	// (20)	20	11.19・20 (2日間の通い)	パーソナル(個人)という概念を払拭し、仲間遊びの道具として活用することが可能であることを、これまでの〔こどもの城〕でのプログラムを体験しながら実習した。パソコンで作業している場面では1対1の関係になるが、そこで制作したものを使えば“仲間遊び”につなげることができる。また、数人がそれぞれのパソコンで制作した画像などをまとめて1つの制作物にしていくなど、子どもたちの“仲間遊び”を広げる遊具・媒介としてコンピュータを利用する方法を学んだ。(パソコンルーム)
つくって演じる人形劇	児童館職員ほか (各30)	45 39	8.17 9.14	児童館や保育所などで、子どもを対象とした人形劇を上演する際に使える、ウレタンを素材にした表情人形を“つくって演じる”講習会。1回目は表情人形の制作、2回目に操作方法と上演に関するコツを学んだ。(研修室)
おりがみにつよくなる講習会	// (各50)	49 50	10.26 11.9	テーマは、季節の折り紙。1回目は「クリスマス」に関する折り紙を学び、折り図の見方を交えながらさまざまなサンタクロースを実習した。2回目は「お正月 etc.」。お正月にちなんだ折り紙を中心に実習した。(研修室)

2. 〈動くこどもの城〉

〈子どもや家族を対象としたプログラム〉

名 称	内 容
「おにっこ」で楽しく体力づくり (体育)	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に向上させていたが、現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。かんたんに転んだり、よけることができなくてぶつかってしまうこともある。「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどの「スポーツ遊び」を多彩に展開。
身近な道具でスポーツあそび (体育)	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも、そして特定のスポーツの道具として用いることが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまなスポーツ遊び、スポーツへと展開していく。
親子ふれあい体操“1・2・3” (体育)	“歩く”から“走る”へと運動発達が著しい1～3歳の時期に、親と子で楽しく体を動かしながら、子どもの成長やコミュニケーションを楽しめるかんたんな体操、模倣動作、親子で鬼ごっこなど、室内外でできる運動や遊びを紹介。
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ (体育・小児保健)	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんと一緒にできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をするプログラム。
やってみよう! パソコン遊びのプログラム (プレイ)	「きれいなグラフィック遊び」、さまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインしてから作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、〔こどもの城〕で実施したプログラムの中から、いくつかを選択して実施。パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置する。
みんなで遊ぼう パペットランド (プレイ)	人形作りと人形遊びの2つの活動で構成。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作り、作った人形で話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、ごっこ遊びを繰り広げたり——イメージの世界をみんなで楽しむ、人形遊びのプログラム。
レクリエーションゲーム大会の 演出プラン (プレイ)	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者の世界をテーマにファンタジーの世界を仲間と共有しながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはぐくむことをねらいとしたプログラム。
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」 (音楽)	参加者に演奏を聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊び、手遊びなどを盛り込み、演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となって、音楽の楽しさをより深く体験できる参加型のプログラム。
竹の響き「アンクルンコンサート」 (音楽)	アンクルンは、竹で作られたインドネシアの民族楽器。一つの楽器から一つの音しかでない“竹のハンドベル”。アンクルンのほかに、竹のマリンバ、ベースなどと一緒に、童謡やインドネシアの民謡を演奏。竹の優しく素朴な音のハーモニーが楽しめる。参加した子どもたちが体験するコーナーもある。
音楽ゲームセンターであそぼう 「スーパースターゲッター！」 (音楽)	子どもたちとの遊びのなかから作り上げたオリジナルの音楽遊びプログラム。“踊る”“歌う”“聞く”“リズムをたたく”“楽器を体験する”など、音楽的要素を含んだゲームコーナーが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ (AV)	2枚の簡単な絵を描いて作る「ばたばたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ“視覚がん具”の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、制作の難しい複雑な「視覚がん具」も展示。
こどもの城映画劇場 (AV)	子ども向けに作られた国内外の芸術的なアニメーションの短編作品——〔こどもの城〕フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵された作品から数本——を上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナダ国立映画制作庁(NFBC)のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品を約110本収蔵。
映像探検 写真ワークショップ (AV)	日常なにげなく撮っている写真の“写る仕組み”を体験。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラオブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップ。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も行う。
絵本の読み語り 「おはなしコンサート」 (企画研修)	スライドで写し出した大きなイラスト（絵本の絵）——ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語りを行う。絵本の楽しさを家族一緒に体験できるプログラム。
ボランティア交流プログラム (企画研修)	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーと地域のボランティアとの交流プログラム。ボランティアの養成やさまざまな活動についての情報を交換。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名 称	内 容
手作り楽器のワークショップ (音楽)	“がらくた”として捨ててしまうようなもの（金属の缶やフィルムのケースなど）を生き返らせて、音が出る“音の道具＝楽器”に早変わり。制作終了後には、作った楽器を使って全員で合奏。
打楽器で遊ぶワークショップ (音楽)	ブラジルのサンバ、アフリカの太鼓“タムタム”、和太鼓のほか、スプーンなど身近な道具を使った打楽器体験。児童館などで行うリズム遊びを紹介。
想像遊びのワークショップ (企画研修)	さまざまな絵本をモチーフにした、想像遊び、みたて遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。かんたんなカード制作をとおして、共同制作者とのコミュニケーションを図ります。
造形ワークショップ (造形)	素材・発想・技法などを組み合わせると、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材も、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムの何種類かを体験制作。背景となる考え方や発想法についても考える。
不思議な映像実験室 (AV)	“映像の時代”ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像。その映像の基本的な原理について、遊びをとおして理解するプログラム。

〈巡回展示とワークショップ〉

名 称	内 容
造形ワークショップ展 (造形)	〔こどもの城〕造形スタジオの実践プログラムを視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。その中からいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
ブルーノ・ムナリー展 (造形)	昭和60年(85年)の〔こどもの城〕開館を記念して行われたブルーノ・ムナリー氏の作品展およびワークショップから、グラフィック・アート、プレイングス、絵本、オブジェなどの展示とワークショップを巡回用に構成したもの。子どもの触覚、視覚、体感覚を使って造形感覚を磨き、心身ともに豊かに発展させるという考えが基本となっている。
ビクトル・ダミコ展 「こどもアートカーニバル」 (造形)	平成7年(95年)の〔こどもの城〕開館10周年を記念して行われた「ビクトル・ダミコ展“こどもアートカーニバル”」を巡回キット化したもの。“色、光、触覚”を遊びながら体験できる21個のボックス型造形美術玩具は、子どもの造形意欲や創造性を喚起し、好奇心と感性に刺激を与える環境となる。このほかに、特別に設計されたイーゼルや回転式円形コラージュ・テーブルなどを加えた環境の中で、絵画とコラージュ制作を中心としたワークショップを実施。
お父さんの少年時代 (企画研修)	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30～40年代の“遊び”の展示。展示されたメンコ、ペーゴマ、風、日光写真などの遊び道具をきっかけに、親子のコミュニケーションをはかると同時に、子どもたちは昔遊びのエッセンスを体験。
絵本とコミュニケーション (企画研修)	絵本は子どもたちの感性をはぐくむ優れた媒体。子どもの様子を見ながらページをめくれば、自然と親子のコミュニケーションを図ることもできる。駒形克己さん(グラフィックデザイナー)は、絵本がもつ“コミュニケーションのためのツール”という側面に着目し、さまざまな絵本を制作するだけでなく、絵本作りのワークショップを実践している。〔こどもの城〕で実施した展示とワークショップで構成したプログラム。駒形さんの絵本の世界を中心に「絵本とコミュニケーション」について考える。
全国児童館おりがみ作品展 (企画研修)	各地の児童館活動のなかで制作したおりがみ作品を集めた「全国児童館おりがみ作品展」(参加17館/10月25日～11月16日/こどもの城)を、12月から全国で巡回展示。本年度は「おはなしの世界」がテーマ。6月までは前年度の作品(テーマは「私たちの街」)を巡回展示。

〈実施一覧〉

都道府県	開催団体	会場	日時	内容	催し	研修	展示
京都府	絵本とコミュニケーション実行委員会	大川センターCAMP	3.21~4.6	絵本とコミュニケーション	○	○	○
東京都	足立区子ども家庭支援センター	足立区子ども家庭支援センター	4.20・5.16	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
佐賀県	鳥栖市児童センター	鳥栖市児童センター	5.16~18	全国児童館おりがみ作品展			○
大分県	大分市旭町児童館	大分市旭町児童館	5.26~6.15	全国児童館おりがみ作品展			○
宮崎県	ゆりかご保育園・児童館	ゆりかご保育園・児童館	6.18~23	全国児童館おりがみ作品展			○
岐阜県	可児市	可児市中央公民館	6.21~7.6	絵本とコミュニケーション	○	○	○
長崎県	江迎町子育て支援ネットワーク協議会	江迎町中央体育館	6.16	身近な道具でスポーツあそび	○	○	
東京都	城山ふれあいの家	城山ふれあいの家	6.21・26	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
新潟県	新発田市総合健康福祉センター	新発田市総合健康福祉センター	6.29	手作り楽器のワークショップ		○	
栃木県	南河内町児童館	南河内町児童館	7.1	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
山梨県	韭崎市立北西児童センター	韭崎市立北西児童センター	7.10	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
京都府	峰山町保健福祉課	峰山町中央公民館	9.29・30	みんなで遊ぼう！パベットランド	○	○	
神戸市	神戸市総合児童センター	神戸市総合児童センター	10.11・12	ボランティア交流プログラム	○		
栃木県	栃木県子ども総合科学館	栃木県子ども総合科学館	10.17~19	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○	○	
山形県	新庄市福祉事務所	新庄市わらすこ広場	10.21	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
愛媛県	えひめこどもの城	えひめこどもの城	10.24・25	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
千葉県	佐倉市子育て支援課	佐倉市役所	10.27	手づくり楽器のワークショップ		○	
岐阜県	北方町児童館	北方町児童館	11.7・8	身近な道具でスポーツあそび	○	○	
滋賀県	栗東市立葉山児童館	栗東市立葉山児童館	11.10	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
山口県	山口県児童センター	山口県児童センター	11.21~12.13	造形ワークショップ展		○	○
石川県	石川県立中央児童会館	石川県立中央児童会館	11.22~12.14	全国児童館おりがみ作品展			○
神戸市	神戸市総合児童センター	神戸市総合児童センター	11.29・30	おはなしコンサート	○	○	
名古屋市	名古屋市中央児童館	名古屋市中央児童館	12.5	打楽器で遊ぶワークショップ		○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	栃木県子ども総合科学館	12.18~ H16.1.10	全国児童館おりがみ作品展			○
神戸市	神戸市中央区児童館	神戸市中央区役所	1.9・10	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
埼玉県	上福岡市児童センター	上福岡市児童センター	1.17~25	全国児童館おりがみ作品展			○
栃木県	野木町立新橋児童館	野木町立新橋児童館	1.19~30	全国児童館おりがみ作品展			○
岐阜県	多治見市	多治見市総合福祉センター	1.19	不思議な映像実験室		○	
秋田県	秋田県児童会館	秋田県児童会館	2.4~9	全国児童館おりがみ作品展			○
福島県	東浜児童センター	東浜児童センター	2.13~25	全国児童館おりがみ作品展			○
鳥取県	国府町立栃本児童館	国府町中央公民館	2.14~3.5	造形ワークショップ展		○	○
佐賀県	佐賀県児童館連絡協議会	佐賀県立生涯学習センター	3.2~7	全国児童館おりがみ作品展			○
長野県	八千穂村	八千穂村福祉センター	3.5	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
青森県	大鰐町中央児童館	大鰐町中央児童館	3.12~25	全国児童館おりがみ作品展			○

3. 助成金による事業

〈独立行政法人 福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業「子育てサークルネット支援事業」〉

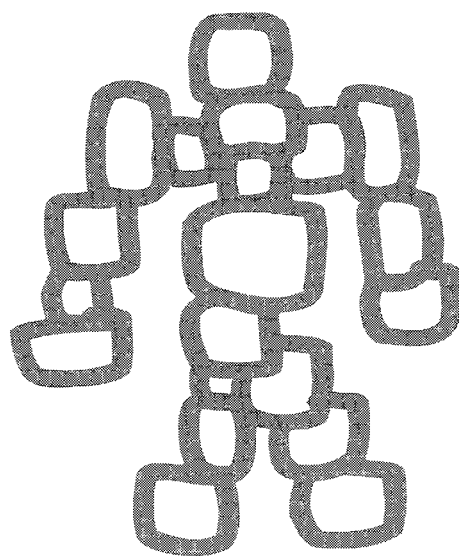
名 称	日 時	内 容
子育てネットワーク活動推進のためのモデル事業	6～H16.2	市民を中心とした子育てネットワーク活動の推進を図ることを目的として、全国10地域の子育てネットワークによるモデル事業を実施した。それぞれのネットワークでは大学や研究者の協力を得て、子育てネットワーク活動の評価・人材育成システム・インターネットを利用した情報提供などについての調査研究を行った。 ● 育児サークル加入に関する実態調査～未加入者のニーズ～（will こねっと・秋田県秋田市） ● 山形県内における育児サークル・支援サークルなどの活動実態調査～子育てネットワークの機能について～（山形県山形市） ● 子育て現場のニーズ調査に基づく子育てサークルの運営に関する調査～子育てサークル作りとその運営に関するノウハウ集の作成（大阪府大阪市） ● 子育てネットワークが母親及び子の意識・行動に与える影響について（静岡県静岡市） ● 安城市の乳幼児子育てネットワークの現状と課題～親への調査と支援側への調査から～（愛知県安城市） ● 三尺玉ネットの活動からみた行政との協働における要点と課題の検討～わが団体の苦労と進歩の足跡～（新潟県長岡市） ● 子育てネットワークの人材育成～保育系短大生の子育て支援体験を通しての意識変容～（北海道芽室町） ● 子育てサロンで活動するサポーター養成プログラムの開発～サポーターに望まれるもの～（埼玉県さいたま市） ● これからの子育てネットワークに必要な機能に関する調査研究 ～中・高校生の子育てに関する意識調査より～（香川県坂出市） ● インターネットによる子育て情報の交換・提供に関する工夫と課題～実際のインターネット活用の現場から～（東京都世田谷区）
子育てネットワーク全国フォーラム	H16.1.30	モデル事業で実施した調査・研究の発表の場として全国フォーラムを実施した。前半は各ネットワークからの発表と質疑応答、後半は分科会として、「子育てネットワークの将来像」「市民と行政の協働」というテーマで公開討論会を実施した。
「みんなで子育て」の発行	3.25	3年間の事業成果をまとめた子育てサークルネット支援事業報告書「みんなで子育て」を発行し、全国の自治体、子育てネットワーク関係者に配布した。

〈独立行政法人 福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業 **「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための支援事業」**

名 称	日 時	内 容
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン (岩手県盛岡市)	9.15	盛岡市の郊外の「ふれあいランド岩手」で実施。14日は「子育てサロン研修会」、15日は「マタニティコンサート」と「赤ちゃんサロン」を併せて実施した。コンサートは、地元音楽家による演奏、小児科と産婦人科の医師によるメディカルトーク、ピアノの生演奏を生かした絵本の読み語りの3部構成。終了後に「赤ちゃんサロン」の見学、先輩ママとの交流を図った。 出演＝小原育代（ソプラノ）／小原一穂（バリトン）／能祖将夫（読み語り）／佐山雅弘（ピアノ）。共催＝いわて子育てネット
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン (埼玉県越谷市)	11.1	越谷市市民会館で実施。コンサート終了後、地元音楽家に、赤ちゃんサロンでも簡単な演奏を実施してもらい、参加者からは大変好評だった。出演＝児玉あい子（ヴァイオリン）／石井弘（ギター）／能祖将夫（読み語り）／田村緑（ピアノ）。共催＝NPO法人子育てサポーター チャオ。
マタニティコンサート&子育てサロン (福岡県大野城市)	11.24	大野城市「まどかぴあ」で実施。「子育てサロン」は、兄弟がいる家族も参加しやすいように、対象を未就園児とした。地域の子育て情報の提供にも力を入れた。出演＝大野城市吹奏楽団サクソ四重奏／能祖将夫（読み語り）／佐山雅弘（ピアノ）。共催＝NPO法人チャイルドケアセンター大野城。
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン (山形県山形市)	12.13	山形県生涯学習センター・男女共同参画センターがある遊学館で実施。出演＝藤野恵美子（ソプラノ）／藤野祐一（バリトン）／菅原美穂（ピアノ）／大森智子（読み語り・ソプラノ）／白石光隆（ピアノ）。共催＝NPO法人やまがた育児サークルランド。
マタニティ&パパママ 応援コンサート&ひまわり教室スペシャル (鹿児島県知多町)	H16.1.25	合計特殊出生率が2.5以上である奄美諸島の沖永良部島で実施。教育委員会が運営する「おきえらぶ文化ホール あしびの郷・ちな」を中心に事業を展開した。妊娠中の女性の多くは乳幼児をもつ母親でもあるという事情から、両方に参加できるように「コンサート」終了後に「サロン」を行った。出演＝堀之内亜希（クラリネット・ハープ）／末廣美紀（ピアノ）／昇公人（フルート）／能祖将夫（読み語り）／佐山雅弘（ピアノ）。共催＝知多町教育委員会。
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン (大阪府交野市)	3.13	交野市保健福祉総合センター「ゆうゆうセンター」で実施。出演＝ゆこり～な（シャンソン）／辻本貴子（ピアノ）／能祖将夫（読み語り）／佐山雅弘（ピアノ）。共催＝交野市子育てネットワーク ティンクル。協力＝交野市。
「いきいきママにここに赤ちゃん」の発行	3.25	事業成果をまとめた報告書「いきいきママ にここに赤ちゃん」を発行し、全国の自治体、子育てネットワーク関係者に配布した。

〈子育てサークルリーダー研修事業〉

名 称	日 時	内 容
子育てサークルリーダー研修事業 (新潟県新津市)	10.4・21、11.4・11	厚生労働省・財団法人こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」について、共催団体としてコーディネートした。本年度は、子育て中の親が参加しやすいように、時間を平日の午前中にし、全4回の研修として実施した。内容は、「リーダーに必要なコミュニケーション術」「情報交換～つくって遊ぼう」「グループ学習～子育てサークルの運営」「パネルディスカッション～地域の子育て支援」とし、参加者が能動的に参加できるように工夫した。 新潟県新津市では、市の子育て支援センター「育ちの森」の運営を受託しているNPO法人ヒューマンエイド22の協力を得て実施した。
〃 (山形県米沢市)	11.12・13、20・27	NPO法人やまがた育児サークルランドの協力を得て実施。
〃 (愛媛県松山市)	H16.1.22・23・28・29	NPO法人えひめ子育てネットワークの協力を得て実施。



こどもの城 事業年報

平成15年度

平成16年11月30日発行

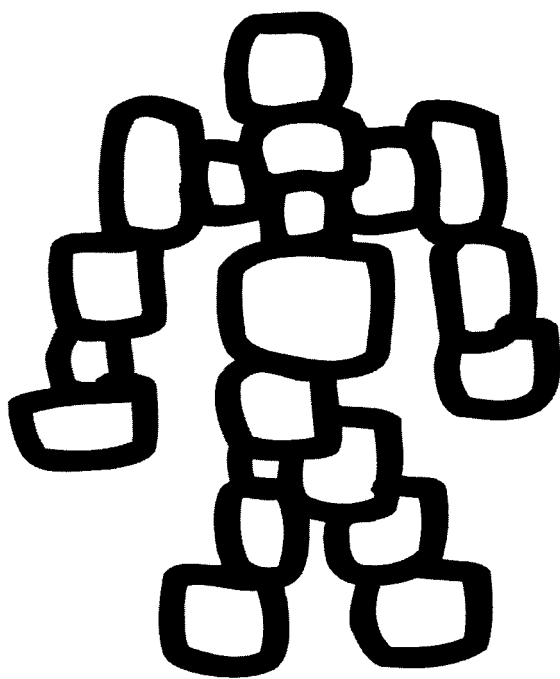
[編集・発行]

財団法人 児童育成協会

理事長 吉武 民樹

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

表紙イラスト ————— 田中靖夫
デザイン ————— COIL
印刷所 ————— 日本印刷株式会社



財団法人 児童育成協会

 **こどもの城**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomo-no-shiro.or.jp/>